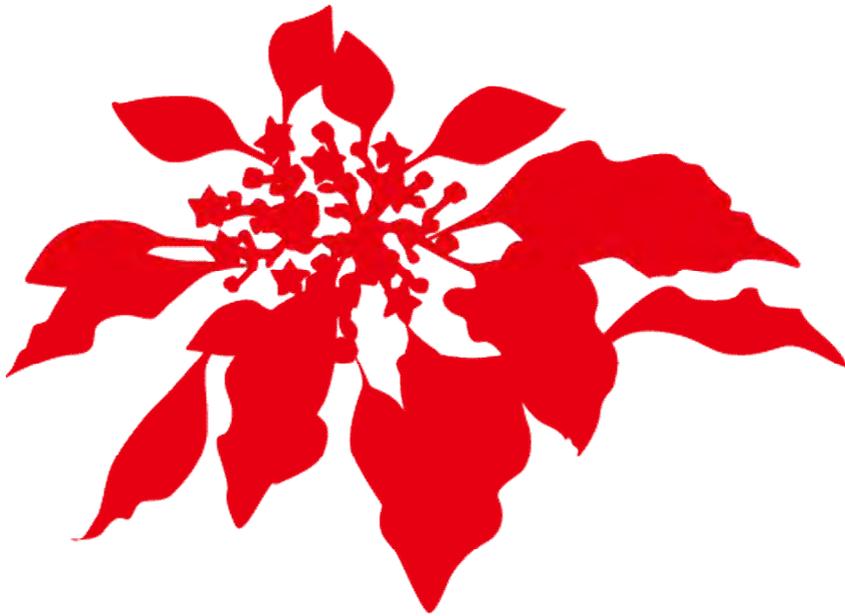


## 維管束植物



# 山口県の維管束植物の概要

植物の分布を左右する要因としては、気候（主として気温、降水量）、地形、土地、動物及び人間があり、これらが互いにかみ合って影響を及ぼしている。

山口県は気候的には、瀬戸内海沿岸部、内陸部、日本海沿岸部に分けられるが、平均気温は12-16℃、年降水量は1,600mm-2,300mmで比較的温暖である。

地形的には、海岸域から200mくらいまでの丘陵地と、200mくらいから700mまでの低山地が多くを占めており、県境の西中国山地が800mくらいから1,000m少しの標高しかない。最高地の寂地山が1,337mである。

植生の面からみると、自然植生では、年間降水量の少ない瀬戸内海沿岸部の一画には、乾燥に適応したと思われるウバメガシ群落、日本海や瀬戸内海沿岸部にはシノキ群落が優占する。内陸部の多くがアカマツ・コナラ林であったが、現在はスギ植林やヒノキ植林に置き換えられてきている。標高の高い地域にはミズナラ・ブナ群落がわずかにみられる。

次に、植物相（フローラ）の立場から県内の分布の状況を概観してみると、

## 1 地理的分布

### (1) 亜熱帯・暖温帯要素

分布の中心が中国南部、台湾、琉球列島、九州などにあり、本県が北限～北限地域になっている種類。本県で限止するもののがかなり見られる。例えば、ヒモヅル、ツルホラゴケ、エダウチホングウシダ、タマシダ、シマシロヤマシダ、ヤクシマワラビ、ハチジョウカグマ、タカノハウラボシ、ホウライイヌワラビ、クワノハエノキ、ツルコウゾ、アコウ、カカツガユ、ミヤコジマツツラフジ、ミヤマトベラ、シバネム、タチバナ、ハマセンダン、ヒゼンマユミ、フシノハアワブキ、ハマボウ、ツルコウジ、ツルマンリョウ、ホザキザクラ、シマモクセイ、ルリミノキ、ハクサンボク、オオカラスウリ、ウスベニニガナ、ハマオモトなど多くの種類がある。

### (2) 冷温帯要素

分布の中心が日本列島の北中部の冷温帯地域にあり、本県及び周辺地域が西南限地域になる種類。例えば、オシダ、ホソイノデ、ホクリクハイホラゴケ、ヘイケイヌワラビ、バッコヤナギ、サワシバ、フクジュソウ、オオヤマレンゲ、ナガミノツルケマン、オオヤマザクラ、メグスリノキ、サラサドウダン、ミヤマウメモドキ、ミツガシワ、タチカメバソウ、エゾニガクサ、クロイチゴなどがある。

### (3) 日本海要素

起源は冷温帯地域と思われるが、日本列島の特に日本海側に濃厚に分布するもので、積雪と関連した起源を持つ種類。例えば、ミヤマイラクサ、スミレサイシン、エゾオオバコ（海浜）、ムラサキマユミ、ヒョウタンボク、チャボガヤ、ハイイヌガヤ、アシウスギ、ハمامギ、ハマニンニク、ニシノホンモンジスゲなどがある。

### (4) 表日本要素

主として日本列島の温暖帯地域の太平洋側に濃厚に分布する種類で、地史と気候に関わる種類を含み、四国との関連が濃厚と考えられる種類。例えば、テバコワラビ、タカネハンショウヅル、シロモジ、ギンバイソウ、ハスノハイチゴ、シコクスミレ、ヒロハドウダンツツジ、ハナタツナミソウ、テバコモミジガサ、コウヤマキ、アオテンナンショウ、オモゴウテンナンショウなどがある。

(5) 本州西部、四国、九州地域に限産する種類

例えば、ヒメウラシマソウ、サンヨウアオイ、タイリンアオイ、ウラゲウコギ、アラゲナツハゼ、ニシノヤマタイミンガサ、ノジギク、ツクシガシワなどがある。

(6) 大陸系要素

中国東北部、朝鮮半島に関連する種類と思われるもの。環日本海要素を含む。例えば、ノヤナギ、イワシデ、コバノチョウセンエノキ、ケグワ、タンナトリカブト、ヤサカブシ、コウライタチバナ、マンシュウボダイジュ、モクゲンジ、ゲンカイツツジ、ホソバママコナ、クルマバアカネ、ダルマギク、ヒゴタイ、エヒメアヤメなどがある。

他に、中国大陸中・南部に関連している植物群と思われる種類。例えば、キビヒトリシズカ、サクラバハンノキ、ゴシヨイチゴ、トウササクサ、アカネスゲなどがある。

## 2 基岩土壌・地形的分布

(1) 石灰岩地

県内には秋吉台ほか数箇所の石灰岩地があり、目立った種類もある。例えば、キドイノモトソウ、ケキンモウワラビ、オニイノデ、タチデンダ、イチョウシダ、クモノスシダ、タキミシダ、イワツクバネウツギ、アキヨシアザミ、ホザキザクラ、アカネスゲなどがある。

(2) 安山岩地

瀬戸内海側の海岸域や島嶼の安山岩の風化した場所にやや特徴ある種類が見られる。例えば、ヒメウラジロ、コガネシダ、ビロードシダ、イワギリソウ、セトウチギボウシ、キハギ、イワシデなどがある。

(3) 塩湿地

古くは瀬戸内海側の河口付近に発達していたが、現在では埋立が進行して、ごくわずかしか残されていない。日本海側ではもともと少なかったものと思われる。この環境では、ハマサジ、ホソバノハマアカザ、ヒロハマツナ、ウラギク、フクド、シバナが見られる。

### 「絶滅危惧種」選定

現在、県内で記録された維管束植物は約3,500種類（自生のほか、帰化を含む）である。この中の自生植物から下記の選定基準と段階基準（およその株数と減少率）によって「絶滅危惧種」を選定した。

#### 〔選定基準〕

- 1 本県特産種類（全国レベルで本県特産種類である。）
- 2 国内局限（全国レベルで生育地が局限されている、または個体数が少数である。）
- 3 県内局限（全国レベルでは危機状況ではないが、県内では生育地が非常に局限されている、または個体数が少数である。）
- 4 分布の限界（全国レベルでの北限～北限地域、南限～西南限地域の生育地である。）
- 5 園芸等の採取圧が極めて高いもの。

#### 〔段階基準〕

下記によって5段階に分けてランクをつけた。

1 絶滅（EX）

県内ではすでに絶滅したと考えられる種類。

## 2 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

絶滅の危機に瀕している種類

- ① 個体数が極めて少ない（産地が数箇所あっても）。
- ② 産地が極めて少ない（個体数は多数あっても）。
- ③ 残存株数およそ 50 株以下と思われるもの。
  - a 絶滅危惧ⅠA類 (CR)  
30 株以下または、ここ 10 年以降のおよその減少率が 80%以上と思われるもの。  
その他、県内では消滅したと思われる可能性の高い種類。
  - b 絶滅危惧ⅠB類 (EN)  
50 株前後または、ここ 10 年以降のおよその減少率が 50-80%程度と思われるもの

## 3 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

絶滅の危機が増大している種類。

- ① 個体は各地に少数生育するが、近年の開発工事、植生遷移などで減少が著しい状況にあると思われるもの。
- ② 残存株数およそ 50-500 株程度、または、ここ 10 年以降の減少率が 30-50%程度と思われるもの。

## 4 準絶滅危惧 (NT)

残存基盤が脆弱な種類。

- ① 個体数は普通に見られるが、全国的に見ると減少傾向があり、今後注意する必要があるもの。
- ② 残存株数が 500 株以上であるが、ここ 10 年以降の減少率が 20-30%程度と思われるもの。
- ③ 株数は多少残存するが、園芸採取等で多く減少すると思われるもの。環境省の指定種を若干考慮したもの。

## 5 情報不足 (DD)

評価するだけの情報が不足している種類。

以上の経過によって、絶滅 (EN) 2 種、絶滅危惧ⅠA類 (CR) 306 種、絶滅危惧ⅠB類 (EN) 118 種、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 211 種、準絶滅危惧 (NT) 78 種、情報不足 (DD) 31 種の計 746 種を選定した。

最後に、レッドデータブック作成にあたり、現地調査への協力、貴重な調査記録や文献の提供をいただいた多くの方々に対し、この場を借りてお礼申し上げる。

【執筆者：南 敦】

【植物(維管束植物)】 山口県レッドリスト2018 (分類群順)

●絶滅(EX) 2種

種子植物

バイカイカリソウ  
ノヤナギ

*Epimedium diphyllum*  
*Salix subopposita*

●絶滅危惧 I A類(CR) 306種

シダ植物

ヒモヅル  
エゾヒカゲノカズラ  
スギラン  
ミズニラモドキ  
シチトウハナワラビ  
アカハナワラビ  
アカフユノハナワラビ  
ナガホノナツノハナワラビ  
ホクリクハイホラゴケ  
デンジソウ  
サンショウモ  
オウレンシダ  
ヒメムカゴシダ  
フジシダ  
タキミシダ  
ナカミシシラン  
キドイノモトソウ  
アイコハチジョウシダ  
ハチジョウシダモドキ  
オクタマシダ  
イチョウシダ  
ヤクシマホウビシダ  
ヒメハシゴシダ  
ヨコグラヒメワラビ  
コガネシダ  
イワデンダ  
ハチジョウカグマ  
テバコワラビ  
トゲカラクサイヌワラビ  
ヒメシケシダ  
ミドリワラビ  
イヨクジャク  
ヒュウガシダ  
ケキンモウワラビ  
ツクシカナワラビ  
ハガクレカナワラビ  
オトコシダ  
イズヤブソテツ  
メヤブソテツ  
ツクシヤブソテツ  
オシダ  
タカサゴシダ  
ツクシオオクジャク  
ホソイノデ  
ホソバヤブソテツ  
オニイノデ  
オニマメヅタ  
ホテイシダ  
コウラボシ  
イシガキウラボシ  
ハゴロモクリハラン  
タカノハウラボシ

*Lycopodium casuarinoides*  
*Lycopodium clavatum* var. *asiaticum*  
*Phlegmariurus cryptomerinus*  
*Isoetes pseudojaponica*  
*Botrychium atrovirens*  
*Botrychium nipponicum*  
*Botrychium ternatum* var. *pseudoternatum*  
*Botrychium strictum*  
*Vandenboschia hokurikuensis*  
*Marsilea quadrifolia*  
*Salvinia natans*  
*Dennstaedtia wilfordii*  
*Monachosorum* × *arakii*  
*Monachosorum maximowiczii*  
*Antrophyum obovatum*  
*Haplopteris fudzinoi*  
*Pteris kidoi*  
*Pteris laurisilvicola*  
*Pteris oshimensis*  
*Asplenium pseudowilfordii*  
*Asplenium ruta-muraria*  
*Hymenasplenium obliquissimum*  
*Thelypteris cystopteroides*  
*Thelypteris hattorii*  
*Woodsia macrochlaena*  
*Woodsia polystichoides*  
*Woodwardia prolifera*  
*Athyrium atkinsonii*  
*Athyrium setuligerum*  
*Deparia petersenii* var. *yakusimensis*  
*Deparia viridifrons*  
*Diplazium okudairae*  
*Diplazium takii*  
*Hypodematium glandulosopilosum*  
*Arachniodes tsutsuiana*, nom. nud.  
*Arachniodes yasui-inouei* var. *yasui-inouei*  
*Arachniodes yoshinagae*  
*Cyrtomium atropunctatum*  
*Cyrtomium caryotideum*  
*Cyrtomium tukusicola*  
*Dryopteris crassirhizoma*  
*Dryopteris formosana*  
*Dryopteris handeliana*  
*Polystichum braunii*  
*Polystichum hookerianum*  
*Polystichum rigens*  
*Lemmaphyllum pyriformis*  
*Lepisorus annuifrons*  
*Lepisorus uchiyamae*  
*Lepisorus yamaoka*  
*Neolepisorus ensatus* f. *monstriferus*  
*Selliguea engleri*

種子植物

サイコクヒメコウホネ  
 キビヒトリシズカ  
 オオヤマレンゲ  
 マイヅルテンナンショウ  
 ヒロハテンナンショウ  
 ヤマグチテンナンショウ  
 ミツバテンナンショウ  
 ウラシマソウ  
 ミカワスブタ  
 トチカガミ  
 イバラモ  
 オヒルムシロ  
 リュウノヒゲモ  
 カワツルモ  
 ヒナノシヤクジョウ  
 ホンゴウソウ  
 ウエマツソウ  
 マルバサンキライ  
 ホソバナコバイモ  
 キバナノアマナ  
 ヒメユリ  
 イワチドリ  
 マメヅタラン  
 キリシマエビネ  
 ナツエビネ  
 サルメンエビネ  
 ユウシュンラン  
 ササバギンラン  
 ヒメノヤガラ  
 トケンラン  
 カンラン  
 マヤラン  
 ナギラン  
 クマガイソウ  
 イチヨウラン  
 モミラン  
 アキザキヤツシロラン  
 ベニシュスラン  
 ツリシュスラン  
 シュスラン  
 ムカゴソウ  
 クロムヨウラン  
 ギボウシラン  
 フガクスズムシソウ  
 セイタカスズムシソウ  
 スズムシソウ  
 ササバラン  
 ムカゴトンボ  
 イヨトンボ  
 イイヌマムカゴ  
 ヤマトキソウ  
 ヒナチドリ  
 ウチヨウラン  
 ヒトツボクロ  
 ショウキラン  
 キンバイザサ  
 エヒメアヤメ  
 キイトラツキヨウ  
 セトウチギボウシ

*Nuphar saikokuensis*  
*Chloranthus fortunei*  
*Magnolia sieboldii* subsp. *japonica*  
*Arisaema heterophyllum*  
*Arisaema ovale* var. *sadoense*  
*Arisaema serratum* var. *suwoense*  
*Arisaema ternatipartitum*  
*Arisaema thunbergii* subsp. *urashima*  
*Blyxa leiosperma*  
*Hydrocharis dubia*  
*Najas marina*  
*Potamogeton natans*  
*Potamogeton pectinatus*  
*Ruppia maritima*  
*Burmannia championii*  
*Sciaphila nana*  
*Sciaphila secundiflora*  
*Smilax stans*  
*Fritillaria amabilis*  
*Gagea lutea*  
*Lilium concolor*  
*Amitostigma keiskei*  
*Bulbophyllum drymoglossum*  
*Calanthe aristulifera*  
*Calanthe reflexa*  
*Calanthe tricarinata*  
*Cephalanthera erecta* var. *subaphylla*  
*Cephalanthera longibracteata*  
*Chamaegastrodia sikokiana*  
*Cremastra unguiculata*  
*Cymbidium kanran*  
*Cymbidium macrorhizon*  
*Cymbidium nagifolium*  
*Cypripedium japonicum*  
*Dactyloctenium ringens*  
*Gastrochilus toramanus*  
*Gastrodia verrucosa*  
*Goodyera biflora*  
*Goodyera pendula*  
*Goodyera velutina*  
*Herminium lanceum*  
*Lecanorchis nigricans*  
*Liparis auriculata*  
*Liparis fujisanensis*  
*Liparis japonica*  
*Liparis makinoana*  
*Liparis paradoxa*  
*Peristylus flagellifer*  
*Peristylus iyoensis*  
*Platanthera iinumae*  
*Pogonia minor*  
*Ponerorchis chidori*  
*Ponerorchis graminifolia*  
*Tipularia japonica*  
*Yuania japonica*  
*Curculigo orchioides*  
*Iris rossii*  
*Allium virgunculae* var. *kiiense*  
*Hosta pycnophylla*

ミズアオイ  
オオミクリ  
ドロイ  
ケタガネソウ  
ヒロハノオオタマツリスゲ  
サナギスゲ  
ツクバスゲ  
ヒロバスゲ  
セトウチスゲ  
アキイトスゲ  
テキリスゲ  
カタスゲ  
ビロードスゲ  
キシウナキリスゲ  
ジングウスゲ  
カンエンガヤツリ  
カガシラ  
ミスミイ  
ヤリテンツキ  
クロタマガヤツリ  
ミクリガヤ  
ハタベカンガレイ  
ツクシカンガレイ  
シズイ  
タイワンヤマイ  
マツカサススキ  
ミカワシンジュガヤ  
ケシンジュガヤ  
コウボウ  
コウヤザサ  
ヒゲノガリヤス  
アオウシノケグサ  
ヒロハノドジョウツナギ  
イワタケソウ  
テンキグサ  
オオネズミガヤ  
ヒロハノハネガヤ  
ハネガヤ  
アボイザサ  
ビッチュウミヤコザサ  
ケスズ  
ヤマキケマン  
コウモリカズラ  
ルイヨウボタン  
ヤサカブシ  
フクジュソウ  
エンコウソウ  
カザグルマ  
クサボタン  
トリガタハンシヨウヅル  
シロバナハンシヨウヅル  
ミスミソウ  
オキナグサ  
シマキツネノボタン  
オトコゼリ  
フシノハアワブキ  
ベニバナヤマシヤクヤク  
ヤシヤビシヤク  
イワネコノメソウ  
ツルネコノメソウ

*Monochoria korsakowii*  
*Sparganium erectum* var. *macrocarpum*  
*Juncus gracillimus*  
*Carex ciliatomarginata*  
*Carex filipes* var. *arakiana*  
*Carex grallatoria* var. *heteroclita*  
*Carex hirtifructus*  
*Carex insaniae* var. *insaniae*  
*Carex kagoshimensis*  
*Carex kamagariensis*  
*Carex kiotensis*  
*Carex macrandrolepis*  
*Carex miyabei*  
*Carex nachiana*  
*Carex sacrosancta*  
*Cyperus exaltatus* var. *iwasakii*  
*Diplacrum caricinum*  
*Eleocharis acutangula*  
*Fimbristylis ovata*  
*Fuirena ciliaris*  
*Rhynchospora malasica*  
*Schoenoplectus gemmifer*  
*Schoenoplectus multisetus*  
*Schoenoplectus nipponicus*  
*Schoenoplectus wallichii*  
*Scirpus mitsukurianus*  
*Scleria mikawana*  
*Scleria rugosa*  
*Anthoxanthum nitens* var. *sachalinensis*  
*Brachyelytrum japonicum*  
*Calamagrostis longiseta*  
*Festuca ovina* . subsp. *coreana*  
*Glyceria leptolepis*  
*Hystrix duthiei* subsp. *japonica*  
*Leymus mollis*  
*Muhlenbergia huegelii*  
*Stipa coreana* var. *japonica*  
*Stipa pekinensis*  
*Sasa samaniana*  
*Sasa samaniana* var. *yoshinoi*  
*Sasamorpha mollis*  
*Corydalis ophiocarpa*  
*Menispermum dauricum* f. *pilosum*  
*Caulophyllum robustum*  
*Aconitum nikaii*  
*Adonis ramosa*  
*Caltha palustris* var. *enkoso*  
*Clematis patens*  
*Clematis stans*  
*Clematis tosaensis*  
*Clematis williamsii*  
*Hepatica nobilis* var. *japonica*  
*Pulsatilla cernua*  
*Ranunculus sieboldii*  
*Ranunculus tachiroei*  
*Meliosma arnottiana* subsp. *oldhamii*  
*Paeonia obovata*  
*Ribes ambiguum*  
*Chrysosplenium echinus*  
*Chrysosplenium flagelliferum*

ヤマブドウ  
 ヨコグラブドウ  
 ハマビシ  
 キハギ  
 シバネム  
 ヨツバハギ  
 クサボケ  
 カワラサイコ  
 ミツモトソウ  
 イワキンバイ  
 ヒロハノカワラサイコ  
 クロイチゴ  
 サナギイチゴ  
 キビナワシロイチゴ  
 チョウセンシモツケ  
 ツルコウゾ  
 チョクザキミズ  
 ケハンノキ  
 サワシバ  
 タカトウダイ  
 バッコヤナギ  
 カワヤナギ  
 ヒメミヤマスマ  
 サクラスマ  
 ホソバシロスミレ  
 マツバニンジン  
 トモエソウ  
 アゼオトギリ  
 ミズキカシグサ  
 ミヤマタニタデ  
 ウスゲチョウジタデ  
 ミズキンバイ  
 カジカエデ  
 メグスリノキ  
 テツカエデ  
 コウライタチバナ  
 タチバナ  
 マンシュウボダイジュ  
 シコクハタザオ  
 ミツバコンロンソウ  
 サデクサ  
 スカボタデ  
 イシモチソウ  
 オオヤマフスマ  
 タチハコベ  
 ヒメケフシグロ  
 ヒロハマツナ  
 リュウキュウコザクラ  
 オオツルコウジ  
 モロコシソウ  
 ツルマンリョウ  
 ホザキザクラ  
 クロミノサワフタギ  
 アカモノ  
 マルバノイチヤクソウ  
 ゲンカイツツジ  
 ミヤマムグラ  
 オヤマムグラ  
 コケリンドウ  
 チョウジソウ  
  
*Vitis coignetiae*  
*Vitis saccharifera* var. *yokogurana*  
*Tribulus terrestris*  
*Lespedeza buergeri*  
*Smithia ciliata*  
*Vicia nipponica*  
*Chaenomeles japonica*  
*Potentilla chinensis*  
*Potentilla cryptotaeniae*  
*Potentilla dickinsii*  
*Potentilla nipponica*  
*Rubus mesogaeus*  
*Rubus pungens* var. *oldhamii*  
*Rubus yoshinoi*  
*Spiraea fritschiana* var. *angulata*  
*Broussonetia kaempferi*  
*Lecanthus peduncularis*  
*Alnus japonica* var. *koreana*  
*Carpinus cordata* var. *cardata*  
*Euphorbia lasiocaula*  
*Salix caprea*  
*Salix miyabeana* subsp. *gymnolepis*  
*Viola boissieuana*  
*Viola hirtipes*  
*Viola patrinii* var. *angustifolia*  
*Linum stelleroides*  
*Hypericum ascyron* subsp. *ascyron* var. *ascyron*  
*Hypericum oliganthum*  
*Rotala rosea*  
*Circaea alpina*  
*Ludwigia epilobioides* subsp. *greatrexii*  
*Ludwigia peploides* subsp. *stipulacea*  
*Acer diabolicum*  
*Acer maximowiczianum*  
*Acer nipponicum* subsp. *nipponicum* var. *nipponicum*  
*Citrus nippokoreana*  
*Citrus tachibana*  
*Tilia mandshurica*  
*Arabis serrata* var. *shikokiana*  
*Cardamine anemonoides*  
*Persicaria maackiana*  
*Persicaria taquetii*  
*Drosera peltata* var. *nipponica*  
*Arenaria lateriflora*  
*Arenaria trinervia*  
*Silene aprica*  
*Suaeda maritima* var. *malacosperma*  
*Androsace umbellata*  
*Ardisia walkeri*  
*Lysimachia sikokiana*  
*Myrsine stolonifera*  
*Stimpsonia chamaedryoides*  
*Symplocos tanakana*  
*Gaultheria adenostrix*  
*Pyrola nephrophylla*  
*Rhododendron mucronulatum* var. *ciliatum*  
*Galium paradoxum* subsp. *franchetianum*  
*Galium pogonanthum* var. *trichopetalum*  
*Gentiana squarrosa* .  
*Amsonia elliptica*

クサタチバナ	<i>Vincetoxicum acuminatum</i>
ロクオンソウ	<i>Vincetoxicum amplexicaule</i>
イヨカズラ	<i>Vincetoxicum japonicum</i>
クロバナイヨカズラ	<i>Vincetoxicum japonicum</i> f. <i>puncticlatum</i>
ヒロハスズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i> f. <i>latifolium</i>
サウルリソウ	<i>Ancistrocarya japonica</i>
ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>
マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>
ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i>
ヤマホオズキ	<i>Physaliastrum chamaesarachoides</i>
アオホオズキ	<i>Physaliastrum japonicum</i>
サイゴクイボタ	<i>Ligustrum ibota</i>
オオバイボタ	<i>Ligustrum ovalifolium</i> var. <i>ovalifolium</i>
ヤナギイボタ	<i>Ligustrum salicinum</i>
マルバノサワトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i>
トウオオバコ	<i>Plantago japonica</i>
ハマクワガタ	<i>Veronica javanica</i>
シソパウリクサ	<i>Vandellia setulosa</i>
フトボナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia nipponica</i>
ホソバヤマジソ	<i>Mosla chinensis</i>
トラノオジソ	<i>Perilla hirtella</i>
セトエゴマ	<i>Perilla setoyensis</i>
ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>
コナミキ	<i>Scutellaria guilielmii</i>
ヤマタツナミソウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>
ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>
エゾニガクサ	<i>Teucrium veronicoides</i>
オオナンバンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i>
ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>
キュウシュウコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>kiusiana</i>
タチコゴメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i> var. <i>maximowiczii</i>
ツクシコゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>
ケヤマウツボ	<i>Lathraea japonica</i> var. <i>miqueliana</i>
クチナシグサ	<i>Monochasma sheareri</i>
ミヤマウメモドキ	<i>Ilex nipponica</i>
ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i>
ツルギキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>
バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i>
ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>
カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>yedoensis</i>
ホソバナヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>margaritacea</i> var. <i>angustifolia</i>
ノッポロガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i> var. <i>matsuei</i>
チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i>
アキヨシアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i> var. <i>calcicola</i>
ヤナギアザミ	<i>Cirsium lineare</i>
ヨシノアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>amplifolium</i>
ヒゴタイ	<i>Echinops setifer</i>
ウスベニニガナ	<i>Emilia sonchifolia</i> var. <i>javanica</i>
イズハハコ	<i>Conyza japonica</i>
ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>
カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i>
チョウセンヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>raddeana</i>
オタカラコウ	<i>Ligularia fischeri</i>
フクオウソウ	<i>Nabalus acerifolius</i>
テバコモミジガサ	<i>Parasenecio tebakaensis</i>
アキノハハコグサ	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i>
キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>
メナモミ	<i>Sigesbeckia pubescens</i>
ハチジョウナ	<i>Sonchus brachyotus</i>
ヤマザトタンポポ	<i>Taraxacum arakii</i>
クシバタンポポ	<i>Taraxacum pectinatum</i>

カンボク  
ナベナ  
ウスバヒョウタンボク  
ヤマヒョウタンボク  
キンギンボク  
ダイセンヒョウタンボク  
マツムシソウ  
イワツクバネウツギ  
トウキ  
イストウキ  
ヤマゼリ  
ムカゴニンジン  
ヌマゼリ  
カノツメソウ

●絶滅危惧 I B類 (EN) 118種

シダ植物

マンネンスギ  
オオバシナミズニラ  
ハマハナヤスリ  
キヨスミコケシノブ  
エダウチホングウシダ  
ハコネシダ  
ホソバシヨリマ  
コウヤワラビ  
ハコネシケチシダ  
ヘイケイヌワラビ  
ツクシイヌワラビ  
ホウライイヌワラビ  
シマシロヤマシダ  
コクモウクジャク  
ホソバナライシダ  
ナチクジャク  
ヌカイタチシダ  
ギフベニシダ  
キノクニベニシダ  
ワカナシダ  
オワセベニシダ  
リュウキュウイタチシダ  
ホウノカワシダ  
タチデシダ  
アイアスカイノデ  
クラガリシダ  
イワオモダカ

種子植物

ササバモ  
ヒメドコロ  
セトウチホトトギス  
クロヤツシロラン  
ウスギムヨウラン  
ジガバチソウ  
ニラバラン  
ジンバイソウ  
ミズチドリ  
コキンバイザサ  
ヒオウギ  
ハマタマボウキ  
オオバジャノヒゲ  
ヤマトミクリ  
ヒメミクリ

*Viburnum opulus* var. *sargentii*  
*Dipsacus japonicus*  
*Lonicera cerasina*  
*Lonicera mochidzukiana* var. *nomurana*  
*Lonicera morrowii*  
*Lonicera strophiphora* var. *glabra*  
*Scabiosa japonica* var. *japonica*  
*Zabelia integrifolia*  
*Angelica acutiloba* subsp. *acutiloba*  
*Angelica shikokiana* var. *shikokiana*  
*Ostericum sieboldii*  
*Sium ninsi*  
*Sium suave* var. *nipponicum*  
*Spuriopimpinella calycina*

*Lycopodium obscurum*  
*Isoetes sinensis* var. *coreana*  
*Ophioglossum thermale*  
*Hymenophyllum oligosorum*  
*Lindsaea chienii*  
*Adiantum monochlamys*  
*Thelypteris beddomei*  
*Onoclea sensibilis* var. *interrupta*  
*Athyrium christensenianum*  
*Athyrium eremicola*  
*Athyrium kuratae*  
*Athyrium subrigescens*  
*Diplazium doederleinii*  
*Diplazium virescens*  
*Arachniodes borealis*  
*Dryopteris decipiens*  
*Dryopteris gymnosora*  
*Dryopteris kinkiensis*  
*Dryopteris kinokuniensis*  
*Dryopteris kuratae*  
*Dryopteris ryo-itoana*  
*Dryopteris sparsa* var. *ryukyuensis*  
*Dryopteris shikokiana*  
*Polystichum deltodon*  
*Polystichum longifrons*  
*Lepisorus miyoshianus*  
*Pyrrosia hastata*

*Potamogeton wrightii*  
*Dioscorea tenuipes*  
*Tricyrtis setouchiensis*  
*Gastrodia pubilabiata*  
*Lecanorchis kiusiana*  
*Liparis krameri*  
*Microtis unifolia*  
*Platanthera florentii*  
*Platanthera hologlottis*  
*Hypoxis aurea*  
*Iris domestica*  
*Asparagus kiusianus*  
*Ophiopogon planiscapus*  
*Sparganium fallax*  
*Sparganium subglobosum*

クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>
イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>
チャシバスゲ	<i>Carex caryophylla</i> subsp. <i>microtricha</i>
ヒナスゲ	<i>Carex grallatoria</i>
ミセンアオスゲ	<i>Carex leucochlora</i> var. <i>horikawae</i>
ヌカスゲ	<i>Carex mitrata</i>
ピロードテンツキ	<i>Fimbristylis sericea</i>
オオイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fauriei</i>
ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>
ミズタカモジグサ	<i>Elymus humidus</i>
ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>
キケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i>
ミヤマキケマン	<i>Corydalis pallida</i> var. <i>tenuis</i>
ナガミノツルキケマン	<i>Corydalis raddeana</i>
トウゴクサバノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>
シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i>
エゾユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i> subsp. <i>humile</i>
シロバナネコノメソウ	<i>Chrysosplenium album</i> var. <i>album</i>
チシマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium kamtschaticum</i>
ヒダボタン	<i>Chrysosplenium nagasei</i> var. <i>nagasei</i>
ベンケイソウ	<i>Hylotelephium erythrostictum</i>
アオベンケイ	<i>Hylotelephium viride</i>
イワレンゲ	<i>Orostachys malacophylla</i> var. <i>iwarenge</i>
ウドカズラ	<i>Ampelopsis cantoniensis</i> var. <i>leeoides</i>
アマヅル	<i>Vitis saccharifera</i>
ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i>
ヒナノキンチャク	<i>Polygala tatarinowii</i>
オオヤマザクラ	<i>Cerasus sargentii</i> var. <i>sargentii</i>
テリハキンバイ	<i>Potentilla riparia</i>
ゴシヨイチゴ	<i>Rubus chingii</i>
ツシマナナカマド	<i>Sorbus commixta</i> var. <i>wilfordii</i>
アコウ	<i>Ficus superba</i> var. <i>japonica</i>
ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>
ヒトツバハギ	<i>Flueggea suffruticosa</i>
オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>
ナガバノスミレサイシン	<i>Viola bissetii</i>
ヒナスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>
ヒカゲスミレ	<i>Viola yezoensis</i>
コフウロ	<i>Geranium tripartitum</i> var. <i>tripartitum</i>
ウシタキソウ	<i>Circaea cordata</i>
ミツデカエデ	<i>Acer cissifolium</i>
ツクバネ	<i>Buckleya lanceolata</i>
シマヒメタデ	<i>Persicaria tenella</i>
アキヨシミミナグサ	<i>Cerastium akiyoshiense</i>
サラサドウダン	<i>Enkianthus campanulatus</i> var. <i>campanulatus</i>
シャクジョウソウ	<i>Hypopitys monotropa</i>
エゾノヨツバムグラ	<i>Galium kamtschaticum</i> var. <i>kamtschaticum</i>
ビンゴムグラ	<i>Galium pseudoasprellum</i> var. <i>bingoense</i>
イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i>
タチカモメヅル	<i>Vincetoxicum glabrum</i>
ハシリドコロ	<i>Scopolia japonica</i>
シマモクセイ	<i>Osmanthus insularis</i> var. <i>insularis</i>
イワギリソウ	<i>Opithandra primuloides</i>
シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>
スズメハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>
ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i>
オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i> var. <i>kakudensis</i>
ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>
トサムラサキ	<i>Callicarpa shikokiana</i>
ジャコウソウ	<i>Chelonopsis moschata</i>

キセワタ  
マネキグサ  
ヤマジソ  
スズコウジュ  
ハナタツナミソウ  
イヌゴマ  
ハエドクソウ  
キヨスミウツボ  
ノタヌキモ  
シデシャジン  
モミジハグマ  
タイシャクアザミ  
ミヤコアザミ  
タムラソウ  
アオヤギバナ  
オナモミ

●絶滅危惧Ⅱ類(VU) 211種

シダ植物

タチクラマゴケ  
ヒロハハナヤスリ  
マツバラ  
ヤシャゼンマイ  
ツルホラゴケ  
アカウキクサ  
クジャクシダ  
ヒメミズワラビ  
ヒメウラジロ  
シモツケスリトラノオ  
カミガモシダ  
コウザキシダ  
クモノスシダ  
イワトラノオ  
アオガネシダ  
イワヤシダ  
フクロシダ  
ホソバシケシダ  
ムクゲシケシダ  
ニセヨゴレイタチシダ  
ヌカイタチシダモドキ  
イヌナチクジャク  
リョウトウイタチシダ  
エンシュウベニシダ  
ミヤマクマワラビ  
ツルデンダ  
オリヅルシダ  
カラクサシダ  
ビロードシダ

種子植物

ヒメコマツ  
コウヤマキ  
オモゴウテンナンショウ  
マルミスブタ  
スブタ  
ヤナギスブタ  
シバナ  
コバノヒルムシロ  
キクバドコロ  
ツクバネソウ  
バイケイソウ  
ヒナラン

*Leonurus macranthus*  
*Loxocalyx ambiguus* var. *ambiguus*  
*Mosla japonica* var. *japonica*  
*Perillula reptans*  
*Scutellaria iyoensis*  
*Stachys aspera* var. *hispidula*  
*Phryma leptostachya* subsp. *asiatica*  
*Phacellanthus tubiflorus*  
*Utricularia aurea*  
*Asyneuma japonicum*  
*Ainsliaea acerifolia* var. *acerifolia*  
*Cirsium taishakuense*  
*Saussurea maximowiczii*  
*Serratula coronata* subsp. *insularis*  
*Solidago yokusaiana*  
*Xanthium strumarium* subsp. *sibiricum*

*Selaginella nipponica*  
*Ophioglossum vulgatum*  
*Psilotum nudum*  
*Osmunda lancea*  
*Vandenboschia auriculata*  
*Azolla pinnata*  
*Adiantum pedatum*  
*Ceratopteris gaudichaudii* var. *vulgaris*  
*Cheilanthes argentea*  
*Asplenium boreale*  
*Asplenium oligophlebium* var. *oligophlebium*  
*Asplenium ritoense*  
*Asplenium ruprechtii*  
*Asplenium tenuicaule*  
*Asplenium wilfordii*  
*Diplaziopsis cavaleriana*  
*Woodsia manchuriensis*  
*Deparia conilii*  
*Deparia kiusiana*  
*Dryopteris hadanoi*  
*Dryopteris indusiata*  
*Dryopteris integripinnula*  
*Dryopteris kobayashii*  
*Dryopteris medioxima*  
*Dryopteris polylepis*  
*Polystichum craspedosorum*  
*Polystichum lepidocaulon*  
*Pleurosoriopsis makinoides*  
*Pyrrosia linearifolia*

*Pinus parviflora* var. *parviflora*  
*Sciadopitys verticillata*  
*Arisaema iyoanum*  
*Blyxa aubertii*  
*Blyxa ceratosperma*  
*Blyxa japonica*  
*Triglochin asiatica*  
*Potamogeton cristatus*  
*Dioscorea septemloba*  
*Paris tetraphylla*  
*Veratrum album* subsp. *oxysepalum*  
*Amitostigma gracile*

ムギラン  
エビネ  
ギンラン  
セッコク  
タシロラン  
オニノヤガラ  
ミズトンボ  
ムヨウラン  
フウラン  
サギソウ  
ハシナガヤマサギソウ

ヤマサギソウ  
オオヤマサギソウ  
コバノトンボソウ  
トキソウ  
クモラン  
カヤラン  
カキツバタ  
ユウスゲ  
ハマオモト  
ユキザサ  
ナガエミクリ  
ホソイ  
ヤマジスゲ  
ダイセンスゲ  
センダイスゲ  
キノクニスゲ  
フサスゲ  
ヒカゲハリスゲ  
アカネスゲ  
オオイトスゲ  
ベニイトスゲ  
ノスゲ  
ホソバカンスゲ  
ヤリハリイ  
エゾハリイ  
オオヌマハリイ  
マシカクイ  
アオテンツキ  
ノハラテンツキ  
アゼテンツキ  
ヒロハノコヌカグサ  
ヒメノガリヤス  
ハمامギ  
イトスズメガヤ  
アズマガヤ  
トウササクサ  
ヌマガヤ  
タツノヒゲ  
ウキシバ  
ヒゲシバ  
アソザサ  
ジロボウエンゴサク  
オオバメギ  
タンナトリカブト  
ルイヨウシヨウマ  
バイカオウレン  
ヤマモガシ  
フッキソウ

*Bulbophyllum inconspicuum*  
*Calanthe discolor*  
*Cephalanthera erecta*  
*Dendrobium moniliforme*  
*Epipogium roseum*  
*Gastrodia elata*  
*Habenaria sagittifera*  
*Lecanorchis japonica*  
*Neofinetia falcata*  
*Pecteilis radiata*  
*Platanthera mandarinorum* subsp. *mandarinorum* var. *mandarinorum*  
*Platanthera mandarinorum* subsp. *mandarinorum* var. *oreades*  
*Platanthera sachalinensis*  
*Platanthera tipuloides* subsp. *nipponica*  
*Pogonia japonica*  
*Taeniophyllum glandulosum*  
*Thrixspermum japonicum*  
*Iris laevigata*  
*Hemerocallis citrina* var. *vespertina*  
*Crinum asiaticum* var. *japonicum*  
*Maianthemum japonicum*  
*Sparganium japonicum*  
*Juncus setchuensis* var. *effusoides*  
*Carex bostrychostigma*  
*Carex daisenensis*  
*Carex lenta* var. *sendaica*  
*Carex matsumurae*  
*Carex metallica*  
*Carex onoei*  
*Carex poculisquama*  
*Carex sachalinensis* var. *alterniflora*  
*Carex sachalinensis* var. *sikokiana*  
*Carex tashiroana*  
*Carex temnolepis*  
*Eleocharis congesta* var. *subvivipara*  
*Eleocharis congesta* var. *thermalis*  
*Eleocharis mamillata* var. *cyclocarpa*  
*Eleocharis tetraquetra*  
*Fimbristylis dipsacea*  
*Fimbristylis pierotii*  
*Fimbristylis squarrosa*  
*Aniselytron treutleri* var. *japonicum*  
*Calamagrostis hakonensis*  
*Elymus dahuricus*  
*Eragrostis brownii*  
*Hystrix duthiei* subsp. *longearistata*  
*Lophatherum sinense*  
*Moliniopsis japonica*  
*Neomolinia japonica*  
*Pseudoraphis ukishiba*  
*Sporobolus japonicus*  
*Sasa asoensis*  
*Corydalis decumbens*  
*Berberis tschonoskyana*  
*Aconitum japonicum* subsp. *napiforme*  
*Actaea asiatica*  
*Coptis quinquefolia*  
*Helicia cochinchinensis*  
*Pachysandra terminalis*

ヤマシヤクヤク	<i>Paeonia japonica</i>
カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>
コガネネコノメソウ	<i>Chrysosplenium pilosum</i> var. <i>sphaerospermum</i>
ヤグルマソウ	<i>Rodgersia podophylla</i>
ミツバベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i>
ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>
メノマンネングサ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>
タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>
タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>
フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>
ユクノキ	<i>Cladrastis sikokiana</i>
ヒメノハギ	<i>Codariocalyx microphyllus</i>
シバハギ	<i>Desmodium heterocarpon</i>
オオバナスビトハギ	<i>Hylodesmum laxum</i>
イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>
ナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i>
ヒナノカンザシ	<i>Salomonina ciliata</i>
アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i>
シモツケソウ	<i>Filipendula multijuga</i>
ツチグリ	<i>Potentilla discolor</i>
ハスノハイチゴ	<i>Rubus peltatus</i>
ナガボノシロワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>tenuifolia</i>
ナガボノアカワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>tenuifolia</i>
ナンキンナナカマド	<i>Sorbus gracilis</i>
イワガサ	<i>Spiraea blumei</i>
キビシモツケ	<i>Spiraea dasyantha</i>
ドロノシモツケ	<i>Spiraea japonica</i> var. <i>ripensis</i>
ヨコグラノキ	<i>Berchemiella berchemiifolia</i>
クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> var. <i>decipiens</i>
オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i>
カカツガユ	<i>Maclura cochinchinensis</i> var. <i>gerontogea</i>
コケミズ	<i>Pilea peploides</i> var. <i>peploides</i>
サクラバハンノキ	<i>Alnus trabeculosa</i>
コミヤマスマレ	<i>Viola maximowicziana</i>
アケボノスマレ	<i>Viola rossii</i>
シコクスミレ	<i>Viola shikokiana</i>
フモトスマレ	<i>Viola sieboldii</i>
サンインスマレサイシン	<i>Viola vaginata</i> var. <i>satonii</i> , nom. nud.
タニタデ	<i>Circaea erubescens</i>
アサノハカエデ	<i>Acer argutum</i>
ヒナウチワカエデ	<i>Acer tenuifolium</i>
モクゲンジ	<i>Koelreuteria paniculata</i>
ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i>
ラセンソウ	<i>Triumfetta japonica</i>
ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>
オオバヤドリギ	<i>Taxillus yadoriki</i>
ハルトラノオ	<i>Bistorta tenuicaulis</i> var. <i>tenuicaulis</i>
ヒメタデ	<i>Persicaria erectominor</i>
マダイオウ	<i>Rumex madaio</i>
コモウセンゴケ	<i>Drosera spathulata</i>
ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i>
フシグロセンノウ	<i>Silene miqueliana</i>
オオヤマハコベ	<i>Stellaria monosperma</i> var. <i>japonica</i>
ヤナギイノコヅチ	<i>Achyranthes longifolia</i>
ギンバイソウ	<i>Deinathe bifida</i>
マルバウツギ	<i>Deutzia scabra</i>
トキワガキ	<i>Diospyros morrisiana</i>
カンザブロウノキ	<i>Symplocos theophrastifolia</i>
ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>
ホツツジ	<i>Elliottia paniculata</i>

ヒロハドウドンツツジ  
ギンリョウソウモドキ  
ホンシャクナゲ  
レンゲツツジ  
アラゲナツハゼ  
ナガバジュズネノキ  
クルマムグラ  
ルリミノキ  
オオキヌタソウ  
ヤマトグサ  
イヌセンブリ  
チトセカズラ  
イケマ  
ツクシガシワ  
オオルリソウ  
タチカメバソウ  
イガホオズキ  
ヤマホロシ  
アオダモ  
シオジ  
ヒナノウスツボ  
オウギカズラ  
オオマルバノテンニンソウ  
エゾシロネ  
ミゾコウジュ  
ホソバママコナ  
シオガマギク  
スズムシバナ  
ニシヨモギ  
ハマベノギク  
ヒメシオン  
ミヤマヨメナ  
シンジュギク  
ホソバガクビソウ  
コバナガクビソウ  
オキノアブラギク  
シロバナニガナ

タカサゴソウ  
ノニガナ  
オオモミジガサ  
ウスゲタマブキ  
ニシノヤマタイミンガサ  
カシワバハグマ  
ヒメヒゴタイ  
カンサイタンポポ  
オオニワトコ  
オオミヤマガマズミ  
ケヤマウコギ  
オカウコギ  
ハナビゼリ  
ミシマサイコ

●準絶滅危惧 (NT) 78種

シダ植物

ミズニラ  
ホウビシダ  
トガリバイヌワラビ  
ハチジョウベニシダ  
タニヘゴ  
ヒメサジラン

*Enkianthus perulatus* f. *japonicus*  
*Monotropa uniflora*  
*Rhododendron japonoheptamerum* var. *hondoense*  
*Rhododendron molle* subsp. *japonicum*  
*Vaccinium ciliatum*  
*Damnacanthus giganteus*  
*Galium japonicum*  
*Lasianthus japonicus* var. *japonicus*  
*Rubia chinensis* f. *mitis*  
*Theligonum japonicum*  
*Swertia tosaensis*  
*Gardneria multiflora*  
*Cynanchum caudatum* var. *caudatum*  
*Vincetoxicum macrophyllum* var. *macrophyllum*  
*Cynoglossum furcatum* var. *furcatum*  
*Trigonotis guilielmii*  
*Physaliastrum echinatum*  
*Solanum japonense* var. *japonense*  
*Fraxinus lanuginosa* f. *serrata*  
*Fraxinus platypoda*  
*Scrophularia duplicatoserrata*  
*Ajuga japonica*  
*Comanthosphace stellipila* var. *radicans*  
*Lycopus uniflorus*  
*Salvia plebeia*  
*Melampyrum setaceum* var. *setaceum*  
*Pedicularis resupinata* subsp. *oppositifolia* var. *oppositifolia*  
*Strobilanthes oligantha*  
*Artemisia indica* var. *indica*  
*Aster arenarius*  
*Aster fastigiatus*  
*Aster savatieri* var. *savatieri*  
*Aster savatieri* var. *pygmaeus*  
*Carpesium divaricatum* var. *abrotanoides*  
*Carpesium faberi*  
*Chrysanthemum okiense*  
*Ixeridium dentatum* subsp. *nipponicum* var. *albiflorum* f. *leucanthum*  
*Ixeris chinensis* subsp. *strigosa*  
*Ixeris polycephala*  
*Miricacalia makinoana*  
*Parasenecio farfarifolius* var. *farfarifolius*  
*Parasenecio yatabei* var. *occidentalis*  
*Pertya robusta* var. *robusta*  
*Saussurea pulchella*  
*Taraxacum japonicum*  
*Sambucus racemosa* subsp. *sieboldiana* var. *major*  
*Viburnum wrightii* var. *stipellatum*  
*Eleutherococcus divaricatus*  
*Eleutherococcus spinosus* var. *japonicus*  
*Angelica inaequalis*  
*Bupleurum stenophyllum* var. *stenophyllum*

*Isoetes japonica*  
*Hymenasplenium hondoense*  
*Athyrium iseanum* var. *angustisectum*  
*Dryopteris caudipinna*  
*Dryopteris tokyoensis*  
*Loxogramme grammitoides*

種子植物

エビアマモ  
イトモ  
イトクズモ  
キエビネ  
キンラン  
カキラン  
ミヤマウズラ  
クモキリソウ  
ノカンゾウ  
ヒメヤブラン  
アワボスゲ  
サワヒメスゲ  
タガネソウ  
アオガヤツリ  
ヒメアオガヤツリ  
ミカツキグサ  
ヒメコヌカグサ  
ミチシバ  
スズメノコビエ  
アワガエリ  
ツゲ  
コウヤミズキ  
マンサク  
オグラノフサモ  
マキエハギ  
バクチノキ  
イヌザクラ  
ヤナギイチゴ  
オオコマユミ  
ツルオオバマサキ  
ウメバチソウ  
ヒゴスミレ  
ハウチワカエデ  
ミヤマシキミ  
シナノキ  
ユリワサビ  
コイヌガラシ  
ハマサジ  
サイコクヌカボ  
ヤナギヌカボ  
コギシギシ  
ノリウツギ  
ウメガサソウ  
オオハシカグサ  
ムラサキセンブリ  
スズサイコ  
エゾオオバコ  
イヌノフグリ  
ホナガタツナミソウ  
カリガネソウ  
ミゾホオズキ  
ハマウツボ  
ヒメタヌキモ  
ムラサキミミカキグサ  
オギノツメ  
フウリンウメモドキ  
サワギキョウ  
キキョウ  
アサザ

*Phyllospadix japonicus*  
*Potamogeton berchtoldii*  
*Zannichellia palustris*  
*Calanthe striata*  
*Cephalanthera falcata*  
*Epipactis thunbergii*  
*Goodyera schlechtendaliana*  
*Liparis kumokiri*  
*Hemerocallis fulva* var. *disticha*  
*Liriope minor*  
*Carex brownii*  
*Carex mira*  
*Carex siderosticta*  
*Cyperus nipponicus*  
*Cyperus pygmaeus*  
*Rhynchospora alba*  
*Agrostis valvata*  
*Melica onoei*  
*Paspalum scrobiculatum* var. *orbiculare*  
*Phleum paniculatum*  
*Buxus microphylla* var. *japonica*  
*Corylopsis gotoana*  
*Hamamelis japonica*  
*Myriophyllum oguraense*  
*Lespedeza virgata*  
*Laurocerasus zippeliana*  
*Padus buergeriana*  
*Debregeasia orientalis*  
*Euonymus alatus* var. *rotundatus*  
*Euonymus japonicus* var. *radicifer*  
*Parnassia palustris* var. *palustris*  
*Viola chaerophylloides* var. *sieboldiana*  
*Acer japonicum*  
*Skimmia japonica*  
*Tilia japonica*  
*Eutrema tenue*  
*Rorippa cantoniensis*  
*Limonium tetragonum*  
*Persicaria foliosa* var. *nikaii*  
*Persicaria foliosa* var. *paludicola*  
*Rumex dentatus* subsp. *nipponicus*  
*Hydrangea paniculata*  
*Chimaphila japonica*  
*Neanotis hirsuta* var. *glabra*  
*Swertia pseudochinensis*  
*Vincetoxicum pycnostelma*  
*Plantago camtschatica*  
*Veronica polita* var. *lilacina*  
*Scutellaria laeteviolacea* var. *maekawae*  
*Tripora divaricata*  
*Mimulus nepalensis*  
*Orobanche coerulescens*  
*Utricularia minor*  
*Utricularia uliginosa*  
*Hygrophila salicifolia*  
*Ilex geniculata* var. *geniculata*  
*Lobelia sessilifolia*  
*Platycodon grandiflorus*  
*Nymphoides peltata*

イヌヨモギ  
ダルマガク  
ヒメガンクビソウ  
ヤナギタンポポ  
ホソバオグルマ  
ホクチアザミ  
キビシロタンポポ  
仮称オオクシパタンポポ  
ウラギク  
ハクサンボク  
オトコヨウゾメ  
サケバゼリ  
ヒカゲミツバ

●情報不足(DD) 31種

種子植物

サガミトリゲモ  
イトトリゲモ  
トリゲモ  
オオトリゲモ  
ナガトイトラッキョウ  
アリマイトスゲ  
ツルナシオオイトスゲ  
カガミナンブスズ  
オオシダザサ  
ケナシカシダザサ  
オモエザサ  
タキザワザサ  
チトセナンブスズ  
イストクガワザサ  
トクガワザサ  
クテガワザサ  
オオバザサ  
チマキザサ  
クマイザサ  
チュウゴクザサ  
ジョウボウザサ  
グジョウシノ  
メオニグジョウシノ  
ヤブザサ  
タンゴシノ  
ミドウシノ  
アズマザサ  
モンゴリナラ  
ブンゴウツギ  
クロミノニシゴリ  
ワタヨモギ

*Artemisia keiskeana*  
*Aster spathulifolius*  
*Carpesium rosulatum*  
*Hieracium umbellatum*  
*Inula linariifolia*  
*Saussurea gracilis*  
*Taraxacum hideoi*  
*Taraxacum* sp.  
*Tripolium pannonicum*  
*Viburnum japonicum* var. *japonicum*  
*Viburnum phlebotrichum*  
*Oenanthe javanica* var. *japonica*  
*Spuriopimpinella koreana*

*Najas foveolata*  
*Najas gracillima*  
*Najas minor*  
*Najas oguraensis*  
*Allium* sp.  
*Carex alterniflora* var. *arimaensis*  
*Carex tenuinervis*  
*Neosasamorpha kagamiana*  
*Neosasamorpha oshidensis*  
*Neosasamorpha oshidensis* subsp. *glabra*  
*Neosasamorpha pubiculmis*  
*Neosasamorpha takizawana*  
*Neosasamorpha takizawana* var. *lasioclada*  
*Sasa scytophylla*  
*Sasa tokugawana*  
*Sasa heterotricha*  
*Sasa megalophylla*  
*Sasa palmata*  
*Sasa senanensis*  
*Sasa veitchii* var. *tyugokensis*  
*Sasaella bitchuensis*  
*Sasaella bitchuensis* var. *tashirozentaroana*  
*Sasaella caudiceps* var. *psilovaginula*  
*Sasaella hidaensis* var. *iwatekensis*  
*Sasaella leucorhoda* var. *leucorhoda*  
*Sasaella midoensis*  
*Sasaella ramosa*  
*Quercus mongolica*  
*Deutzia zentaroana*  
*Symplocos paniculata*  
*Artemisia gilvescens*

キンポウゲ目 メギ科 1202200400600 <b>バイカイカリソウ</b> <i>Epimedium diphyllum</i> (C.Morren et Decne.) Lodd.	カテゴリ	
	山口県	2018 EX 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。4-5月ごろ径10-12mmの白色花を総状に着ける。葉は1-2回2出複葉。小葉はほとんど全縁で鈍頭、刺毛はないかあってもわずかである。葉裏に開出する微毛がある。花卉に距がない。個体によってはオオバイカイカリソウやトキワイカリソウなどと区別が困難なものがある。<sup>6</sup>



提供：南 敦

**生息・生育状況**

やや海岸に近い山麓樹林下、道端、畑地周辺部に生育する。まわりの草丈が高くなると衰退する。日本の本州(中国地方)、四国、九州に分布する。県内では下関市、長門市から知られるが、現在は不明である。<sup>6,12</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数であるため。また、現在は道路工事や盗掘によりほとんど見られなくなった。<sup>6</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化や園芸採取。<sup>6</sup>

キントラノオ目 ヤナギ科 1203500502400 <b>ノヤナギ</b> <i>Salix subopposita</i> Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 EX 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性低木。高さ凡そ50cm以下。葉は全縁で広披針形-狭長楕円形、下面は著しい粉白色、長さ1-3cm、幅2-6mm。若枝と果に密毛。雄しべは2本。県内の他のヤナギ属のものは、通常葉に鋸歯があり、葉の長さが3cm以上ある<sup>12,22-26</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

温帯下部-暖帯上部域の日当たりのよい草地に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が2箇所と限定されていたが、最近の確認されていない。西日本の高地に点在する遺存種。寒冷な時代に大陸から入ってきた大陸系要素の一つで植物地理学上重要である。

**減少等の要因**

伐採や埋め立て等人為的影響を受けやすい。

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科 1100100100300 <b>ヒモヅル</b> <i>Lycopodium casuarinoides</i> Spring	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、九州、国外では中国、台湾、南アジア、東南アジアに分布する。県内では周南市、山口市で記録されている。常緑多年生草本。茎は長くのび枝も出し、地上を這うこともあるが、樹上に3-5mよじ登ることも多い。ヒカゲノカズラに似ているが、葉は小さい線形で茎は立ち上る。ミズスギの葉も線形であるが、全体がそれより大きい。また、長く立ち上る。2倍体。生殖方法は不明。<sup>(1-7)</sup>



提供：南 敦(2003.11.14撮影)

#### 生息・生育状況

松林に生育している。

#### 選定理由

県内の生育地は2箇所ですべて個体数も少ない。

#### 減少等の要因

生育地の樹木伐採。松枯れによる広葉樹の繁茂。

- 536 -

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科 1100100100500 <b>エゾヒカゲノカズラ</b> <i>Lycopodium clavatum</i> L. var. <i>asiaticum</i> Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外ではロシア、朝鮮、中国などに分布する。県内では宇部市に記録されている。ヒカゲノカズラは常緑多年生草本。主茎は地上を這い、そこから側枝を出す。葉は広線形。側枝から総梗を直立させ、小梗を出して胞子のう穂を着ける。これは3-5cm、直径4-5mm。本種は、胞子のう穂に小梗がなく、通常2-3個が総梗の先に着く。総梗は短く10cmに達することは稀である。ヒカゲノカズラの4倍体型。ヒカゲノカズラとの中間形がある。北方系植物で島根県や広島県の高地ではやや容易に見られた。4倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4-6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

山口県の近県では通常草木のまだ少ない新設の道路法面によく育つ。北海道では低地の疎生地にもよくある。広島・島根の両県で高地道路法面によく見つかるものは中国産のものもある。

#### 選定理由

1951年に現在の宇部市で採集された標本が、国立科学博物館で研究者により検出された。広島県、島根県にはかなりあるため、山口県でも更に見つかる可能性がある。

#### 減少等の要因

生育地の草木の生長。道路改修。

- 537 -

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科 1100100100800 <b>スギラン</b> <i>Phlegmariurus cryptomerinus</i> (Maxim.) Satou	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国、台湾に分布する。山口県内では岩国市で記録されている。常緑多年生草本。全形がスギに似ていてランのように着生する。8倍体（生殖様式は不明）。<sup>(1-5,7,8)</sup>



**生息・生育状況**

冷涼、多湿な場所で、樹皮や岩上に生育する。

提供：南 敦(2002.8.23撮影)

**選定理由**

生育地が限られ、生育数は極めて少なく、近年見つかっていない。

**減少等の要因**

冷涼で湿度の高い場所の高木などの伐採。

ミズニラ目 ミズニラ科 1100200100200 <b>ミズニラモドキ</b> <i>Isoetes pseudojaponica</i> M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国に分布する。日本固有種。県内では周南市、田布施町に記録されている。夏緑多年生草本。ミズニラに非常に良く似ているが、ミズニラが6倍体であるのに対して、本種は8倍体である。ミズニラの小孢子表面が平滑であるのに対し、本種では刺状突起に覆われる。同定には小孢子的表面構造の観察が必要である。8倍体有性生殖。<sup>(1,2,5-7,9,10)</sup>



**生息・生育状況**

ため池の浅水域に見られ、減水時には抽水生、陸生となる。

提供：眞崎 久(1994.9.10撮影)

**選定理由**

古生代の遺存種。生育地が限られており、個体数もごくわずかである。

**減少等の要因**

ため池の改修、埋立。浮草類による水面被覆。水位の上昇と下降。

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科 1100400100100 <b>シチトウハナワラビ</b> <i>Botrychium atrovirens</i> (Sahashi) M.Kato	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮に分布する。県内では田布施町、周防大島町、柳井市、下関市などで記録されている。近年、新種として記載されたもので、近似のオオハナワラビと次のように異なる。オオハナワラビは冬緑、厚い草質、淡緑色で冬季は葉縁若しくは全体が赤褐色を帯び、最終裂片は鋭い鋸歯縁。6倍体有性生殖。本種は、常緑、薄い草質、濃緑色～緑色、最終裂片は鈍い鋸歯縁。6倍体有性生殖。<sup>(3,5)</sup>



提供：南 敦(2018.12.27撮影)

**生息・生育状況**

樹林下で高草のない所に生育する。

**選定理由**

新しく新種として記載されたもので、分布は広いが全体数は少ない。

**減少等の要因**

不明。

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科 1100400100300 <b>アカハナワラビ</b> <i>Botrychium nipponicum</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。山口県では岩国市に記録されている。1枚の栄養葉と1枚の孢子葉からなるが、葉の裂片は鋭くとがる。オオハナワラビとよく似ているが、次のことが異なる。オオハナワラビは夏季に淡緑色。冬季は葉縁もしくは全体が赤褐色を帯びる。孢子表面は小刺状である。本種は夏季暗黄緑色、冬季は赤褐色に変化する。孢子表面はやや細かい網目状である。2倍体有性生殖。<sup>(3,5,6,8)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

樹林下で高草のない適湿の所に生育する。

**選定理由**

県下ではごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

不明。

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科 1100400100400 <b>アカフユノハナワラビ</b> <i>Botrychium ternatum</i> (Thunb.) Sw. var. <i>pseudoternatum</i> (Sahashi) M.Kato	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布し、日本固有種である。山口県では岩国市の北部に記録されている。植物体は1枚の栄養葉と1枚の孢子葉からなる。近似のオオハナワラビより、全体やや小形で、葉の裂片はオオハナワラビの裂片ほどとがらない。フユノハナワラビの葉が緑色なのに比し、夏季は緑色であるが、冬季は濃赤紫色に変化する。倍数性、生殖方法は未知である。<sup>(5, 6, 10, 11)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

冷涼な林下で高い草木のないところに生育する。

**選定理由**

国立科学博物館に納入された2013年岩国市採集の標本から新しく見つかったもので、個体数はごく少数である。

**減少等の要因**

今までの資料がないため、増減は不明である。

- 542 -

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科 1100400100700 <b>ナガホノナツノハナワラビ</b> <i>Botrychium strictum</i> Underw.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、ロシア、中国に分布する。県内では山口市、岩国市で記録されているが、現在は不明である。夏緑多年生草本。根茎から共通の柄を出し、栄養葉と孢子葉に分岐する。栄養葉は水平に開き、2-3回羽状複生。小羽片は羽軸に沿着する。ナツノハナワラビに似ているが、栄養葉の小羽片は柄がないが、軸に沿着する。また、孢子葉の孢子のう群の枝は孢子のう群の主軸に平行し、斜上しない。更に、灰黒色の孢子のう群は密に集合し、散開しない。2倍体有性生殖。<sup>(1-8, 12)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

林下疎生地に稀に生育する。

**選定理由**

生育数は著しく少ない。

**減少等の要因**

園芸用の盗掘。森林開発。

- 543 -

コケシノブ目 コケシノブ科 1100800100700 <b>ホクリクハイホラゴケ</b> <i>Vandenboschia hokurikuensis</i> Ebihara	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

国立科学博物館収蔵の標本から、2004年山口市で採集されたものが見つかった。本州、九州に分布する。日本固有種。常緑多年生草本。葉身の切れ込みは2回羽状複生～3回羽状中裂、葉身の全体形状は三角状披針形～卵状披針形、胞子のう群の包膜形状はコップ状（唇部は全縁、わずかに反転）。4倍体有性生殖。ハイホラゴケとヒメハイホラゴケとの交雑に起源する複2倍体種。葉の形態ではコハイホラゴケとの区別は難しく、同定には倍数性や胞子稔性の情報が欠かせない。<sup>(5,10)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

湿度の高いところの崖地や岩上に生育する。

#### 選定理由

生育地が1箇所で個体数も極めて少数である。

#### 減少等の要因

森林開発。

- 544 -

サンショウモ目 デンジソウ科 1101100100100 <b>デンジソウ</b> <i>Marsilea quadrifolia</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 NT
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国、ベトナム、ヨーロッパに分布する。県内では下松市、美祢市、山口市、下関市などに記録されている。水生の夏緑多年生草本。地下茎で増える。葉は4小葉からなる。湿地で抽水や浮葉する。秋に胞子のう果をつける。倍数性・生殖様式では、日本産は未知。外国産で2倍体有性生殖の報告がある。<sup>(1,2,4-6,12,14)</sup>



#### 生息・生育状況

高草のない湿地に生き残る。現在、田布施町、柳井市、平生町、上関町などに度々移植している。

提供：南 敦(2009.6.20撮影)

#### 選定理由

移植したもの以外は見ることがない。

#### 減少等の要因

水田の区画整理、農薬散布、高草繁茂。

- 545 -

サンショウモ目 サンショウモ科 1101100200400 <b>サンショウモ</b> <i>Salvinia natans</i> (L.) All.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 VU
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外ではロシア、朝鮮、中国、台湾、インド、東南アジア、ヨーロッパに分布する。県内では周南市、田布施町、柳井市で記録されている。現在は周南市の1-2つの池に生育している。浮葉が並んだ状態がサンショウの複葉に似ている。沈水葉は高等植物の根のはたらきをする。一年生草本だが暖地では越冬する。胞子のう果は沈水葉につく。2倍体有性生殖。2倍体不稔性。外国で4倍体の報告がある。栽培は容易である。<sup>(2, 4-6, 8, 12, 13)</sup>



提供：南 敦(2018. 8. 21撮影)

**生息・生育状況**

光の当たる池、沼、水田などの水面に浮かんで生育する。他の高草や水草類が被覆するとなくなる。

**選定理由**

サンショウモの生育に適した池はごく少ない。

**減少等の要因**

他の浮草類の増殖。池、沼、水田からの放水。虫害。

ウラボシ目 コバノイシカグマ科 1101300200400 <b>オウレンシダ</b> <i>Dennstaedtia wilfordii</i> (T.Moore) H.Christ ex C.Chr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外ではロシア、朝鮮、中国、南アジアに分布する。県内では岩国市、周南市などに記録されている。夏緑多年生草本。根茎は細く長い。葉は鮮緑色複葉で柔らかい草質である。胞子のう群は裂片の先に着き、包膜は長さ幅とも1mm。植物体は貧弱で折れたり倒れたりしやすい。2倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4-7, 12, 13)</sup>



提供：秋丸浩毅(2003. 9. 8撮影)

**生息・生育状況**

溪谷でも特に冷涼・湿度の高いところで、石灰岩か火山岩、或いはその岩脈に育つようだ。高い草木のない道端や岩場を選ぶ。近年イノシシにより掘り返されてほとんど絶滅している。

**選定理由**

生育場所が限定され、個体数もごくわずかである。

**減少等の要因**

林道の岸への除草剤の散布、イノシシによる掘り返しがある。

ウラボシ目 コバノイシカグマ科 1101300201100 <b>ヒメムカゴシダ</b> <i>Monachosorum × arakii</i> Tagawa	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布する。日本以外では未知である。山口市の1箇所だけに記録されている。今までは種と考えられていたが、オオフジシダと日本に産しないムカゴシダとの雑種であることが分かった。ムカゴシダは現在では中国、台湾からヒマラヤにかけて分布する種であるが、かつては日本に分布していた。現在、ムカゴシダは絶滅しているが、本雑種はむかごと根茎により増殖している。近似のオオフジシダに比して葉軸と羽軸の分岐点にむかごをつけることと、最下羽片の小羽片が外先に出ることの多いことで識別できる。<sup>(5-8,14)</sup>



提供：南 敦(2003.10.5撮影)

**生息・生育状況**

湿度の高い渓谷の小川直近の斜面に生育する。

**選定理由**

生育場所が1箇所で個体数が著しく少ない。

**減少等の要因**

近辺の樹木が繁り日照が少なくなった。

ウラボシ目 コバノイシカグマ科 1101300201300 <b>フジシダ</b> <i>Monachosorum maximowiczii</i> (Baker) Hayata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾に分布する。常緑多年生草本。単羽状複生。根茎は斜上し、葉は叢生長さ70cmに達する長楕円形。中軸はつる状にのびて、先に芽を生じ苗を育てる。胞子のう群は脈端にあって各歯片に1つずつつく。<sup>(2,4,5)</sup>国立科学博物館の山口県内シダ目録に2014年岩国市で最終されたものが掲載されていた。



提供：秋丸浩毅(2015.8.8撮影)

**生息・生育状況**

断崖の壁や岩上に生育する。

**選定理由**

個体数は極めて少数である。

**減少等の要因**

不明。

ウラボシ目 イノモトソウ科 1101300300400 <b>タキミシダ</b> <i>Antrophyum obovatum</i> Baker	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾、インドシナ半島、南アジアに分布する。県内では美祢市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は斜上し少数の単葉を着ける。胞子のう群は葉の下面の脈にそって着く。個体数・生殖様式は未知。外国産で2倍体有性生殖の報告がある。<sup>(1,2,4-6,8,12,13,15)</sup>



提供：山根文人(2014.3.23撮影)

**生息・生育状況**

石灰岩地の岩上、岩裂、樹幹などに生育する。

**選定理由**

特定の場所にごく少数生育する重要な種である。

**減少等の要因**

開発、盗掘。

ウラボシ目 イノモトソウ科 1101300301100 <b>ナカミシシラン</b> <i>Haplopteris fudzinoi</i> (Makino) E.H.Crane	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では岩国市だけに記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く這う。長い狭線形の葉を密接して着ける。近似のものにシシランがある。シシランは葉裏面の胞子のう群が両縁に沿ってひも状に生じる。ナカミシシランは、葉裏面の胞子のう群が中肋と両縁の中間をひも状に生じる。倍数体、生殖様式は未知である。<sup>(1,2,4-6,13)</sup>



提供：南 敦(2002.8.23撮影)

**生息・生育状況**

深山渓谷で湿度の高い場所の木や岩に生じる。大水や風で剥げ落ちることがある。

**選定理由**

生育場所が限られ、数もごくわずかである。

**減少等の要因**

川岸の木の伐採。大水。台風。

ウラボシ目 イノモトソウ科 1101300301600 <b>キドイノモトソウ</b> <i>Pteris kidoi</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾に分布する。山口県内では美祢市に記録されている。至る所に生じるイノモトソウによく似ているが、羽片に偽脈がある。中軸には明瞭な翼がないなどの特性がある。2n=58、2倍体有性生殖。<sup>(2, 4-6, 8, 14, 15)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

石灰岩上か、その岩裂に生育する。

**選定理由**

分布地が限定され、倉田悟博士により記録されて以来見つからない。

**減少等の要因**

不明。

- 552 -

ウラボシ目 イノモトソウ科 1101300301700 <b>アイコハチジョウシダ</b> <i>Pteris laurisilvicola</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布する。日本固有種。下松市、周南市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く斜上し鱗片をつける。葉柄は葉身より長く、長さ40cmに達し、わら色で、基部は暗色で少数の鱗片を着ける。葉は草質。羽片は鎌状に曲がらず、基部は広くさび形から切形である。2倍体無融合生殖。3倍体（生殖様式不明）。<sup>(1, 2, 4-6, 8, 10, 14, 15)</sup>



提供：南 敦(2006.3.3撮影)

**生息・生育状況**

低山の中腹斜面で他の雑木に混じって生育していた。

**選定理由**

全体の株数は10株以内と思われる。

**減少等の要因**

周囲の植物の生長による日照不足。

- 553 -

ウラボシ目 イノモトソウ科 1101300302000 <b>ハチジョウシダモドキ</b> <i>Pteris oshimensis</i> Hieron.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では中国、ベトナムに分布する。県内では萩市に記録された。常緑多年生草本。葉は少数叢生し、淡緑色草質。葉身は長楕円形で、羽片の数が多く10個位である。羽片は柔らかく細い。2倍体有性生殖・2倍体無融合生殖・3倍体無融合生殖などがある。<sup>(2,4,5)</sup>



**生息・生育状況**

樹木林の林床に生育する。

提供：南 敦(2010.10.5撮影)

**選定理由**

ごく少数本見つかったのみである。

**減少等の要因**

不明。

ウラボシ目 チャセンシダ科 1101300501100 <b>オクタマシダ</b> <i>Asplenium pseudowilfordii</i> Tagawa	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布。国外では不明。県内では周南市に記録されていたが、中国自動車道の開通で消滅した。だが、他に若干ある可能性がある。常緑多年生草本。近縁種のアオガネシダは葉身が深く切れこみ、2-4回羽状複葉、基部は多少狭くなる。また、近似のコバノヒノキシダと比べて葉柄基部の鱗片が淡褐色、コバノヒノキシダは濃褐色である。染色体数n=144、8倍体有性生殖。<sup>(4-6,8,15,16)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

湿度の高い山地樹林下の岩上、樹幹に着生する。

**選定理由**

生育地は極めて限定的で、全体の数はごく少数と思われる。

**減少等の要因**

道路開発。樹木の伐採。

ウラボシ目 チャセンシダ科 1101300501400 <b>イチョウシダ</b> <i>Asplenium ruta-muraria</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外ではロシア、朝鮮、中国、中央アジア、台湾、南アジア、南西アジア、ヨーロッパ、北米など世界に広く分布する。県内では美祢市に記録されている。世界の地域により4倍体と6倍体があり、それに伴って変異も大きい。小羽片の形がイチョウの葉に似て、普通8cm以内である。6倍体有性生殖、外国産では4倍体有性生殖の報告がある。<sup>(1,2,4-6,9,12,15,16)</sup>



提供：眞崎 久(1996.5.6撮影)

**生息・生育状況**

世界の石灰岩の割れ目、くぼみなどと、石灰岩の変成した大理石に生育する。県内では美祢市に生育する。

**選定理由**

生育地が限定され、個体数も30株以内と思われる。

**減少等の要因**

生育地の乾燥、開発、生育地周辺の高草による日照不足。

ウラボシ目 チャセンシダ科 1101300502400 <b>ヤクシマホウビシダ</b> <i>Hymenasplenium obliquissimum</i> (Hayata) Sugim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、九州、国外では中国、台湾、南アジア、東南アジアに分布する。県内では岩国市に記録されている。常緑多年生草本。根茎はやや長く匍匐する。葉柄の鱗片は広披針形～毛状。葉は暗緑色。葉質は薄く透けて見える。側羽片の形状は歪んだ平行四辺形～三角状披針形。先端は鈍頭。胞子のう群の位置は羽片の上半分で羽片の中肋にほとんど接して着く。胞子のう群の形は長楕円形。2倍体・4倍体有性生殖。3倍体不稔性。<sup>(1,2,4-6,8,15,16)</sup>



提供：眞崎 久(2004.2.1撮影)

**生息・生育状況**

山地樹林下の溪流に近い湿った岩上、岩壁、崖地にマット状に生育する。

**選定理由**

本種の北限線上の一面をなすもので、また、個体数も少なく極めて貴重である。

**減少等の要因**

他の高草植物による被覆。

ウラボシ目 ヒメシダ科 1101300700600 <b>ヒメハシゴシダ</b> <i>Thelypteris cystopteroides</i> (D.C.Eaton) Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では朝鮮、台湾、中国、フィリピンに分布する。県内では萩市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は長く這う。葉は短く通常12cm以下でほとんど無毛。羽片は三角形で短い柄があり、不規則に2-5個の裂片に切れこみ、裂片の先は円頭。近縁のコハシゴシダは葉の両面に毛があり、羽片は長楕円形、裂片の先は鋭頭である。2倍体・4倍体有性生殖。<sup>(1,2,4-6,8,17)</sup>



提供：南 敦(2000.8.20撮影)

**生息・生育状況**

林縁、道端、崖地などに生育する。

**選定理由**

生育地が1箇所であり、個体数も少ない。

**減少等の要因**

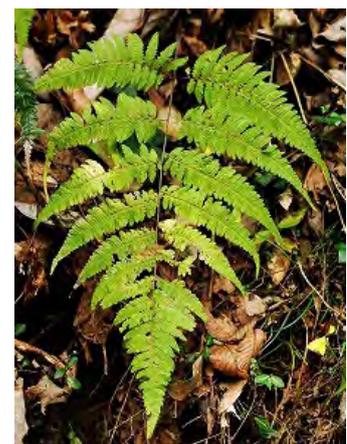
高草植物による被覆。

ウラボシ目 ヒメシダ科 1101300701100 <b>ヨコグラヒメワラビ</b> <i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、台湾、中国に分布する。県内では岩国市に記録されている。夏緑多年生草本。根茎は短く這い、葉はやや離れて出る。葉柄下部には茶褐色、広披針形で片面に毛のある鱗片がまばらに着く。葉身は三角形、2回羽状複生で、小羽片は中裂～深裂する。葉柄、葉軸には短毛を密生する。胞子のう群はやや縁寄りに着き、包膜は円腎臓形で毛がある。ヒメワラビとヤワラシダの中間形を示しているため、ヒメワラビの小形のもの、ヤワラシダの大形のものと混同しないよう注意が必要である。4倍体有性生殖。<sup>(4-6,17)</sup>



提供：眞崎 久(2018.11.28撮影)

**生息・生育状況**

山地樹林下に希産する。

**選定理由**

岩国市のみで記録される希少なものである。

**減少等の要因**

不明。

ウラボシ目 イワデンダ科 1101300800100 <b>コガネシダ</b> <i>Woodsia macrochlaena</i> Mett. ex Kuhn	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外ではロシア、中国、朝鮮に分布する。県内では周防大島町に記録されている。夏緑多年生草本。根茎は斜立し長さ10cm位の1回羽状複生の葉を少数着ける。葉縁のほとんどの部分に円形の胞子のう群をつける。胞子のう群の包膜は早く破れ、胞子のうが見える。個体の大小は著しいが、どれもよく胞子のう群をつけ、前葉体は適地には多い。稚苗は多く出来るが、成苗は環境条件の変化によりしばしば枯死する。2倍体有性生殖。<sup>(1,2,4-6,8,9,14)</sup>



提供：南 敦(1998.7.28撮影)

**生息・生育状況**

半日陰でやや湿度の高い安山岩岸壁に生育する。周囲の植物が繁り日照不足で枯れるものがある。また、乾燥により枯死する個体もある。環境変化で増えたり減ったりしている。

**選定理由**

生育地はごく狭い箇所で、工事があれば絶滅の危険がある。

**減少等の要因**

乾燥、他の草木の葉の繁りの増加（日照不足）。道端に生育するため、道路拡張等。

ウラボシ目 イワデンダ科 1101300800300 <b>イワデンダ</b> <i>Woodsia polystichoides</i> D.C.Eaton	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外ではロシア、中国、朝鮮、台湾に広く分布する。県内では山口市、萩市、周防大島町から記録されている。夏緑多年生草本。根茎は直立し、複葉を叢生する。葉軸や葉柄には関節があり折れやすい。胞子のう群は縁寄りにつき、包膜はわん形で長い縁毛がある。染色体数  $n = 41$ 、 $2n = 82$ 、2倍体有性生殖。<sup>(1,2,4-6,8,12,14,18)</sup>



提供：秋丸浩毅(2006.9.2撮影)

**生息・生育状況**

湿度の高い溪谷の岩上、石垣の間などに生育する。火山岩地を選ぶようである。

**選定理由**

自生地は限定され、個体数が著しく少ない。

**減少等の要因**

開発、樹林の遷移による日照不足、盗掘。

ウラボシ目 シシガシラ科 1101301100400 <b>ハチジョウカグマ</b> <i>Woodwardia prolifera</i> Hook. et Arn.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

本州、四国、九州、琉球、国外では中国、台湾、フィリピンに分布する。コモチシダによく似た植物で、県内では岩国市だけに記録されている。近似のコモチシダは4倍体、本種は2倍体で、変種にされたこともあった。葉は展葉時に紅色を帯びる。羽片は切れ込みが深くほぼ全裂、小羽片の幅は狭く、全て鋭頭。葉脈の網目が小さい。2倍体有性生殖。<sup>(1,2,4-6,15)</sup>

【執筆者：南 敦】



提供：南 敦(2018.12.25撮影)

#### 生息・生育状況

山や川などの崖に生育し、大きな葉が垂れ下がる。

#### 選定理由

県内では1箇所、少数本見つかったのみで、その後見つからない。

#### 減少等の要因

不明だが、暖かい方の植物で、山口県はまだ温度不足のためと思われる。

- 562 -

ウラボシ目 メシダ科 1101301200400 <b>テバコワラビ</b> <i>Athyrium atkinsonii</i> Bedd.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

本州、四国、九州、国外では台湾、中国、ヒマラヤに分布する。県内では岩国市に記録されている。温帯域のブナ帯に生育する。夏緑多年生草本。根茎は長く這う。葉は1m以上にもなり、3-4回羽状複生。胞子のう群は小形で円形、やや中肋寄りに着く。小さい包膜には辺りに鋸歯がある。高地に近似品はない。倍数体・生殖様式では日本産は未知。外国産で4倍体有性生殖の報告がある。<sup>(1-4,6,8,12,19,20)</sup>

【執筆者：南 敦】



提供：山根文人(2007.9.24撮影)

#### 生息・生育状況

ブナ帯樹林下に多く生育する。

#### 選定理由

県内の生育地は1箇所、個体数もごくわずかである。

#### 減少等の要因

林道整備など開発工事、温暖化。

- 563 -

ウラボシ目 メシダ科 1101301202600 <b>トゲカラクサイヌワラビ</b> <i>Athyrium setuligerum</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布し、山口市、美祢市、周南市で記録されている。日本固有種。ホソバイヌワラビとカラクサイヌワラビの中間型だが、正常な胞子を形成する有性生殖種。ホソバイヌワラビ×カラクサイヌワラビの不稔性雑種ヒサツイヌワラビとの区別が大変難しく、正常胞子を観察する必要がある。ヒサツイヌワラビは葉軸に無性芽をつけることがあるが、本種は無性芽を生じることはない。羽軸・小羽片中肋の向軸側（表面）にやや顕著な刺状突起がある。小羽片の辺縁は粗い鈍鋸歯（～浅裂）。<sup>(3, 6, 10, 20)</sup> 倍数性、生殖様式は未知である。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

樹林下に生育する。

#### 選定理由

生育場所が少なく、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

林道開発、樹木伐採。

- 564 -

ウラボシ目 メシダ科 1101301206700 <b>ヒメシケシダ</b> <i>Deparia petersenii</i> (Kunze) M.Kato var. <i>yakusimensis</i> (H.Ito) M.Kato	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球に分布する。日本固有変種。広義ナチシケシダのうち、6倍体の系統に相当。夏緑多年生草本。包膜の辺縁がギザギザに裂けている。広義のナチシケシダに比して、全体小型で、葉身の幅が狭い。通常3cmを上回ることはない。葉身が狭くとも最下羽片が切れこむものはこの変種に該当せず、ナチシケシダの小型あるいはナチシケシダとの5倍体不稔性雑種という。山口市から1949年に採集され国立科学博物館に保存されていた標本がヒメシケシダと同定された。6倍体有性生殖。<sup>(4, 20)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

溪流沿いに生育する。

#### 選定理由

相当前に採集されたもので、極めて希少なものである。

#### 減少等の要因

不明。

- 565 -

ウラボシ目 メシダ科 1101301207000 <b>ミドリワラビ</b> <i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M.Kato	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。県内では美祢市に記録されているが、その後記録はなく現状不明である。夏緑多年生草本。根茎は太くて短く這い、葉を接して出す。葉柄は20-30cm、下部に披針形～長楕円形披針形で褐色膜質の鱗片がまばらに着き、葉軸と共に無毛。葉身はほぼ三角形で長さ30-40cm、幅25-40cm、3回羽状深裂する。小羽片は浅～中裂し、小脈はしばしば2岐する。羽軸には幅の狭い翼がある。胞子のう群は円形～楕円形で色膜は鉤形や馬蹄形、縁には不規則な突起がある。2倍体有性生殖。<sup>(3, 4, 6, 8, 12, 20)</sup>



**生息・生育状況**

山地樹林下、杉林に多いという。

提供：眞崎 久(2007.5.16撮影)

**選定理由**

県内の記録地は1箇所、現在不明であるが、今後見つかる可能性もある。

**減少等の要因**

不明。

ウラボシ目 メシダ科 1101301208300 <b>イヨクジャク</b> <i>Diplazium okudairae</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 EN
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布。県内では下関市、山口市に記録されている。夏緑多年生草本。根茎は短く這う。近似のノコギリシダが、常緑、葉は広披針形～三角状広披針形、革質、淡緑色なのに比べて、イヨクジャクは夏緑、三角状披針形、草質である。2倍体有性生殖。<sup>(1, 4, 6, 8, 12, 17, 20)</sup>



**生息・生育状況**

山地の樹林下、溪流に近い湿度の高いところに希産する。

提供：南 敦(2003.10.3撮影)

**選定理由**

北限線上の一角をなしているが、生育地が限定され個体数も非常に少ない。近年、下関市ではシカによりほぼ全滅した。山口市もイノシシの掘り返しによりほとんど見られなくなった。

**減少等の要因**

シカ、イノシシ、アナグマなどによる被害。

ウラボシ目 メシダ科 1101301208500 <b>ヒュウガシダ</b> <i>Diplazium takii</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布する。日本固有種。1985年に萩市で採集され、国立科学博物館に収納されていたものである。シロヤマシダとコクモウクジャクの間形として認識された3倍体無融合生殖種。やや普通に見られるシロヤマシダに似るが次が異なる。胞子のう群は狭長楕円形で、中肋と辺縁の間に長短が混じって並ぶ。シロヤマシダの胞子のう群は線形で、長短があまりなく、中肋と辺縁の間に規則正しく並ぶ。葉柄がコクモウクジャクのように黒い。3倍体無融合生殖。<sup>(4, 10, 11, 20)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

適湿の林床に生育する。

#### 選定理由

生育地が1箇所で個体数もごく少数と思われる。

#### 減少等の要因

不明。

- 568 -

ウラボシ目 キンモウワラビ科 1101301300100 <b>ケキンモウワラビ</b> <i>Hypodematium glandulosopilosum</i> (Tagawa) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国、タイに分布する。県内では美祿市に記録されている。夏緑多年生草本。短い根茎に少数の葉を着ける。葉柄基部に赤褐色で光沢ある鱗片を密生する。葉身の下面は毛に混じった腺毛がある。倍数性・生殖様式は未知である。<sup>(1, 2, 4, 6, 12, 14, 20)</sup>



#### 生息・生育状況

湿度の高い場所の石灰岩の岸壁、岩裂などに生育する。近年の工事によりごく少数となり、草勢もよくない。

提供：南 敦(2016.6.17撮影)

#### 選定理由

生育場所が極めて限定され、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

工事による日照不足等。生育場所も減少。

- 569 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301401200 <b>ツクシカナワラビ</b> <i>Arachniodes tsutsuiana</i> Sa.Kurata ex Nakaike, nom. nud.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

コバノカナワラビとホソバカナワラビの推定雑種をホソコバカナワラビという。ツクシカナワラビも同じ親の組み合わせの雑種起源と考えられる系統であるが、安定して孢子繁殖を行っていることが知られる。雑種起源の系統がゲノムの倍化を経ずに2倍体のまま稔性を回復している特異な例であるが、その機構の解明は今後の課題である。頂羽片があまり明瞭でないこと。羽片数が少ないことなどでホソコバカナワラビの典型品とは形態的な差異が認められるが、本書ではゲノム機構を重視してホソコバカナワラビを含んで取り扱う。<sup>(20)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

樹林の林床に生育する。

#### 選定理由

雑種起源の新種として極めて貴重である。

#### 減少等の要因

不明。

- 570 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301401300 <b>ハガクレカナワラビ</b> <i>Arachniodes yasui-inouei</i> Sa.Kurata var. <i>yasui-inouei</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 EN
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布する。日本固有種。県内では岩国市、周南市、光市、下松市に記録されている。同定が難しく、標本はかなり採集されている可能性はある。常緑多年生草本。茎は短く這い、葉は接近して生える。ハカタシダとオニカナワラビとの中間的な形をしており、小羽片の裂片の先の刺状鋸歯はハカタシダと同様に芒状に長い。両者より葉質が薄い。孢子は正常である。4倍体有性生殖。  
(1, 2, 4, 6, 8, 14, 20)



提供：山根文人(2018.1.28撮影)

#### 生息・生育状況

やや乾燥した常緑林下に生育する。

#### 選定理由

生育地は数箇所と限定され、個体数は少ない。北限線上の一面をなすもので分布上極めて重要である。

#### 減少等の要因

林道開発。

- 571 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301401400 <b>オトコシダ</b> <i>Arachniodes yoshinagae</i> (Makino) Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では東南アジアに分布する。県内では萩市、山口市、周南市、岩国市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く這い、少数の葉を着ける。単羽状複生～2回羽状複生。胞子のう群は円形で中肋と縁の中間に着く。染色体数 $n=82$ 、4倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 12, 14, 20)</sup>



**生息・生育状況**

山地樹林下で湿度の高い場所に生育する。草勢が弱いので高草には負ける。

提供：南 敦(2018.12.27撮影)

**選定理由**

生育地が限定され、生育する株数は著しく少ない。本県が北限線上の一面を占める。

**減少等の要因**

林道開発。

- 572 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301402600 <b>イズヤブソテツ</b> <i>Cyrtomium atropunctatum</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では台湾などに分布する。県内では岩国市、下関市に記録されている。常緑多年生草本。葉の数は数枚、あまり日陰では少なくなる。側羽片は10-20対。広披針形で両縁は平行的。基部はくさび形、耳片はない。包膜の中心部は黒褐色。辺縁は不規則に切れ込む。近似のツクシヤブソテツに比べて、羽片の数は多く10対以上、幅は広くても4cmくらい。羽片の両縁は平行的である。3倍体無融合生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 14, 20)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

湿度の高い杉林に稀に生じる。群生はないようである。

**選定理由**

山口県内の生育地は2箇所限定されており、個体数はごく少数である。また北限線の一面をなす。

**減少等の要因**

杉林の伐採。シカ、イノシシなどの食害。

- 573 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301402700 <b>メヤブソテツ</b> <i>Cyrtomium caryotideum</i> (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では台湾、中国、ベトナム、フィリピン、南アジア、ハワイに分布する。県内では下松市、岩国市、上関町に記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く斜上し、少数の葉を叢生する。1回羽状複生。羽片には通常基部上部に鋭い耳片が着き、特に最下羽片では下側にも耳片の出ることがある。葉縁には先端がのぎ状の細鋸歯がある。胞子のう群は散在、包膜の縁にははっきりとした鋸歯がある。3倍体無融合生殖。外国では2倍体無融合生殖の報告がある。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 14, 19, 20)</sup>



提供：眞崎 久(2004.10.14撮影)

**生息・生育状況**

竹林、火山岩地、その他に生育する。

**選定理由**

県内の生育地は北限線の一画をなしており、生育地、個体数も極めて少なく貴重である。

**減少等の要因**

道路整備。イノシシなどの食害。

ウラボシ目 オシダ科 1101301403700 <b>ツクシャブソテツ</b> <i>Cyrtomium tukusicola</i> Tagawa	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では美祢市、山口市に記録されている。常緑多年生草本。単羽状複生。近似のヒロハヤブソテツに比して羽片の基部はくさび形をしており、包膜の中心は通常褐色。ヒロハヤブソテツの羽片の基部は丸い。美祢市では石灰岩地、山口市では石灰岩脈に生育していた。3倍体無融合生殖。<sup>(2, 4, 6, 13, 20, 21)</sup>



提供：南 敦(2016.6.17撮影)

**生息・生育状況**

美祢市では日照不足により、葉の数が少ない。個体数は以前より増えていた。山口市では日照不足で衰退している。

**選定理由**

生育地は限定されており、個体数も極めて少ない。

**減少等の要因**

日光が不足している。

ウラボシ目 オシダ科 1101301404500 <b>オシダ</b> <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
	山口県	2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、国外では東アジアに分布する。県内では岩国市から記録されている。常緑多年生草本。根茎は直立し多数の葉を叢生する。葉は1mに達し、葉柄は短く、葉軸とともに光沢のある黄褐色～褐色の鱗片を密生する。葉身は側披針形で2回羽状全裂、羽片は無柄。下部の羽片は次第に短くなる。裂片の幅は3-5mm、先端は鈍頭、側脈は二叉分岐する。胞子のう群は葉身の半ば以上に着き、中肋寄りに並んで着く。染色体数 $n=41$ 、2倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 12, 18, 20)</sup>



提供：南 敦(2018.12.27撮影)

#### 生息・生育状況

日本では温帯域に分布する。本州、四国、九州では高地に生育するが、北海道では低地の人家の周りにもかなり自生していた。県内では岩国市の山地頂上付近にごく少数本生育する。温暖化のため、40年位前より衰退している。

#### 選定理由

ごく少数株である。

#### 減少等の要因

地球の温暖化、林道開発。

- 576 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301405200 <b>タカサゴシダ</b> <i>Dryopteris formosana</i> (H.Christ) C.Chr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
	山口県	2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、九州、琉球、国外では朝鮮、台湾、中国、フィリピンに分布する。県内では下関市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は斜上し、長さ約60cmの葉を着ける。全形普通のトウゴクシダに似ているが、最下羽片は幅広く、下向きの第1小羽片は特に長く伸びる。胞子のう群は中肋寄り、全縁の包膜をもつ。3倍体無融合生殖・4倍体（生殖様式は不明）。<sup>(1, 2, 8, 14, 20)</sup>



提供：眞崎 久(1998.12.20撮影)

#### 生息・生育状況

湿度の高い谷間や川岸などに生育する。

#### 選定理由

生育地は1箇所と限定され、個体数もごくわずかである。北限線の一面をなすもので分布上極めて貴重である。

#### 減少等の要因

生育地の開発。

- 577 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301405600 <b>ツクシオオクジャク</b> <i>Dryopteris handeliana</i> C.Chr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では山口市、周南市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は直立し、やや多数の葉を叢生する。葉は単羽状複生。胞子のう群は羽片の両縁に密接して並び小さい。脈はやや二叉状分岐する。近縁種のおオクジャクシダは胞子のう群が辺縁に着くが密接することはないし、大きい。脈は羽状分岐する。2倍体無融合生殖。外国産で2倍体有性生殖の報告もある。<sup>(1, 2, 6, 8, 14, 20)</sup>



提供：南 敦(2003.10.7撮影)

**生息・生育状況**

イノシシに掘り返されて生育は良くない。

**選定理由**

北限線上の一面をなすものであるが、個体数は極めて少数になっている。個体も衰弱している。

**減少等の要因**

イノシシによる掘り返し。研究者等による葉の取りすぎ。林道の整備。

- 578 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301408900 <b>ホソイノデ</b> <i>Polystichum braunii</i> (Spenn.) Fée	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

南千島、北海道、本州（山口県萩市、鳥取県大山、中部地方以北）、国外ではロシア、中国、朝鮮、ヨーロッパ、北米に分布する。県内では萩市に記録されている。夏緑（暖地では常緑）多年生草本。北方系植物で北に行くほど多くなる。根茎は塊状で直立。多数の葉を叢生する。葉はほぼ長楕円形で、中央の幅が一番広く先端や基部にいくにしたがって狭くなる。特に基部にいくほど著しく狭くなることは同定の目安となる。葉身は2回羽状複生。胞子のう群は中肋近くにつき、包膜は盾形で全縁である。4倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 17, 19, 20)</sup>



提供：眞崎 久(1993.8.5撮影)

**生息・生育状況**

山地樹林下に生育する。

**選定理由**

主に中部地方に多産する北方系の植物だが、笠山という特殊な環境に生育地が確認されており、生態的にも分布的にも極めて貴重である。現在、この地域は萩市の天然記念物に指定されている。

**減少等の要因**

生育地の環境破壊。

- 579 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301409200 <b>ホソバヤブソテツ</b> <i>Polystichum hookerianum</i> (C.Presl) C.Chr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州（山口県）、九州（南部）、国外では中国、台湾、南アジア、インドシナ半島に分布する。県内では周南市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く斜上し葉を叢生する。葉は単羽状複生。広披針形で鋭頭、頂羽片ははっきりしない。羽片は広披針形鋭頭、基部はくさび形。全体はやや鎌状に曲がる。柄はないか短い。基部に耳部を作らない。胞子のう群は網目の中の遊裂小脈につくので、中肋の両側に1-2列になる。包膜は淡褐色で小さく全縁である。2倍体有性生殖。外国産で3倍体無融合生殖がある。<sup>(1, 2, 4, 6, 14, 20)</sup>



提供：眞崎 久(2017.11.5撮影)

**生息・生育状況**

陰湿な林中に生育する。

**選定理由**

本種の北限地、個体数もごく少数で極めて重要である。

**減少等の要因**

生育地の開発。盗掘。

ウラボシ目 オシダ科 1101301410000 <b>オニイノデ</b> <i>Polystichum rigens</i> Tagawa	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では岩国市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は直立し葉を叢生する。葉は40cmに達する。葉柄基部の鱗片は淡褐色で広披針形。縁には突起がある。小羽片の基部は羽軸に沿着し、縁には浅い鋸歯があり、鋸歯の先端は硬いのぎ状となる。胞子のう群は小羽片の中肋と縁の中間にある。染色体数n=123、3倍体無融合生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 12, 14, 20)</sup>



提供：南 敦(2017.5.8撮影)

**生息・生育状況**

冷涼地の石灰岩の岩上や岩裂に生育している。

**選定理由**

生育地は1箇所に限定され、個体数も十数株である。

**減少等の要因**

不明。

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301700300 <b>オニマメツタ</b> <i>Lemmaphyllum pyriformis</i> (Ching) Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 CR

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

山口県立山口博物館に収納されていた。山口大学の標本を点検中出てきたもので、海老原敦(2017)日本産シダ植物標準図鑑Ⅱでは山口県近接の島根県になる。本州、九州、国外では中国に分布する。通常マメツタの栄養茎が円形～楕円形なのに対し、本種は通常長ひし形で大きい。匍匐茎は似ている。倍数性・生殖様式は未知。<sup>(1, 2, 4, 19, 20)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

岩や樹木に着生する。

#### 選定理由

採集地は山口県ではないが、極めて近接しているのでレッドリストに入れた。山口県でも見つかる可能性がある。

#### 減少等の要因

不明。

- 582 -

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301700600 <b>ホテイシダ</b> <i>Lepisorus annuifrons</i> (Makino) Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮に分布する。県内では岩国市の記録があるが、現在は不明である。夏緑多年生草本。根茎は短く這い。鱗片をほとんど着けない。葉は接して着き、葉身は下部の方が幅の広い広披針形、葉質はうすく鮮緑色をしている。胞子のう群は円形でやや中肋寄りに並ぶ。県産のノキシノブ属の中で唯一の夏緑性シダで、葉身の幅も約3cmに達するほど広くなるので、他の種類とよく識別できる。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 12, 16, 19, 20)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

主にブナ帯域（温帯域）で樹林の樹幹や岩上に着生する。近年見つかっていない。

#### 選定理由

岩国市の記録があるため、今後発見される可能性がある。

#### 減少等の要因

不明。

- 583 -

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301701100 <b>コウラボシ</b> <i>Lepisorus uchiyamae</i> (Makino) H.Itô	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球に分布する。日本固有種。山口県では上関町、下松市に記録されている。以前のコウラボシは新しい分類体系で、細葉型と広葉型に分けられ、細葉型がここに載せるコウラボシ（2倍体）で、広葉型はイシガキウラボシ（4倍体）となる。イシガキウラボシに比して細葉である。葉裏の中肋が明瞭で、胞子のう群は小さい楕円形である。南敦の上関町長島の栽培実験では、2019年2月にイシガキウラボシは落葉したが、本種の葉は暗緑色になったが、多くは落葉しなかった。<sup>(1, 2, 4, 6, 16, 20)</sup>



提供：南 敦(2018. 12. 22撮影)

**生息・生育状況**

水田や畑の石垣の間に生育する。

**選定理由**

数個体のみで極めて貴重である。上関町のものはほとんど見られない。

**減少等の要因**

水田や畑の休耕による雑草の増加。道路開通による乾燥。

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301701300 <b>イシガキウラボシ</b> <i>Lepisorus yamaokae</i> Seriz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州（北部）に分布。日本固有種。山口県では上関町に記録されている。元々コウラボシの広葉型として知られていたもので、新しい分類体系で新種として登場した。コウラボシとされていたものの大半はイシガキウラボシとされた。上関町のものである。南敦は、上関町の両方を栽培しているが、本種は冬に葉が枯れる。ノキシノブと違って根茎の鱗片が透明であり、2019年2月には葉が暗緑色になったり落葉するものが多かった。<sup>(6, 16, 20)</sup>



提供：南 敦(2012. 10. 8撮影)

**生息・生育状況**

主に水田の石垣、稀に畑の石垣に生息する。寒い年には葉が変色したり、落葉したりする。

**選定理由**

水田は休耕田となり、畑は近くに道が出来てほとんど絶滅した。数の少ない貴重な新種である。

**減少等の要因**

水田や畑の休耕、畑の側の道路。

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301702000 <b>ハゴロモクリハラシ</b> <i>Neolepisorus ensatus</i> (Thunb.) Ching f. <i>monstriferus</i> Tagawa	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では下関市のみ  
に記録されている。ヒロハクリハラシの葉身の辺縁に大きな突起が  
出来る奇形的な型である。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 16, 20)</sup>



提供：南 敦(2018.12.19撮影)

**生息・生育状況**

谷間、川岸など湿度の高いところに生育する。

**選定理由**

下関市のみにある希少な植物であり、しかも現在はほとんどなくなった。

**減少等の要因**

イノシシの掘り返しによる。平成28年は小さな葉茎のかけらしか見られなかったが、南敦の保存個体はかな  
り増えている。

- 586 -

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301702700 <b>タカノハウラボシ</b> <i>Selliguea engleri</i> (Luerss.) Fraser-Jenk.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では朝鮮、中国、インド、台湾に分  
布する。県内では山口市に記録されている。だが、見つかっていな  
い。常緑多年生草本。ミツデウラボシに似ているが、葉身はミツデ  
ウラボシは2-3裂するが、この種は分裂しない。また、ミツデウラ  
ボシの分裂しないものに比べてかなり細長い。また、側膜が平行する。  
胞子の表面は平滑である。2倍体（生殖様式未知）。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 16, 20)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

山地樹林下の湿った岸壁、樹幹、岩上に生育する。

**選定理由**

山口県の自生地は北限線上の一面をなすもので、消滅又は不明の貴重なシダである。

**減少等の要因**

ダム工事。環境変化。

- 587 -

スイレン目 スイレン科 1200500200200 <b>サイコクヒメコウホネ</b> <i>Nuphar saikokuensis</i> Shiga et Kadono	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。浅い池沼に生育し、水上葉と水中葉を持つ。水上葉は、水面から抽出するか、浮葉になり、広卵形から狭卵形。長さ10-30cm、幅7-20cm、裏面にはわずかに毛が生える。花は黄色、径3-4cm、6-10月に開花する。葯は4-6mm。花糸は葯の1-2倍長。果実は緑色、長さ3-5cm。種子は長さ3.5-5mm。コウホネとヒメコウホネ、オグラコウホネの3種による複雑な交配によって起源したと考えられている。<sup>(30)</sup>



提供：南 敦(2018.8.21撮影)

#### 生息・生育状況

中部地方以西に分布する日本固有種<sup>(30)</sup>。県内では、山口市で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

ため池の改修による水位の上昇、他の水草の増加。

- 588 -

センリョウ目 センリョウ科 1200700100100 <b>キビヒトリシズカ</b> <i>Chloranthus fortunei</i> (A. Gray) Solms-Laub.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。短い根茎から高さ10-25cmの茎が数本ないし多数直立する。葉は4枚で広楕円形または卵状楕円形、縁に多数の鋸歯がある。雄ずいの長さは10mmを越え、葯隔は白色で細長く糸状に伸び、長さ8-12mm、雄ずいの内側に4個の黄色い葯がある。果実は淡緑色である。<sup>(6, 30)</sup>



提供：高田義弘(2012.5.3撮影)

#### 生息・生育状況

樹林下半陰地に生育する。中国地方や四国の一部、九州北部、朝鮮半島南部、中国（中部）に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、下関市・周南市・周防大島町で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、植生の遷移、森林開発など。

- 589 -

モクレン目 モクレン科 1200900100500 <b>オオヤマレンゲ</b> <i>Magnolia sieboldii</i> K.Koch subsp. <i>japonica</i> K.Ueda	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

山地に生える落葉低木または亜高木。高さは4-5m。下方から多数の枝を出す。葉は互生し、倒卵形-広倒卵形で長さ6-18cm。単葉で全縁。裏面は白色を帯びる。葉柄は有毛。花期は5-7月。5-10cmの芳香のある白色花を下向きに開く。花被片は普通9枚である。<sup>(6,30)</sup>



提供：高田義弘(2018.6.4撮影)

**生息・生育状況**

ブナ林域の樹林下に生育する。日本では、本州（関東地方以西）・四国・九州の冷温帯と亜寒帯にまれに生育する。<sup>(30)</sup> 県内では、岩門市で記録があり、花期は6月下旬である。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、遷移の進行による日照不足、森林開発、遊歩道の拡幅など。

オモダカ目 サトイモ科 1201200100200 <b>マイヅルテンナンショウ</b> <i>Arisaema heterophyllum</i> Blume	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。球茎は扁球形で子球をつけ、上部から根が出る。葉鞘は高さ60-120cm、葉は1個で鳥足状に分裂、葉柄は35-70cm、小葉は20枚前後が左右にあり、倒披針形、中央の小葉は、その両側の小葉より著しく小さい。5-6月に開花し、花茎は長さ10-30cm、仏焰苞は緑色、基部は筒状、上部は卵形で先端は尾状で曲がる。肉穂花序は棒状で長さ20-30cm、付属体は糸状に長く伸びる。<sup>(6,30)</sup>



提供：高田義弘(2014.6.9撮影)

**生息・生育状況**

アジアの温帯-暖帯域に分布しており、本来湿った草地に生育する。日本では、本州から九州にかけての河畔林の林縁や、山地の池の周囲、草地に生える。<sup>(30)</sup> 県内では、山口市で生育しているが、個体数は非常に少ない。

**選定理由**

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数も少ない。花をつける個体は、ごく少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採、植生の遷移による日照不足。溜水の上昇。

オモダカ目 サトイモ科 1201200100500 <b>ヒロハテンナンショウ</b> <i>Arisaema ovale</i> Nakai var. <i>sadoense</i> (Nakai) J.Murata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。球茎は扁球形で子球を形成、上部から根が出る。葉鞘は高さ20-35cm、葉は1個で鳥足状に全裂、葉柄は10-25cm、小葉は5個で倒卵形-卵形、長さ10-15cm。5-6月に開花し、花茎は長さ2-5cm、仏焰苞は黄緑色から緑色、時に上方が紫色を帯び、小さい耳がある。肉穂は棒状で基部がやや太くなる。<sup>6</sup>



提供：眞崎 久(1994.5.19撮影)

### 生息・生育状況

温帯域のやや開けた樹林下に生育する。日本では、北海道・本州・九州北部に分布する。<sup>30</sup>県内では、岩国市で記録がある。

### 選定理由

県内では一部地域に生育地が限定されており、個体数も少数である。

### 減少等の要因

森林の伐採。植生遷移による日照不足。温暖化。

- 592 -

オモダカ目 サトイモ科 1201200100800 <b>ヤマグチテンナンショウ</b> <i>Arisaema serratum</i> (Thunb.) Schott var. <i>suwoense</i> (Nakai) H.Ohashi et J.Murata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。テンナンショウ属の中では全体が比較的小型で、高さ40cm足らず。花序の付属体は棒状で苞外に出ることはない。苞の先は長くて内側に曲がることはない。小葉は通常7個以上、葉は普通1個だが、2個のものも稀にある。苞の筒部の上縁は、広く開出してやや耳状になり、先は次第に細まる。花期は5月である。<sup>30</sup>



提供：山根文人(2017.4.23撮影)

### 生息・生育状況

湿った草原や疎林の林下、林縁に生育する。国内では、静岡県(伊豆半島)・山口県に分布する。<sup>30</sup>県内では、山口市・萩市・周南市・岩国市で記録がある。

### 選定理由

県内では生育地が一部地域に限定されており、個体数もごく少数である。

### 減少等の要因

森林の伐採、植生の遷移。

- 593 -

オモダカ目 サトイモ科 1201200101100 <b>ミツバテンナンショウ</b> <i>Arisaema ternatipartitum</i> Makino	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。球茎は扁球形で、上部から根を、走出枝の先に子球を着ける。葉鞘は高さ4-17cm、葉は普通2個で3小葉からなり、葉柄は8-14cm、小葉は3個で卵形、長さ7-15cmである。4-5月に開花し、花茎は長さ10-17cm、仏焰苞は紫褐色、筒状の縁に広い耳がある。肉穂花序は長さ4-8cm、付属体は円柱形でやや太く、円頭、基部は少し膨大する。<sup>6</sup>



提供：眞崎 久(2015.4.25撮影)

**生息・生育状況**

暖带上部域、ササの少ない常緑・落葉混交林の樹林下に生育する。国内では、本州・四国・九州に分布し、県内では、周南市・岩国市に記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

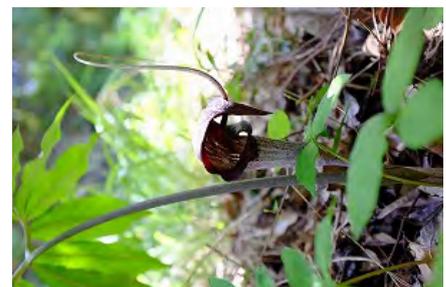
植生遷移による日照不足。

オモダカ目 サトイモ科 1201200101300 <b>ウラシマソウ</b> <i>Arisaema thunbergii</i> Blume subsp. <i>urashima</i> (H.Hara) H.Ohashi et J.Murata	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。球茎は扁球形で多数の子球を着け、上部から根を出す。葉鞘は高さ4-13cm、葉は1個で葉柄は10-40cmで鳥足状に深裂し、小葉は11-15個、倒披針形、頂小葉が最大で長さ10-25cm。4-5月に開花し、花茎は長さ10-20cm、仏焰苞は暗紫色、先端部は尾状で下垂する。肉穂花序は長さ30-50cm、付属体は糸状で長く伸び、下部の膨れた部分にしわはない。近縁種で県内に普通に見られるナンゴクウラシマソウは花序付属体の下部の膨れた部分にしわが多い。<sup>6,30</sup>



提供：秋丸浩毅(2017.4.30撮影)

**生息・生育状況**

暖帯域の低山地樹林の林縁や明るい林内に主産する。県内では沿海地で高草の少ないところに生育する。国内では、北海道・本州・四国・九州(佐賀県)に分布する。<sup>30</sup>県内では、暖かくて火山岩の上関町・周防大島町に生育する。

**選定理由**

県内では生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、森林伐採、草地開発、植生の遷移に伴う日照不足、除草剤の散布など。

オモダカ目 トチカガミ科 1201200300400 <b>ミカワスブタ</b> <i>Blyxa leiosperma</i> Koidz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

一年生草本。葉はすべて根生し株をつくる。葉は線形で紫褐色を帯び、長さ7-13cm、幅4-5mm、先は次第に細くなり、縁に細かい鋸歯がある。花は8-10月に開花し、両性。苞鞘の柄は開花時3.5cm、花後さらに伸びる。子房は苞鞘の中にあり、がく筒が細長く伸び、水面に達する。子房は花後に伸び約10cm。種子には尾状突起がなく、表面は平滑。ヤナギスブタと無茎のスブタまたはマルミスブタとの雑種という説もある。<sup>6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

水田、流水中に生育する。本州でまれに見られるが、県内では、山陽小野田市・周南市で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

水質悪化、池沼の埋め立て、改修工事など。

- 596 -

オモダカ目 トチカガミ科 1201200300900 <b>トチカガミ</b> <i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。横に這う長い水中茎がある。茎の節にある托葉腋から浮葉が出る。葉は長柄があつて水に浮かび、葉身は円形で基部は心臟形、全縁、径3.5-7cm、両面無毛。托葉腋から雌花芽を出す。雄花序はふつうの葉腋から出る。花期は8-10月で、花は白色。がく片は3枚、長楕円形。花弁は3枚、広倒卵形。<sup>6)</sup>



提供：南 敦(2018.8.21撮影)

#### 生息・生育状況

富栄養化した浅い池やため池、水路などに生育する。アジア・オーストラリアの温帯～熱帯に分布する。国内では、本州～九州に分布する。<sup>30)</sup> 県内では、下関市・宇部市・萩市・下松市・周南市で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数はほとんど見られない。

#### 減少等の要因

池沼の埋め立て、水路の改修、浮草類による被覆。

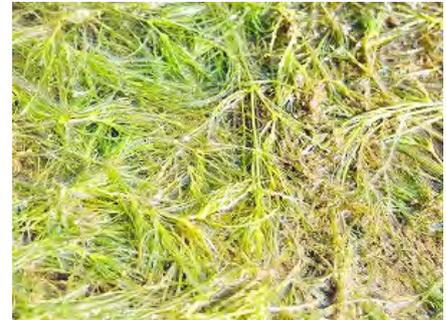
- 597 -

オモダカ目 トチカガミ科 1201200301400 <b>イバラモ</b> <i>Najas marina</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

一年生草本。淡水または汽水の湖沼、ため池に生える。茎は他種に比べて太くてかたく、直径1-4.5mmよく分枝し、とげがある。葉もかたく、線形で長さ3-6cm、幅2-3mm、縁に大きな鋸歯があり、その先端はとげになる。雌雄異株。雄花は苞鞘内にできるが、雌花に苞鞘はない。日本での花期は7-9月。種子は楕円～長楕円球形で、長さ2-6mm、幅1-3mmである。<sup>(30)</sup>



**生息・生育状況**

世界の温帯～熱帯に広く分布し、日本では北海道から琉球に見られる。<sup>(30)</sup> 県内では、山口市で記録がある。

提供：眞崎 久(2018.8.29撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

水質悪化、池沼の埋め立て、改修工事、除草剤の散布など。

オモダカ目 ヒルムシロ科 1201200600700 <b>オヒルムシロ</b> <i>Potamogeton natans</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。地下茎は横に這い、1節おきに水中茎を出し、下部の沈水葉は線形、上部に着く浮葉は穂状花序の下では対生、長さ5-10cmで葉柄は10-16cm。5-8月ごろに開花し、花序は長さ3-5cm。花は両性で、花被はない。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

池などの浅い水辺に生育する。北半球の冷温帯に広く分布し、国内では、北海道～九州に分布する。<sup>(30)</sup> 県内では、下関市・山口市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

水質悪化、池沼の埋め立て、改修工事、他の水草による被覆など。

オモダカ目 ヒルムシロ科  
1201200601000

## リュウノヒゲモ

*Potamogeton pectinatus* L.

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	NT

### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。地下茎は横に這い、1節おきに水中茎を出す。水中茎はよく分枝する。沈水葉は線形、長さ6-10cm、幅1mm、全縁、基部は長く葉鞘となる。7-9月に開花し、花序はまばらに花を着け、長さ1-3.3cm。花は両性で、花被はない。近縁種のセンニンモは葉の幅がより広く、細鋸歯縁である。<sup>(6)</sup>



### 生息・生育状況

平野部の汽水や市街地の水路（淡水）に生育する。県内では、防府市、柳井市で記録がある。

提供：南 敦(2017.9.7撮影)

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

### 減少等の要因

水質悪化、改修工事、他の水草の繁茂。

- 600 -

オモダカ目 カワツルモ科  
1201200700100

## カワツルモ

*Ruppia maritima* L.

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	NT

### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。茎は初めは這い、後に立ち上がり多数分枝する。葉は互生し、糸状で、長さ5-10cm、幅0.3mm、葉の下部は葉鞘となり、長さ8-13mm。6-8月に開花し、両性の花は葉腋から出る。花被はな褐緑色である。<sup>(6,37)</sup>



### 生息・生育状況

世界に広く分布する。国内でも北海道～琉球・小笠原に分布し、県内では、山口市・周南市・平生町で記録がある。

提供：眞崎 久(2009.5.10撮影)

### 選定理由

県内では生育地が激減してきており、個体数も少数である。

### 減少等の要因

水質悪化、池沼の埋め立て、改修工事など。

- 601 -

ヤマノイモ目 ヒナノシャクジョウ科 1201300200100 <b>ヒナノシャクジョウ</b> <i>Burmattia championii</i> Thwaites	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生腐生草本。地下茎は少し球状に膨らみ、茎は直立し高さ3-8cm、白色、まばらに鱗片葉がある。花は7-10月に茎の先端に2-10個が頭状に集まり、白色、長さ6-10mm、花弁は小さいさじ形で円頭、3枚のがく裂片は三角形で直立する。<sup>6</sup>



**生息・生育状況**

熱帯-暖帯域の低山地樹林下の落ち葉やコケの間に生育する。国内では、本州(関東以西)・四国・九州・屋久島・沖縄島に分布する。<sup>30</sup> 県内では、美祢市・萩市・山口市・岩国市で記録がある。

提供：南 敦(2003.9.28撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採、土地の造成。

- 602 -

タコノキ目 ホンゴウソウ科 1201400100100 <b>ホンゴウソウ</b> <i>Sciaphila nana</i> Blume	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生腐生草本。茎は細く、径0.3-0.4mm、高さ3-8cm。葉は鱗片状、長さ1.5mm。花は総状花序につき、上部は雄花、下部は雌花、花被片は6枚で卵状披針形。赤紫色の花が7-10月ごろ開く。果実は集まって径1.5-2mmの球状の集合果となる。<sup>6</sup>



提供：眞崎 久(2018.8.19撮影)

**生息・生育状況**

やや湿度の高い樹林下の落ち葉の間、岩上のコケなどの間に生育する。<sup>6</sup> 県内では、下関市・美祢市・山口市・萩市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

森林伐採、植生の遷移、イノシシによる掘り返し。

- 603 -

タコノキ目 ホンゴウソウ科 1201400100200 <b>ウエマツソウ</b> <i>Sciaphila secundiflora</i> Thwaites ex Benth.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

林床の落ち葉の間に生える菌従属栄養植物。地上部は全体に赤紫色を帯び、地下部は白色。茎は放射状に横に広がり、細かい側根を多数つける。茎の高さ6-10cm、直径約0.8mmで、ほとんど分枝しない。葉は鱗片状で広卵形、長さ約3mm。花期は7-9月である。<sup>(30)</sup>



提供：南 敦(2010.7.28撮影)

#### 生息・生育状況

本州（新潟・和歌山以西）四国・九州・琉球（沖縄・西表島）・小笠原諸島～小笠原に分布する。<sup>(30)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

森林の伐採、植生の遷移、イノシシによる掘り返し。

- 604 -

ユリ目 シュロソウ科 1201500100200 <b>チャボシライトソウ</b> <i>Chionographis koidzumiana</i> Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

シライトソウに似ているが、それよりかなり小さい。多年生草本。高さ30cmに達するものがある。根出葉は卵形～狭卵形で葉柄を含めて2-8cm、茎上葉は狭卵形～線形で0.5-2cmである。花は6枚の花被からなるが、外花被（下側）2枚は退化し、内側（上側）4枚は白色糸状で長さ9-15mmである。葯室は合着して1室になる。子房は上位で球形、果実は蒴果で3-4mmである。種子は長楕円形である。染色体数2n=24。日本の固有植物である。<sup>(10, 27-30)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（愛知県、紀伊半島）、四国、九州に分布する。山口県でも確認したという話がある。山中で半日陰の疎生地に生える。周囲の雑草が茂ると競争に負ける。

#### 選定理由

記録にはないが見たという話があり、今後見つかる可能性があるため選定した。選定しておかないと見つかった際の保護が難しい。

#### 減少等の要因

盗掘、植生遷移、温暖化、工事等。

- 605 -

ユリ目 サルトリイバラ科 1201500400700 <b>マルバサンキライ</b> <i>Smilax stans</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生半低木。茎は直立して分枝し高さ30-50cm、とげはない。葉は卵形-卵円形で薄く、鋭頭-鈍頭、基部は心臟形、全縁で長さ3.5-7cm、基部が扁平となった葉柄がある。裏面は白色を帯びる。巻ひげはない。5-6月ごろ葉腋から2-5花を散形花序に着ける。しょう果は球形、碧黒色、白粉を帯び、径8mmとなる。<sup>(6,30)</sup>



#### 生息・生育状況

山の日当たりのよい林縁、火山岩や石灰岩地に生育する。本州～九州、中国・台湾に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市・岩国市で記録がある。

提供：秋丸浩毅(2015.7.9撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

森林の伐採、土地造成、道路工事、他の樹木の繁茂など。

- 606 -

ユリ目 ユリ科 1201500500400 <b>ホソバナコバイモ</b> <i>Fritillaria amabilis</i> Koidz.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	NT

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。鱗茎は球形で、7-9mm、2個の鱗片でできている。茎は高さ10-20cm、無毛で上部に対生葉とその上に3輪生葉を着ける。葉は披針形-広線形。3-5月ごろ茎の先端に1個の筒状鐘形、淡紫褐色の花を斜め下向きに開く。葯はクリーム色。<sup>(6,30)</sup>



提供：眞崎 久(2017.3.19撮影)

#### 生息・生育状況

山地の日当たりのよい草地、放牧地などに生育する。国内では本州西部、九州北部・中部に稀に分布し、県内では、岩国市でわずかに見られる。

#### 選定理由

県内では、生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

生育地の土地造成、草地開発、園芸目的の採集、動物の食害など。

- 607 -

ユリ目 ユリ科 1201500500600 <b>キバナノアマナ</b> <i>Gagea lutea</i> (L.) Ker Gawl.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。鱗茎は卵形で10-15mm。葉は1枚で広線形、長さ15-35cm、幅5-10mm、基部は茎の下部を包む。花茎は高さ15-25cm、披針形の苞が2個ある。4-5月ごろ4-10個の黄色花を散形状に着ける。花被片は線状長楕円形で長さ12-15mm、鈍頭である。<sup>(6,30)</sup>



提供：山根文人(2013. 3. 30撮影)

### 生息・生育状況

北海道、本州北部～中部に比べ、本州西部・四国・九州は産量が非常に少ない。県外では山すその草地に生じるが、県内では、美祢市の特殊な環境に生育する。夏には地上部は枯れて鱗茎が残り越冬する。<sup>(6,30)</sup>

### 選定理由

県内では、生育地が1箇所ときわめて限定されており、個体数もごく少数である。

### 減少等の要因

生育地の環境変化。園芸目的の採集、イノシシによる掘り返し。

- 608 -

ユリ目 ユリ科 1201500500700 <b>ヒメユリ</b> <i>Lilium concolor</i> Salisb.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。鱗茎は卵型で、鱗片は白色である。茎は直立し、高さ30-80cm、葉は線形で無柄、多数互生し、長さ5-10cm、無毛であるが、縁や脈上に低い小突起があつてざらつく。6-8月ごろ茎頂に1-4個の上向きの花を着ける。花被片は倒披針形で長さ3-4cm、朱赤色で斑点がある。花粉は赤色である。<sup>(6,30)</sup>



提供：高田義弘(2000. 7. 23撮影)

### 生息・生育状況

山地や沿海地の日当たりのよい疎生地～低草地に生育する。国内では本州～九州でやや稀に見られるが、県内では、萩市・山口市でごくわずか確認されている。

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。園芸的な価値が高いため、消滅寸前の状態にある。

### 減少等の要因

園芸目的の採集、草原の管理放棄、植生の遷移。

- 609 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600100200 <b>イワチドリ</b> <i>Amitostigma keiskei</i> (Maxim. ex Franch. et Sav.) Schltr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本の着生ラン。地下に紡錘状に肥厚した根と数本の細根があり、茎は高さ5-15cm。1枚の葉を着け、楕円形、長さ3-7cm、幅6-15mm、無毛、基部は茎を抱く。4-5月に1本の花茎を伸ばし、その先端部に数個から10数個の紅紫色の花を着ける。花は3深裂した唇弁が大きく開き、その中裂片はさらに2裂する。基部に紅紫色の斑点があつて目立つ。<sup>(6,30)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

山地の谷間で多くは河岸の岩壁下部の割れ目に生育する。増水時に多少冠水するような場所を好む。国内では、本州・四国・伊豆諸島に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、宇部市で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数である。環境条件の変化によって消滅のおそれがある。

#### 減少等の要因

森林伐採。

- 610 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600100400 <b>マメヅタラン</b> <i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim. ex Okubo	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生常緑ラン。根茎は線形で横に這って偽球茎はない。葉は革質で短い柄があり、脈は不明瞭、長さ6-13mm。5-6月に葉の基部から1本ずつ出た葉の長さの2-3倍の花茎の頂端に淡黄色の花を1個ずつ着ける。唇弁の内面には紫紅色のぼかし模様がある。<sup>(6,30)</sup>



#### 生息・生育状況

暖温帯山地の樹林内の樹幹、大きい枝上、岩壁上に生育する。国内では本州(福島県以南)・四国・九州・琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、長門市・萩市・山口市・岩国市・周防大島町などで記録がある。

提供：高田義弘(2018.5.27撮影)

#### 選定理由

暖地性種で、県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。生育環境の変化で消滅の恐れがある。

#### 減少等の要因

森林の伐採、道路工事などによる乾燥化、園芸目的の採集など。

- 611 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600100600 <b>キリシマエビネ</b> <i>Calanthe aristulifera</i> Rchb.f.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	EN

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。葉は2-3個ついて、倒卵状長楕円形、長さ15-30cm、幅4-6cm、葉柄は比較的長い。下面に短毛がある。4~5月花茎を伸ばし高さ20-40cm。花は白色-淡桃色、10-15花をまばらに着け、いくぶん垂れ気味に咲く。唇弁は扇状三角形、中央裂片と側裂片は浅裂する。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

暖帯域の常緑広葉樹林内に生育する。国内では、本州(近畿地方南部)~九州に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、長門市に記録がある。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

県内では生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600100800 <b>ナツエビネ</b> <i>Calanthe reflexa</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。葉は数枚出て長楕円形、長さ10-30cm、幅3-8cm、無毛かまたは下面にわずかに短毛があり、縦にしわがあり、黄緑色-白みがかかった緑色、葉柄部は幅が広い。7-8月下旬に高さ20-40cmの花茎を伸ばし、まばらな総状花序に10-20個、白色-淡紅紫色の花を着ける。唇弁は3裂し、距はない。同属のエビネ類からは花期が夏であることで区別される。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2007.8.26撮影)

**生息・生育状況**

冷温帯~暖温帯の主として落葉樹林内に生育する。冷涼な気象条件を好み、暑さには弱い。国内では、本州・四国・九州に分布する。<sup>(6,30)</sup>県内では、山口市・岩国市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

温暖化、園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600101000 <b>サルメンエビネ</b> <i>Calanthe tricarinata</i> Lindl.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。葉は冬も緑色を保って残り、春に新葉を2-4枚出して広楕円形、長さ15-40cm、幅3-11cm、先端に向かって急に細まり、無毛。5-6月に新葉と共にやや太く短毛のある花茎が伸びる。花はやや散生し、唇弁は紅褐色、小さい2枚の側裂片と大きくて中央に3本のひだ状隆起が顕著な中央裂片からなる。他の5花被片は黄緑色。花に距がないことはナツエビネと同様である。<sup>(6)</sup>



**生息・生育状況**

冷温帯のブナ林内のやや暗い場所に生育する。国内では、北海道～九州に分布する。<sup>(6,30)</sup> 県内では、岩国市で記録がある。

提供：江上嘉昭

**選定理由**

温帯下部ブナ林域に自生する種で、県内では生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、温暖化、森林伐採。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600101300 <b>ユウシュンラン</b> <i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>subaphylla</i> (Miyabe et Kudô) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。高さ15cm以下で、茎の大部分に淡褐色の鞘状葉があり、上部に1-2枚の小さい緑色で膜質の葉を着ける。4月下旬-9月初めに、茎の頂部に2-3個の白色の花を着け、唇弁の距はやや長く突出している。母種のギンランは下方から葉が展開し、全体が大形である。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

冷温帯の落葉樹林内で湿った腐葉土の多い傾斜面に生育する。国内では、北海道～九州に分布する。<sup>(30)</sup> 県内では、山口市で記録がある。

**選定理由**

県内では、生育地が1箇所ときわめて限定されており、個体数もごく少数である。生育地が1箇所と限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採、道路工事、温暖化など。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600101500 <b>ササバギンラン</b> <i>Cephalanthera longibracteata</i> Blume	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。高さ30-50cm、ときに70cm、6-7枚の倒披針形の葉を着ける。葉は硬い草質で先端は尖り、基部は茎を抱いて、葉脈が硬く浮き出る。5-6月ごろ白色の花を茎頂に5-10個着けるが平開せず、下から2-3花には花より長い緑色で葉状の苞がある。同属のギンランは全体が小形で、無毛、下位の苞葉は花より長くならない。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

冷温帯の落葉樹林下の湿った腐葉土の多い場所に生育する。国内では、北海道～九州に分布する。<sup>(6,30)</sup>県内では、岩国市での記録がある。

**選定理由**

主に温帯域に産する種で、県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採、道路工事、温暖化などによる環境の変化。

- 616 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600101600 <b>ヒメノヤガラ</b> <i>Chamaegastrodia sikokiana</i> Makino et F.Maek.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

無葉緑性の地生ラン。地下の菌根は分枝し、植物体は少しずつ移動する。凡そオニノヤガラを小形にした形態だが、花茎は高さ10-20cmと低く、やや肉質で淡紅色。毛は無く、鱗片葉を互生する。花期は7-8月穂状花序となり5-10花を着ける。淡褐色。苞は卵状長楕円形、長さ5-8mm。がく片は長卵形で鈍頭である。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

暖温帯の林床に自生する。国内では、本州～九州・屋久島に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、下関市で記録がある。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数で、全国的にも個体数が少なく貴重である。

**減少等の要因**

森林伐採。

- 617 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600101800 <b>トケンラン</b> <i>Cremastra unguiculata</i> (Finet) Finet	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。卵球形の球茎が地下茎で連なり、頂部に2枚の葉を着ける。葉は長楕円形で両端が尖り、長さ10-15cm、短い葉柄がある。花茎は高さ25-40cm、5-6月にまばらに10個前後の花を着け、がく片は黄褐色で紫色の斑点があり長さ18-20mm、唇弁は線形で白色。<sup>6</sup>



**生息・生育状況**

温帯下部域のブナ林下の適湿地に生育する。国内では北海道～九州に分布する。<sup>30</sup>県内では、岩国市で記録がある。

提供：杉江喜寿(2017.6.22撮影)

**選定理由**

温帯域に主産する種で、県内では生育地が1箇所限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、温暖化。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600102000 <b>カンラン</b> <i>Cymbidium kanran</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。根はやや太く、地中の浅い所にバルブを形成する。葉は短い地下茎から叢生し線形、長さ20-70cm、幅6-17mm、葉身は平坦でしなやかに湾曲し縁には細鋸歯がある。花茎は高さ25-60cm、11-1月ごろ上部に5-8花、総状に着ける。花色は淡黄緑色-帯紅紫色まで変化が多く芳香がある。<sup>6</sup>



提供：眞崎 久(1994.11.11撮影)

**生息・生育状況**

暖帯下部域の常緑広葉樹林下のやや乾燥気味の開けた林床に生育する。国内では、本州(東海地方以西)～琉球に分布する。<sup>30</sup>県内では、美祢市で記録がある。

**選定理由**

古来より東洋蘭として栽培、珍重されるが、園芸目的の採集のため、全国的に消滅状態になった。県内でも同様の状況である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600102100 <b>マヤラン</b> <i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

多年生腐生無葉ラン。地下茎は多肉で軟らかく、白色、分枝して斜上し、その先端に花茎を着ける。花茎は細くて平滑、下半部に数個の鱗片葉があり、上半部に7-8月ごろ2~6個の花をまばらに総状に着ける。花は開出してやや上向き、白色で薄く汚紅紫色を帯びる。<sup>(6)</sup>

【執筆者：高田義弘】



提供：南 敦

#### 生息・生育状況

常緑広葉樹林やや古い二次林で、腐植の多い樹林下に生育する。国内では、本州(関東以西)~琉球に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、上関町・山口市で記録がある。

#### 選定理由

南方系種で、県内では生育地が1箇所と限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集。

- 620 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600102200 <b>ナギラン</b> <i>Cymbidium nagifolium</i> Masam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

多年生地生ラン。地下茎は分枝して浅く直立し、年々新茎が並んで立ち上がる。葉は1-3枚、普通3枚、広い倒披針形で先端が尖り、革質で光沢があり、縁に細かい鋸歯が並ぶ。葉柄は細くて長い。その年の葉を着けた茎の下部に淡褐色の鞘状葉が数枚あり、そのうちの1-2枚の葉腋から高さ10-20cmの花茎が伸び出て、先端部に7月ごろ黄白色の花を3-4個着ける。アキザキナギランは11月に開花する。<sup>(6)</sup>

【執筆者：高田義弘】



提供：南 敦(2010.7.16撮影)

#### 生息・生育状況

暖帯下部域の常緑広葉樹林下であまり暗くなく、やや乾燥気味、落ち葉の堆積のある林床に生育する。国内では、本州(関東南部以西)~琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、上関町で記録がある。

#### 選定理由

南方系種で、県内では生育地が数箇所に限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、植生遷移による日照不足。

- 621 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600102300 <b>クマガイソウ</b> <i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地下茎は長く横に走り、節から太い根を出す。茎は直立し、高さ20-40cm、下向きの粗毛が密生する。葉は茎の先端部に2枚開き、大きい扇円形で径10-22cm、放射状の脈が多数あり、多くの縦ひだを形成する。4-5月ごろ葉の間から花茎を出し、茎頂に1個の花を下垂して開く。花は大形で長さ10cm、幅7cm、淡緑色であるが、唇弁は淡いピンク色から淡紅紫色となり、紅紫色の脈がある。<sup>6</sup>



提供：江上嘉昭(2008.5.5撮影)

**生息・生育状況**

県外では暖帯上部と温帯下部の火山岩地（特に安山岩）、樹林斜面、人家付近の竹林などに群生する。国内では、北海道西南部～九州に分布する<sup>30</sup>。県内では、上関町・周防大島町で記録がある。

**選定理由**

日本国内での分布は広いが、県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

芝生菌の衰退、園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600102500 <b>イチヨウラン</b> <i>Dactyloctenax ringens</i> Rchb.f.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地下茎は短く、葉を毎年1枚ずつ地際に着ける。葉は卵形-広卵形、長さ3-6cm、幅 2.5-4cm、表面に軽い凹凸があり、時に紫褐色の斑点が散在する。葉柄の長さは1-5mmである。直立する花茎は高さ10-20cm、先端に5-7月ごろ1個の花を着ける。唇弁は白色で3裂し紫斑が目立ち、他の花被片は淡緑色で基部に紫斑がある。<sup>6</sup>



提供：眞崎 久(2018.4.18撮影)

**生息・生育状況**

温帯上部域の針葉樹林下に生育する。国内では、北海道～九州に分布する<sup>30</sup>。県内では、岩国市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、道路工事、森林の伐採。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600102900 <b>モミラン</b> <i>Gastrochilus toramanus</i> (Makino) Schltr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地下茎は短く、葉を毎年1枚ずつ地際に着ける。葉は卵形-広卵形、長さ3-6cm、幅 2.5-4cm、表面に軽い凹凸があり、時に紫褐色の斑点が散在する。葉柄の長さは1-5mmである。直立する花茎は高さ10-20cm、先端に5-7月ごろ1個の花を着ける。唇弁は白色で3裂し紫斑が目立ち、他の花被片は淡緑色で基部に紫斑がある。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

暖带上部域の深山、針葉樹・広葉樹の混交林で、カン類やカヤその他の古木の樹幹に着生する。国内では本州(宮城県以南)・四国・九州に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市・岩国市で記録がある。

**選定理由**

全国的に稀な種であるが、県内でも生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600103300 <b>アキザキヤツシロラン</b> <i>Gastrodia verrucosa</i> Blume	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生腐生無葉ラン。地下茎は太くて短く、茎は円柱形で高さ3.5-10cm、数個の鱗片葉があり、下部のものは鞘状。10月ごろ茎の上部に2-8個の花を総状に着ける。花冠は濃褐色、表面に無数のいぼ状小隆起があり、鐘状円筒形、長さ11mm、幅8mm、唇弁は黄白色である。花後に茎は30cmくらいに伸長する。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2006.11.17撮影)

**生息・生育状況**

主に竹林の落葉の多い、腐植に富んだ林床に見られるが、常緑広葉樹林下に生じることもある。秋から冬にしか地表に現れない。国内では、本州(関東地方以西)・四国・九州に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、下関市・山陽小野田市・防府市・岩国市で記録がある。

**選定理由**

亜熱帯-暖帯域を分布の中心とする種で、県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

不明。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600103400 <b>ベニシュスラン</b> <i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook.f.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。茎は地表を這い頂部4-8cmが斜上、葉は2-3枚、広卵形で主脈を中心に白い網斑があり、下面は時に淡赤色となる。花は8-9月に1~3個着き、筒状、長さ2.5-3cm、淡黄紅色、ちぢれ毛がある。シュスラン属の中では花数が少なく、全草に較べて花が異様に大きい特長がある。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

シイ、タブなどのやや明るい樹林下の湿った地上、石垣、河岸の岩上などに稀に群生する。国内では、北海道(南部)・本州・四国・九州に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、下関市で記録がある。<sup>(6)</sup>

#### 選定理由

暖帯域に分布するが産量は少なく、自生地が激減している。県内でも生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、森林伐採。

- 626 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600103600 <b>ツリシュスラン</b> <i>Goodyera pendula</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生着生ラン。茎は下垂し長さ10-20cm、葉は互生、広披針形、多くは縁がちぢれ緑色、長さ2-4cmとなる。花は7-8月ごろ、茎の先端に多数密に着いて、開花とともに花部だけが立ち上がり、小形、汚白色、多細胞の腺毛を散生する。垂れ下がった姿に特長がある。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

南西日本では暖帯上部(クリ帯)に、日本海側では温帯(ブナ帯)域に生育する傾向がある。深山の湿った森林内の樹幹や岩上の着生シダやコケの間に着生する。国内では、北海道~九州に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、岩国市で記録がある。

#### 選定理由

深山生の希少種、花は地味であるが草姿を楽しむため園芸採取され、全国的に減少している。県内でも生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数で消滅の恐れがある。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、森林伐採。

- 627 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600103900 <b>シュスラン</b> <i>Goodyera velutina</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。茎の下部は横に這い、先端は斜上して高さ10-20cmとなる。葉は4-5枚着き長卵形-卵状楕円形、上面は暗紫緑色でビロード状の光沢があり、下面は暗紅紫色、中央に白色のすじがある。花は茎の上部に8-9月ごろ4-10個着き淡紅色-淡紅褐色である。<sup>(6)</sup>



**生息・生育状況**

常緑広葉樹林の樹林下に生育する。国内では本州（関西以西）～九州・琉球に分布する。<sup>(30)</sup> 県内では、長門市で記録がある。<sup>(6)</sup>

提供：南 敦(2009.9.21撮影)

**選定理由**

西日本に広く分布する種であるが、観賞に供され園芸採取されることが多く、個体数が激減している。県内でも生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数で消滅の恐れがある。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、森林伐採。

- 628 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104100 <b>ムカゴソウ</b> <i>Herminium lanceum</i> (Thunb. ex Sw.) J.Vuijk	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地中浅く2個の球茎と多肉根がある。茎は直立し高さ20-45cm、中部に2-3枚の葉を離れて着ける。葉は広線形、長さ8-20cm、光沢はなく、中脈が凹み基部は短い鞘となる。花は6-8月ごろ長さ5-15cmの穂状となって密に着き、淡緑色、距はない。<sup>(6)</sup>



提供：眞崎 久(2012.9.9撮影)

**生息・生育状況**

温帯-暖帯域の山地のやや湿った草地に生育する。国内では北海道西南部～琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、岩国市で記録がある。

**選定理由**

本変種の分布は広いが、県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

遷移の進行による環境変化、草地開発。

- 629 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104400 <b>クロムヨウラン</b> <i>Lecanorchis nigricans</i> Honda	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

山の木陰に生育する無葉菌根植物。地上茎は細く直立して高さ15-30cm、黒色。花期は6-8月で、5-10個が次々に開く。花は暗紫色で横を向いて咲き、唇弁は3列する。<sup>(30,38)</sup>



**生息・生育状況**

暖温帯～亜熱帯の常緑紅葉樹林下に生える。日本では、本州(伊豆以西)・四国・九州に生育する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市で記録がある。

提供：秋丸浩毅(2017.8.19撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

森林伐採、イノシシによる掘り返し。

- 630 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104500 <b>ギボウシラン</b> <i>Liparis auriculata</i> Blume ex Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。茎は卵形、葉は2枚ずつつき、広卵形で。表面の脈は隆起する。一見ギボウシ属のようである。花期は7-8月。帯白色の花を十数個つける。唇弁の基部に2個のこぶ状突起がある。<sup>(6,38)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

冷温帯～暖温帯の林床や湿原に生える。国内では北海道～九州・屋久島に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、岩国市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、イノシシによる掘り返し。

- 631 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104600 <b>フガクスズムシソウ</b> <i>Liparis fujisanensis</i> F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

冷温帯の、主としてブナの樹上に着生する多年生草本。開花時の高さは3-10cm。葉は卵形で2枚、先は急に尖る。側花弁は下垂する。スズムシソウとクモキリソウの自然雑種であるという説もある。<sup>(30,39)</sup>



提供：世羅徹哉(2007.7.8撮影)

**生息・生育状況**

国内では、北海道～九州に分布する。<sup>(30)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採、園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104700 <b>セイタカスズムシソウ</b> <i>Liparis japonica</i> (Miq.) Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地中に球形の偽球があり、これから2枚の葉を着ける。葉は卵形-卵状長楕円形、長さ6-12cm、基部は鞘状、平滑で平坦である。花茎は高さ20-40cm、6-8月ごろ淡緑色-帯紫色の花を着ける。唇弁は倒卵形、長さ7-8mm、幅4.5-5.5mmである。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

温帯域の深山の樹上・岩上に稀に生育する。国内では、北海道～琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市・岩国市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

森林の伐採、園芸目的の採集。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600105000 <b>スズムシソウ</b> <i>Liparis makinoana</i> Schltr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

地生ラン。葉は広楕円形で、2枚出て対生する。花茎は高さ10-25cmで、直立する。花は淡暗紫色で、5-6月に約3cmのものを約10個まばらにつける。唇弁は長さ14-17mm。<sup>(37)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

冷温帯の樹林の林床に生える。国内では、北海道～九州に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、森林伐採、草地開発、イノシシによる掘り返しなど。

- 634 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600105200 <b>ササバラン</b> <i>Liparis paradoxa</i> (Lindl.) Rchb.f.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地中に球形の偽球があり、葉は3-5枚、広披針形-狭長楕円形、長さ7-15cm、基部は鞘状、光沢があり、下面は脈が隆起して淡紫色を呈する。花茎は高さ20-40cm、ひれがあり、7-8月ごろ6-10数個の灰紫色の花を着ける。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

亜熱帯-暖帯南部域の常緑広葉樹林下や草地に生育する。国内では本州(栃木県以西)～九州・琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、美祢市で記録がある。

提供：高田義弘(2018.7.7撮影)

#### 選定理由

亜熱帯-暖帯域の種で、本州ではごく稀である。県内では生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数で、消滅の恐れがある。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、森林伐採、草地開発など。

- 635 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600105700 <b>ムカゴトンボ</b> <i>Peristylus flagellifer</i> (Makino) Ohwi ex K.Y.Lang	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地中に2個の球茎があり、茎は高さ20-50cm、無毛である。葉は下方に数枚あり、最下の2枚は鞘状、上の葉は長楕円形で長さ4-10cm、緑色で乾くと黒くなる。花は9-10月ごろ長さ10-25cmで穂状に着き、淡緑色、距は長さ3-4mmで緑色を保つ。<sup>(6)</sup>



**生息・生育状況**

山麓のやや粘土質の日当たりのよい湿った草地に生育する。本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球(徳之島以北)に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、宇部市で記録がある。

提供：松井茂生(2008.9.23撮影)

**選定理由**

西南日本に分布する種であるが、生育地、個体数が激減している。県内でも生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

道路工事、土地造成、湿地の陸化、植生遷移。

- 636 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600105800 <b>イヨトンボ</b> <i>Peristylus iyoensis</i> Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

湿地に生える多年生地生ラン。地中に楕円形で長さ約3cmの球茎がある。茎は高さ10-25cm、葉は茎の基部から3-6枚ロゼット状に叢生し長さ3-7cm、やや硬く、淡緑色、光沢がある。花は8-9月花茎の上部に3-9個着き、緑色、距は長さ6-10mmで褐変する。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

湿地草原の草間に生育する日本固有種。本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球(徳之島以北)に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、周南市で記録がある。

**選定理由**

全国的に稀少種で、県内でも生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数で、生育特性から消滅の恐れがある。

**減少等の要因**

園芸目的の採集、植生の遷移、湿地の陸化。

- 637 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600106100 <b>イイヌマムカゴ</b> <i>Platanthera iinumae</i> (Makino) Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。根は肥厚して数本あり、最も太い根から茎を出す。茎は高さ25-40cm、中ほどに2-3個の葉と上部に少数の苞葉がある。葉は長楕円形、長さ10-15cm、幅2-4cm、緑色。7-8月ごろ頂部に長さ5-10cmの穂を出して多数の淡緑色の花を開く。<sup>6</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

温帯-暖帯域の山地樹林下や湿った草地に生育する。国内では北海道南部～九州に分布する<sup>30</sup>。県内では、山口市で記録がある。

#### 選定理由

全国的に希少な種で、県内でも生育地が1箇所ときわめて限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

#### 減少等の要因

森林伐採、湿地の陸化による雑草の繁茂。

- 638 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600106800 <b>ヤマトキシソウ</b> <i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。茎は高さ10-25cm、葉は中央付近に出てやや厚く肉質、倒披針形、長さ3-7cm、幅4-12mmである。花は6-8月に上向きに1個咲き、わずかに淡紅色でほとんど開出しない。唇弁は長楕円形で、側花弁よりやや短い。苞葉は葉状である。<sup>6,30</sup>



#### 生息・生育状況

温帯-暖帯域の日当たりのよい山中の草地、湿地、稀に岩場に見られる。トキシソウよりやや乾燥した場所に生育することが多い。国内では北海道～九州に分布する<sup>30</sup>。県内では、山口市で記録がある。

提供：松井茂生(2007.5.5撮影)

#### 選定理由

日本全域に分布する種であるが、激減している。県内では生育地が限定されており、個体数も少数となって貴重である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、湿地埋め立て等による生育地の減少、草地開発、遷移の進行など。

- 639 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600106900 <b>ヒナチドリ</b> <i>Ponerorchis chidori</i> (Makino) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生着生ラン。楕円形に肥厚した根茎から出た茎は高さ7-15cm、斜上する。葉は茎の中ほどに1枚着き、長楕円形、先は尖り、長さ6-12cm、幅12-25mm、緑色、平滑である。7-8月ごろ茎頂に紅紫色の花を1-8個着ける。唇弁は3深裂して長さ幅共に7-10mmである。<sup>(6,30)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

冷温帯の山中の樹幹に着生する。北海道・本州・四国に分布する日本固有種<sup>(30)</sup>。県内ではコケの着生したミズナラの樹上に生育していたものが、岩国市で記録されている。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

高い山域にごく稀に産する種で、県内でも生育地が1箇所限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

**減少等の要因**

園芸目的の採集。着生する樹木の枯死。

- 640 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600107000 <b>ウチョウラン</b> <i>Ponerorchis graminifolia</i> Rchb.f.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生着生ラン。根茎は球状に肥厚し、高さ7-20cm。葉は2-4枚、広線形で先は尖り、長さ7-12cm、幅3-8mmで湾曲する。茎、葉脈、苞葉などに暗紫色の線が入る。6-8月紅紫色の花を片側に向けて着ける。唇弁は3深裂して長さ幅共に13mm内外である。近縁種のヒナチドリは葉が1枚、長楕円形であることで区別される。<sup>(6)</sup>



提供：眞崎 久(1999.7.11撮影)

**生息・生育状況**

温帯-暖帯域低山地の湿った岩の割れ目、川沿いの岩壁、イワヒバの根塊中、樹上に生育する。国内では、本州・四国・九州に分布する。<sup>(30)</sup> 県内では、下関で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地がきわめて限定されており、個体数もごく少数で消滅の危険性が高い。

**減少等の要因**

生育地の環境破壊、園芸目的の採集。

- 641 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600107400 <b>ヒトツボクロ</b> <i>Tipularia japonica</i> Matsum.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。球形に肥厚した球茎から1個の葉と花茎が出る。葉は狭卵形、長さ3.5-7cm、先は尖り、3-7cmの葉柄がある。花茎は高さ20-35cm、5-6月に淡黄緑色の小さい花を5-15個まばらに総状花序に着ける。唇弁は浅く3裂し、距は淡紅紫色で細く垂れ下がる。<sup>6</sup>



提供：吉岡龍太郎(2018.5.20撮影)

**生息・生育状況**

山地の樹林下、冬季日当たりのよい場所に生育する。国内では本州～九州に分布する<sup>30</sup>。県内では、周南市・岩国市で記録がある。

**選定理由**

暖地に稀に産する種で、県内でも生育地がきわめて限定されており、個体数も少ないので消滅の恐れがある。

**減少等の要因**

園芸採集、森林の伐採。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600107500 <b>ショウキラン</b> <i>Yuania japonica</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生腐生無葉ラン。地下茎は肉質の円柱状で、分枝には鱗片葉のあとが環状に着き、菌根性の小突起がある。分枝の先端は円く、立ち上がって花茎となる。花茎は高さ5-20cm、白色、平滑、少数の鱗片葉をまばらに着ける。7-8月ごろ先端に3-7個の淡紅紫色の花が集まって開き、唇弁は白色で距の先だけが淡黄色となる。<sup>6,30</sup>



提供：山根文人(2017.6.22撮影)

**生息・生育状況**

冷温帯落葉広葉樹林の林床に生育する。国内では、北海道西南部・本州・四国・九州・屋久島に分布する<sup>30</sup>。県内では岩国市で記録がある。

**選定理由**

県内では生育地が1箇所ときわめて限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

温暖化。

クサスギカズラ目 キンバイザサ科 1201600200100 <b>キンバイザサ</b> <i>Curculigo orchioides</i> Gaertn.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。塊茎をもつ。根生葉は線状披針形で長さ10-40cm、幅1-2cm、縦じわがあり、両面に長い白色の毛がある。花は5-8月、葉の間から出た長さ1-3cmの花茎に1-3個つき、苞は膜質、披針形で長さ2-5cm、花被は黄色で下部は長い筒部になり、花被片は長楕円形または披針形で長さ約8mm、ともに外面に長い毛がある。雄蕊6個は花被片の基部につき、葯は線形で、花糸と同じ長さか、やや長い。果実は楕円形で長さ約10mm、肉質で熟しても裂けない。種子は楕円形で黒色、表面に突起がなく、小さい付属体がある。<sup>(30)</sup>



提供：眞崎 久(1999.5.16撮影)

**生息・生育状況**

本州（紀伊半島・中国地方）～四国、九州・琉球に分布。県内は山口市、宇部市、美祢市に記録される<sup>(12)</sup>が現状不明。低山地の林縁、樹林下に生育する。

**選定理由**

生育地が少なく個体数も少ないため。

**減少等の要因**

草地開発や草地の管理放棄により減少する。

クサスギカズラ目 アヤメ科 1201600300900 <b>エヒメアヤメ</b> <i>Iris rossii</i> Baker	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。根茎に褐色の繊維が密生する。葉は細く、幅2-10mm、初めは長さ20cm内外であるが花後は伸びて30cm内外に達する。花は4-6月、高さ5-15cmの花茎に1花が開く。花は青紫色で径4cmばかり、外花被片は狭倒卵形で、中央から基部にかけて黄色、内花被片はへら形で外花被片より小さく、直立する。花柱分枝の先は2深裂する。蒴果は球形で径8mm内外ある。染色体数2n=32。<sup>(30)</sup>



提供：眞崎 久(1992.4.18撮影)

**生息・生育状況**

広島県、山口県、愛媛県、佐賀県、大分県に産し、国の天然記念物に指定され保護されている。県内では下関市、防府市から記録され、いずれも国の天然記念物に指定されている。

**選定理由**

大陸系要素の稀少種で、本県は分布の南限の一面をなしており、県内の生育地も限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

盗掘や温暖化、遷移の進行による日照不足などで減少する。

クサスギカズラ目 ヒガンバナ科 1201600500800 <b>キイトラッキョウ</b> <i>Allium virgunculae</i> F.Maek. et Kitam. var. <i>kiiense</i> Murata	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。根出葉は中空。長さ40cmまでになり、幅1.5-2.5mm。花は横向きまたは斜め下向きに咲き、紅紫色、外花被片と内花被片はともにボート状で、長さ5-6mmで、幅2.5-4mm。花糸は7-10mmで花被より長く、基部に歯牙がある。葯は長さ約1.8mm。<sup>(30)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（岐阜県・愛知県・三重県・和歌山県・山口県）に分布<sup>(30)</sup>。県内は山口市に記録される。

#### 選定理由

生育地は少なく個体数もわずかしかないため。

#### 減少等の要因

開発による環境の変化。

- 646 -

クサスギカズラ目 クサスギカズラ科 1201600601100 <b>セトウチギボウシ</b> <i>Hosta pycnophylla</i> F.Maek.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。葉は広卵形、基部は心形、質は厚く、上面は深緑色、裏面はいちじるしく粉白、脈は平滑、脈間は特に狭くはない。花茎はまっすぐ斜上し、深緑色。苞は花茎が伸びる時には重なり合って閉じているが、開花時にはボート形で開出する。花は8-9月、花被の内側の脈は淡く着色し、透明線は広筒部（花筒上部）の半分程度までしかない。雄蕊は花筒から外に出る。<sup>(30)</sup>



#### 生息・生育状況

山口県特産種。県内では柳井市、周防大島町からのみ記録される。日当たりのいい集塊岩地に生える。

提供：吉岡龍太郎(2016.9.11撮影)

#### 選定理由

山口県からのみ知られる稀少種。分布上からみて貴重種であり、生育地が限られている。

#### 減少等の要因

園芸採取や林道などの開発、イノシシの掘り返しで消滅する恐れがある。

- 647 -

ツユクサ目 ミズアオイ科 1201800200200 <b>ミズアオイ</b> <i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	NT

### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。茎は横にはう根茎となり斜上して葉が束生する。葉身は心形で、上部は鋭頭となるが先端部は円頭となり、長さ5-20cm、全縁で光沢がある。葉の柄は長さ10-50cmで、花茎の下側につく葉の柄は5-20cmと短い。花茎は、葉より長く伸長し、長さ30-70cm、上方に10-20個以上の花が総状につく。一日花で花序内に数花ずつ咲く。花は斜上する長さ5-15mmの花柄につき、花被片は青紫色で楕円形、長さ15-20mm、内花被片はやや幅広い。蒴果は卵状長楕円球状で、先につの状の花柱が残り、長さ約10mm、熟すと花茎が下垂する。<sup>(30)</sup>



提供：眞崎 久(1997.9.21撮影)

### 生息・生育状況

北海道～九州に分布<sup>(30)</sup>。県内は萩市に記録されるが現状不明。

### 選定理由

県内ではただ1箇所の記録があり、個体数は少ない。

### 減少等の要因

河川や水路の改修、除草剤の使用<sup>(31)</sup>。

- 648 -

イネ目 ガマ科 1202000100200 <b>オオミクリ</b> <i>Sparganium erectum</i> L. var. <i>macrocarpum</i> (Makino) H.Hara	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	EN
	環境省	2019	VU

### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。形態的特徴は基本的にミクリとよく似ており、果実または地下部の塊茎を確認しない限り識別できない。果実が幅広く、長さ5-9mm、幅5-8mm、紡錘形にならず上部は低いドーム状であることが特徴である。また、地下部に木質の「塊茎」を作ることは他種にはない特異な形質である。越冬器官として形成される塊茎とは異なり、6月頃から株元に肥大した塊が形成されているので、掘り取ってみればミクリと間違えることはない。<sup>(31)</sup>



提供：眞崎 久(2017.8.20撮影)

### 生息・生育状況

本州、四国に分布。県内は下関市に記録がある。湖沼、ため池、河川の浅水域。ため池の岸近くに群生する。

### 選定理由

本県では生育地が1箇所と限定されており、日本の西南限産地であって貴重である。<sup>(6)</sup>

### 減少等の要因

河川改修や水域の埋め立てで、生育地は急減している<sup>(31)</sup>。

- 649 -

イネ目 イグサ科 1202000300500 <b>ドロイ</b> <i>Juncus gracillimus</i> (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。南部ではドロイ1種あるいはシオクグと共に生育しているが、北部ではエゾツルキンバイ、ヒメハリイなどと共に生育している。根茎は長くは、節間は短い。茎は高さ60-70cm、円筒状、葉は細く線形で、扁平でやや白味を帯びた緑色、鞘部は短い。5-7月に花茎を伸ばし、凹集散花序をつける。花序は長さ6-15cm、花被は卵状長楕円形、長さ1.5-2.5mm、鈍頭、背部は暗紫色を帯び、両側は赤褐色、長さ2-3mm、鈍頭、やや光沢がある。<sup>(32)</sup>



提供：眞崎 久(1995.7.1撮影)

**生息・生育状況**

北海道、本州、四国北部（香川県）、九州北部（佐賀県、長崎県）に分布<sup>(32)</sup>。県内では山口市、宇部市に記録されるがいずれも現状不明。塩性湿地、しばしば岩礁地帯のタイドプール状に水が溜まった場所<sup>(32)</sup>に生育する。

**選定理由**

生育地が少なく生育数も少ない。

**減少等の要因**

湿地開発、埋め立てなどによって消滅する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000401700 <b>ケタガネソウ</b> <i>Carex ciliatomarginata</i> Nakai	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。大株とならず、長い匍匐根茎がある。有花茎は高さ5-15cm、まばらに軟毛がある。葉は広披針形、有花茎より長く、幅1.7-2cm、平坦、両面に軟毛が密生、縁の毛はやや長い。基部の鞘は淡紫色。頂小穂は雄性、長さ0.5-1cm、側小穂は雌雄性、雄部が短く、基部に雌花が2-3個つく。<sup>(33)</sup>



提供：江上嘉昭(2009.5.24撮影)

**生息・生育状況**

本州（岐阜県以南）、四国、九州（佐賀県、長崎県：対馬、宮崎県）に分布<sup>(34)</sup>。県内は山口市、岩国市に見られる。林縁や林床に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採など。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000402800 <b>ヒロハノオオタマツリスゲ</b> <i>Carex filipes</i> Franch. et Sav. var. <i>arakiana</i> (Ohwi) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。叢生する。有花茎は高さ30-70cm、平滑、軟質、果胞が完熟すると垂れ下がる。葉は有花茎より短く、幅6-12mm、深緑色、平滑、前年の葉が残る。基部の鞘は赤紫色。頂小穂は雄性、線柱形、長さ1-2cm、長い柄がある。側小穂は雌性で短柱形、長さ1-1.5cm、長い柄があり下垂し、疎花、雌花は2-3列。果胞は雌鱗片より長く、卵形、長さ5-6mm、稜間に脈があり、無毛、長嘴、口部は斜切形である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2018.5.20撮影)

**生息・生育状況**

本州（長野県、北陸地方-中国地方の日本海側）、九州（福岡県）に分布<sup>(34)</sup>。県内は山口市、周南市に見られる。山地の樹林内の湿った草地に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

樹林が伐採されると減少する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000403400 <b>サナギスゲ</b> <i>Carex grallatoria</i> Maxim. var. <i>heteroclita</i> (Franch.) Kük. ex Matsum.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

雌雄同株の多年生草本。有花茎は高さ20cm、上部はざらつき下部は平滑。葉は有花茎より長く、幅1-2.5mm、縁に鋸歯がある。基部の鞘は鮮紅褐色。花序は雌雄性、線柱形、頂部に長さ0.5-1cmの雄花部があり、基部に1cmの雌花部があり、まばらに果胞をつける。雌花は3-6花。果胞は長楕円形、長さ2-2.5mm、まばらに短毛が生え、嘴は外曲し、口部はほぼ平切形である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2015.5.6撮影)

**生息・生育状況**

本州、四国、九州に分布<sup>(34)</sup>。県内は岩国市に記録されている。山地の林床に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採などで減少する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000403600 <b>ツクバスゲ</b> <i>Carex hirtifructus</i> Kuk.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。やや叢生する。短い匍匐根茎を出すことがある。有花茎は高さ10-30cm、ややざらつく。葉は有花茎より短く、花後著しく伸び、幅1-3mm、ざらつく。基部の鞘は褐色、光沢があり、繊維状に細裂する。花期は4-6月。頂小穂は雄性、棍棒状、長さ1-2.5cm、長さ1-2.5cmの柄がある。側小穂は雌性で短柱状、長さ1-2cm、最下のものは長い柄をもつことがある。雌花は2-5列。果胞は雌鱗片より長く、狭楕円形、長さ4-6mm、幅1.3-1.8mm、やや密に毛が生え、上部はしだいに狭まり細長い嘴となり、口部はやや深い2歯となる。<sup>(33)</sup>



提供：秋丸浩毅(2014.4.24撮影)

**生息・生育状況**

北海道（夕張）、本州（岩手県以南）、四国（徳島県、愛媛県）、九州（長崎県、熊本県、宮崎県）に分布<sup>(34)</sup>。県内では岩国市に記録がある。山地の斜面岩場に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

開発による山地岩場の減少。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000403900 <b>ヒロバスゲ</b> <i>Carex insanae</i> Koidz. var. <i>insanae</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。まばらに叢生する。有花茎は高さ5-30cm、短いものは葉の基部に埋もれ、平滑。葉は有花茎より長く、幅4-15mm、濃緑色。基部の鞘は淡褐色、繊維状に細裂。花期は5-6月。頂小穂は雄性、棍棒状、長さ1-3cm、柄は長さ1-3cm。側小穂は雌性、楕円形、長さ0.6-2cm、柄は長さ0.5-1cm、雌花は3-4列。果胞は雌鱗片より長く、熟すと開出し、楕円形、長さ5-6mm、幅3-4mm、短毛があり、嘴は短く1-2mm、口部は凹形である。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

北海道、本州（島根県：隠岐、鳥取県以北の日本海側）に分布<sup>(34)</sup>。県内では山口市、岩国市に記録がある。やや湿った樹林内に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

開発によって減少する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000404400 <b>セトウチスゲ</b> <i>Carex kagoshimensis</i> Tak.Shimizu	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 CR

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。全体に無毛。有花茎は高さ30-50cm、乳頭状突起を密布する。葉は幅6-12mm、平滑。基部の鞘は帯茶色、脈は帯褐色、繊維状に細裂。花期は4-5月。頂小穂は雄性、棍棒状、長さ2-3cm、長柄。側小穂は雌性、円柱形、長さ2-4cm。果胞は雌鱗片より超出、卵形、熟すと開出、長さ5.5-6mm、無毛ときにまばらに有毛で長嘴となり、口部は2歯である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2007.5.3撮影)

#### 生息・生育状況

本州（山口県）、九州（鹿児島県）に分布<sup>(34)</sup>。県内は上関町の1箇所のみに見られる。日当たりの良い林縁に生える。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地での開発、周囲樹木の被覆により減少する。

- 656 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000404500 <b>アキイトスゲ</b> <i>Carex kamagariensis</i> K.Okamoto	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。密に叢生する。有花茎は高さ20-40cm。葉は幅1.5-3mm、軟質。基部の鞘は褐色、古い鞘は繊維状に細裂。頂小穂は雄性、線柱形-棍棒状、長さ1-3cm、有柄。側小穂は雌性、狭柱状、長さ1-2cm、ほぼ無柄。果胞は雌鱗片より長く、中央が凹んだ紡錘形、長さ約3mm、多数脈、有毛、短嘴、口部は凹形。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（広島県）、四国（香川県、愛媛県）、九州（佐賀県：加唐島、松島、長崎県：対馬）に分布<sup>(34)</sup>。県内は防府市に記録されたが現状不明。海岸近くの疎林内に生える。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

森林の開発で減少する。

- 657 -

イネ目 カヤツリグサ科  
1202000404600

## テキリスゲ

*Carex kiotensis* Franch. et Sav.

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。密に叢生する。有花茎は30-60cm、3稜形で硬く、強くざらつく。葉は有花茎より長く、幅4-8mm、縁は著しくざらつく。基部の鞘は褐色-濃褐色。花期は5-7月。頂小穂は雄性または雌雄性、長さ5-8cm、線形、柄は長さ1.5-3cm、下垂する。側小穂は雌性で円柱形、長さ5-8cm、柄はざらつき、長さ0.5-6cm、下垂する。雌花は40-60列。果胞は雌鱗片とほぼ同長、広卵形、長さ2.3-2.6mm、幅1.3-1.6mm、稜間に脈はなく、無毛、褐色斑点があり、嘴は短く、口部は凹形、または2小歯である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2015.5.24撮影)

### 生息・生育状況

本州（岩手県以南）、四国、九州に分布<sup>(34)</sup>。県内は周南市、岩国市に記録されるが、周南市は現状不明、岩国市も数箇所である。溪畔に生育する。

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

### 減少等の要因

湿った草地や川の傍に生えるため開発されると消滅する。

- 658 -

イネ目 カヤツリグサ科  
1202000405700

## カタスゲ

*Carex macrandrolepis* H.Lév.

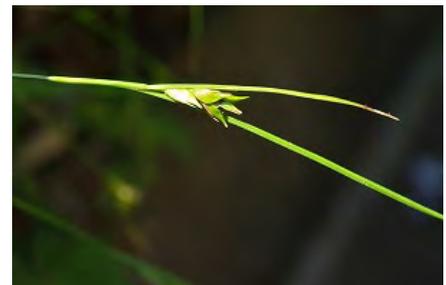
### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。やや叢生し、長い匍匐根茎があり、根は繊細。有花茎は高さ20-40cm、平滑。葉は有花茎より長く、幅2-4mm。基部の鞘は濃赤褐色、古くなると繊維状に細裂する。花期は3-5月。頂小穂は雄性で線柱形、長さ1-3cm、柄は長さ1.5-3cm、側小穂は雌性で短柱形、長さ1-2cm、雌花は2-4列。果胞は雌小穂より長く、やや開出し、楕円形、長さ5-6mm、幅1.7-2mm、稜間にはほぼ無脈、まばらに微毛が生え、基部は短柄、上部はしだいに狭まり長嘴となり、口部は2歯である。<sup>(33)</sup>



### 生息・生育状況

本州（千葉県以西）、四国、九州に分布<sup>(34)</sup>。県内は萩市に産する。沿海地の明るい樹林内や草地に生える。

提供：眞崎 久(2016.4.30撮影)

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

### 減少等の要因

生育地の管理放棄で日照不足となり減少すると考えられる。

- 659 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000406700 <b>ビロードスゲ</b> <i>Carex miyabei</i> Franch.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。まばらに生え、横走する長い根茎がある。有花茎は高さ30-70cm、完熟後に伸長し、上部はざらつき下部は平滑。葉は幅3-8mm、深緑色、ざらつく。基部の鞘は赤紫色、前面に糸網を生じる。花期は5-7月。小穂は頂小穂から1-4個の小穂は雄性で密着してつき、線形、長さ1-3cm。2-5個の雌小穂は円柱形、長さ1.5-6cm、無柄-有柄、密に花をつける。果胞は雌鱗片と同長またはやや長く、卵形、長さ4-5mm、脈があり、密に有毛、先端は急に狭まり長嘴、口部は深く2歯となる。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2015.5.23撮影)

#### 生息・生育状況

北海道、本州、四国（小豆島）九州（熊本県、大分県、宮崎県）に分布<sup>(34)</sup>。県内では山口市に記録されている。砂質の湿草地、山道脇に生える。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

開発や遷移の進行などにより、湿地が乾燥して衰退減少すると考えられる。

- 660 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000407200 <b>キシウナキリスゲ</b> <i>Carex nachiana</i> Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。密に叢生する。有花茎は高さ約60-100cm。葉は幅2.5-4mm、濃緑色、硬質、ざらつく。基部の鞘は葉身があり、濃褐色、繊維状に細裂しない。花期は9-10月。小穂は雌雄性、短円柱、長さ1-3cm、雌花は5-10列、1節に2-3個つく。果胞は雌鱗片と同長または長く、卵形、長さ3.5-4mm、縁以外は無毛、次第に細長くなって嘴となり、口部は2歯である<sup>(33)</sup>。ナキリスゲはよく似ているが、果胞は広卵形、長さ3-3.5mm、稜間に太脈があり、寝た短毛を密布する。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（茨城県以西）、四国、九州に分布<sup>(34)</sup>。県内では防府市に記録されたものは絶滅したと考えられている。萩市にも記録はあるがみつからない。平地から低山地の樹林内や林縁に生える。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

元々希少な上、環境の変化で容易に衰退して減少する。

- 661 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000409400 <b>ジングウスゲ</b> <i>Carex sacrosancta</i> Honda	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。叢生する。根茎は短い。有花茎は高さ20-40cm、上部はややざらつく。葉は有花茎より短く、幅2-3mm、やや硬質、ざらつく。基部の鞘は淡褐色、やや繊維状に細裂する。小穂は雌雄性、長さ2-4cm、1節に1-2個の側小穂がつく。柄は長さ1-5cm、雌花は8-10列。果胞は雌鱗片より長く広卵形、長さ3.6-3.8mm、柄は長く0.6-0.7mm、脈状に刺毛がまばらに生える。嘴は細長く0.8-1mm、両端に硬質の刺毛があり、口部は浅2歯である。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

本州（静岡県、鳥根県以西）、四国、九州、伊豆諸島に分布<sup>(34)</sup>。県内では下関市に記録される。暖帯の低地、丘陵地の疎林内に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地は鹿の食害の多い地であるが、食害の少ない本種は増える可能性がある。

- 662 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000411900 <b>カンエンガヤツリ</b> <i>Cyperus exaltatus</i> Retz. var. <i>iwasakii</i> (Makino) T.Koyama	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本または短命な多年生草本。根茎は太くて短い。茎は太く、高さ80-120cm。葉は幅8-15mm。花序は大型で長さ幅とも10-30cm。苞は4-5個ついて花序よりも長く、葉状、枝は長さ20cmになる。穂状小花序は長さ幅とも1-1.5cm。小穂は密について開出し、長さ5-10mm、扁平で黄褐色をおび、鱗片は卵形で長さ1.7-2mm、竜骨は緑色で、先端は突出してわずかに外曲する。果実は長さが鱗片の半分で、楕円形、9-10月に熟す。<sup>(30)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

本州に分布<sup>(30)</sup>。県内では萩市や下関市に記録があるが現状不明。湿地に稀に生えて群落をつくる。

**選定理由**

県内では生育地が1箇所と限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や改修によって減少する。

- 663 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000414000 <b>カガシラ</b> <i>Diplacrum caricinum</i> R.Br.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。根は細く、赤紫色。有花茎は高さ4-15cm、鋭3稜形、やや多数の葉をつけ、ときに基部は少し分枝する。葉は幅1-2mm、先は急に尖る。基部の鞘は短く赤褐色。花期は7-10月。花序は短柄があつて腋生し、長さ、幅とも3-5mm、淡緑色、密に小穂をつける。小穂は雌花の基部に小さい雄花をつける。瘦果は球形で径0.6-1mm、粗い格子紋があり、上方に微毛があり、合わさった2枚の鱗片とともに脱落する。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（栃木県以西）、四国、九州に分布<sup>(33)</sup>。県内では山口市に記録されていたが、現在は見られない。日当たりのよい湿地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

湿地開発によって減少する。

- 664 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000414200 <b>ミスミイ</b> <i>Eleocharis acutangula</i> (Roxb.) Schult.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。植物体はやや叢生し、匍匐根茎は長く軟らかい。有花茎は太く、高さ30-80cm、幅3-4mm、3稜形。基部の鞘は赤褐色。花期は7-10月。小穂は円柱形、長さ2-4cm、鋭頭、淡緑色である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2002.8.4撮影)

#### 生息・生育状況

本州（愛知県、大阪府、和歌山県）、四国（香川県）、九州、南西諸島に分布。県内は山陽小野田市に記録されたが現状不明。溜池や水田の湿地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所と限定されている。

#### 減少等の要因

溜池の水位が高く保たれたり、水質が汚濁したりして減少する。

- 665 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000416400 <b>ヤリテンツキ</b> <i>Fimbristylis ovata</i> (Burm.f.) Kern	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。有花茎は高さ15-40cm、葉の幅約1mm、先端はややざらつく。基部の鞘は褐色。花期は8-10月。花序は1個（稀に2個）の小穂を頂生する。小穂は卵形、黄緑色、長さ10-15mm、やや扁平である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2017.7.29撮影)

#### 生息・生育状況

本州（房総半島、三浦半島、和歌山県）、九州、南西諸島に分布<sup>(33)</sup>。県内では萩市に見られるだけである。沿海地岩上の草地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

草地の開発、植生遷移の進行で減少する。

- 666 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000417100 <b>クロタマガヤツリ</b> <i>Fuirena ciliaris</i> (L.) Roxb.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。植物体全体に軟らかい毛を持ち、まばらに叢生する。有花茎は高さ10-40cm、横断面は3稜形。葉は幅2-6mm。花序は1-2個の分花序に3-10個の小穂を密につける。小穂は楕円形、長さ4-7mm、黒緑色である。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（千葉県以西）、四国、九州、南西諸島に分布。山口市や宇部市、下関市から記録されるがいずれも現状不明。池の砂地や湿地に生える。

#### 選定理由

生育地が少なく生育数も少ないため。

#### 減少等の要因

生育地の何らかの変化で、水質の変化、他の植物との競合が考えられるが不明。

- 667 -

イネ目 カヤツリグサ科  
1202000417900

## ミクリガヤ

*Rhynchospora malasica* C.B.Clarke

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	EN

### 形態・生態

多年生草本。短い根茎を出す。有花茎は直立、高さ40-100cm、硬く平滑、上面は3稜形になる。有花茎の中央部から多数の葉が出る。幅5-8mm。花序は3-5個の球状の分花序からなり、分花序の径は約1.5cm。小穂は広披針形、長さ7mm、7枚前後の鱗片がある。<sup>(33)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：眞崎 久(2016.9.10撮影)

### 生息・生育状況

本州（静岡県以西）、九州、南西諸島（沖縄本島、石垣島）に分布<sup>(33)</sup>。県内では山口市から2箇所記録されたが、1箇所は現状不明。明るい湿地に生育する。

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

### 減少等の要因

湿地の開発、植生遷移の進行によって樹木が侵入すると衰退する。

- 668 -

イネ目 カヤツリグサ科  
1202000418200

## ハタベカンガレイ

*Schoenoplectus gemmifer* C.Sato, T.Maeda et Uchino

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	-
環境省	2019	VU

### 形態・生態

多年生草本。叢生し根茎はない。有花茎は50-120cm、横断面は鋭3稜形、平滑、やや軟質。花序は仮側生し、無柄の小穂が5-20個集まって頭状をなす。小穂は卵形、長さ約1cm、鋭頭である。<sup>(33)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：眞崎 久(2012.10.4撮影)

### 生息・生育状況

本州、九州に分布<sup>(33)</sup>。県内は美祢市や防府市で記録される。山地や平地の水路の流水中に生える。

### 選定理由

生育地が少なく個体数も少ない。

### 減少等の要因

水路の改修などによって減少する。

- 669 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000418700 <b>ツクシカンガレイ</b> <i>Schoenoplectus multisetus</i> Hayas.et C.Sato	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。長い横走根茎をもち、まばらに生える。有花茎は高さ50-130cm、横断面は鋭3稜形、平滑、やや軟質。葉身は有花茎に続き、長さ3-10cm、斜上する。花序は仮側生し、無柄の小穂が5-16個集まって頭状をなす。小穂は卵形、長さ約1cm、鋭頭、淡緑色である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2001.10.7撮影)

**生息・生育状況**

本州、九州、南西諸島に分布。県内は阿武町に記録はある<sup>(35)</sup>が、現状不明。池や沼に生える。

**選定理由**

生育地が少なく個体数も少ないため。

**減少等の要因**

溜池の改修により減少する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000418800 <b>シズイ</b> <i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

軟らかい多年生草本。まばらに叢生し、匍匐根茎は細く、その端に小さな塊茎をつくる。有花茎は高さ40-90cm、横断面は3稜形。葉は数枚が根生し線形で幅2-3mm。花期は7-10月。花序は仮側生し、5-8個の小穂をつけ、短い花序枝がある。小穂は長楕円形、長さ1-1.5cm、完熟すると黄褐色を帯び、光沢があり、鋭頭である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2002.7.27撮影)

**生息・生育状況**

北海道、本州、四国、九州に分布。県内では山陽小野田市、山口市、萩市から記録される。このうち山口市はスキー場開発で消滅している。他の場所も現状不明である。日当たりのよい湿地、溜池に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

溜池改修や植生遷移の進行で減少した。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000419100 <b>タイワンヤマイ</b> <i>Schoenoplectus wallichii</i> (Nees) T.Koyama	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。叢生する。有花茎は細く硬い円柱形で横断面は鈍4-5稜、高さ15-40cm。基部の鞘は濃褐色。花期は8-10月。花序は仮側生し、1-4個の無柄の小穂からなる。小穂は狭楕円形、淡緑色である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2001.9.10撮影)

**生息・生育状況**

本州、四国、九州に分布<sup>(33)</sup>。県内では山口市、岩国市に記録があるが現状不明である。休耕田や湿地に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

休耕田などに見られるが乾燥すると絶える。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000420200 <b>マツカサススキ</b> <i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。大株になる。有花茎は高さ1-1.5m、直立し、太くて硬く、やや円く、5-7個の節がある。葉は硬く線形、幅4-8mm。頂花序は2回以上分枝し分花序は5-6個、分花序は10-25個の小穂からなり球状。小穂は楕円形、長さ4-5mm、完熟すると濃褐色となる。マツカサススキは鱗片が披針形であり、狭卵形の鱗片を持つコマツカサススキと区別できる。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2018.8.25撮影)

**生息・生育状況**

本州、四国、九州に分布<sup>(33)</sup>。県内では下関市、山口市、宇部市に記録される。日当たりの良い湿地に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

河岸工事や湿地開発によって減少する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000420700 <b>ミカワシンジュガヤ</b> <i>Scleria mikawana</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。有花茎や葉、花序などは直立する。有花茎は高さ30-70cm、横断面は3稜形。葉は有花茎より長く、線形、幅2-3mm、葉鞘は翼がなく、密に有花茎を包む。花期は7-10月。花序は2-3個の分花序からなり、頂生または上部の葉腋から出る。瘦果は球形、幅約2.5mm、表面は白灰色、無毛、網目状の紋があるが紋には光沢がない。ミカワシンジュガヤはコシンジュガヤに似るが、葉鞘に翼がなく、格子紋に光沢がない。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2017.9.3撮影)

**生息・生育状況**

本州（茨城県以西）、九州に分布<sup>(33)</sup>。県内は岩国市だけに記録される。湿地やその周辺に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

植生遷移の進行による乾燥化。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000420900 <b>ケシンジュガヤ</b> <i>Scleria rugosa</i> R.Br.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。植物体は叢生し、有花茎は有毛、高さ10-30cm、軟らかい。葉は軟らかく有毛、幅約2mm。葉鞘に翼はない。花序は2-3個の分花序からなり、やや少数の花をつけ、柄は湾曲する。瘦果は広楕円形-球形、幅1.5-2mm、灰白色、光沢があり、不規則な格子紋がある。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

本州（栃木県、千葉県、中部地方、近畿地方、中国地方）、四国、九州、南西諸島（伊是名島、伊平屋島、西表島）に分布<sup>(33)</sup>。県内では山口市、下松市で記録される。山口市の自生地は現状不明、下松市の自生地は道路工事で消滅した。日当たりのよい湿地に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

開発によって湿地が失われるため。

イネ目 イネ科 1202000502000 <b>コウボウ</b> <i>Anthoxanthum nitens</i> (Weber) Y.Schouten et Veldkamp var. <i>sachalinensis</i> (Printz) Yonek.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。稈は高さ20-50cm。稈の葉は披針形で長さ1-4cm、幅3-7mm、根生葉は線形で長さ10-30cm、幅2-5mm、葉鞘には下向きの毛が生える。花序は広卵形で長さ4-8cm、幅4-6cm。小穂は光沢のある淡黄褐色で、長さ4-6mm。花期は4-6月。乾くとクマリン臭がする。<sup>(36)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：秋丸浩毅(2001.4.15撮影)

#### 生息・生育状況

日本では北海道、本州、四国、九州に分布<sup>(6)</sup>。県内では山口市、周南市、岩国市、萩市から記録がある。日当たりのよい草原に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

草地の開発によって減少したと考えられる。

- 676 -

イネ目 イネ科 1202000503200 <b>コウヤザサ</b> <i>Brachyelytrum japonicum</i> (Hack.) Hack. ex Honda	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。稈は細く、高さ40-70cm、枝を分けず稈が束生する。葉は細く短い線形、長さ4-10cm、幅4-8mm、葉面は有毛である。円錐花序は長さ6-15cm、数個-20個の小穂からなる。小穂は単生、1小花からなる。内穎の背面に小軸突起があるのが特徴。花は7-8月に開く。<sup>(36)</sup>

【執筆者：眞崎 久】

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

日本では本州(中部、西部)、四国、九州に分布<sup>(36)</sup>。県内では岩国市からのみ記録があるが現状不明である。暖帯域の樹林下に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

森林開発によると考えられる。

- 677 -

イネ目 イネ科 1202000505200 <b>ヒゲノガリヤス</b> <i>Calamagrostis longiseta</i> Hack.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。稈は束生して、高さ20-80cm、葉身は、長さ15-30cm、幅2-4mmで多くはゆるく内側に巻き、上面白緑色。円錐花序は、長さ7-14cm、直立またはやや傾いて、枝は半輪生状につき、基部からやや先まで密に小穂をつける。小穂は1小花からなり、長い基毛があり、長さ4-5mm、護穎の中央脈は中央上部から芒となって小穂外に伸長、芒は長さ6-12mmで屈曲し、多の4脈も伸び出して短芒となる。花期は7-9月。<sup>(36)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（中部地方以東に多く、近畿地方以西は稀）に分布<sup>(36)</sup>。県内では山口市、岩国市に記録がある。山地湿性草原、温帯域のブナ樹林下に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

森林伐採や湿地の乾燥によって減少する。

- 678 -

イネ目 イネ科 1202000510300 <b>アオウシノケグサ</b> <i>Festuca ovina</i> L. subsp. <i>coreana</i> (St.Yves) E.B.Alexeev	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。稈は20-40cmで束生し、その上部は上向きに曲がった微細な毛に被われる。根生葉の葉身は内側に折れ曲がって溝をつくり、幅1mm、硬い草質である。円錐花序は長さ4-8mm、淡緑色、小穂は長さ5-6mm、4-6小花からなる。<sup>(36)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州、四国、九州に分布<sup>(36)</sup>。県内は山口市、光市に記録がある。平地や丘陵地に生育する。

#### 選定理由

生育地が少なく個体数も少ないため。

#### 減少等の要因

管理放棄によって遷移が進行すると減少する。

- 679 -

イネ目 イネ科 1202000510900 <b>ヒロハノドジョウツナギ</b> <i>Glyceria leptolepis</i> Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。根茎から稈が1本ずつ出て束生していない。稈は高さ90-180cm、葉身は長さ10-37cm、幅3.5-14mm、やや厚く、両面ともざらつき、下面はやや青白く、上面は淡緑色、葉鞘は節間より長く、縁は閉じ、無毛である。葉鞘は節間より長く完筒形、縦の脈はところどころ横の小脈に連結されて長い方眼をつくる。円錐花序は大きく、やや直立、横に広がって長さ15-25cm、幅12cm、枝は各節3-5本半輪生して、さらに小枝を分け、ややまばらに小穂を付ける。<sup>(36)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：眞崎 久(1999.6.16撮影)

#### 生息・生育状況

北海道、本州、四国、九州に分布<sup>(36)</sup>。県内では下関市に記録があるが現状不明である。低山の湿地や河辺に生育する。

#### 選定理由

生育地が1箇所であり、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

湿地が土砂の流入によって乾燥すると減少する。

- 680 -

イネ目 イネ科 1202000511700 <b>イワタケソウ</b> <i>Hystrix duthiei</i> (Stapf) Bor subsp. <i>japonica</i> (Hack.) Baden, Fred. et Seberg	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。稈は、高さ60-80cm、葉身は平らで、長さ7-20cm、幅8-15mm、基部でよじれて上下面で逆転する。花期は6-8月、穂状花序は長さ10-15cm、細くて先が傾き、無柄の小穂が各節1個ずつつき、花軸は肉眼で見えないほどの微細な毛でおおわれる。よく似たアズマガヤは花軸に明らかな軟毛がある。<sup>(36)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：眞崎 久(2018.7.14撮影)

#### 生息・生育状況

本州（長野県、三重県、山口県）、四国、九州に分布するが稀<sup>(36)</sup>。県内では岩国市の温帯域の樹林下に見られる。深山の林中に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所に限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

森林が開発されると減少する。

- 681 -

イネ目 イネ科 1202000513300 <b>テンキグサ</b> <i>Leymus mollis</i> (Trin. ex Spreng.) Pilg.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 EN
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。株は叢生し、高さ60-100cm、葉は粉白色を帯びた緑色で、光沢はない。幅は1.5-2cm、上面に脈が隆起している。6-7月に長さ15-25cm、幅約1cmの穂を葉よりも高く出す。穂は密にやや白っぽい小穂からなる。分布域の南部では浜の汀線に近い部分に限られ、北海道では砂丘上にも広く生育している。地下茎で繁殖するため、群生する。<sup>(32)</sup>



提供：眞崎 久(2018.6.20撮影)

#### 生息・生育状況

北海道、本州（日本海側は山口県まで、太平洋側は房総半島以北）、九州北部（福岡県の一部と対馬）に分布<sup>(32)</sup>。県内では下関市、阿武町で記録される。下関市では現状不明、阿武町では生えていた海浜のものは除去され浜の両側に残っている。海岸部砂地に群生する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

海岸の開発による。

- 682 -

イネ目 イネ科 1202000515100 <b>オオネズミガヤ</b> <i>Muhlenbergia huegelii</i> Trin.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。根茎は長く地中を横走する。稈は直立、あるいは斜めに傾いて、高さ50-120cm、しばしば多くの枝を分ける。葉身は、長さ10-20cm、幅4-14mm、中央脈は幅広く、白色が目立つ。円錐花序は、長さ10-30cmで枝の基部から多くの小穂をつけ、灰白緑色で淡紫色を帯びる。花期は8-9月。<sup>(36)</sup>



提供：眞崎 久(1997.8.31撮影)

#### 生息・生育状況

北海道、本州、四国、九州に分布<sup>(36)</sup>。県内では岩国市に記録がある。温帯域の樹林下、林縁に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

森林開発、伐採によって減少すると考えられる。

- 683 -

イネ目 イネ科 1202000522500 <b>ヒロハノハネガヤ</b> <i>Stipa coreana</i> Honda var. <i>japonica</i> (Hack.) Y.N.Lee	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。稈は、高さ60-100cm。葉身は、長さ10-30cm、幅7-15mm、下面は灰緑色で微毛がある。花期は8-9月で、円錐花序は直立、小穂は花軸に圧着する。小穂は1小花からなり、長さ12-15mm、淡緑色である。護穎は淡褐色、革質で有毛、長くて太い芒が直立する。<sup>(36)</sup>



#### 生息・生育状況

北海道、本州、四国、九州に分布<sup>(36)</sup>。県内では下関市、萩市、周南市から記録がある。山地の草原や林中に生育する。

提供：眞崎 久(2018.10.5撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

森林開発によって減少する。

- 684 -

イネ目 イネ科 1202000522600 <b>ハネガヤ</b> <i>Stipa pekinensis</i> Hance	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。稈は直立し、高さ80-150cm。葉身は長さ30-60cm、幅7-15mm、葉面がざらつく。円錐花序は直立、長さ20-40cm、枝は半輪生でざらつき、上半部に数個-十数個の小穂をまばらにつける。小穂は円筒形、長さ8-12mm、1小花からなる。革質で背が円い有毛の護穎に長芒がある。花期は8-9月。<sup>(36)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

北海道、本州に分布<sup>(36)</sup>。県内では山口市からのみ記録がある。湿った草地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数も少数である。日本の西南限産地として貴重である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

草地開発、管理放棄によって減少する。

- 685 -

イネ目 イネ科タケ亜科 1202000603300 <b>アポイザサ</b> <i>Sasa samaniana</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。稈は高さ0.5-1m。細く単一で分岐しない。稈鞘に開出する長毛と逆向する細毛が混生する。葉鞘は開出する細毛があり、しばしば長毛を混生する。葉は上面無毛かまたは長毛が散生し、下面に軟毛が密生する。稈鞘などに毛がない型をビッチュウミヤコザサという。<sup>(6,40)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

暖帯のやや雨の少ない地域で林縁の木陰に生育する。日本の本州(太平洋側)、四国、九州に分布する。県内では周南市から記録があり、現状不明である。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 686 -

イネ目 イネ科タケ亜科 1202000603400 <b>ビッチュウミヤコザサ</b> <i>Sasa samaniana</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) Sad.Suzuki	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。アポイザサの稈鞘などに毛がない型である。<sup>(40)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

日本の本州、四国、九州に分布する。<sup>(40)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 687 -

イネ目 イネ科タケ亜科 1202000606500 <b>ケスズ</b> <i>Sasamorpha mollis</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。稈は高さ1.5-2m、上方でやや密に分枝する。稈鞘に長い毛があり、時に逆向きの細毛が混生、葉の下面に密毛がある。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

暖帯域の樹林下に生育する。日本の本州(太平洋側)、四国に分布する。県内では岩国市から記録がある。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 688 -

キンボウゲ目 ケシ科 1202200100900 <b>ヤマキケマン</b> <i>Corydalis ophiocarpa</i> Hook.f. et Thomson	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。軟弱で、葉は羽状複葉。花は淡緑黄色で、長さ8-13mm。さく果は著しく屈曲し、仮種皮は棍棒状に太まり、種子に圧着しない。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

湿度の高い溪側の半日陰の樹林下などに生育する。日本では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では岩国市から知られる。国外では台湾、中国、インドに分布する。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 689 -

キンボウゲ目 ツツラフジ科 1202200300300 <b>コウモリカズラ</b> <i>Menispermum dauricum</i> DC. f. <i>pilosum</i> (C.K.Schneid.) Kitag.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性のつる性木本。葉は腎円形、浅く5-7裂し、基部は浅い心形または切形で、柄は葉縁より内側につくため、楕状となる。5-6月頃に無毛の円錐花序に淡緑色の細かい花を多数つける。石果は黒く熟す。<sup>(4)</sup>



#### 生息・生育状況

日本では、北海道～九州に分布する。県内では山口市から知られる。国外では朝鮮半島、中国、ロシア(シベリア東部)に分布する。<sup>(4)</sup>

提供：秋丸浩毅(2016.7.16撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 690 -

キンボウゲ目 メギ科 1202200400500 <b>ルイヨウボタン</b> <i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。高さ40-70cm。茎葉は2-3回3出複葉。花は緑黄色で径約1cm、10個内外が集散状につき、4-6月に咲く。種子は1つの花から2個ずつ球形で8mm程度、青くて液果状。<sup>(6,41)</sup>



#### 生息・生育状況

寒帯-温帯域の明るい樹林下に生育する。日本では、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では山口市、周南市、岩国市から知られる。国外では朝鮮半島、中国、ロシア(ウスリー、アムール、サハリン)に分布する。<sup>(6,12)</sup>

提供：吉岡龍太郎(2009.5.3撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

山奥の樹林の伐採・植林化による生育地の環境悪化。ボタンやシャクヤクに類似していることによる盗掘。<sup>(6)</sup>

- 691 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200500200 <b>ヤサカブシ</b> <i>Aconitum nikaii</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。県内に産するタンナトリカブトに似るが、葉や青紫色の花弁状のがく片の形状などによって区別される。<sup>(12)</sup>タンナトリカブトの葉身は3全裂まれに3深裂するが、ヤサカブシの葉身は3中裂する。



#### 生息・生育状況

県内では山口市や周南市などに記録されている。<sup>(12)</sup>

提供：松井茂生(2018.10.22撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 692 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200500400 <b>フクジュソウ</b> <i>Adonis ramosa</i> Franch.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。地下茎に多くのひげ根がある。花は3-5月に開き、径3-4cm、黄金色。開花後に茎が伸び葉が広がる。茎は高さ10-30cm、無毛。基部の葉は鞘状、正常葉は3-4回羽状細裂する。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

日本北部の冷涼地では樹林下から畑地周辺、道端、石垣などにも生育し、石灰岩地からも知られる。県内では日当たりのよい草地、疎林の斜面に生育する。日本では北海道、本州、四国、九州(宮崎県)に分布する。県内では山口市での採集記録がある。<sup>(6,12)</sup>

提供：眞崎 久(2003.4.6撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化、園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 693 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200500800 <b>エンコウソウ</b> <i>Caltha palustris</i> L. var. <i>enkoso</i> H.Hara	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。根出葉は円心形～円腎形、基部は通常開く。4-6月ごろ黄色花を着ける。花後花茎は地に伏して発根し、新芽を生じる。この新芽は翌年独立する。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

冷たい水が流れる浅い水中や湿地に生育する。日本では北海道、本州、九州に分布する。県内では山口市、周南市から知られるが、周南市のものは消滅したといわれる。<sup>(6,12)</sup>

提供：南 敦(2010.5.1撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

冷水を好むという特殊性から、生育地の開発や植生の遷移進行による湿地の陸地化などによる生育環境の悪化。また、近年は園芸品として植栽され、自生との区別が困難となっている。<sup>(6)</sup>

- 694 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200501700 <b>カザグルマ</b> <i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生つる植物。葉は3-5個の小葉からなり、長い柄がある。小葉は卵形、全縁、両面の脈に沿って毛があり、長さ4-8cm。花は5-6月に今年の枝の先に1個着き上向きに開く。花弁はなく、がく片は8枚、長さ4-7cm、花弁状で淡紫色-白色。栽培品のクレマチスの仲間である。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2015.4.29撮影)

#### 生息・生育状況

村落の林縁、石垣、川岸などに見られ、他物に巻き付いて伸びる。日本では本州(中南部)、四国、九州(北部)に分布する。県内では萩市や周南市から野生状態のものが知られるが、自生のものか、栽培品の逸出したものか明瞭でない。国外では朝鮮半島、中国に分布する。<sup>(6)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も少数であるため。園芸植物としてよく栽培されているが、自生状態のものは稀少である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 695 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200501800 <b>クサボタン</b> <i>Clematis stans</i> Siebold et Zucc.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。センニンソウ属の他の種と違って、茎は直立-斜上しつるにならない。葉は3出複葉で、側小葉の基部は広くさび形-円形。花は長さ1.2-2cm。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

温帯-暖帯上部域の林縁、道端、川岸などに生育する。日本の本州全域に分布する。県内では周南市、岩国市から知られたが、岩国市のものは工事により消滅した。<sup>(6)</sup>

提供：南 敦(2011.9.6撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 696 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200502000 <b>トリガタハンショウヅル</b> <i>Clematis tosaensis</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生つる植物。花期はやや早くは4-5月。がく片は淡黄白色、質は薄く、先は広がって円くなり、反曲し、外面全体に白毛がある。<sup>(41)</sup>



提供：南 敦(1996.4.22撮影)

#### 生息・生育状況

ハンショウヅルに似るがそれほど大きくなり、日当たりを好むようで、林縁に生えて低木にからんだり、地面をはう。日本では本州、四国の暖帯~温帯に分布する。県内では周防大島町に記録される。<sup>(41)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 697 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200502100 シロバナハンショウヅル <i>Clematis williamsii</i> A.Gray	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生つる植物。花期は4-6月。前年の葉腋にできた腋芽から伸びた新枝の基部のいくつかの葉腋より花柄を出し、1個の広鐘形の花を下向きにつける。がく片は4枚、広楕円形～卵形で先は鈍く、長さは1.5-2cm、白色で質は薄く、外面に白くやわらかい長毛がある。<sup>(4)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

林縁で低木などにかからまる。日本では本州（太平洋沿いに近畿地方南部から関東地方南部）、四国、九州の暖帯に分布する。<sup>(4)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 698 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200502900 ミスミソウ <i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。根出葉の裂片は三角形で鋭頭、茎葉の裂片も三角形で鋭頭-鈍頭である。3-4月頃、径1-1.5cmの花を頂生する。花の色は産地によって変化することがある。<sup>(6,41)</sup>



提供：秋丸浩毅(2002.3.10撮影)

#### 生息・生育状況

冷涼な樹林下、谷沿いの樹林下に生育する。種子により繁殖するが、稚苗は非常に少ない。日本の本州(中部地方以西)、九州(北部)に分布する。県内では山口市、周南市から記録されたが、消滅に近い状況である。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数であったが、現在は盗掘によってほとんど見られなくなった。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

盗掘が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 699 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200503100 <b>オキナグサ</b> <i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C.Presl	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。根出葉や花茎に長い白毛を密生する。花は4-5月ごろ1個頂生し、鐘形で下向きに開く。花弁状のがく片は6枚で、外面は長い白毛で覆われ、内面は暗紫色。花柱は花後伸長して3-4cmとなり、白毛を密生する。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2005.5.2撮影)

**生息・生育状況**

温帯-暖帯域の日当たりのよい草原、河原の草地に生育する。日本では本州、四国、九州の低山地に分布する。県内では多くの市町村に産していたが、現在ははっきりした生育地は美祢市だけである。国外では朝鮮半島(南部)、中国に分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では各地の草原、河原などに生育していたが、近年は特別に保護された場所以外では見られなくなった。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行による土地の富栄養化、草地の減少などによる生育環境の悪化、園芸用としての採取が主たる原因と思われる。<sup>(6)</sup>

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200503600 <b>シマキツネノボタン</b> <i>Ranunculus sieboldii</i> Miq.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。葉は3出複葉。茎は白色の長い開出毛があり、一部は地上を這って節から新苗を生じる。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(1995.8.18撮影)

**生息・生育状況**

亜熱帯-暖帯域の水湿地、溝ぎわなどに生育する。日本では本州(中国地方)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では下関市、萩市から知られる。国外では台湾に分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

キンポウゲ目 キンポウゲ科  
1202200503900  
**オトコゼリ**  
*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.

カテゴリ		
山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。葉は深裂し、斜上毛が多い。下部の葉は2回3出複葉で葉の裂片は細長い。茎は直立または斜上し、明らかな集散花序を着ける。<sup>(6)</sup>



提供：眞崎 久(1994.7.31撮影)

**生息・生育状況**

冷涼な山地の池沼周辺の湿地や山間の田の畦近く、溝辺、道端などに生育する。日本では本州(福島県以南)に分布する。県内では阿武町、周南市から知られる。国外では朝鮮半島、中国(北部)、ロシア(ウスリー)に分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行、温暖化などによる生育環境の悪化。

ヤマモガシ目 アワブキ科  
1202300100100  
**フシノハアワブキ**  
*Meliosma amottiana* (Wight) Walp. subsp. *oldhamii* (Maxim.) H.Ohba

カテゴリ		
山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

常緑高木で高さ15mくらいになる。葉はやや不規則に互生し、奇数羽状複葉。小葉は9-15個あり、卵形-長楕円形で長さ4-10cm、幅2-3.5cm。花は6月に頂生し、複円錐花序をつくり、黄白色。花弁は3個、雄ずいは2個、仮雄ずいは3個あり、子房に密毛がある。果実は球形、径5mm前後で赤熟する。<sup>(6)</sup>



提供：眞崎 久(2008.10.19撮影)

**生息・生育状況**

シイを主とした常緑広葉樹林内に生育する。日本では沖縄、九州(熊本県、長崎県、大分県)、本州(山口県)から知られる。県内では岩国市からのみ知られる。国外では朝鮮半島(南部)、台湾、中国に分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

暖地に生育する種類で、山口県が北限の産地であり、県内でも生育地が限定されており、個体数も少ないため。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

ユキノシタ目 ボタン科 1202600100300 <b>ベニバナヤマシャクヤク</b> <i>Paeonia obovata</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。葉の下面に通常毛がある。花は5月ごろ茎頂に開き、花冠は淡紅色、柱頭はやや長く、うず状に巻く。<sup>(6)</sup>



提供：秋丸浩毅(2017.6.3撮影)

#### 生息・生育状況

寒帯、温帯、暖帯上部域の樹林下に生育する。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では山間部での採集記録があるが、現在はほとんどが消滅していると思われる。国外では朝鮮半島、中国(北部)、ロシア(シベリア)などに分布する。<sup>(6)</sup>

#### 選定理由

県内では近年、生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化、園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 704 -

ユキノシタ目 スグリ科 1202600500100 <b>ヤシャビシャク</b> <i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	NT

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性小低木。高さ10-30cm。葉は円腎形-円形。花弁状のがくは淡緑白色で5深裂する。花弁はがく筒の上縁に着き5個で、がく裂片より小さい。果実は熟しても緑色で、緑色の長毛を開出する。近縁種のヤブサンザシは主に暖帯域に分布し、地上生、葉は5裂片で中裂し、果実は赤熟して無毛である。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(1996.4.21撮影)

#### 生息・生育状況

温帯域のブナの樹幹などせん苔類の着生した樹上、腐植土の溜まった樹洞、岩上などに生育する。日本では本州、四国、九州に分布する。県内では周南市や岩国市から知られる。国外では朝鮮半島、中国に分布する。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数であるため。

#### 減少等の要因

ブナ林の減少や園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 705 -

ユキノシタ目 ユキノシタ科 1202600600400 <b>イワネコノメソウ</b> <i>Chrysosplenium echinus</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。小さい軟弱な種で、高さ5-10cm。葉は対生し扇状円形。茎は走出枝を出す。花床(花盤)はよく発達。雄ずいは甚だ短く、長さ約0.5mm。種子の稜には毛状突起がある。<sup>(6)</sup>

【執筆者：鶴谷 保】



提供：山根文人(2012.4.12撮影)

#### 生息・生育状況

温帯域の沢沿いに生育する。日本の本州(中部地方以西)、四国、九州に分布する。県内では山口市、岩国市に記録される。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 706 -

ユキノシタ目 ユキノシタ科 1202600600500 <b>ツルネコノメソウ</b> <i>Chrysosplenium flagelliferum</i> F.Schmidt	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。茎は高さ5-10cm。葉は円心臓形で互生し、長さ3-10mm、幅4-12mmで円形の鋸歯がある。花は4-5月開き黄緑色。がく裂片は開出し扁円形、長さ1-2mm。茎から走出枝を伸ばし新苗となる。<sup>(6)</sup>

【執筆者：鶴谷 保】



提供：眞崎 久(1999.5.8撮影)

#### 生息・生育状況

温帯・寒帯域の沢沿いに生育する。日本では北海道、本州(近畿地方北部、中部地方以北)、四国に分布する。県内では萩市から記録される。国外では朝鮮半島、中国、ロシア(アムール、ウスリー、サハリン)、千島に分布する。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 707 -

ブドウ目 ブドウ科 1202700100700 <b>ヤマブドウ</b> <i>Vitis coignetiae</i> Pulliat ex Planch.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

落葉つる木本。茎は長く伸びて他の植物上をはいあがる。葉は葉柄があり互生、大きくなり円形で長さ15-20cm、基部は心形、上部に3-5個の角があり、下面は茶褐色の綿毛が密生する。花は6月ごろ円錐花序を出し、黄緑色。5個の花弁は先端で接着し、雄ずいは5本。液果は房となって垂れ下がり熟すると食用となる。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

ブナ林域の林縁部に生育する。日本の北海道、本州、四国の山地に広く分布するが、県内では岩国市に記録される。<sup>(6,12)</sup>

提供：杉江喜寿(2017.6.22撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 708 -

ブドウ目 ブドウ科 1202700101400 <b>ヨコグラブドウ</b> <i>Vitis saccharifera</i> Makino var. <i>yokogurana</i> (Makino) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

落葉つる木本。母種のアマヅルは葉が心形-円状心形-三角状卵形で、下面脈上に赤褐色のクモ毛がある。ヨコグラブドウはアマヅルとサンカクヅルの間種とも考えられており、葉の下面に赤褐色のクモ毛がある。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

山地樹林の林縁部に生育する。日本の本州、四国、九州に分布する。県内では柳井市、岩国市から記録される。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 709 -

ハマビシ目 ハマビシ科 1202800100100 <b>ハマビシ</b> <i>Tribulus terrestris</i> L.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	EN	

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

1-2年生草本。茎は基部から分枝し地上を這うか斜上して長さ1mにも達し、軟毛がある。葉は対生し羽状複葉で4-8対の小葉からなる。小葉は長楕円形でやや鈍頭、長さ8-15mm、幅3-4mm。7-10月ごろ黄緑色の小花を単生し、短い花柄がある。がく片5個とほぼ同じ長さの花弁が5個。果実は直径1cmくらい、果皮は硬く、10本のとげとそれより短いとげ状の毛がある。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(1988.8.9撮影)

**生息・生育状況**

海岸砂地に自生する。日本では本州(関東地方、福井県以西)、四国、九州に分布する。県内では岩国市から記録される。国外では熱帯から寒帯地域の海岸砂地に広く分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地である海岸の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。<sup>(6)</sup>

マメ目 マメ科 1202900104300 <b>キハギ</b> <i>Lespedeza buergeri</i> Miq.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	EN
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性低木。短い地下茎を出してやや叢生し、高さ1-3m。芽鱗は2列に着き、芽は扁平。葉は3出複葉で、小葉は楕円形-長楕円形、長さ2-4cm、下面に絹毛がある。花序は基部から淡黄白色で旗弁の中央部と翼弁は紫紅色を帯びる花を着ける。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2015.8.17撮影)

**生息・生育状況**

日当たりのよい山野に生じる。日本では本州、四国、九州に分布する。県内では柳井市に記録される。国外では朝鮮半島、中国に分布する。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、現在は見られない。

**減少等の要因**

道路整備。

マメ目 マメ科 1202900108900 <b>シバネム</b> <i>Smithia ciliata</i> Royle	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 DD

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

一年生草本。細い茎で斜上し羽状複葉を着ける。9-10月に淡青紫色花を開く。豆果はうず巻状である。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

日当たりのよい草の少ない砂地、山地の尾根すじなどに生育する。他の草本が繁茂すると日照を奪われて衰退する。日本では本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布する。県内では山口市、岩国市から記録される。国外では中国、東南アジア、インドなどに分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 712 -

マメ目 マメ科 1202900110400 <b>ヨツバハギ</b> <i>Vicia nipponica</i> Matsum.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。直立し、高さ30-80cm。葉柄があり、羽状複葉を着ける。7-11月に青紫色または紅紫色の花を着ける。豆果は狭長楕円形である。<sup>(41)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

低山地や山麓の草地に生育する。日本では北海道～九州に分布する。県内では宇部市からの記録がある。国外では朝鮮半島、中国(に分布する。<sup>(41)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行、温暖化などによる生育環境の悪化。

- 713 -

バラ目 バラ科 1203000101400 <b>クサボケ</b> <i>Chaenomeles japonica</i> (Thunb.) Lindl. ex Spach	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉小低木。幹には刺があり、地面をはうか、斜上し、よく分枝して高さ30-100cm。花期は4-5月、朱紅色、径2.5-3cmの花を着ける。<sup>(42)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

日当たりのよい丘陵地から山地に生育する。日本では、本州および九州に分布する。県内では山口市、岩国市から記録される。<sup>(12,42)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 714 -

バラ目 バラ科 1203000103200 <b>カワラサイコ</b> <i>Potentilla chinensis</i> Ser.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。高さ30-70cm。葉は羽状複葉で、小葉は狭く13-27個、小葉の間には付属の小葉片をもつ。がく片の背面は有毛であるが緑色。茎は有毛であるが白毛は少なく赤褐色に見える。6-10月に黄色の花を次々に開く。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2009.7.9撮影)

**生息・生育状況**

日当たりのよい河原、海浜の砂・礫地に生育する。日本では、本州、四国、九州に分布する。県内では下関市、山口市、田布施町、周防大島町から記録される。国外では朝鮮半島、中国、ロシア(アムール、ウスリー)、台湾に分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では特定の生育地に限定されており、個体数も少数である。現在は河川開発や富栄養化、でほとんど見られなくなっている。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発による砂・礫地の減少、植生の遷移進行に伴う草地・高草地化などによる生育環境の悪化。<sup>(6)</sup>

- 715 -

バラ目 バラ科 1203000103300 <b>ミツモトソウ</b> <i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。茎は直立、斜上、または地面を這い、高さ50-80cm。葉は3個の小葉からなる。7-8月ごろ黄色花を開く。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(1999.7.31撮影)

**生息・生育状況**

日当たりのよい冷涼な樹林の林縁、道端、裸地に生育する。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では岩国市から記録される。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

温暖化や植生の遷移進行に伴う高草地化などによる生育環境の悪化。<sup>(6)</sup>

- 716 -

バラ目 バラ科 1203000103400 <b>イワキンバイ</b> <i>Potentilla dickinsii</i> Franch. et Sav.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。山地の岩上に生え、根出葉の小葉は3個、稀に5個となる。葉の下面は粉白色。走出枝はない。6-7月ごろ黄色花を開く。<sup>(6)</sup>



提供：秋丸浩毅(2005.6.23撮影)

**生息・生育状況**

温帯域下部の日当たり、風当たりの強い岩上に生育する。日本の北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では山口市から知られる。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 717 -

バラ目 バラ科 1203000103800 <b>ヒロハノカワラサイコ</b> <i>Potentilla niponica</i> Th.Wolf	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。小葉は10個前後で中裂する。裂片は広い。小葉の間に付属の小葉片はない。がく片の背面は白い綿毛に覆われる。茎にも白毛が多い。近縁種のカワラサイコは、小葉は13-27個、裂片は深裂し狭く、小葉の間には付属の小葉片がある。<sup>(6)</sup>



提供：眞崎 久(2005.5.30撮影)

**生息・生育状況**

河岸・沿海地で無草地か疎生地、砂礫の移動しないような場所に生育する。日本の北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では下関市、防府市から記録される。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

バラ目 バラ科 1203000107900 <b>クロイチゴ</b> <i>Rubus mesogaesus</i> Focke	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉小低木で、茎はつる状で硬いかぎ形のとげをもつが腺毛はない。果実は初め紅く熟すが、後に黒くなる。山間部など冷涼な地域の日当たりのよい場所でよく生育する。茎を伸ばし、先端が地に着くと発根して新個体をつくる。<sup>(6)</sup>



提供：吉岡龍太郎(2007.7.1撮影)

**生息・生育状況**

森林伐採地など日当たりのよい場所でよく生育する。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では山口市、岩国市から記録される。国外では千島、朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに分布する。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

バラ目 バラ科 1203000108800 <b>サナギイチゴ</b> <i>Rubus pungens</i> Camb. var. <i>oldhamii</i> (Miq.) Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉小低木。茎は細く伸びて先から発根する。葉は5~7小葉からなり、薄質で縁に深い欠刻と鋸歯がある。側小葉は卵形-楕円形、頂小葉は大きくひし状卵形-卵状三角形で鋭尖頭。花は5-6月。果実ははじめ紅く熟するが後に黒くなる。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2014.4.30撮影)

**生息・生育状況**

森林伐採地など日当たりのよい場所でよく生育する。茎を伸ばし先端が地に着くと発根して新個体をつくる。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では岩国市から記録される。国外では千島、朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに分布する。<sup>(6)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

バラ目 バラ科 1203000109500 <b>キビナワシロイチゴ</b> <i>Rubus yoshinoi</i> Koidz.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

ほふく性落葉小低木。葉は通常3小葉からなり、頂小葉は鋭尖頭-長鋭尖頭。葉の下面ははじめ灰白色の毛をしくが、後に毛は薄れて緑色となる。茎は長く伸びてはい、かぎ形とげがある。がくの背面にとげはない。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2011.5.21撮影)

**生息・生育状況**

地質的には石灰岩や古生層地に見られ、日当たりのよい岩上や岩壁に生育する。稚苗は少なく、ほふく茎から発根して殖える。日本の本州(福島県、長野県、岡山県、広島県、山口県)、九州に稀産する。県内では萩市、山口市から記録される。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

バラ目 バラ科 1203000111800 <b>チョウセンシモツケ</b> <i>Spiraea fritschiana</i> C.K.Schneid. var. <i>angulata</i> (Fritsch ex C.K.Schneid.) Rehder	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉小低木。茎は叢生しよく分枝する。枝には稜がある。葉は卵形、重鋸齒縁、鋭頭、下面は多少粉白。花は複散房状に着き淡紅色。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

日当たりのよい岩上、岩壁、石垣などに生育する。周囲の植物が大きくなると衰退する。日本では本州(山陰地方)、九州に分布する。県内では長門市、岩国市から記録される。国外では朝鮮半島、中国(北部)に分布する。<sup>(6,12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 722 -

バラ目 クワ科 1203000600100 <b>ツルコウゾ</b> <i>Broussonetia kaempferi</i> Siebold	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性つる植物。茎は細く蔓状に長く伸びて他物にからまる。近縁種のコウゾは茎は長く伸びても他物にからまることはない。<sup>(6)</sup>



**生息・生育状況**

暖帯域の樹林の林縁、石垣、畑地周辺などに生育する。日本では本州(三重県、山口県)、四国、九州に分布する。県内では萩市、宇部市、山口市、周南市、岩国市に記録がある。<sup>(6,12)</sup>

提供：南 敦(2002.4.26撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数であるため。また、本県は本種の分布の北限線上にある。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発。

- 723 -

バラ目 イラクサ科 1203000702400 <b>チョクザキミズ</b> <i>Lecanthus peduncularis</i> (Royle) Wedd.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

一年生草本。葉は卵円形-狭卵形、先端は尾状に伸びて鋭頭-鈍頭、基部は円形-切形、縁には粗鋸歯がある。花序の柄は長く、花序の托葉はよく発達している。<sup>6)</sup>



#### 生息・生育状況

九州では暖帯域の樹林下に、岩国市では道路沿い水のしたたる岩上に生育する。日本では、本州(山口県)、九州(熊本県、大分県、宮崎県)に分布する。国外では台湾、中国に分布する。<sup>6)</sup>

提供：山根文人(2012.8.19撮影)

#### 選定理由

県内の生育地は限定されており、個体数も少ない。また、本県は分布の北限と考えられる。<sup>6)</sup>

#### 減少等の要因

生育地の開発(道路の拡幅)や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。<sup>6)</sup>

- 724 -

ブナ目 カバノキ科 1203100400600 <b>ケハンノキ</b> <i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud. var. <i>koreana</i> Callier	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性高木。ハンノキの変種で、ハンノキは葉や若枝が無毛なのに対して、本種は葉や若枝に赤褐色の毛が密生し、後まで残るという違いがある。両種はしばしば混生する<sup>(23, 25, 26, 37)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

水湿のある低地に生育する。

#### 選定理由

県北部に限られた場所に生育している。

#### 減少等の要因

伐採や埋め立て等人為的影響を受けやすい。

- 725 -

ブナ目 カバノキ科 1203100401200 <b>サワシバ</b> <i>Carpinus cordata</i> Blume var. <i>cordata</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性高木。葉は卵形-広卵形、長さ7-13cm、幅4-7cm、基部は深い心臓形である。近似種のクマシデの葉は基部が浅心臓形-切形。イワシデ、イヌシデ、アカシデなどの葉の基部は円形-くさび形である  
(23-26, 37, 43)



**生息・生育状況**

温帯下部域の溪流沿いの樹林に生育する。

提供：吉岡龍太郎(2018.10.28撮影)

**選定理由**

県内の生育地は1箇所と限定されており、個体数もごく少ない。植物地理学上重要である。

**減少等の要因**

伐採等人為的影響を受けやすい。

キントラノオ目 トウダイグサ科 1203500100700 <b>タカトウダイ</b> <i>Euphorbia lasiocaula</i> Boiss.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。茎は直立し高さ70cmくらいになり、上部はしばしば分枝し、細かい毛がある。葉は互生し披針形-長楕円形で長さ2.5-8cm、幅6-12mm、下面は有毛。柄はなく縁に細かい鋸歯がある。茎の上部では披針形の5葉を輪生し、苞葉は小さく卵形-広ひし形。花は6-7月に開き黄緑色、杯状花序、小総苞は癒合して壺状となる。さく果はいぼ状の突起がある。近縁種のトウダイグサは葉がさじ状倒卵形、縁に鋸歯があり、茎の先に5枚を輪生、下面は無毛。ナツトウダイは葉が狭長楕円形-広倒披針形、主茎の葉はまばらに着く  
(12, 22, 24-26, 37, 43)

NO IMAGE

**生息・生育状況**

山地、丘陵地の冷涼な草地に生育する。

**選定理由**

全国的には山地、丘陵地の草地に知られるが、県内では生育地が限定されており、個体数も極めて少ない。

**減少等の要因**

生育地の草地は植生遷移等の環境の変化を受けやすい。

キントラノオ目 ヤナギ科 1203500500500 <b>バッコヤナギ</b> <i>Salix caprea</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

別名：ヤマネコヤナギ 落葉低木-亜高木。小枝の皮をはいだ裸材に隆起線がある。葉は広楕円形-楕円形で、下面に白色の縮毛が多い。雄ずいは2本。果実には密毛がある。近縁種のヤマヤナギやサイコクキツネヤナギの葉裏は粉白であるが縮毛はない。また、ネコヤナギやジャヤナギは葉が披針形-線状長楕円形。アカメヤナギは芽や若葉が赤く葉の下面に白色の縮毛はない<sup>(12, 23, 24, 26, 37, 43, 44)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

温帯域の日当たりのよい場所に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所と限定され(1968年の標本がある)その後確認されていない。本州の西南限地であり、植物地理学上貴重である。

#### 減少等の要因

伐採や埋め立て等人為的影響を受けやすい。

- 728 -

キントラノオ目 ヤナギ科 1203500501500 <b>カワヤナギ</b> <i>Salix miyabeana</i> Seemen subsp. <i>gymnolepis</i> (H.Lev.et Vaniot) H.Ohashi et Yonek.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

別名ナガバカワヤナギ。低木または小高木。幹は高さ5-6m、径30cmに達する。若葉は淡緑色で両面に密に白色細軟毛がある。成葉は互生し、葉身は線状披針形、長楕円状披針形または線状倒披針形、鋭頭から鋭尖頭、基部はくさび型、表面は濃緑色やや光沢があり、裏面は帯白緑色、両面無毛、ふちにふぞろいな有腺波状鋸歯があり、長さ7-16cm、幅7-20mm。葉柄は長さ6-15mm<sup>(23-26, 37, 43)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

川や田間の水辺に生育する。

#### 選定理由

県内の生育地は1箇所と限定されており、個体数も少数で貴重である。

#### 減少等の要因

伐採や埋め立て等人為的影響を受けやすい。

- 729 -

キントラノオ目 スミレ科 1203500600600 <b>ヒメミヤマスミレ</b> <i>Viola boissieuana</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。無茎性のスミレ。全体繊細でほとんど無毛。葉は小形で長い柄があり束生、葉身は三角状狭卵形-長卵形、縁にやや目立つ鈍鋸歯がある。下面は紫色。5月ごろ葉間に細弱な花茎を伸ばし白花を着ける。フモトスミレと近縁で区別しにくい個体があり、下面の紫色からシハイスミレと見誤ることがある<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

常緑広葉樹林下または林縁部に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、植物地理学上重要である。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 730 -

キントラノオ目 スミレ科 1203500601700 <b>サクラスミレ</b> <i>Viola hirtipes</i> S.Moore	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。高さ10-15cmあり、地下茎は伸びる。葉は3-4枚、葉身は卵状長楕円形-狭長卵形、葉柄は葉身より長くて直立し、花柄とともに長白毛がある。5月ごろ淡紅紫色の径2-3cmの大きな花を開く<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

ミズナラ林域の樹林下、草地に生育する。

#### 選定理由

日本では北海道から九州までの山地に分布する。県内では県北東部の山地で記録されているが、近年の報告はない。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 731 -

キントラノオ目 スミレ科 1203500603600 <b>ホソバシロスミレ</b> <i>Viola patrinii</i> DC. ex Ging. var. <i>angustifolia</i> Regel	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 VU
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

シロスミレの変種。葉数は少なく、葉幅が狭く、葉柄は長い、葉身の基部がくさび形。4-6月に白色花をつける。日本固有種で本州（中国地方）、四国、九州の西日本に分布している<sup>(12, 26, 43)</sup>。



**生息・生育状況**

温帯域で、裸地・疎生地・低草地に生育。県内では山口市、岩国市などの記録がある。

提供：秋丸浩毅(2007. 5. 30撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

山口市の生育地では、ササが茂り、背丈の低い植物が生育できない状況になっている。

- 732 -

キントラノオ目 アマ科 1203500700200 <b>マツバニンジン</b> <i>Linum stelleroides</i> Planch.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 CR

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

1-2年生草本。茎は細長く直立し、高さ50cmくらいで、上方で分枝する。葉は広線形で全縁、先端は尖り3主脈があり、長さ2-3cm。花は夏にまばらな総状花序を着け、淡紅色。花弁、がく片とも5個。花が終わると円いさく果となり、宿存がくを伴う。近縁種のキバナノマツバニンジンは淡黄色の花を着ける北米原産の帰化植物で美祿市で記録される<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。



**生息・生育状況**

日当たりのよい草地に生育する。

提供：松井茂生(2008. 9. 13撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。草地の減少で減少したものかも知れない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 733 -

キントラノオ目 オトギリソウ科 1203500800200 <b>トモエソウ</b> <i>Hypericum ascyron</i> L. subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。高さ60-90cmになる。茎は直立し4稜、上部で枝分かれする。葉は薄く対生し、葉柄はなく茎を抱く。葉身は披針形、長さ5-8cm、全縁、すかしてみると細点がまばらにある。7-8月ごろ枝頂に黄色で径3cmの花を着ける。花弁は5個、ともえ状によじれる。かく片5個、雄ずいは多数。花は1日でしぼむ。近似の変種にオトモエソウがあり、花弁が4cmと大きい<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。



#### 生息・生育状況

山地の日当たりのよい林縁、谷すじに生育する。

提供：眞崎 久(2018.7.30撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

園芸用に採取されたり、群落遷移に伴い日照不足で衰退する例もある。

- 734 -

キントラノオ目 オトギリソウ科 1203500800600 <b>アゼオトギリ</b> <i>Hypericum oliganthum</i> Franch. et Sav.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。茎はかたまって斜上する。葉は小形で対生、長楕円形で先端は円い。葉柄はほとんどなく、基部はほとんど円形でわずかに茎を抱く。下面は白色を帯び、すかしてみると明点が散在し、縁には細かい黒点が連なる。8月ごろ頂部に集散花序で黄色の花を開き、径10-13mmある。近縁種のサワオトギリは山中の湿地に生え、葉の基部は柄状に細まり茎を抱かない<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

田の畔、湿地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されているが、現在は確認されていない。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。農薬散布が影響して減少したと考えられる。

- 735 -

フトモモ目 ミソハギ科 1203700101200 <b>ミズキカシグサ</b> <i>Rotala rosea</i> (Poir.) C.D.K.Cook	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本。茎は深緑色で直立し高さ10-20cm、分枝する。葉は対生し、披針形で長さ6mm-2.5cm、幅2-5mm、全縁、葉柄もない。8-9月ごろ淡紅色無柄の小花を着け、花弁は4個。さく果は紅紫色、球形で宿存がくをもつ。近縁種のキカシグサは地面を這うか斜上し、葉は倒卵形-楕円形である<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

田地、湿地に生育する。

**選定理由**

日本では本州以南のみに分布が知られる。県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 736 -

フトモモ目 アカバナ科 1203700200100 <b>ミヤマタニタデ</b> <i>Circaea alpina</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。高さ5-15cm。茎は直立するが細い。葉は対生し、葉身は三角状の心臓形で長さ1-2cm、縁に低い鋸歯がある。花は7-8月ごろ、茎の上部に細長い花柄を伸ばし総状花序となり帯紅白色、柄のある細かい花を着ける。花弁、がく片は2個、雄ずいは2本。果実は倒卵状楕円形で密にかぎ毛に覆われ1種子を入れる。近縁種のタニタデは高さ20-50cm、節が赤く染まり、果実は倒卵形で2種子を入れる<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

ブナ林域の樹林下に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が高地に限られており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 737 -

フトモモ目 アカバナ科 1203700201000 <b>ウスゲチョウジタデ</b> <i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim. subsp. <i>greatrexii</i> (H.Hara) Raven	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 NT

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本。チョウジタデに似ているが、全体に毛が多い。茎や葉には細毛がある。葉は長さ7~8cm、幅1~2cm。萼裂片はふつう5個で、長さ3~4cm。花弁は倒卵形で、長さ約4mmになる。チョウジタデの雄蕊は普通4個であるのに対して、雄蕊は普通5個である<sup>(22, 26, 43, 45)</sup>。



**生息・生育状況**

水田や湿地に生育する。近年、平生町で見つかったが、その後見られない。

提供：眞崎 久(2007.9.9撮影)

**選定理由**

本州（関東地方以西）・九州に分布しているが、県内では限られた場所に生育し、個体数も少なく貴重である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

フトモモ目 アカバナ科 1203700201200 <b>ミズキンバイ</b> <i>Ludwigia peploides</i> (Kunth) Raven subsp. <i>stipulacea</i> (Ohwi) Raven	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。繁茂すると水面を覆うという。泥中にある地下茎からはときに尾状の呼吸根を出す。茎は淡緑色、円柱形で長く横に這うが、上部は立ち上がってその上部に花を着ける。葉は互生し、倒披針形、全縁、葉柄の基部両側に緑色の腺体がある。7-8月ごろ葉腋から短い花柄を出し、その先端に黄色の径2.5cmくらいの花を開く。花弁は5個、倒卵円形で先端は凹む。雄ずいは10本<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45, 46)</sup>。



**生息・生育状況**

沼沢水中に生育する。

提供：眞崎 久(2014.8.31撮影)

**選定理由**

全国的に激減している種類。ごく限られた場所に生育し、貴重である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

ムクロジ目 ムクロジ科 1203900201000 <b>カジカエデ</b> <i>Acer diabolicum</i> Blume ex K.Koch	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

別名：オニモミジ。落葉高木で高さ10-20mになる。葉は対生しほぼ五角形5中裂、上部の3裂片は大きく縁に2-3のまばらな大きい鋸歯をもつ。長さ、幅とも10cmくらい。花は4-5月ごろ開き淡緑色。花弁、がく片とも5個、雄ずいは8本。子房は毛に覆われる<sup>(24, 26, 37, 43, 44, 47)</sup>。



#### 生息・生育状況

ミズナラ林域の樹林に自生する。

提供：南 敦(2002.4.14撮影)

#### 選定理由

日本の温帯域に主として見られる種類。県内でもミズナラ林域にのみに生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

伐採等人為的影響を受けやすい。

- 740 -

ムクロジ目 ムクロジ科 1203900201200 <b>メグスリノキ</b> <i>Acer maximowiczianum</i> Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性高木で高さ10mくらいになる。葉は対生し、太い葉柄をもち3出複葉。小葉は楕円形-斜楕円形、縁は不規則な波形の鈍鋸歯、中央の小葉の基部は小葉柄となるが側方の2小葉には柄がなく、長さ6-10cm、幅2.5cm-4cmになる。花は5月ごろ束状に3個ずつ着き白色である<sup>(12, 24, 26, 37, 43, 44, 47)</sup>。



#### 生息・生育状況

ミズナラ・ブナ林域の谷すじに生育する。

提供：吉岡龍太郎(2018.10.28撮影)

#### 選定理由

日本の温帯域の樹林下に産するが、南下につれて個体数が減少し、県内では生育地が限定されており、個体数もごく少ない。

#### 減少等の要因

伐採等人為的影響を受けやすい。

- 741 -

ムクロジ目 ムクロジ科 1203900201400 <b>テツカエデ</b> <i>Acer nipponicum</i> H.Hara subsp. <i>nipponicum</i> var. <i>nipponicum</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性高木。対生の葉は太い柄をもち、広い五角形で浅く5裂しており、縁には重鋸歯がある。基部は心臟形となり、表面、裏面とも毛がほとんどない。葉柄は毛が無く、葉面と同じ長さかまたは少し長い。ウリハダカエデの葉柄は葉面よりはるかに短く、また褐色の毛がある<sup>(26, 43, 44, 47)</sup>。



#### 生息・生育状況

本州・四国・九州の山地に生育する。

提供：秋丸浩毅(2015.10.12撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。

#### 減少等の要因

伐採等人為的影響を受けやすい。

- 742 -

ムクロジ目 ミカン科 1203900300300 <b>コウライタチバナ</b> <i>Citrus nippokoreana</i> Tanaka	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	CR

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

常緑性小高木。自生地ではタチバナと混生し類似する。葉は卵状長楕円形、葉柄に狭い翼があり、果実は大きく径6cmに達し、子室数9-12、果皮も厚い<sup>(12, 44)</sup>。



#### 生息・生育状況

海岸に近い常緑樹林内に生育する。周辺の常緑広葉樹が繁茂すると衰退する。

提供：南 敦(1994.1.8撮影)

#### 選定理由

本県の生育地は日本で唯一の自生地であり、個体数も少数である。むかしは相当数の自生があったといわれるが、果樹園開発、樹林開発で減少している。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 743 -

ムクロジ目 ミカン科 1203900300400 <b>タチバナ</b> <i>Citrus tachibana</i> (Makino) Tanaka	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

常緑性小高木。高さ4mくらいになる。枝は3稜形、密に茂り、葉腋にはとげが多い。葉は互生し、楕円状披針形、長さ3-5cm、幅1.5-3cm。花は6月ごろ開き白色、5枚の花弁は長楕円形。果実は扁球形、直径3cm、子室数は8室以下、冬期黄熟する。近縁種にコウライタチバナがある<sup>(12, 23, 24, 26, 37, 43, 44)</sup>。



提供：南 敦(2009.12.4撮影)

#### 生息・生育状況

海岸に近い常緑樹林内に生育する。

#### 選定理由

暖地に自生する種で本県が日本海側の北限地となり、生育地も限定されており、個体数もごく少数である。周辺部の植物がうつ閉すると衰退する。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 744 -

アオイ目 アオイ科 1204000102700 <b>マンシュウボダイジュ</b> <i>Tilia mandshurica</i> Rupr. et Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 CR

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性高木で、高さ20mくらいになる。葉は斜卵心形で長さ10-18cm、幅8-15cm、鋭尖頭、基部は斜心形、下面は灰白色の星状毛を密生する。7月ごろ集散花序を出し、淡黄色の花を7-20個着け、へら形の苞葉がある。果実は球形-扁球形で径8.5mm、灰褐色の短毛を密生する。近似種として広島県にチュウゴクボダイジュがあり、この方は果実に稜がある<sup>(12, 24, 37, 43, 44, 47, 48)</sup>。



提供：南 敦(2015.6.16撮影)

#### 生息・生育状況

ミズナラ林域の谷すじにわずかに生育する。

#### 選定理由

朝鮮半島、中国東北部に主産する種類で、県内では生育地が1箇所と限定されており、成木の個体数も少ないため県指定自然記念物になっている。

#### 減少等の要因

伐採等人為的影響を受けやすい。

- 745 -

アブラナ目 アブラナ科 1204100200500 <b>シコクハタザオ</b> <i>Arabis serrata</i> Franch. et Sav. var. <i>shikokiana</i> (Nakai) Ohwi	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	EN
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。茎の高さ30-35cm。根出葉の柄が長い。茎葉は長楕円形、長さ2.5-4cm、基部は多少とも茎を抱く。長角果は長さ7-9cmで長い。母種フジハタザオは高さ10-25cm、根出葉の柄は短く、長角果の長さは4-6cmと短く、富士山の砂礫地に生育する<sup>(22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。



提供：秋丸浩毅(1999.5.8撮影)

**生息・生育状況**

火山岩の砂礫地の林縁や路傍に生育する。

**選定理由**

県内の1山地に少数個体が隔離分布することは、植物地理学上重要である。現在はほとんど見られない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 746 -

アブラナ目 アブラナ科 1204100201700 <b>ミツバコンロンソウ</b> <i>Cardamine anemonoides</i> O.E.Schulz	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。山中の林中に生える小型の植物。高さ9-10cmぐらい。全株ほとんど無毛。地下茎は短小、茎は1本立ちで分岐しない。根生葉はない。茎上に少数の葉を互生し、葉は有柄の3出複葉、小葉卵状披針形、あるいは披針形、先端は鋭くとがり、基部は鋭形またはくさび形、縁には大小不ぞろいの荒い鋸歯がある。時に深く分裂する。頂部の葉には分裂しないものもある。春の終わりごろ、茎の頂に短い総状花序を出して、有柄の白色大型の十字状花をつける<sup>(22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。



提供：吉岡龍太郎(2010.4.29撮影)

**生息・生育状況**

山地の木陰に生育する。

**選定理由**

県内の生育地は1箇所と限定されており、個体数もごく少ない。

**減少等の要因**

植物体が小さいので、伐採等で樹林の状態が変化したり、下草が繁茂するようになると生育が難しい。

- 747 -

ナデシコ目 タデ科 1204300203000 <b>サデクサ</b> <i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本。葉は3裂して裂片の幅は狭く、基部の裂片はほこ状に開出する。托葉鞘の上部は葉状にひろがって縁に深い切れ込みがある。茎には堅いとげが直立またはやや下向きに立つ。近似種のみぞそばは葉が浅く3裂して、裂片の幅は広く、基部の裂片はほこ状であるが広い。また、托葉鞘は普通全縁で、茎に下向きのとげを多く生じることがあまり堅くない<sup>(22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。



提供：眞崎 久(2017. 10. 14撮影)

#### 生息・生育状況

低地の湿地、水辺に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が1箇所と限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 748 -

ナデシコ目 タデ科 1204300204600 <b>ヌカボタデ</b> <i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本。葉は薄く、狭披針形、鋭尖頭、基部はくさび形、下面に腺点はない。花期は9-11月、穂状花序で、花は花軸にややまばらに着いて花被は紅色。果実は3稜形-レンズ形で黒褐色、長さ1.5mm。葉や茎は乾くと緑色になる。近縁種のみぞそばは葉はやや厚くて、下面に腺点があり、花は通常花軸に密に着き、茎や葉は乾くと赤褐色になる。ハナタデは葉は卵形-広披針形、通常葉の上面中肋の両側に1対の黒斑があり、花は通常花軸にまばらに着く<sup>(22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。



提供：眞崎 久(2018. 10. 5撮影)

#### 生息・生育状況

低地の湿地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 749 -

ナデシコ目 モウセンゴケ科 1204300300100 <b>イシモチソウ</b> <i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。地上茎が発達し高さ10-30cm。葉は三日月形-円形。花のがく片は卵形で、花柱は4裂する。地中に塊茎がある。近縁種のナガバノイシモチソウは一年生草本で、地中に塊茎がなく、葉は狭披針形-線形で長さ4-8cm、がく片は披針形で、花柱の先は2裂するが県内では未記録種。モウセンゴケ類は葉はすべて根生である<sup>(12, 22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。



提供：眞崎 久(2018.6.9撮影)

**生息・生育状況**

日当たりのよい酸性湿地、樹林の林縁部に生育する。他の草本類が繁茂したり、湿地が乾燥すると衰退する。

**選定理由**

県内では生育地が酸性湿地に限定されており、個体数もごく少数である。植物生態学上きわめて重要である。

**減少等の要因**

湿地の環境の変化、採取が主たる原因と思われる。環境が変われば容易に衰退や消滅をきたす。

- 750 -

ナデシコ目 ナデシコ科 1204300400100 <b>オオヤマフスマ</b> <i>Arenaria lateriflora</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

別名：ヒメタガソデソウ。多年生草本。高さ10-15cm。葉は広楕円形-倒披針形。上葉も下葉も柄がない。がく片は先端が鈍形、さく果より短い。近縁種のタチハコベは、上葉には柄が多少あり、下葉の柄は長く、がく片は先端が鋭尖形でさく果より長い<sup>(12, 22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

山地の草原、林縁部に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が数箇所と限定されており、個体数も少数である。北半球に広く分布するが、遺存種であり、生存力が弱い。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 751 -

ナデシコ目 ナデシコ科 1204300400300 <b>タチハコベ</b> <i>Arenaria trinervia</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本-越年生草本。葉は卵形-広卵形。上部の葉には柄が多少あるが、下部の葉には長い柄があり、がく片は先端が鋭尖形で、さく果より長い。近似種のオオヤマフスマは上部の葉にも下部の葉にも柄がなく、がく片が先端鈍形で、さく果より短い<sup>(22, 24, 37, 43, 45, 48)</sup>。



提供：眞崎 久(1995.6.16撮影)

#### 生息・生育状況

山地の草原、林縁部に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が2箇所と限定されていたが現状不明の状態である。温帯域に広く分布するが、隔離分布で自生地での個体数は少ない。植物地理学上重要である。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 752 -

ナデシコ目 ナデシコ科 1204300402500 <b>ヒメケフシグロ</b> <i>Silene aprica</i> Turcz. ex Fisch. et C.A.Mey.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本または越年生草本。山野に生える。全体に短毛を密につける。葉は基部より枝を分け、高さ20-70cmになる。葉は線状披針形～披針形。萼は楕円形<sup>(22, 43, 48)</sup>。



#### 生息・生育状況

本州（中国地方）、九州北部の山野に生育する。

提供：南 敦(2018.11.16撮影)

#### 選定理由

県内の生育地は限定されており、個体数も少なく植物地理学上貴重である。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 753 -

ナデシコ目 ヒユ科 1204300503900 <b>ヒロハマツナ</b> <i>Suaeda maritima</i> (L.) Dumort. var. <i>malacosperma</i> (H.Hara) Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本。葉は肉質、長楕円形-広線形、長さ3.5cmくらいで、平らで幅が広く2.5-4mmになる。花期は10-11月。近縁種のハマツナは葉の幅が1-2mmと細く、密につく<sup>(12, 22, 24, 45)</sup>。



#### 生息・生育状況

泥質の河口域、海岸部に生育する。

提供：眞崎 久(1997.7.3撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されてきており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 754 -

ツツジ目 サクラソウ科 1204500400300 <b>リュウキュウコザクラ</b> <i>Androsace umbellata</i> (Lour.) Merr.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本-越年生草本。葉は根生し、半円・扁円形。花茎は叢生し高さ3-10cm、花柄は1-4cm。3-4月ごろ白色の小花を着ける。花冠は筒部が短く径5-8mm、5裂して高盆状である<sup>(12, 24, 37, 43, 48-50)</sup>。



#### 生息・生育状況

平地の草原に生育する。

提供：松井茂生(2015.4.15撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 755 -

ツツジ目 サクラソウ科 1204500400900 <b>オオツルコウジ</b> <i>Ardisia walkeri</i> Y.P.Yang	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

常緑性低木。ヤブコウジに似るが、走出枝は長い。茎の基部は斜上し、高さ10-30cm。上部は花序、葉柄とともに粒状毛のほか多細胞の開出する淡褐毛を密生する。葉は茎の上部に3-4個ずつ輪生状に着き、開出、やや革質で、倒卵長楕円形-長楕円形、やや粗大な鋭鋸歯があり、長さ5-13cm、幅2-4cm。花は白色、果実は赤熟する。近縁種のヤブコウジは茎、花梗の毛は短い粒状で、長毛はない<sup>(24, 37, 43, 44, 47, 48)</sup>。



提供：眞崎 久(2016.11.9撮影)

**生息・生育状況**

沿海地の照葉樹林下に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も非常に少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 756 -

ツツジ目 サクラソウ科 1204500401600 <b>モロコシソウ</b> <i>Lysimachia sikokiana</i> Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。根茎は短い。茎は直立または斜上し、短く分枝し、高さ30-80cm、稜があり、まばらに点状の毛が生える。茎は互生し、長さ1-2.5cmの柄があり、卵形で両端がとがり、長さ5-10cm、幅2-4.5cm、無毛である。上部の葉腋ごとに1花をつける。花冠は黄色、5裂し、萼片は狭長楕円形で反り返り、径1-1.2cm、下向きに咲く<sup>(43, 48, 49)</sup>。



提供：眞崎 久(2005.8.21撮影)

**生息・生育状況**

暖地の海近くの林中に生育する。

**選定理由**

県西部の限定された場所に生育しており、個体数も少ない。植物地理学上重要である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 757 -

ツツジ目 サクラソウ科 1204500402100 <b>ツルマンリョウ</b> <i>Myrsine stolonifera</i> (Koidz.) E.Wakler	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

別名ツルアカミノキ。常緑ほふく性の小低木。雌雄異株。茎は、初め直生し、その後ほふくします。長いものは1.5mに達します。花は6-7月ごろ（他時期でも少しは見られます。）開き、果実は主に晩秋～冬に赤熟します。シイ、サカキなどの常緑樹林中の半陰地の斜面に群生しています。明るく肥沃な所では他の雑草に負け、暗い所では衰退していきます。種子による稚苗はほとんど見られず、主にほふく茎によって繁殖しています<sup>(12, 24, 37, 43, 44, 47, 48)</sup>。



提供：眞崎 久(2017.2.22撮影)

#### 生息・生育状況

日本では本州（奈良県、広島県、山口県）、九州（屋久島）、琉球（沖縄本島）に分布。国外では、台湾、中国に分布する。暖地の林内に生育する。

#### 選定理由

県内では限定された場所に生育し、宇部市（県指定）、山口市（国指定）の2箇所は天然記念物に指定されている。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 758 -

ツツジ目 サクラソウ科 1204500402400 <b>ホザキザクラ</b> <i>Stimponia chamaedryoides</i> C.Wright ex A.Gray	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

一年生草本。茎は高さ3-16cm、葉は根生し長さ1-2cm、幅7-12cmで有柄、上部は無柄となる。花は3-6月上旬の葉腋に着き白色（沖縄では3月、山口県では6月ごろ）。花冠は高盆状で径4~5mm<sup>(12, 24, 37, 43, 44, 48-50)</sup>。



#### 生息・生育状況

山麓の日当たりのよい斜面、水田につながる草地斜面に自生する。

提供：眞崎 久(2016.5.22撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。本県が北限産地となり、分布上貴重である。

#### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 759 -

ツツジ目 ハイノキ科 1204500600900 <b>クロミノサワフタギ</b> <i>Symplocos tanakana</i> Nakai	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性低木。樹皮はサクラに似て横に裂ける。葉は長楕円形、両端鋭形で長さ4-8cm、幅2-4cm、上面無毛か、脈上にわずかに毛があり、下面は軟毛があり中肋に多い。花は5-6月ごろ着き白色。果実は卵球形で熟すると黒くなる。近縁種のサワフタギは樹皮が縦に裂け、果実は藍色に熟する。また、タンナサワフタギの樹皮は薄片に剥脱する<sup>(12, 24, 37, 43, 44, 47, 48)</sup>。



提供：松井茂生(2002. 5. 13撮影)

**生息・生育状況**

山地の樹林下に点在する。

**選定理由**

県内では生育地は点在するが、個体数が1-数本の場合が多い。森林伐採で減少している。

**減少等の要因**

伐採等人為的影響を受けやすい。

- 760 -

ツツジ目 ツツジ科 1204501100600 <b>アカモノ</b> <i>Gaultheria adenostrix</i> (Miq.) Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

常緑性低木。高さ10-30cm。茎の下部は地を這い根を出す。葉は互生し、広卵形で先端は鋭頭、縁に細鋸歯または剛毛がある。花は6月ごろ枝の上部の葉腋から1.5-4cmの長柄を出し1花を着ける。花冠は白色鐘形、長さ6-7mm、内外とも無毛である<sup>(12, 22-25, 37, 43-45, 49, 50)</sup>。



提供：吉岡龍太郎(2018. 10. 7撮影)

**生息・生育状況**

凡そ1000m以上の日当たりのよい尾根すじに群生するが、群落遷移で減少が著しい。中国地方では500m付近まで下降することがある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少ない。日本の西南限産地として貴重である。

**減少等の要因**

矮性木本のため、生育地が背の高い植物に被われる環境になると生育できなくなる。

- 761 -

ツツジ目 ツツジ科 1204501101300 <b>マルバノイチヤクソウ</b> <i>Pyrola nephrophylla</i> (Andres) Andres	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。細長い地下茎をもち横走する。葉は4-8個叢生し、円形-卵状楕円形で長さ1.2-3cm、幅1-2.5cm、長さ1-3cmの柄がある。花は7-8月ごろ4-7個つけ白色である<sup>(12, 24, 37, 48-50)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

温帯から暖帯上部地域の山地樹林下に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 762 -

ツツジ目 ツツジ科 1204501102400 <b>ゲンカイツツジ</b> <i>Rhododendron mucronulatum</i> Turcz. var. <i>ciliatum</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 NT

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性低木。高さ2-4mになり、若枝は赤褐色、葉は互生し長さ4-7.5cm、長楕円形、鈍頭。花は3-4月ごろ枝先に1-3個着き紅紫色。花冠は漏斗状で径3-4cm、外面に軟毛がある<sup>(12, 24, 37, 43, 44, 47, 48)</sup>。



提供：山根文人(2013.4.21撮影)

**生息・生育状況**

山地の冷涼な岩塊地に自生する。

**選定理由**

日本列島では中国地方以西にのみ分布し、県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

園芸的価値があるため盗掘の対象となる場合がある。

- 763 -

リンドウ目 アカネ科 1204800101400 <b>ミヤマムグラ</b> <i>Galium paradoxum</i> Maxim. subsp. <i>franchetianum</i> Ehrend. et Schönb.-Tem.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立して高さ10-25cm、四角で平滑。葉は茎の下部で2枚対生し小さく、他では大きさ不同の4枚が輪生し、卵形または長卵形で長さ1-3cm、幅5-20mm。7-8月ごろ茎頂に短い花序を出し、少数の花をまばらに着ける。花冠は白色で4裂する<sup>(37,51,52)</sup>。



**生息・生育状況**

県内では岩国市のブナ帯域の樹林下に見られる<sup>(52)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、深山の木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、ロシア（シベリア東部）に分布する<sup>(51,52)</sup>。

提供：秋丸浩毅(2017.6.22撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 764 -

リンドウ目 アカネ科 1204800101600 <b>オヤマムグラ</b> <i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Sav. var. <i>trichopetalum</i> (Nakai) H.Hara	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎に開出毛があり(ヤマムグラは茎は無毛)、直立し、高さ10-40cm。葉に毛が多く(ヤマムグラは葉の縁と裏面の中脈上に短毛がある)、4枚が輪生し、広線形または狭倒披針形で、長さ1-2cm、幅2-4mm。5-6月、枝先に数個の淡緑色の花をつける<sup>(51,52)</sup>。



**生息・生育状況**

県内では周防大島町、上関町、美祢市に見られる<sup>(12)</sup>。本州近畿以西、四国に分布する<sup>(51,52)</sup>。

提供：秋丸浩毅(2014.5.21撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 765 -

リンドウ目 リンドウ科 1204800200300 <b>コケリンドウ</b> <i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

越年生草本。茎は通常多く分枝して叢生し高さ3-10cm。基部に長さ1-4cmの根出葉がロゼット状につき、茎葉は卵形で長さ4-10mm。花は3-5月ごろ開き花冠は淡青色で長さ1-1.5cm、先が5裂する<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では山口市の古い記録があるが現状は不明である<sup>(12)</sup>。本州、四国、九州に分布し、日当たりのよい草地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、インド北部、シベリアに分布する<sup>(51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 766 -

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800400100 <b>チョウジソウ</b> <i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し40-80cm。葉は長楕円披針形で毛はなく長さ6-10cm、幅1-2cm、普通は互生するが、ときに一部対生する。花は4-6月、茎頂に集散花序をつくって開き青藍色、径約13mm。花冠の上部は5裂して平らに開き、下部は筒となる。袋果は二又に分かれた細長いさや状で長さ5-6cm<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1997.5.11撮影)

#### 生息・生育状況

県内では美祿市に見られる<sup>(12)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、河原や山間部の低湿地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。高草の繁茂など。

- 767 -

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800401700 <b>クサタチバナ</b> <i>Vincetoxicum acuminatum</i> Decne.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	NT

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し30-60cm。葉は長さ5-13cm、幅3-6cmで、柄は長さ5-16mmある。花は6-7月ごろ茎の上部に着き、花冠は無毛で白色、5裂して径2cm。袋果は長さ4-6cm、広披針形で無毛<sup>(37,51,52)</sup>。



#### 生息・生育状況

県内では阿武町、下関市に見られる<sup>(12)</sup>。本州関東地方以西、四国に分布し、山地の林内に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

提供：南 敦(2013.5.7撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 768 -

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800401800 <b>ロクオンソウ</b> <i>Vincetoxicum amplexicaule</i> Siebold et Zucc.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し高さ40-100cm。葉は茎とともに白緑色で対生し無柄、基部はやや耳状になって茎を抱く。花は7-8月ごろ葉腋に開き、花冠は帯黄色で5裂し、裂片は狭卵状三角形で長さ約3mm。袋果は狭披針形で長さ約5cm<sup>(37,51)</sup>。



提供：眞崎 久(1995.7.1撮影)

#### 生息・生育状況

県内では長門市、下関市に見られる。本州（岩手県、山口県）、四国、九州に分布し、山地の草地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

山口市で記録されたが、土地開発で見られなくなった<sup>(6)</sup>。土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 769 -

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800402100 <b>イヨカズラ</b> <i>Vincetoxicum japonicum</i> (C.Morren et Decne.) Decne.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し高さ30-80cm、ときに先が伸びてつる状となることもある。葉は楕円形で対生し、長さ3-10cm、幅3-7cm、先は円～鈍頭で微突端、基部は円く、2-10mmの葉柄があり、やや厚くて両面の脈上に短毛がある。5-7月、上部の葉腋に花序を出す。花冠は無毛で淡黄白色、5深裂し径約8mm<sup>(51)</sup>。



提供：南 敦(2011.5.30撮影)

**生息・生育状況**

県内では上関町と下関市の島しょ部で見られる。本州、四国、九州、小笠原に分布し、海岸に近い乾いた草地や疎林に生育する<sup>(51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国に分布する<sup>(51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が海岸の特定な場所に限定されており、個体数が少なく繁殖力もほとんどない。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800402200 <b>クロバナイヨカズラ</b> <i>Vincetoxicum japonicum</i> (C.Morren et Decne.) Decne. f. <i>puncticulatum</i> (Koidz.) Kitag.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。高さ30-80cm。葉は卵形で対生し、長さ約10cm。花は5-7月に開き、花冠は暗紫色<sup>(51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1997.5.25撮影)

**生息・生育状況**

県内では上関町に見られる。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800402500 <b>ヒロハスズサイコ</b> <i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag. f. <i>latifolium</i> (Makino) Kitag.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は細く直立し40cm-100cm。葉は狭長楕円形で長さ12-17cm、幅1.5-2.5cm<sup>(52)</sup>。花は7-8月に開き、花冠は黄褐色で長さ7-8mm、裂片は無毛。母種のスズサイコの葉の幅が広い型。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では萩市の島しょ部で見られる<sup>(12)</sup>。本州に分布し、山野の草地に生育する<sup>(52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 772 -

ムラサキ目 ムラサキ科 1204900200100 <b>サワリソウ</b> <i>Ancistrocarya japonica</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は高さ50-80cm、短かくかたい毛がある。葉は長楕円形、基部は細くなって茎に続き無柄、長さ10-20cm、幅3-7cm、上面に小さい細突起がありざらつく。花は5-6月、茎の先にまばらに枝分かれして偏側生の巻繖花序となる。花冠は青紫色で下部は短い筒状、上部は5深裂し、長さ10-13mm。ときに白花品もある<sup>(37, 51, 52)</sup>。



提供：山根文人(2010.6.20撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、山口市に見られる<sup>(12)</sup>。本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、山地の木陰に生育する<sup>(37, 51, 52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 773 -

ムラサキ目 ムラサキ科 1204900200900 <b>ムラサキ</b> <i>Lithospermum erythrorhizon</i> Siebold et Zucc.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	EN

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し、高さ40-70cmで、斜上する長い粗毛がある。根は太く、シコニンという色素を含み、乾くと濃紫色になり、染料に用いられる。葉は無柄で互生し、披針形で長さ3-7cm、幅7-20mm、あらい毛がある。6-7月、葉の付け根の包葉の間に白色の花を着ける。花冠は径約4mm、喉部は黄色みを帯びた突起がある<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1996.5.25撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、周防大島町、山口市、阿武町、美祢市の記録があるが、現存する地は美祢市だけである。火山岩地や石灰岩地で日当たりのよい草地に生育する。北海道、本州、四国、九州に分布し、丘陵の草原に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、ロシア(アムール)に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、染料素材や園芸用として採取されて減少している<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

疎生地を好むが土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。染料素材や園芸用の採取。

ナス目 ヒルガオ科 1205000100500 <b>マメダオシ</b> <i>Cuscuta australis</i> R.Br.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	CR

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生寄生つる植物。茎は黄色の糸状で無毛、寄主にからみつく。葉がなく、細かい鱗片がまばらに互生する。花は7-10月、無柄で数個が束生し、花冠は白色で長さ約2mm、5裂する。筒部に裂片と同長で2裂する鱗片がある。さく果は径約3mm、花冠を基部に残して大きく露出する<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

岩国市、上関町、田布施町、周南市、山口市、下関市の記録がある。山口市に見られる。日本全土に分布し、マメ科植物その他に寄生する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では中国、東南アジア、オーストラリアなどに広く分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

ナス目 ヒルガオ科 1205000100700 <b>ハマネナシカズラ</b> <i>Cuscuta chinensis</i> Lam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生寄生つる植物。茎は針金状で毛はなく、宿主に巻き付いて伸長する。花は7-10月に茎の各所に柄のある短い総状花穂を出し、花冠は短鐘状で白色、5裂する。花筒内面に5枚の鱗片があり、鱗片のふちは毛状にさける。花冠が果実より長く、果実は花冠をかぶったままで、その基部を破ってふくれあがる<sup>(37,51)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では光市、田布施町の記録がある。萩市に見られる。本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球に分布し、海浜でハマゴウなどに寄生して生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では中国、東南アジア、オーストラリア、アフリカなどに分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 776 -

ナス目 ナス科 1205000200700 <b>ヤマホオズキ</b> <i>Physalistrum chamaesarachoides</i> (Makino) Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 VU
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は分枝し、高さ30-50cm。葉は普通節ごとに2枚ずつ出て互生し、卵形または卵状楕円形で上半分に大形の数個の鋸歯をもち、長さ5-12cm、幅2.5-7cm、先は尾状に尖り、基部はひれのある柄を持つ。8-9月に葉脇に下向きの1花を開く。花冠は短い鐘形で長さ7-8mm、白色で先は尖った5片に浅く裂ける。花が終わってからがくが成長して緑色の卵球形の袋状になり、長さ12-15mm。がくに包まれた球形の果実は黄色に熟す<sup>(37,51)</sup>。



提供：眞崎 久(2018.11.8撮影)

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、山口市、美祢市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州関東地方以西、四国、九州に分布し、山地の谷間などやや湿った林下に生育する<sup>(51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 777 -

ナス目 ナス科 1205000200900 <b>アオホオズキ</b> <i>Physalistrum japonicum</i> (Franch. et Sav.) Honda	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎はまばらに分枝し、高さ30-60cm、まばらに柔らかい毛がはえる。葉は普通節ごとに2枚ずつ出て互生し、長楕円形または卵状長楕円形、長さ5-12cm、幅1.5-4cm、両端が尖り、短い柄を持ち、両面にまばらに軟毛がはえる。6-7月に葉脇に下向きの1花を開く。がくは盃状で先に5つの歯がある。花冠は鐘形で径約1.5cm、淡緑色で先は5片に浅く裂け、内面基部に毛が密生する。液果は楕円形で長さ1-1.3cm、幅0.7-1cm。花が終わってから長さ1.3-2cmの緑色で短い刺のあるつぼ状のがくに包まれる<sup>(37,51)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では周南市の記録がある。本州、四国に分布し、山地の谷沿いのやや湿り気のある林の中に生育する<sup>(51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 モクセイ科 1205100100900 <b>サイゴクイボタ</b> <i>Ligustrum ibota</i> Siebold	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

落葉性低木。高さ2-5mとなり小枝は灰褐色の短毛がある。葉は対生し、卵状披針形または卵状楕円形で鋭尖頭、長さ1-5cm、幅0.6-2.5cm、基部は円形または広くさび形。葉柄は長さ1-2mm。5-6月、枝先に1-数個の花を着け、1-2cmの柄がある。花冠は白色で長さ7-8mm、筒部は裂片の長さの3-4倍ある。果実は紫黒色で球形、径6-7mmである<sup>(37,47,53)</sup>。



提供：山根文人(2006.6.12撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、周防大島町、周南市、山口市の記録がある。本州兵庫県以西、九州中部以北に分布し、山地のやせ地に生育する<sup>(37,47,53)</sup>。石灰岩地や火山岩地を好む傾向がある。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 モクセイ科 1205100101400 <b>オオバイボタ</b> <i>Ligustrum ovalifolium</i> Hassk. var. <i>ovalifolium</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

落葉性低木。高さ2-6m、幹は直立してよく分枝し、枝は灰褐色で無毛。葉は対生し、楕円形または倒卵形など変異が多く全縁で鋭頭または鈍頭、長さ4-10cm、幅2-5cm、葉質は厚く光沢がある。葉柄は長さ3-5mm。6-7月、枝先に長さ幅ともに5-10cmの円錐花序を出し、白色の小さい花を密に着ける。花冠は長さ7-8mm、筒部は裂片の長さの約2倍。果実は球形で長さ約8mm、紫黒色に熟する<sup>(37,47,53)</sup>。



提供：江上嘉昭(2018.10.7撮影)

#### 生息・生育状況

暖地性植物。県内では上関町の記録がある。関東以西、四国、九州に分布し、海岸近くの低い山に生育する<sup>(37,47,53)</sup>。国外では朝鮮南部に分布する<sup>(37,47,53)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発と草刈りによる生育環境の悪化。

- 780 -

シソ目 モクセイ科 1205100101500 <b>ヤナギイボタ</b> <i>Ligustrum salicinum</i> Nakai	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

落葉性小高木。若枝の一部には微毛がある。葉は倒卵形～倒卵披針形、長さ6-13cm、幅2-6cm、表面は無毛で、裏面ははじめ短毛があるがのち無毛となる。6月ごろ、長さ10-20cmの円錐花序をつける。花冠は白色で長さ約5mm。果実は長楕円形で長さ8-10mm、紫黒色に熟す<sup>(37,47,53)</sup>。



提供：眞崎 久(2018.8.5撮影)

#### 生息・生育状況

県内では美祢市から記録され、石灰岩塊地に見られる。本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布し、山地の石灰岩や火山岩などやせ地に生育する<sup>(37,47,53)</sup>。国外では朝鮮半島南部に分布する<sup>(37,47,53)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 781 -

シソ目 オオバコ科 1205100300600 マルバノサウトウガラシ <i>Deinostema adenocaulum</i> (Maxim.) T.Yamaz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は直立し高さ10-18cm、葉は柄がなく卵円形で長さ5-7mm、幅3-5mm。花は8-10月ごろ長さ1-2cmの柄に着く、閉鎖花の柄は0-10mm。花冠は紅紫色で長さ4mm、2唇形で下唇は大きく、中裂片は2裂する<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、周南市、宇部市で見られる。本州、四国、九州に分布し、沼や水田の湿地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮南部に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 782 -

シソ目 オオバコ科 1205100302400 トウオオバコ <i>Plantago japonica</i> Franch. et Sav.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。葉は10-17枚、葉身は卵形で長さ8-25cm、幅5-18cm、葉柄は長さ3-20cm。全体無毛でオオバコと較べて大形となり、葉が斜めに立ち、鋸歯があまり目立たず、葉の先がやや尖る。7-8月、長さ40-80cmの花茎を1-5本伸ばし、多数の白色の花を穂状に着ける。1果の中の種子数は8-12個ある<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：真崎 久(2001.9.10撮影)

#### 生息・生育状況

県内では周防大島町、上関町、萩市、長門市の記録がある。北海道、本州、四国、九州に分布し、海岸近くの道端や草地に生育する<sup>(47,51,52)</sup>。国外では台湾に分布する<sup>(37)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や除草剤の散布。

- 783 -

シソ目 オオバコ科 1205100303200 <b>ハマクワガタ</b> <i>Veronica javanica</i> Blume	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本・越年生草本。茎は高さ10-30cm、密に縮れた毛があり基部で枝を出す。葉は三角状卵形で薄く対生し、長さ1.5-4cm、幅1-2.5cm、縁に鈍鋸歯があり、葉柄は下部の葉にはがあるが上部になるにしたがい短くなり無柄となる。花は4-6月ごろ茎の上部の葉腋につき、花冠は薄いろり色で4裂し、径2-2.5mm<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では周防大島町、上関町、田布施町の記録がある。本州（神奈川県以西）、四国、九州、琉球に分布し、海岸付近の裸地や疎生地に生育する。国外では中国、東南アジア、インド、アフリカ、南アメリカに分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>6</sup>。

#### 減少等の要因

庭や道路などのコンクリート化。

- 784 -

シソ目 アゼナ科 1205100501000 <b>シソバウリクサ</b> <i>Vandellia setulosa</i> (Maxim.) T.Yamaz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は多数分枝して斜上し、長さ20-30cmになり、まばらに毛がはえる。葉は対生し、短い柄があり、卵形または卵円形で先は鈍く、中部以上に鋸歯があり、長さ8-16mm、幅7-13mm、表面にまばらに短い毛がはえる。夏から秋にかけて、葉の脇から細長い花柄を出し、小さな白い花を開く。花冠は長さ6mm、下部は筒となり上部は2裂して唇形、下唇は3裂する。雄しべは4本あるが、下側の2本は葯が無くこん棒状<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1996.10.6撮影)

#### 生息・生育状況

紀伊半島、四国、奄美(大島・徳之島)に分布し、林縁のやや湿った道端に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では植生の遷移などにより、見出すことができない状況になっている。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 785 -

シソ目 シソ科 1205100603200 <b>フトボナギナタコウジュ</b> <i>Elsholtzia nipponica</i> Ohwi	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は四角形で分枝し、高さ30-60cm。葉は広卵形、長さ2.5-7cm、幅1.5-4cm。苞葉は扇円形で、先の方で幅広く、縁に長縮毛があり、背面には短軟毛がある。花は9-10月ごろ開き、花冠は淡紅色で毛があり、長さ4-5mm。花穂の長さ2-5cm、幅約1cm。強い香気がある。近縁種のナギナタコウジュは葉がやや細長く、苞葉は中央部が幅広く、縁に短毛があり、背面は無毛、花穂が細いなどの点で異なる<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2018.9.8撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、周南市、美祢市、下関市の記録がある。本州（岩手県以南）、九州に分布し、山地の寒冷な道端に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や温暖化、植生の遷移進行、除草剤散布などによる生育環境の悪化。

シソ目 シソ科 1205100606700 <b>ホソバヤマジソ</b> <i>Mosla chinensis</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	VU
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。高さ10-30cm、茎は紫色を帯び、下向きの毛がある。葉は披針形～広線形で鋭頭、少数の低い鋸歯があり、長さ1.5-3cm、幅2-6mmで両面に微毛がある。花期は9-10月。萼は果時7-8mm。カルバクロームを含む<sup>(51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2016.10.29撮影)

**生息・生育状況**

県内では山口市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（中国地方）、九州に分布し、火山岩の林縁や道端に生育する<sup>(51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国に分布する<sup>(51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 シソ科 1205100607600 <b>トラノオジソ</b> <i>Perilla hirtella</i> Nakai	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は高さ約50cm、四角形で長い白色の軟毛が密生している。葉は対生し、毛のある長い柄があり、広楕円形で先は尖り、粗い鈍鋸歯がある。葉の上面には長い毛がまばらに生え、下面には細かい腺点があり、シソと同じ香りがある。秋、枝先に円柱状の花穂を出し、多数の唇形花を密につける。花冠は上唇の先が浅くへこみ、下唇の側片は短く中央片がやや大きい。雄しべ4本、雌しべ1本。萼は花時長さ3mm、果時5-6mm<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2007.10.6撮影)

#### 生息・生育状況

県内では上関町、下松市、萩市の記録がある。本州、四国、九州に分布し、沿海地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 788 -

シソ目 シソ科 1205100607700 <b>セトエゴマ</b> <i>Perilla setoyensis</i> G.Honda	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。高さ50-100cm。茎には下向きの短軟毛が密生する。葉は対生し、広卵形で先は尖り、長さ10-13cm、幅6-8cm。8-10月、80-100個の花からなる総状花序を枝先につける。花冠は白色で長さ4-5mm。苞は卵円形で鱗状に密着し、縁に0.5-1mmの長毛が密生する。



提供：山根文人(2015.10.5撮影)

#### 生息・生育状況

県内では周防大島町の記録がある。本州(近畿地方以西)、四国に分布し、半日陰の林縁道端や低草地に生育する。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 789 -

シソ目 シソ科 1205100608000 <b>ミズネコノオ</b> <i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は高さ15-50cmで軟らかく全体無毛。葉は通常3-4枚輪生し、長さ2-6cm、幅2-4mm、無毛。8-10月茎頂に密生した花序を着け、花冠は白色または淡紅色で長さ約3mm、4裂する<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では山口市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州、四国、九州、奄美に分布し、水田や湿地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、東南アジア、インド、オーストラリアに分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地がきわめて限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 790 -

シソ目 シソ科 1205100609000 <b>コナミキ</b> <i>Scutellaria guilielmii</i> A.Gray	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。細長い地下茎を伸ばす。茎は分枝し高さ20-40cmで無毛か少し開出毛がある。葉は広卵形ないし卵円形で先は丸く、基部は心形、葉身の長さ1-2cm、少数の円鋸歯で両面に毛がある。花は5月ごろ開き白色、花冠は長さ7-8mmで筒部はわずかに曲がる<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2014.5.11撮影)

#### 生息・生育状況

県内では光市、山口市の島しょ部の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球に分布し、海岸に近い裸地～疎生地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 791 -

シソ目 シソ科 1205100610000 <b>ヤマタツナミソウ</b> <i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transitra</i> (Makino) H.Hara	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。細長い地下茎があり、茎は四角形で高さ10-25cm、上向きの白毛がある。葉は卵状三角形で長さ1.5-4cm、幅1-3cm、両面に粗毛がある。花は5-6月に開き青紫色、花冠は長さ7-8mm、基部で約60度に斜上する<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では周防大島町、萩市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、山地の木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 792 -

シソ目 シソ科 1205100610100 <b>ミヤマナミキ</b> <i>Scutellaria shikokiana</i> Makino var. <i>shikokiana</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。細長い地下茎を伸ばす。茎はふつう枝分かれせず、高さ5-15cm、通常無毛、ときにまばらな腺毛がある。葉は卵状三角形で薄く鈍頭の粗鋸歯があり、長さ2-3cm、幅1.5-2.5cm、上面にしばしば腺毛があり、4枚くらいが対生する。花は7-8月ごろまばらに着き、花冠は白色でわずかに淡紅色を帯び、長さ7-8mm、基部でからゆるく斜上する<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2006.8.15撮影)

**生息・生育状況**

県内では周南市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、山地の木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 793 -

シソ目 シソ科 1205100610900 <b>エゾニガクサ</b> <i>Teucrium veronicoides</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。細長い地下茎を伸ばす。茎は高さ20-30cmで直立し、長さ1-2mmの開出毛が多い。葉は卵形～広卵形、両面に粗毛があり、長さ2.5-4cm、幅1.5-2.5cm、1-2cmの葉柄がある。花は8月ごろ開き、花冠は淡紅色、長さ約8mmである<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1999.7.24撮影)

#### 生息・生育状況

県内では萩市、美祢市の火山岩、石灰岩に記録がある<sup>(12)</sup>。北海道、本州、九州に分布し、山地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少ない。佐賀県は現状不明で、本県が日本西南限地となる<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 794 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101000200 <b>オオナンバンギセル</b> <i>Aeginetia sinensis</i> G.Beck	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生寄生植物。ヒカゲスゲやシバスゲ、ヒメノガリヤスなどの根に寄生する。ナンバンギセルに比して大形。花柄も太く高さ20-30cmに達する。花は7-9月に開き、花冠は淡紅紫色、長さ4-6cmで裂片の縁に細かな歯牙がある<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、周南市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州、四国、九州、琉球に分布し、山地の草原に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 795 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101000300 <b>ゴマクサ</b> <i>Centranthera cochinchinensis</i> (Lour.) Merr. var. <i>lutea</i> (H.Hara) H.Hara	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 VU
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。全体にかたい毛がはえ、茎は直立し、高さ10-60cm、ほとんど枝を出さず、円柱形。葉は対生し、皮針形で先は尖り、葉柄は無く、長さ1.5-6cm、幅2-8mm、全縁。上部の葉は小形で苞葉となり、互生する。8-9月、茎の上部に花のまばらについた穂状花序をつくり、黄色の花を開く。花冠は釣鐘型で、がくの裂け目からのび、長さ約2cm、先端は5裂し、2本ずつ長さの異なる雄しべが4本ある<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では山口市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布し、日当たりの良い湿地の草原に生える<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、インドシナ、フィリピン、タイに分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 796 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101000400 <b>キュウシュウコゴメグサ</b> <i>Euphrasia insignis</i> Wettst. subsp. <i>iinumae</i> (Takeda) T.Yamaz. var. <i>kiusiana</i> (Y.Kimura) T.Yamaz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は基部で分枝して小さな株をつくり、高さ7-25cm。葉は下部のものは対生、中部以上は一部互生し、葉が卵形で鋸歯が鋭くとがり、基部は幅広いくさび形で、ほとんど無柄。7-9月、花は上部の葉腋ごとに1花ずつつき、白色。苞は葉状で小さい。萼は短く広鐘形で、4裂する。花冠は白色で、上唇内側に紫色の条があり、下唇の内側には黄斑があり、長さは萼の2.5-3倍<sup>(51,52)</sup>。



**生息・生育状況**

県内では岩国市、山口市の記録がある<sup>(12)</sup>。九州北西部、中国地方、近畿北部に分布し、山地の日当たりの良い裸地～疎生地に生育する<sup>(51,52)</sup>。

提供：眞崎 久(1994.7.31撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 797 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101000500 <b>タチコゴメグサ</b> <i>Euphrasia maximowiczii</i> Wettst. var. <i>maximowiczii</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

半寄生一年生草本。茎は直立し15-30cm、上部で分枝し下向きの短毛がある。葉は卵円形、両面ともに無毛で長さ6-10mm、幅4-8mm。花は8-9月ごろ開き、花冠は白色で紫色の条があり長さ6-7mm、下唇と上唇はほぼ同長<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では山口市、萩市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州、四国、九州に分布し、山地の日当たりのよい裸地～疎生地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 798 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101000600 <b>ツクシコゴメグサ</b> <i>Euphrasia multifolia</i> Wettst. var. <i>multifolia</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

半寄生一年生草本。茎は直立し高さ10-35cm、上部で分枝し下向きの短毛がある。葉は卵状長楕円形または長楕円形、両面ともに無毛で長さ6-10mm、幅4-6mm。花は9-10月ごろ開き、花冠は長さ5-6mm、白色で紫色の条がある<sup>(51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では岩国市、山口市、萩市、長門市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（中国地方、長野県）、四国、九州に分布し、日当たりのよい山地の草地に自生する<sup>(51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 799 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101000700 <b>ケヤマウツボ</b> <i>Lathraea japonica</i> Miq. var. <i>miqueliana</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生の寄生植物。高さ約15cm、地上部の上方に軟毛がある<sup>(52)</sup>。花は4-5月、花冠は紫色を帯びる。



提供：高田義弘(2018.4.29撮影)

**生息・生育状況**

県内では山口市の記録がある。本州・九州に分布し、山地のやや湿気のある落葉樹林内に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

森林伐採や植林、植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 800 -

シソ目 ハマウツボ科 1205101001200 <b>クチナシグサ</b> <i>Monochasma sheareri</i> (S.Moore) Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

半寄生越年生草本。茎は斜上して長さ15-60cm、根際で数本に分かれ株となる。下部には短い鱗片状の葉で覆われ、白毛がある。葉は広線形で対生し、上部ほど大きくなり、長さ20-35mm、幅2-3mm。花は5-6月ごろ葉腋に着き、長さ2-8mmの花柄がある。花冠は淡紅紫色、筒状で長さ10-12mm、2唇形、下唇は3裂し中央の裂片はもっとも大きく喉部に2つの溝がある<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では山口市、山陽小野田市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（関東地方、中京地方、中国地方）、四国、九州北部に分布し、日当たりのよい丘陵地の落葉樹林内疎生地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では中国に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 801 -

モチノキ目 モチノキ科  
1205200201300

## ミヤマウメモドキ

*Ilex nipponica* Makino

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

落葉性低木。高さ6mくらいになり、雌雄異株。6月頃新枝の葉腋に長さ2-5mmの花序軸を伸ばし、散形状に花をつける。雄花序は4-6花をつけ、花柄はやや太く長さ3-7mm。萼片は三角状広卵形で先は鈍いかややとがり、縁に毛がある。花卉は白色、楕円形で、雄花では長さ約1.8mm、雌花では約2mm。果実は球形で径約6mm、赤熟し、4個の種子を持つ。果柄は長さ3-8mm。葉柄は長さ5-11mm。葉身は倒披針形、先はとがり基部は鋭形で葉柄に流れ、長さ3-10cm、幅1.5-5cm。近縁種のウメモドキは葉が楕円形から長楕円形で、葉柄は長さ4-8mmと短い。<sup>(6,54)</sup>



提供：眞崎 久(2001.10.7撮影)

### 生息・生育状況

本州の東北地方・中部地方・近畿地方北部に分布する。温帯域の山地の日当たりの良い湿原に生える。県内では阿武町にのみ記録される。

### 選定理由

本県が西南限産地である。県内の生育地は限定されるうえ、大きな群落は林道開発の際、湿地が埋められ、減少した。近年、一部が県の自然記念物として保護されることになった。<sup>(6)</sup>

### 減少等の要因

遷移による湿地の陸化及び周辺の伐採・開発により湿地そのものが乾燥化しつつあり、加えて温暖化の影響も懸念される。

- 802 -

キク目 キキョウ科  
1205300100100

## ソバナ

*Adenophora remotiflora* (Siebold et Zucc.) Miq.

### カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は高さ50-100cmで直立するが、上方は傾き、ときに分枝し、無毛かまばらに毛のあるものがある。茎葉は常に互生し、三角形から卵形、披針形でときに線形、長さ2-10cm、やや薄く柔らかで、縁に粗い鋸歯があり、基部は普通心形で、長い柄がある。上部の葉は小型で柄がない。花期は7-9月、総状花序につくか、あるいは長く斜上する枝を持つ円錐花序につく。萼裂片は披針形で全縁、長さ5-12mm。花冠は青紫色、漏斗状鐘形で、長さ2-4cm、裂片はやや反り返る。花柱はふつう突き出ない。<sup>(秋丸2)</sup>



提供：眞崎 久(2017.8.26撮影)

### 生息・生育状況

温帯域の山地斜面の草地に生える。本州から九州、朝鮮半島・中国に分布する。県内では岩国市のみから記録される。

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

### 減少等の要因

遷移進行や、周辺の林分の開発による生育環境の劣化が懸念される。

- 803 -

キク目 キキョウ科 1205300100600 <b>ツルギキョウ</b> <i>Codonopsis javanica</i> (Blume) Hook.f. et Thomson subsp. <i>japonica</i> (Makino) Lammers	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

つる性の多年生草本。太い根茎があり、茎は細く長く伸びる。葉は互生または対生し、葉身は卵心形で先は鈍く、長さ3-9cm、薄くて粉白色をおび、長さ2-6cmの長い柄がある。花期は8-10月、単生し、長さ1-2cmの柄があり葉に対生して下垂する。萼裂片は広披針形、全縁で長さ8-10mm。花冠は広い鐘形で、長さ10-15mm、淡緑色あるいは白色で内面は淡紫色、先は中部まで5裂し、裂片は狭卵形で先はとがり、反り返る。雄蕊は5個、直立し、葯は長楕円形で花柱を取り巻く。子房は5室。液果は扁球形で径10-12mm、種子は卵状楕円形で多数。<sup>(秋丸2)</sup>

NO IMAGE

### 生息・生育状況

暖帯域の山地にまれに生える。関東以西の本州、四国、九州、台湾・中国南部に分布する。県内では下関市、山口市から記録されるが、下関市では現状不明となっており、消滅したものと思われる。<sup>(秋丸13)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

### 減少等の要因

もともと個体数が少なく、草刈りや林道工事等で消滅したのものもあるようだ。

- 804 -

キク目 キキョウ科 1205300100800 <b>バアソブ</b> <i>Codonopsis ussuriensis</i> (Rupr. et Maxim.) Hemsl.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 VU

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

つる性の多年生草本。全体に白毛を散生する。ツルニンジンに似ているが、全体に小型で塊根は短く、球形。葉に2型あり、主軸の葉は互生し卵形で、長さ0.6-2cm、側枝の葉は披針形～広披針形ときに卵形で、長さ2-5cm、3-4枚集まりときに偽輪生となる。葉の裏は粉白色で白毛が密生する。ツルニンジンの葉裏は粉白をおびるが、無毛。花期は8-10月。花冠は小さく、萼裂片は長さ10-15mm。種子には翼がない。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(2015.8.1撮影)

### 生息・生育状況

山地の林下にまれに生える。北海道～九州、朝鮮半島・中国東北部・ウスリー・アムールに分布する。県内では岩国市のみから記録される。

### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく僅かである。

### 減少等の要因

もともと個体数が少ない上、遷移進行により、極めて危険な状況にある。

- 805 -

キク目 ミツガシワ科 1205300200100 <b>ミツガシワ</b> <i>Menyanthes trifoliata</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

湿生または水生の多年生草本。根茎は太くて長く、這う。根出葉は3小葉からなり、小葉は卵状楕円形または菱状楕円形で厚く、長さ4-8cm、幅2-5cm、先は鈍く、縁に鋸歯があるか、やや全縁である。柄は基部が鞘となる。花は総状花序につき、花期は4-8月、花茎は高さ20-40cm、花冠は径10-15mmの漏斗形で白色、ときに淡紫色をおび、5中裂する。花冠裂片は三角状卵形で内面に毛がある。蒴果は球形で径5-7mm、2裂する。種子は円形でやや扁平、径2-3mmあって黄赤色で光沢がある。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(2016.4.17撮影)

### 生息・生育状況

水湿地または浅い沼などに生える。南千島(色丹島・歯舞群島)・北海道・本州・九州に生え、北半球の温帯と亜寒帯に広く分布する。ふつうは高地の湿原や沼に生えるが、低地にも残存植物としてところどころに産する。県内では、下関市、山口市、周南市、阿武町から記録される。

### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も少ない。阿武町を除いては本来の自生かどうか疑問もある。<sup>(6)</sup>

### 減少等の要因

ため池の改修工事で大きなダメージを受けたところがある。ミゾソバなど高草の被覆による日照不足。

- 806 -

キク目 キク科 1205300301400 <b>カワラハハコ</b> <i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>yedoensis</i> (Franch. et Sav.) Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎はゆるく散開状に叢生し、高さ30-50cm、中部以上でよく分枝する。葉は線形で長さ3-8cm、幅は約1.5mmで縁は著しく裏側に巻き、表面は薄く、裏面には密に灰白色の綿毛を生じる。花期は8-10月。頭花は多数枝先に散房状につく。総苞は球形で、総苞片は3-4列、上部は白色乾膜質、中部以下は黄褐色。母種のヤマハハコは葉の幅が5-15mmあり、本州の中部以北に分布する。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(1998.11.3撮影)

### 生息・生育状況

礫質または砂質の河原に生える。北海道から本州、四国、九州に分布する。県内では、山口市、萩市から記録されるが、いずれも現状不明である。

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

### 減少等の要因

河川改修等で河原の状況が不安定で、さらに遷移進行もあり、減少している。

- 807 -

キク目 キク科 1205300301500 <b>ホソバノヤマハハコ</b> <i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>margaritacea</i> var. <i>angustifolia</i> (Franch. et Sav.) Hayata	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎はしばしばゆるく叢生し、直立する。母種のヤマハハコは高さ30-90cmになるが、本種はやや低い。葉も細くて長さ3-6cm、幅2-6mm、狭披針形で、先はやや鈍く、表面に薄く灰白色の綿毛を生じ、裏面は長い綿毛を密生する。花期は8-9月。頭花は多数枝先に散房状につき、総苞は球形。総苞片は4-5列、乾膜質で基部を除き白色。<sup>54</sup>



提供：高田義弘(2000.9.20撮影)

#### 生息・生育状況

日当たりの良い山地の疎生地に生える。長野県南部以西の本州・四国・九州の山地に生え、中国にも区別できない型がある。県内では長門市、周南市、周防大島町など広範囲に山頂部の稜線に記録されたが、山口市を除き、ほとんどの場所で現状不明となっている。

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

山地草原の遷移進行により、生育地が減少している。また、温暖化も減少の一因となっていると思われる。

- 808 -

キク目 キク科 1205300307300 <b>ノッポロガンクビソウ</b> <i>Carpesium divaricatum</i> Siebold et Zucc. var. <i>matsuei</i> (Tatew. et Kitam.) Kitam.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は直立し、上部は多く枝を分ける。ホソバガンクビソウに似るが、少し丈が高い。株の茎葉の葉身は大きく幅広く、卵形で長さ7.5-14cm、幅5-11cm、鋭頭～鋭尖頭、基部は切形か心形となり、葉柄には上部を除いて翼がない。総苞は鐘球形～半球形で、長さ(5-)6-6.5mm、径(5-)6-10mm(標本では幅10-15mm)、総苞片は3列あり、すべて同長か、最外片のみ少し短い。母種のガンクビソウは頭花の総苞片は扁球形、総苞片は覆瓦状に並び、その外片は次第に短小となる。<sup>6, 54</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

冷涼な山地の林内や林縁の半陰地に生える。冷温帯を中心に生育し、北海道と滋賀県以北の本州に分布する。県内では、周南市のみから記録される。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。北方系の種が中国地方の他県を越えて本県に分布していることは植物地理上重要である。<sup>6</sup>

#### 減少等の要因

もともと個体数が少なく、温暖化によるダメージが懸念される。

- 809 -

キク目 キク科 1205300309200 <b>アキヨシアザミ</b> <i>Cirsium dipsacolepis</i> (Maxim.) Matsum. var. <i>calcicola</i> (Nakai) Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は直立し、単純で分枝しないか上部で分枝する。根出葉は花時に生存しない。下部の茎葉の葉身はやや質が厚く、披針形、長さ10-18cm、細かい鋸歯縁となって羽裂することなく、鋭いとげがある。花は10-11月。頭花は長い柄の先に単生し、直立して咲く。総苞は腕型～筒型、径10-15mm、緑色で総苞片の縁は紫褐色となり、多少ともくも毛がある。総苞片は8-9列、圧着～斜上あるいは短く開出し、外片は狭卵形、内片の1/3以下。瘦果は上部1/4が灰褐色、下部3/4が暗紫褐色で、染め分けされる。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(2018.10.16撮影)

**生息・生育状況**

山口県美祿市秋吉台の石灰岩草原地に特産する。

**選定理由**

秋吉台において進化した固有種で、近縁のモリアザミ、ヤナギアザミとの関係を知る上で大変貴重である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

もともと生育地が限定されているが、近年はシカによる食害も懸念される。

キク目 キク科 1205300309700 <b>ヤナギアザミ</b> <i>Cirsium lineare</i> (Thunb.) Sch.Bip.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。高さ70-120cmになり、茎は直立し、中部でよく分枝する。根出葉は花時には生存しない。中部の茎葉の葉身はかたく、披針形～線形、長さ5-20cm、幅0.3-2cm、全縁またはごく浅く羽裂する。花は9-11月。頭花は普通3-5個が散房状にまばらにつくかあるいは単生し、上向きまたは斜め上向きに咲き。総苞は腕形～広鐘形、くも毛がある。総苞片は8-9列、圧着し、内片に付属体があり、紅紫色で乾膜質、縁に粗い鋸歯がある。花冠は長さ15-19mm、濃紅紫色、狭筒部は長さ8-9mm、広筒部の3倍長。瘦果は上部1/4が黄緑色、下部3/4が暗褐色。<sup>(54)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

低地から山地の疎生～低草地に生える。山口県・四国・九州・朝鮮半島・台湾・中国・ベトナム・タイに分布する。石灰岩や火山岩、蛇紋岩を好む。県内では、周南市、下松市、光市、周防大島町から記録されるが、近年の報告はなく、いずれも現状不明となっている。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体群、個体数ともに著しく減少している。本県はこの種の北限域であり、植物地理学上重要である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

もともと個体数が少ない上に、近年疎生～低草地の減少や遷移進行などにより、減少したものと思われる。

キク目 キク科 1205300309900 <b>ヨシノアザミ</b> <i>Cirsium nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>amplifolium</i> (Kitam.) Kitam. ex Kitam. et Murata	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	VU
環境省	2019	-	

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は直立～やや斜上し、中部以上でよく分枝する。根出葉と下部の茎葉は花時には生存しない。中部の茎葉の葉身は草質、卵形、羽状に浅裂～深裂し、鋭いとげがある。花は9-12月。頭花は数個が散房状にまばらにあるいは密集してつき、點頭して下向きに咲く。総苞は腕形～鐘形～広筒形～狭筒形、緑色または明紫褐色、多少ともくも毛がある。総苞片は8-9列(イズモアザミでは11-12列)、草質、圧着して先端が反曲あるいはごく短く反曲し、総苞外片は狭卵形、長さ約5mm、内片よりも明らかに短い。花冠は長さ18-22mm、淡紅紫色。<sup>(54)</sup>



提供：山口県立山口博物館所蔵

### 生息・生育状況

低山から山地の夏緑林や常緑林の林縁や林間の草地に生える。本州中部～西部(北陸・近畿地方～中国地方東部)・四国(全域)に分布する。山口県で従来ヨシノアザミと言われたものはほとんどがイズモアザミと判明している。県内では上関町から記録されたもののみである。

### 選定理由

本来の分布域から離れており、重要である。個体数もごく少数である。

### 減少等の要因

もともと個体数も少なく、生育地もごく僅かである。

- 812 -

キク目 キク科 1205300311400 <b>ヒゴタイ</b> <i>Echinops setifer</i> Iljin	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
環境省	2019	VU	

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。高さ1-2m、茎は直立し、上部で少し分枝し、くも毛と多細胞の褐色の長毛がある。根出葉の葉身は楕円形から倒披針状楕円形、長さ15-25cm、幅7-14cm、2回羽状深裂する。葉の上面には多細胞の縮れ毛があり、下面はくも毛が密生して雪白となり、縁にとげがある。茎葉も羽状深裂する。花は8-10月。多数の頭花が集合して、球形の複花序となる。複頭状花序は1-3個、径4-5cm。花冠は長さ11-13mm、瑠璃色、まばらに腺点がある。瘦果は円柱状、長さ6mm、伏毛は黄褐色。冠毛は長さ1.5mm。<sup>(54)</sup>



提供：真崎 久(1998.7.21撮影)

### 生息・生育状況

低地から山地の乾いた草原に生える。本州(愛知県・岐阜県・鳥取県・広島県・山口県)・九州(長崎県・大分県・熊本県)、朝鮮半島、中国(山東省・河南省)に分布する。県内では萩市にのみ記録される。

### 選定理由

県内では生育地が日本海の小島に限定されており、個体数も少数に過ぎない。大陸系要素のひとつで、植物地理学上重要である。<sup>(6)</sup>

### 減少等の要因

もともと個体数が少なく、遷移進行や温暖化による衰退が懸念される。

- 813 -

キク目 キク科 1205300311700 <b>ウスベニニガナ</b> <i>Emilia sonchifolia</i> (L.) DC. var. <i>javanica</i> (Burm.f.) Mattf.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

一年生草本。高さは10-50cmになり、茎はやわらかく、下部から分枝する。下部の茎葉は緑白色でやや厚く、茎の下部に集まり、葉身は倒卵状楕円形、長さ5-10cm、幅2-7cm、頭大羽状浅裂し、両面ともに縮れた毛を散生し、葉柄には狭い翼があり、茎を抱く。花は8-11月。頭花は茎頂のまばらな散房花序に2-5個つき、細い柄の基部に卵状披針形の苞が1-2個ある。総苞は狭筒形、基部に苞葉はない。筒状花の花冠は紅紫色、長さ9mm、5裂し、裂片は長さ1.5mm。瘦果は長さ2.5mm。冠毛は長さ8mm、雪白色。<sup>(54)</sup>



提供：南 敦(2009.8.16撮影)

### 生息・生育状況

畑の畦や道ばたの崖などに生える。本州(関東地方・東海地方・紀伊半島・中国地方)～琉球・小笠原諸島、アジアとアフリカの熱帯に広く分布する。県内では上関町、周防大島町から記録される。

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数にすぎない。南方系の植物で、中国地方では他に広島県呉市の記録があるのみである。<sup>(6)</sup>

### 減少等の要因

遷移進行、道端は除草剤散布により衰退する。

- 814 -

キク目 キク科 1205300312800 <b>イズハハコ</b> <i>Conyza japonica</i> (Thunb.) Less.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	VU
	環境省	2019	VU

### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

一～越年生草本。全体に灰白色の軟毛が多い。茎は高さ25-55cm。葉は下部にロゼッタ状に集まり、長楕円形で円頭、基部は有翼の葉柄となり、鈍鋸歯または歯牙があり、長さ5-13cm、幅1.2-4cm、両面に軟毛がある。中部の葉は倒披針状長楕円形で長さ5-10cm、鈍頭、基部は茎を抱く。花は3-10月。頭花は長球形～円柱形、径約8mm、茎の先に密に集まる。周辺に多数の雌花、中心部に多数の両性花があり、いずれも細い筒状。瘦果は扁平、長さ約1mmで、まばらに毛がある。冠毛は長さ約4.5mm、汚白色または赤褐色をおび、密にあって綿のようである。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(1994.12.17撮影)

### 生息・生育状況

日当たりの良い崖に生える。暖帯～熱帯に生育し、関東以西の本州の海岸から四国・九州・琉球、中国・マレーシア・インド・アフガニスタンに分布する。県内では、萩市、下松市、柳井市、上関町やその他広範囲で記録されていたが、近年の報告はなく、多くの場所で現状不明となっている。

### 選定理由

急速に個体数が減り、危機的状況となっている。

### 減少等の要因

裸地や疎生地に生育する植物で遷移進行や、開発等で生育地が狭まれ、減少したものと思われる。

- 815 -

キク目 キク科 1205300316100 <b>ホソバニガナ</b> <i>Ixeridium beauverdianum</i> (H.Lév.) Springate	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

多年生草本。茎は高さ20-40cm。根出葉は花時にも残り、線状披針形、長さ5-15cm、幅3-8mm。茎葉は普通3個、線状披針形で、基部は茎を抱かない。花は5-8月。頭花は黄色で小さく、直径約1cm、小花は5-6個ある総苞は約4mm。瘦果は長さ約3mm、10肋があり、ごく短い嘴がある。冠毛は白色、約2mm。近縁種のニガナは総苞の長さ5-8mmで、瘦果は3mm以上となる。<sup>(54)</sup>

【執筆者：秋丸浩毅】



提供：眞崎 久(2015. 11. 1撮影)

#### 生息・生育状況

関東以西の本州～九州に分布するが、稀な植物である。中国～ヒマラヤにも分布する。県内では、宇部市、防府市、山口市、田布施町から記録される。

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数にすぎない。

#### 減少等の要因

もともと個体数が少ない上、遷移進行により生育地が狭められている。

- 816 -

キク目 キク科 1205300317100 <b>カワラニガナ</b> <i>Ixeris tamagawaensis</i> (Makino) Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

多年生草本。しばしば大株になる。茎は高さ15-30cm。葉は線形で長さ8-15cm、幅3-5mmで、縁にはときどきまばらな凸頭の歯牙がある。花は黄色、5-8月に咲く。花時に根出葉が残る。頭花の径15-20mm、小花は28-40個、総苞は長さ9-10mm。瘦果は長さ約6mmで、約6mmの嘴があり、翼状の10肋がある。冠毛は白色で5-6mm。ホソバニガナは総苞が細く、頭花は5-6個の黄色の小花からなる。<sup>(54)</sup>

【執筆者：秋丸浩毅】

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

河原の礫地に生える。中部以北の本州に分布する。県内では宇部市のみから記録されるが、現状不明となっている。

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数にすぎない。北方系の植物で植物分布上重要である。

#### 減少等の要因

もともと個体数が少ない上、遷移進行等で生育環境が悪化しているものと思われる。

- 817 -

キク目 キク科 1205300317400 <b>チョウセンヤマニガナ</b> <i>Lactuca raddeana</i> Maxim. var. <i>raddeana</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

一年生草本または越年生草本。基本種のヤマニガナに似て、高さ60-200cmになり、根出葉は花時に枯れる。花は8-9月。狭い円錐花序に多くの頭花をつける。頭花は径1cm内外、上向きに咲く。基本種のヤマニガナは、小花が黄色で瘦果が長さ3.5-4mm、両面に各3肋に対し、本種は小花が淡黄色、瘦果が長さ2.5-3mm、両面に各4-5肋あるので区別できる。<sup>(54)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

山地の林の縁や草原に生える。本州(山口県)・九州、朝鮮半島・中国(北部・東北)・ウスリー・アムールに分布する。県内では平生町から記録されたが、その後現状不明となっている。

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数にすぎない。大陸系要素で植物地理学上重要である。

#### 減少等の要因

北方系の植物で、もともと個体数がごく少ない。温暖化、遷移進行も減少の一因と思われる

- 818 -

キク目 キク科 1205300318300 <b>オタカラコウ</b> <i>Ligularia fischeri</i> (Ledeb.) Turcz.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。高さ1-2mになり、群生することが多い。茎はほとんど無毛で、葉柄とともにしばしば紫色をおびる。根出葉の葉身は腎心形、長さ32cm、幅40cmに達し、長い葉柄がある。茎葉は3個で、上部のものは小さい。花は7-10月。花序は総状で、長さ75cmに達する。頭花の柄は長さ1-9cm、上向きに咲き、花が終わると點頭する。総苞は筒状鐘形、長さ10-12mm。舌状花は5-9個、花冠は長さ20-30mm、幅2-4mm。冠毛は長さ6-10mm、筒状花の花冠よりも明らかに短く、褐色または紫褐色を帯びる。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(1999.9.4撮影)

#### 生息・生育状況

山地から亜高山の水流や湿地の縁に生える。山形県以南の本州～九州、サハリン・シベリア東部・中国に分布する。県内では岩国市のみから記録される。

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数にすぎない。大陸系要素で植物地理学上重要である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

もともと個体数が少なく、温暖化や遷移進行などでの衰退が懸念される。

- 819 -

キク目 キク科 1205300319000 <b>フクオウソウ</b> <i>Nabalus acerifolius</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は直立し高さ35-100cm、全体に開出する腺毛が多い。根出葉は有翼または無翼の長柄があり、葉身は円心形で3-7裂し、長さ幅とも6-10cm。8-9月、円錐花序に多数の頭花をつける。頭花は径約1.5cm、横または下向きに咲く。総苞は長さ11-12mmで、下部には腺毛があり、2列で外片は卵形または卵状長楕円形で鈍頭、長さ2-3.5mm、内片は7-10個。小花は10-13個つき、舌状花冠は紫白色、裏面に黒い条があり、長さ11-13mm、筒部は長さ4.5-5mmで、無毛。瘦果は円柱形、わら色で、長さ4-5.5mm、幅1mm、切頭。冠毛は長さ8-9mm。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(1999.8.22撮影)

#### 生息・生育状況

山の木陰に生える。北海道～九州に分布する。県内では岩国市のみから記録されるが、現状不明となっている。

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数である。広島県でも記録がなく、植物地理学上重要である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

もともと個体数が少なく、遷移進行や温暖化での衰退が懸念される。

- 820 -

キク目 キク科 1205300319600 <b>テバコモミジガサ</b> <i>Parasenecio tebakoensis</i> (Makino) H.Koyama	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。横走する細長い地下茎を伸ばし、先端に新植物をつける。茎は直立し、高さ40-60cmになり、分枝しない。下部の茎葉の葉身は円形、長さ3.5-10cm、幅5-17cm、掌状に5-7中裂し、両面に縮毛が散生し、葉裏の脈が隆起して目立つ。花は8-10月。頭花は円錐状に斜上～横向きにつき、花柄は長さ1-5mm。総苞は狭筒形、長さ5-6mm。小花は頭花あたり5-6個。花冠は長さ7-7.5mm。瘦果は円柱形、長さ5mm。冠毛は長さ5mm、白色。近縁のモミジガサは葉裏の脈は隆起せず目立たないほか、地下茎も短く、頭花の総苞は長さ8-9mmである。<sup>(54)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

夏緑林の林床に生える。本州(関東～近畿地方の太平洋側)・四国・九州に分布する。県内では岩国市のみから記録されるが、現状不明となっている

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数である。日本固有種で、本州では近畿地方から飛んで本県に出現する稀少種であり、植物分布上重要である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

もともと個体数が少なく、遷移進行や温暖化による衰退が懸念される。

- 821 -

キク目 キク科 1205300320800 <b>アキノハハコグサ</b> <i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard et B.L.Burt	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 VU
	環境省	2019 EN

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

一年生草本。茎は1本か数本叢生して直立し、高さ30-80cm。上部で分枝し、白い綿毛がある。根出葉はない。茎葉は披針形で長さ4-5cm、幅3-7mm、鋭頭で基部は少し広がり半ば茎を抱く。表面は緑色で、しばしば薄く綿毛があり、裏面は密に綿毛があつて白い。花期は9-11月、黄色の頭花が茎や枝の先に多数散房状に集まってつく。総苞は球鐘形で長さ約4mm、径6-7mm。総苞片は5列で淡黄色、開花後は開出する。外片は短くて白毛がある。瘦果は長さ約0.5mm、細点がある。冠毛は汚白色で長さ約3mm。染色体数 $2n=14$ 。<sup>(54)</sup>

NO IMAGE

### 生息・生育状況

本州～九州に分布し、やや乾いた山地や草原に生える。県内では萩市、山口市、周南市、柳井市に記録される。<sup>(山根5)</sup>

### 選定理由

現在では県内の生育地、個体数とも減少しており、貴重である。

### 減少等の要因

草地の開発や管理放置、道路工事などによる生育地の減少、環境悪化による。

- 822 -

キク目 キク科 1205300321700 <b>キクアザミ</b> <i>Saussurea ussuriensis</i> Maxim. var. <i>ussuriensis</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は直立し、高さ30-120cm、翼はない。根出葉は花時にも残る。根出葉や下部の互生する茎葉は卵形で、長さ7-18cm。質がかたく、羽状に浅～中裂する。葉の両面とも褐色毛が少しあるか無毛で、基部は心形～切形、葉柄は長さ5-20cm。花期は9-11月、淡紅紫色の頭花が多数散房状につき、頭花の径は9-14mm、花柄は長さ5-30mm。総苞は筒形で長さ12-13mm、径4-7mm。総苞片は5-8列、外片は楕円形～卵形で、先端は急に短くとがる。瘦果は長さ4.5mm、冠毛は2列。染色体数 $2n=26$ 。<sup>(54)</sup>



提供：松井茂生(2008.10.4撮影)

### 生息・生育状況

本州（福島県以南）・九州に分布し、山地の日当たりの良い草原や夏緑林の林縁に生える。県内では下関市、美祢市に記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

県内の生育地は限定され、個体数もごく少数で貴重である。大陸系要素の一つであり、植物地理学上も重要である。

### 減少等の要因

草地の開発、管理放置などによる生育地の環境悪化や減少による。

- 823 -

キク目 キク科 1205300322300 <b>メナモミ</b> <i>Sigesbeckia pubescens</i> (Makino) Makino	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

一年生草本。茎は高さ60-120cmで、上部には開出軟毛が密に生える。葉身は卵形～三角状卵形で、長さ7.5-19cm、幅6.5-18cm、両面に短い圧毛がある。葉柄には翼がある。花期は9-10月、頭花は多数つき、径は約20mm、花柄は長さ15-35mmで、柄のある腺が密にある。5個の総苞外片は線形～さじ形で平開し、内片とともに柄のある腺に密におおわれる。舌状花冠は黄色で、長さ3.5mm、幅が広く3裂する。瘦果は黒色、長さ2.5-3.5mm、無毛で冠毛はない。染色体数は $2n=30$ 。<sup>(54)</sup>

【執筆者：山根文人】



提供：山根文人(2018.10.16撮影)

#### 生息・生育状況

北海道～九州の温帯から暖帯上部に生育し、山野の路傍などに多い。県内では下関市、山陽小野田市、長門市、萩市、山口市で記録される。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

現在では県内の生育地、個体数とも減少しており、貴重である。

#### 減少等の要因

温暖化や道路改修などにより生育地が減少する。

- 824 -

キク目 キク科 1205300323200 <b>ハチジョウナ</b> <i>Sonchus brachyotus</i> DC.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	VU
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

多年生草本。茎は高さ30-100cm、葉とともに無毛。根出葉は花時に枯れる。茎葉は長さ10-20cm、幅2-7cm、楕円状長披針形～狭楕円形、鋭頭で基部は茎を抱く。裏面は粉白色。花は8-10月。頭花は黄色、径4-5cm。総苞は長さ1.6-2cmで、密に綿毛をかぶる。総苞片は4-5列、外片は卵形。瘦果は長さ3.5mm。冠毛は長さ1.3cmで純白。染色体数 $2n=18$ 。<sup>(54)</sup>

【執筆者：山根文人】



提供：南 敦(2015.10.24撮影)

#### 生息・生育状況

北海道～九州に分布し、沿海地や疎生地に生える。県内では萩市、光市に記録される。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も少なく貴重である。

#### 減少等の要因

県内では沿海地に生育しており、沿海地開発や改修で減少する。

- 825 -

キク目 キク科 1205300324600 <b>ヤマザトタンポポ</b> <i>Taraxacum arakii</i> Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 VU
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。葉は線状披針形で、長さ30cm、幅4-5cm。鈍頭で、羽状に中裂する。花期は3-5月、花茎は多数つき、花時には葉より短いと同長、はじめ蜘蛛毛があり、上端に密毛がある。頭花は茎3cm程度、総苞は長さ約18mm。外片は密着し長楕円状卵形か卵形。先端は尾状に細まり、角状突起は無いが小型の角状突起がある。縁辺には密綿毛がある。内片は線状披針形で、角状突起はなく、上部は紫黒色。瘦果は淡黄褐色か帯褐色で、長楕円状紡錘形、長さ約5mm。上部には刺状突起、下部にはまばらに瘤状突起がある。<sup>(40)</sup>



提供：山根文人(2017.4.15撮影)

#### 生息・生育状況

本州（近畿地方、中国地方）、四国に分布する。県内では下関市、美祢市、山口市、周南市、岩国市に記録される。<sup>(40)</sup>

#### 選定理由

現在では県内での生育地は減少し、個体数も少なく貴重である。

#### 減少等の要因

外来タンポポの侵入、交雑などによる相対的な個体数の減少、生育可能な環境の悪化も考えられる。

- 826 -

キク目 キク科 1205300325100 <b>クシバタンポポ</b> <i>Taraxacum pectinatum</i> Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。葉は線状披針形で、長さ10-30cm、幅3-4cm、鋭頭。しばしば赤紫色をおび、櫛の歯状に複雑に羽状深裂する。和名はこの葉形にちなむ。花期は3-5月。花茎は赤色をおび、頭花は径3.5-4cm、花冠と雄蕊は黄色。総苞は緑色で、長さ15-20mm。総苞外片はふくらんで圧着し、花時に総苞の約1/2をおおう。最外片は卵形、密に腺毛があり、先端に角状突起がないかこぶ状にふくらむ。瘦果は褐色で紡錘形。冠毛は長さ約8mm、染色体数は2n=32。<sup>(54)</sup>



提供：秋丸浩毅(2018.4.16撮影)

#### 生息・生育状況

紀伊半島・近畿・中国地方・四国など、西日本の山里にやや稀に分布。県内では山口市に記録される。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

県内での生育地は限られ、個体数も少なく貴重である。

#### 減少等の要因

外来タンポポの侵入、交雑などによる相対的な個体数の減少、生育可能な環境の悪化も考えられる。

- 827 -

マツムシソウ目 ガマズミ科 1205400101000 <b>カンボク</b> <i>Viburnum opulus</i> L. var. <i>sargentii</i> (Koehne) Takeda	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	-
	環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

落葉性小高木。高さ6mに達し、樹皮は厚く暗灰色、縦に裂け目が入る。葉は対生し、広卵形で長さ幅とも4-12cm。中部まで3裂し、裂片は鋭尖頭～尾状鋭尖頭、ふち上部に粗い鋸歯がある。基部は切形～くさび形、葉柄は長さ2-5cm。花期は5-7月。短い側枝の先に径6-12cmの散房花序を出す。花序は無毛で、中心部に小さな両性花が多数付き、周囲に径2-3cmの白い装飾花がつく。装飾花はふつう5深裂して平開、両性花は径4-5mmで淡黄色を帯びる。果期は8-10月。核果は長さ6-9mmの球形で、赤く熟す。核は扁平で長さ6-7mm、不明瞭な溝がある。<sup>(54, 55)</sup>



### 生息・生育状況

北海道・本州（中部以北の内陸部や日本海側）の冷涼な湿地に生育する。県内では下関市、山口市に記録があるが、現状は不明である。<sup>(55)</sup>

提供：高田義弘(不明撮影)

### 選定理由

北日本の内陸部から日本海側に分布し、関東以西では稀なもので、県内の個体数はごく少なく、貴重である。

### 減少等の要因

もともと県内では希少の植物で、山地開発、荒廃、温暖化などで減少する。

- 828 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400200500 <b>ナベナ</b> <i>Dipsacus japonicus</i> Miq.	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

越年生草本。茎は直立して高さ1mを超え、よく分枝し、全体に刺状の剛毛がある。葉は対生して、羽状に全裂、先端の裂片が最も大きい。裂片は鋭尖頭で鋸歯がある。花期は8-9月、頭花は淡紅紫色の小花が集まり径2cm、総苞片は線形で1列に並び、反り返る。小花の花冠は長さ7mm、上部は4裂し裂片に長短がある。雄蕊は4本。萼の先はコップ状に広がり、縁に毛がある。花床の鱗片はくさび形で小花を包み、先に剛毛の生えた長さ4-7mmの刺針がある。瘦果の小総苞は8肋があり、長さ5mm。<sup>(54)</sup>



### 生息・生育状況

本州～九州に分布し、日当りのよい山地の疎生地に生える。県内では、山口市と岩国市に記録される。<sup>(54)</sup>

提供：南 敦(2018.5.15撮影)

### 選定理由

県内の生育地は限定されており、個体数も少ない。

### 減少等の要因

もともと県内では希少種であったが、植生の遷移などによる生育適地の減少が考えられる。

- 829 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400200700 <b>ウスバヒョウタンボク</b> <i>Lonicera cerasina</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

落葉性低木。高さ1-2mほど、枝は無毛で中実。葉は対生し、広披針形～倒卵状長楕円形、長さ4-10cm。全縁で先は長く尖り、基部は広いくさび形。縁毛はあるが両面とも無毛、または上面に毛を散生する。葉柄は長さ5-10mm。花期は4-5月、葉腋から長さ5-12mmの花柄を出し、黄白色の花を2つ付ける。花冠は2唇形で長さ6-12mm、上唇は浅く4裂し、内面は有毛。苞は線形で長さ2-4mm、腺毛がある。子房は下部で合着し3室、萼歯はごく小型。液果は楕円形で、下部で合着し長さ7-8mm、6月に紅熟する。種子は大きく、長さ4-6mmで平滑。<sup>(54-56)</sup>

NO IMAGE

### 生息・生育状況

本州（紀伊半島・山陽）・四国・九州の深山に点在する。県内では岩国市で記録される。<sup>(54,56)</sup>

### 選定理由

温帯域に生育し、県内での生育地は1箇所と限られ、個体数もごく少数で貴重である。

### 減少等の要因

もともと希少な植物であり、温暖化、山林開発などで減少する。

- 830 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400201100 <b>ヤマヒョウタンボク</b> <i>Lonicera mochidzukiana</i> Makino var. <i>nomurana</i> (Makino) Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

落葉性低木。ニッコウヒョウタンボクの変種。高さ1.5mほどで、枝は四角く無毛、中実。葉は対生し、円卵形～長楕円形で長さ1-6cm、幅1-3cm、先はあまり尖らない。葉柄は長さ2-7mm。花期は5-6月、葉腋から長さ7-15mmの花柄を出し2花をつける。花冠は2唇形で長さ8-10mm、初め白色、のちに黄色をおびる。液果は球形で長さ4mm、基部で合着し、6-7月に紅熟する。母種のニッコウヒョウタンボクは葉が少し大きく、卵形～披針形で長さ3-10cm、幅1.5-6cm。先は短く尖る。葉柄は長さ3-8mm。花冠は長さ10-13mm、液果は長さ6-8mm。<sup>(54-56)</sup>



提供：秋丸浩毅(2016.5.5撮影)

### 生息・生育状況

本州（東海地方・近畿地方・中国地方）・四国・九州の標高400-1300mの山地に点在し、ときに石灰岩地や火山岩地、蛇紋岩地に見られる。ニッコウヒョウタンボクとは棲み分けているが、ときにやや中間の形が見られる。県内では岩国市、周防大島町に記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

県内の生育地は数箇所に限られ、個体数もごく少なく貴重である。

### 減少等の要因

もともと産地は限られており、植生の遷移、森林開発などで減少する。

- 831 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400201200 <b>キンギンボク</b> <i>Lonicera morrowii</i> A.Gray	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

落葉性低木。高さ1-2mになり、密に分枝する。若枝は鈍4稜があり、軟毛が密生する。葉は対生し広楕円形～狭楕円形、長さ1.5-6cm、幅1-5cm、鈍頭で基部は円形。表面はしわがあり、裏面に立軟毛が密生。葉柄は長さ2-5mm、軟毛が密生する。花期は4-6月、枝先の葉腋に長さ5-15mmの花柄をだし、2花をつける。花ははじめ白色、後に黄色になる。花冠はやや2唇状の5裂片に分かれ、ほぼ放射相称、径12-19mm。花筒は長さ4-5mmで腹面基部が膨らんでいる。液果は7-9月に赤熟し、球形で径6-8mm、2個並んでつき、基部で合着する。<sup>(54-56)</sup>



提供：眞崎 久(1997.6.4撮影)

### 生息・生育状況

北海道（西南部）・本州（東北地方および日本海側）の火山岩地に分布し、ときに栽植されている。県内では沿岸地に見られ、萩市に記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が限られ、個体数も少なく貴重である。

### 減少等の要因

沿岸地の開発、改修、草刈り等による生育地の環境悪化が考えられる。

- 832 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400201400 <b>ダイセンヒヨウタンボク</b> <i>Lonicera strophiphora</i> Franch. var. <i>glabra</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

落葉性低木。アラゲヒヨウタンボクの変種で、子房と花柱が無毛のもの。母種のアラゲヒヨウタンボクは高さ1-2.5m、枝は円く中実。葉は対生し、卵形～長楕円状卵形、長さ3-11cm、幅2-5cm。縁に長毛があり、裏面脈上にも粗毛が多い。花期は4-6月。若枝下部の葉腋から長さ7-15mmの花柄を出し、先に2花をつける。花ははじめ緑白色、のち黄色をおびる。花冠は漏斗状で長さ2-2.5cm、先は5裂し斜めに開く。花柱はときに毛がある。苞が大きく、卵形で葉状、長さ1-2cm、幅6-10mm。液果は離生し球状、径5-10mm、6-7月に紅熟する。<sup>(54-56)</sup>



提供：秋丸浩毅(2017.6.22撮影)

### 生息・生育状況

アラゲヒヨウタンボクは、北海道（南西部）・本州・四国の標高250-2200mの山地に点在し、ダイセンヒヨウタンボクは、近畿・中国地方に多く見られる。県内では岩国市で記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

県内の生育地は1箇所と限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

### 減少等の要因

もともと希少な植物であり、山林開発などで減少する。

- 833 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400201800 <b>マツムシソウ</b> <i>Scabiosa japonica</i> Miq. var. <i>japonica</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

越年生草本。高さ60-90cm。葉は対生し有毛、長さ5-10cmで羽状に分裂し、裂片は鈍頭。花期は8-10月、長柄の先に径4cm位の紫色の頭花を上向きつける。頭花の総苞片は2列で線形。周辺部の小花は5裂し、外側の裂片は大きく伸びる。中心部の小花は筒状で等しく5裂する。雄蕊は4本で、花筒の中部につく。萼裂片は5個、針状で長さ5mm。そう果を包む小総苞は果時に長さ4mmとなり、8肋があって、上部1mmはコップ状で膜質。肋上に密毛がある。果後に枯死する。<sup>(54,57)</sup>



提供：南 敦(1994.9.18撮影)

### 生息・生育状況

北海道～九州に分布し、山の乾いた冷涼な山地の草原に生える。県内では山口市、美祢市に記録される。<sup>(54,57)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が減少し、個体数も僅かで貴重である。

### 減少等の要因

開発や管理放置、温暖化等による生育環境（草原）の悪化、減少による。

- 834 -

マツムシソウ目 スイカズラ科 1205400202700 <b>イワツクバネウツギ</b> <i>Zabelia integrifolia</i> (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

落葉性低木。高さ2m以下で、密に分枝し、枝に6条の縦溝がある。葉は対生し、倒卵形～披針状長楕円形で長さ3-7cm、幅1-3cm。全縁または粗い歯があり、先は尖り、基部はくさび形。両面脈上と縁に粗毛が多い。葉柄基部は膨らみ、相対する葉柄の基部と合着する。花期は5-6月。側枝の先に長さ3-6mmの花柄を出し、紅色を帯びた白花を1-2個つける。萼片は4個。花冠は細い漏斗状で、筒部は長さ8-15mm、先は4裂し平らに開く。花冠内面に毛が多い。瘦果は細筒形で長さ8-13mm、先端に4個の萼片が宿存する。<sup>(54,55)</sup>



提供：南 敦(2015.5.5撮影)

### 生息・生育状況

本州（中西部）・四国・九州の標高300-1500mの山地に点々と分布し、おもに石灰岩地、火山岩地、まれに蛇紋岩地に見られる。県内では山口市に記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数もごく少数で貴重である。

### 減少等の要因

もともと希少な植物であり、生育地の森林開発などで減少する。

- 835 -

セリ目 セリ科 1205500300100 <b>トウキ</b> <i>Angelica acutiloba</i> (Siebold et Zucc.) Kitag. subsp. <i>Acutiloba</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は多くの枝を広げ、高さは20-80cm、茎や葉には毛がない。葉は互生し、2-3回3出羽状複葉で、表面に光沢がある。小葉は切れ込み、縁に尖った鋸歯がある。花期は6-8月、枝先に複散形花序をつける。花序には総苞片はないか、あっても1個位、小総苞片は数個あり線形。萼歯片はなく、花弁は白色。果実は長楕円形で、分果の背隆条は脈状、側隆条は狭い翼状。油管は各背溝下に3-5個、合生面に8-10個ある。染色体数2n=22。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(1992.8.10撮影)

**生息・生育状況**

本州中北部に分布し、山地に生える。薬草として栽培もされる。県内では周南市、岩国市の記録がある。<sup>(54)</sup>

**選定理由**

県内の生育地は少なく、個体数も少数である。

**減少等の要因**

植生遷移などによる、生育適地の減少が考えられる。

セリ目 セリ科 1205500301000 <b>イヌトウキ</b> <i>Angelica shikokiana</i> Makino ex Y.Yabe var. <i>shikokiana</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は下部より枝を張り、高さ40-80cm、毛はない。葉は1-3回3出羽状複葉、小葉は長卵形で、巾2-4cm、低鋸歯があり無毛。表面には光沢がなく、裏面は白色をおびる。花期は8-9月、複散形花序は径6-15cmで、枝は15-30本。総苞片はなく、小総苞片は少なく線形。萼歯片はなく、花弁は白色。果実は長卵形で、基部は心形。分果の背隆条は脈状、側隆条は狭い翼状、油管は各背溝下に1個、合生面に2個ある。染色体数2n=22。<sup>(54, 58)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

日本特産。本州（紀伊半島）・四国・九州に分布し、山の斜面や川原の岩石地に生える。県内では美祢市に古い記録があるが、現状は不明である。<sup>(54)</sup>

**選定理由**

県内の記録は1箇所（美祢市 1915）のみで、貴重である。

**減少等の要因**

県内の生育地は川原の岩石地などで、河川改修での消滅が考えられる。

セリ目 セリ科 1205500303200 <b>ヤマゼリ</b> <i>Ostericum sieboldii</i> (Miq.) Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

一年生草本。茎は中空で50-100cmになり、上部は多くの小枝を出す。葉は2-3回3出羽状複葉、小葉は卵形で、長さ3-9cm、巾1-6cm、粗い鋸歯がある。花期は7-10月。散形花序の柄は4-10本で無毛、長さ1-3cm。総苞片や小総苞片があり線形、花弁は白色。果実は楕円形で、萼歯片は披針形。分果の背隆条は細い脈状、側隆条は狭い翼となり、油管は各背溝下に1-4個、合生面に4-8個ある。染色体数 $2n=22$ 。<sup>(54, 58)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州～九州に分布し、冷涼な山地の谷間に生える。県内では岩国市、周南市で記録される。<sup>(54, 58)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も僅かである。

#### 減少等の要因

植生の遷移などにより、生育適地の減少が考えられる。

- 838 -

セリ目 セリ科 1205500303700 <b>ムカゴニンジン</b> <i>Sium ninsi</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。根は太く、茎は高さ30-100cm。多くの枝を出し、葉枝に秋の末にむかごができる。葉は3-5小葉からなり、小葉はほとんど無柄で長さ1-8cm、巾2-10mm、円形から細長いものへと変化する。花期は9-10月。花は散形花序につき、径2-4cm。総苞片及び小総苞片は小さく、披針形で反曲。果実は球形、萼歯片はごく小さい。果実は球形、分果の横断面は五角形で、油管は隆条下にもあり、約11個。<sup>(54, 58)</sup>



提供：眞崎 久(2014.9.21撮影)

#### 生息・生育状況

北海道～九州に分布し、湿地や水中に生える。県内では下関市、周南市、山口市、柳井市に記録される。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も僅かである。

#### 減少等の要因

開発、管理放置等による湿地の減少、環境悪化が考えられる。

- 839 -

セリ目 セリ科 1205500303800 <b>ヌマゼリ</b> <i>Sium suave</i> Walter var. <i>nipponicum</i> (Maxim.) H.Hara	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は中空で高さ60-100cm、多くの枝を出し、全体は無毛。葉は有柄で単羽状複葉。小葉は細長く、鋸歯があり、側小葉は無柄で長さ3-10cm。花期は7-9月。茎頂か、分枝した先端に複散形花序をつける。花序はやや小さく、総苞片や小総苞片は広線形。花には小さな三角形の萼歯片があり、花弁は白色。果実は倒卵形、分果の隆条はすべて太くて相接し、油管は約10個ある。<sup>(54)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

北海道～九州に分布し、湿地に生える。県内では山口市に記録される。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も僅かである。

#### 減少等の要因

開発、管理放置等による湿地の減少、環境悪化が考えられる。

- 840 -

セリ目 セリ科 1205500303900 <b>カノツメソウ</b> <i>Spuriopimpinella calycina</i> (Maxim.) Kitag.	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。高さ50-100cm。茎は細く単一で直立し、上部で枝を分ける。根出葉や下部の葉は長い柄があり、2回3出複葉。茎葉は互生で3出複葉。小葉は薄く、長さ1.5-5cm。広卵形～広披針形で、先はしだいに細まり、基部はくさび形。上部の縁に鋸歯があり、両面の脈上に短毛がある。花期は8-10月、複散形花序は数が少なく、総苞片や小総苞片は線形で短い。花弁は白色。果実は長楕円形で無毛、萼歯片は三角形、分果の隆条はすべて細くて目立たない。染色体数 $2n=22$ 。<sup>(54)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

日本特産。北海道～九州に分布し、高地の山林下に生える。県内では山口市に記録されているが、現状は不明である。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

県内の記録は1箇所のみで、個体数もごく僅かで貴重である。

#### 減少等の要因

もともと県内では希少な種であるが、植生の遷移などによる生育環境の悪化が考えられる。

- 841 -

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科 1100100100700 <b>マンネンスギ</b> <i>Lycopodium obscurum</i> L.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外ではロシア、朝鮮、中国、台湾、北米に分布する。県内は岩国市、周南市で確認されている。常緑多年生草本。茎は地中を長く這い、まばらに直立する側枝を地上に出す。地上茎は高さ10-30cm、上半部はよく分枝して梢状になる。枝は線形、全縁の葉を密生し、葉と共に径4-5mm。葉の先端は鋭尖開出し内曲する。胞子のうの穂は1本の側枝に数個生じ、小枝の先1個着き、長さ2-5cm、径5mmの円柱形。2倍体（生殖様式不明）、外国産で2倍体有性生殖の報告がある。<sup>(1-8)</sup>



提供：南 敦(2010.12.18撮影)

#### 生息・生育状況

温帯域に生育するもので岩国市の1箇所は県内最高地に生育する。近年見つかった岩国市の1箇所と周南市のものは工事のため他から移植した砂防用の植物に混じっていたものである。北方系のイワヨモギなどを伴っていた。

#### 選定理由

生育地が3箇所で個体数も少ない。

#### 減少等の要因

以前1箇所だったものが砂防用植栽により3箇所と増えた。

- 842 -

ミズニラ目 ミズニラ科 1100200100300 <b>オオバシナミズニラ</b> <i>Isoetes sinensis</i> T.C.Palmer var. <i>coreana</i> (Y.H.Chung et H.K.Choi) M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮に分布する。県内では阿武町、山口市から記録されている。夏緑多年生草本。茎は短く、その底部は3分する。多数の細線形の葉を叢生し、長さは30cmに達する。雌雄同株。別々の葉の基部に大胞子のう、小胞子のうができ、それぞれ大胞子、小胞子をつくる。染色体数2n=66の6倍体有性生殖種。外部形態ではミズニラ、ミズニラモドキ、シナミズニラとの識別は困難で、大胞子、小胞子の表面の形態を確認する必要がある。小胞子の長径が28-38 $\mu$ mであり、また、孔辺細胞の長さが69-118 $\mu$ mであれば判別できる。(5-7)



提供：眞崎 久(1994.7.31撮影)

#### 生息・生育状況

ため池の浅水域に見られ、減水時に抽水生、陸生となる。

#### 選定理由

生育場所が限定され、個体数も少ない。但し、最近発見されたものもあり、ランクが下がった。

#### 減少等の要因

ため池の改修、埋立、浮草類による水面被覆。水面の上昇と下降。

- 843 -

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科 1100400101000 <b>ハマハナヤスリ</b> <i>Ophioglossum thermale</i> Kom.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、琉球、国外ではロシア、朝鮮、中国、台湾に分布する。県内では岩国市、柳井市、光市、周南市、防府市、山口市、岩国市、宇部市に記録されている。常緑多年生草本。栄養葉は細長く脈は不明である。根茎は這って新苗をつくる。4倍体有性生殖。<sup>(1-3, 5-8, 12)</sup>



提供：南 敦(2002. 8. 23撮影)

**生息・生育状況**

道端、運動場、芝生、庭、植木鉢など裸地や疎生地に生じ増殖する。高草が侵入すると絶滅する。生育環境によって生育地が変わっていく。

**選定理由**

全体として個体数が少ない。

**減少等の要因**

高草の侵入。環境の変化。

コケシノブ目 コケシノブ科 1100800100400 <b>キヨスミコケシノブ</b> <i>Hymenophyllum oligosorum</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾に分布する。県内では岩国市、周南市、山口市、長門市などに記録されている。常緑多年生草本。コウヤコケシノブに似ているが、それより羽片が多い。葉柄は長く、その翼は上部のみであって基部にはない。最終裂片は全縁である。コウヤコケシノブの縁には鋸歯がある。<sup>(4-8, 13)</sup>



提供：山根文人(2013. 4. 21撮影)

**生息・生育状況**

湿度の高い岩場、樹上などに生育する。

**選定理由**

分布地も限られており、全体数が少ない。

**減少等の要因**

森林開発、伐採によって減少する。道路整備や改修。

ウラボシ目 ホングウシダ科 1101300100100 <b>エダウチホングウシダ</b> <i>Lindsaea chienii</i> Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では台湾、中国、ベトナム、タイなどに分布する。県内では柳井市、田布施町、光市、周南市などで記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く這い、葉を密接して出す。葉身は2回羽状複生。小羽片は浅裂し、裂片の縁から内側に胞子のう群を着ける。包膜の縁はやや不規則に裂ける。染色体数 $2n=94$ 、 $4n=188$ 。2倍体・4倍体有性生殖。<sup>(2, 4-6, 12, 14, 15)</sup>



提供：南 敦(1999.5.7撮影)

**生息・生育状況**

暖地の竹やぶ、崖など疎生地に生育する。周囲の草木が大きくなれば衰退する。

**選定理由**

生育場所が限定され、個体数も少ない。前回（2002年発刊時）よりは発見地は増えているが、まだ個体数は少ない。

**減少等の要因**

道路の改修、生育地の草木の高草化など。

ウラボシ目 イノモトソウ科 1101300300200 <b>ハコネシダ</b> <i>Adiantum monochlamys</i> D.C.Eaton	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国、台湾などに分布する。県内では周南市、岩国市、柳井市、上関町などに記録されている。常緑多年生草本。根は短く這う。少数のつやのある葉を着ける。葉は堅い紙質で、最終裂片はほぼ円形であるが、前側は鋸歯縁である。胞子のう群は最終裂片の前側鋸歯縁の中央につける。色は黒褐色。4倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4-6, 8, 14)</sup>



提供：眞崎 久(2012.7.29撮影)

**生息・生育状況**

接触片岩や火山岩（安山岩系）からなる崖や岩上に生育する。

**選定理由**

特別な岩石に生育し、個体数は著しく少ない。

**減少等の要因**

柳井市や上関町では周囲の樹木が生長し、日照不足になっている。園芸的盗掘もある。

ウラボシ目 ヒメシダ科 1101300700500 <b>ホソバシヨリマ</b> <i>Thelypteris beddomei</i> (Baker) Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 NT
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国、台湾、インド、スリランカ、東南アジアに分布する。県内では長門市に記録されている。夏緑（暖地で常緑）多年生草本。長い根茎をのぼし、その所々に短い茎を立て葉を叢生する。葉身は2回羽状深裂の披針形である。葉身は細く、羽片は下方でだんだん短くなり、葉柄では痕跡となる。つまり、葉身の区別ができなくなる。全体に半透明の単細胞の毛がある。胞子のう群は辺縁寄りである。2倍体有性生殖。<sup>(4-6, 8, 17)</sup>



提供：山根文人(2008. 11. 10撮影)

**生息・生育状況**

冷涼な山地の湿地に群生する。

**選定理由**

生育場所が少なく、個体数も少ない。

**減少等の要因**

湿地の開発。湿地の陸地化。

ウラボシ目 コウヤワラビ科 1101301000200 <b>コウヤワラビ</b> <i>Onoclea sensibilis</i> L. var. <i>interrupta</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外ではロシア、朝鮮、中国に分布する。県内では山口市、周南市、萩市、岩国市などに記録されている。夏緑多年生草本。根茎は長く地下を這う。葉は1回羽状複生で双子葉植物を思わせる。栄養葉と生殖葉をもつ。2倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4-6, 8, 12, 18)</sup>



提供：秋丸浩毅(2015. 8. 15撮影)

**生息・生育状況**

冷涼地で水田や農道、水田の岸、川岸などに、地下茎をのぼして生育する。近年は草刈りがないため高草に被覆されて衰退、また、除草剤散布により減少している。さらに、圃場整備による消失がある。

**選定理由**

生育地が限定され、全体数が少なくなっている。

**減少等の要因**

草刈りがないため高草に被覆、除草剤散布、圃場整備。

ウラボシ目 メシダ科 1101301200500 <b>ハコネシケチシダ</b> <i>Athyrium christensenianum</i> (Koidz.) Seriz.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。県内では周防大島町、萩市、下関市で記録されている。シケチシダとイッポンワラビの雑種起源と考えられる植物の総称。シケチシダが2回羽状深裂～複生なのに対し、本種は3回羽状深裂～中裂。葉軸の翼はシケチシダが有する（上部では狭く有翼）のに対し、本種にはない（羽軸は小羽片の基部が狭く有翼）。3倍体不稔性・3倍体無融合生殖。<sup>(3, 4, 6, 8, 20)</sup>



**生息・生育状況**

湿度の高い林床、林道の側などに生育する。

提供：秋丸浩毅(2017.8.12撮影)

**選定理由**

生育地はやや広いが個体数が少ない。

**減少等の要因**

森林の開発。

ウラボシ目 メシダ科 1101301201400 <b>ヘイケイヌワラビ</b> <i>Athyrium eremicola</i> Oka et Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 CR
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州のみに分布する。日本固有種。県内では萩市、山口市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は斜上し、葉長は20-30cm位。少数の茎を叢生する。葉身は披針形で単羽状複生。葉柄葉軸は赤紫色に染まる。近縁のタニイヌワラビは2回羽状複生で、葉長は50cm以上もある。4倍体有性生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 10, 16, 20)</sup>



**生息・生育状況**

溪流沿いの疎生地や湿度の高い樹林下に生育する。

提供：南 敦(2005.4.28撮影)

**選定理由**

生育地は限定され、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

洪水。

ウラボシ目 メシダ科 1101301201900 <b>ツクシイヌワラビ</b> <i>Athyrium kuratae</i> Seriz.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	-
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾に分布する。県内では山口市、周南市、岩国市などに記録されている。常緑多年生草本。短い根茎は直立、複羽状の約40cmの葉を叢生する。葉茎は全体明るい感じがある。葉は斜上するが、羽片は地面の方にやや向かう。葉柄の鱗片は、タニイヌワラビが褐色なのに対し、淡紅紫色である。また、葉軸の羽軸の翼はタニイヌワラビはないが、わずかな翼がある。4倍体有性生殖。<sup>(4, 6, 20)</sup>



提供：南 敦(2003.12.19撮影)

**生息・生育状況**

他の木の梢が広がり、日照不足のところが多い。湿度の高いところの崖に生育していたが現在見られなくなった。

**選定理由**

生育地が湿度の高いところに限定され、全体の数が減少したため。

**減少等の要因**

梢の広がりや日照不足。イノシシによる掘り返し。道路整備。

ウラボシ目 メシダ科 1101301202700 <b>ホウライイヌワラビ</b> <i>Athyrium subrigescens</i> (Hayata) Hayata ex H.Itô	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
	環境省	2019	EN

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、九州、国外では台湾に分布する。県内では山口市、周南市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は直立し、長楕円形の茎を叢生する。葉質は薄く光沢はない。葉は、葉身や葉柄、葉軸も緑色である。小羽片は裂けて、裂片の先は鋭頭～鈍頭である。胞子のう群は長楕円形で中肋に接する。4倍体有性生殖。<sup>(1-4, 6, 20)</sup>



提供：南 敦(2003.11.4撮影)

**生息・生育状況**

溪谷など、湿度の高い杉林に生育する。

**選定理由**

生育場所が少なく、全体数も少ない。北限線上のもので貴重である。

**減少等の要因**

盗掘。森林伐採。イノシシによる掘り返し。大形シダによる被覆。

ウラボシ目 メシダ科 1101301207600 <b>シマシロヤマシダ</b> <i>Diplazium doederleinii</i> (Luerss.) Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では中国、台湾、南アジア、インドシナ半島、フィリピンに分布する。県内では山口市、萩市で記録されている。大型の夏緑多年生草本。根茎が長く匍匐し群生地をつくる。普通種のシロヤマシダに近似するが次がことなる。葉身の向軸側の軸上に微毛がある。胞子のう群は裂片の中肋にほぼ接するようにつく。また、線形である。シロヤマシダは裂片の辺縁と中肋の中間につき、狭長楕円形である。3倍体無融合生殖。4倍体生殖。  
(1, 2, 4, 6, 8, 12, 17, 19, 20)



提供：南 敦(2017.7.21撮影)

**生息・生育状況**

樹陰下の岩や礫の多いところに生育している。胞子によるより匍匐茎により群生している。

**選定理由**

北限線の一画を占め、生育地は2箇所貴重である。

**減少等の要因**

周囲の樹木が生育し日照不足。シダ愛好家の盗掘。イノシシによる掘り返し。

ウラボシ目 メシダ科 1101301208600 <b>コクモウクジャク</b> <i>Diplazium virescens</i> Kunze	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では朝鮮、中国、台湾、インドネシアに分布する。県内では防府市、周南市に記録されている。大型の常緑多年生草本。根茎は長く匍匐し群生地をつくる。葉は2回羽状複生3回羽状中裂。よく見られる近似のシロヤマシダと次が異なる。葉は通常1m以下。羽片の小脈の多くは単条。包膜は胞子のう群を深く抱き込み、成熟すれば不規則に破れ、またはなくなる。葉柄の下部は黒く、黒色で辺縁に小突起のある鱗片をやや密につける。3倍体無融合生殖。  
(1, 2, 4, 6, 9, 18, 20)



提供：眞崎 久(2013.2.20撮影)

**生息・生育状況**

暖かく湿度の高い樹林下に群生する。

**選定理由**

北限線の一画をなすもので、生育場所も2箇所と少ない。

**減少等の要因**

生育場所の開発。樹木の伐採。

ウラボシ目 オシダ科 1101301400200 <b>ホソバナライシダ</b> <i>Arachniodes borealis</i> Seriz.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、ロシアに分布する。県内では岩国市に記録されている。ホソバナライシダはナンゴクナライシダやヒロハナライシダに比して次の形質がある。夏緑であり、根茎はやや長く匍匐する。葉柄の色は淡緑色、基部寄りには赤褐色を帯びる。葉柄の鱗片は基部～下部でやや密。葉身の葉軸の色は淡緑色。小羽片の最下羽片の下向き第1小羽片は2番目よりわずかに大型になる程度で、著しく発達することはない。葉身の最終裂片は鋭頭、稀に鈍頭。包膜は円腎形（辺縁無毛稀に有毛）。2倍体有性生殖。  
(1, 2, 4, 6, 8, 20)



提供：南 敦(2002.9.7撮影)

**生息・生育状況**

山地でもブナ帯に生育する。

**選定理由**

山口県内では生育地が1箇所と限定され、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採。

ウラボシ目 オシダ科 1101301404800 <b>ナチクジャク</b> <i>Dryopteris decipiens</i> (Hook.) Kuntze	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国、台湾に分布する。県内では山口市、周南市、下松市、岩国市、周防大島町ほかに記録されている。ペニシダによく似ているが、次のように異なる。ペニシダは2回羽状複生～3回羽状複生であるが、ナチクジャクは単羽状複生。羽片は全縁から鈍鋸歯縁または羽状深中裂である。3倍体無融合生殖。外国産に2倍体有性生殖の報告がある。形態的にはイヌナチクジャクと区別しにくい個体もある。  
(1, 2, 6, 8, 14, 20)



提供：眞崎 久(2018.1.28撮影)

**生息・生育状況**

樹林下でやや湿度の高い場所に見られる。

**選定理由**

最近あまり見られない。

**減少等の要因**

森林の開発、河川改修。道路の改修。

ウラボシ目 オシダ科 1101301405400 <b>ヌカイタチシダ</b> <i>Dryopteris gymnosora</i> (Makino) C.Chr.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 NT
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では岩国市に記録されている。日本固有種。常緑多年生草本。葉は叢生し30-50cm。胞子のう群は小さく、包膜がない。近似のヌカイタチシダモドキやトウゴクシダには包膜がある。3倍体無融合生殖。外国産で2倍体有性生殖の報告がある。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 14, 20)</sup>



提供：南 敦(2004. 2. 10撮影)

#### 生息・生育状況

崖の斜面や岩場に多い。

#### 選定理由

近年あまり見かけなくなっている。

#### 減少等の要因

道路改修。

- 858 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301406100 <b>ギフベニシダ</b> <i>Dryopteris kinkiensis</i> Koidz. ex Tagawa	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。県内ではほぼ全域で記録されているが絶対数は少ない。常緑多年生草本。ベニシダに似るが葉柄、葉軸に鱗片が多い。サイゴクベニシダほど羽片は大きくない。イノデモドキに似る。胞子のう群は中肋と辺縁の中間よりやや中肋寄りである。4倍体有性生殖。外国産で3倍体無融合生殖の報告もある。日本産ベニシダ中、唯一の4倍体有性生殖種である。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 9, 12, 14, 19, 20)</sup>



提供：南 敦(2018. 12. 19撮影)

#### 生息・生育状況

自然石で作った昔の石垣の間に多い。地上に生えるものもある。

#### 選定理由

広域分布であるが、絶対数は少ない。

#### 減少等の要因

近年、石垣の石と石の間にコンクリートを詰めた。田畑の昔の石垣が減った。田畑の休耕が増え、石垣の間に高い草が生えた。

- 859 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301406200 <b>キノクニベニシダ</b> <i>Dryopteris kinokuniensis</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州に分布する。日本固有種。今までヌカイタチシダモドキにされていたものである。ヌカイタチシダモドキに比して、葉柄は展葉時に紅紫色、葉も展葉時に紅紫色である。胞子のう群は辺縁寄り～中肋寄りである。全体がヌカイタチシダモドキとベニシダの間である。倍数性・生殖様式は未知。(胞子のうあたりの胞子数から無融合生殖種と推定される。)<sup>(4, 10, 18, 20)</sup>



提供：眞崎 久(1999.3.18撮影)

**生息・生育状況**

樹林下に生育する。

**選定理由**

分布地は広いが個体数は少ないように思える。

**減少等の要因**

不明。

ウラボシ目 オシダ科 1101301406400 <b>ワカナシダ</b> <i>Dryopteris kuratae</i> Nakaïke ex Hoshiz. et K.A.Wilson	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では山口市、周南市、岩国市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は直立し、葉を叢生する。葉は62cmに達し、葉柄にはやや淡い黒褐色の披針形で縁にわずかに突起のある鱗片を密生する。葉身は卵状披針形で下部羽片はやや短くなる。羽片は中裂し、裂片と裂片の間には三角形の隙間が出来る。葉の上面は葉脈に沿って凹み、胞子のう群は羽片の中にほぼ散在する。近縁種のイワヘゴは鋸歯がやや浅く、三角形の隙間にならない。2倍体無融合生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 18, 20)</sup>



提供：眞崎 久(1993.8.5撮影)

**生息・生育状況**

湿度の高い樹林下や溪流に近い湿地に生育する。

**選定理由**

県内では生育地も個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

樹木の伐採、工事等。

ウラボシ目 オシダ科 1101301407200 <b>オワセベニシダ</b> <i>Dryopteris ryo-itoana</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾に分布する。県内では周南市、山口市、岩国市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は斜上し、少数の葉を叢生する。葉柄下部の鱗片は茶褐色で縁にわずかに突起がある。下部羽片の下向き第一小羽片は八の字形に着く。葉身は卵状三角形で2回羽状複生。胞子のう群は中録と辺縁の中間性。包膜は円腎形でほぼ全縁。若い葉では中央部が紅色、周縁部は灰白色。染色体数n=123、3倍体無融合生殖。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 14, 20)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

湿度の高いところで、変成岩や石灰岩などの岩裂や岩面に生じる。

**選定理由**

県内での生育地は限定されており、個体数は少ない。だが、近年はよく調査され、新たに発見されてきたのでランクが下がった。

**減少等の要因**

ダム建設、道路整備。

- 862 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301407700 <b>リュウキュウイタチシダ</b> <i>Dryopteris sparsa</i> (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze var. <i>ryukyuensis</i> Seriz.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、琉球、国外では台湾に分布する。県内では萩市に記録されている。国立科学博物館に収納されていた1965年萩市の標本が本種と同定された。ナガバノイタチシダによく似ている。常緑多年生草本。根茎は短く斜上。葉身と羽片の先端は鋭尖頭～尾状である。小羽片はナガバノイタチシダが長楕円状披針形円頭～鈍頭なのに比し、本種は細い長楕円形の鈍頭～鋭頭である。包膜は両方とも中間性円腎形であるが、ナガバノイタチシダは茶色、中央は濃茶色、本種は褐色、中央は黒褐色である。4倍体有性生殖。<sup>(4, 6, 20)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

暖地の樹林下～林道端に生育する。

**選定理由**

生育地は本種の北限をなし、分布地並びに個体数はごく少数で、生態学的並びに分布学上極めて重要である。

**減少等の要因**

不明。

- 863 -

ウラボシ目 オシダ科 1101301408800 <b>ホウノカワシダ</b> <i>Dryopteris shikokiana</i> (Makino) C.Chr.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国に分布する。県内では萩市、山口市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は斜上し、葉を叢生する。葉柄葉軸に黒褐色で光沢のある全縁の鱗片を密生する。葉身は3回羽状複生、両面にごくまばらに短毛がある。小羽片はほぼ全縁。胞子のう群はやや中肋寄りにつき、包膜はない。2倍体有性生殖。  
(1, 2, 4, 6, 8, 9, 14, 20)



**生息・生育状況**

渓谷に沿った岩上に生育する。

提供：南 敦(2017.7.21撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されている。調査により新しい分布地がわかったが、個体数が少ない。

**減少等の要因**

林道整備。

ウラボシ目 オシダ科 1101301409100 <b>タチデング</b> <i>Polystichum deltoodon</i> (Baker) Diels	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 NT
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾、ベトナム、フィリピンに分布する。県内では美祢市、萩市に記録されている。常緑多年生草本。根茎は1回羽状複生で約30cmの葉を立ち上げる。胞子のう群は羽片の上側に着く。4倍体有性生殖。  
(1, 2, 4, 6, 9, 12, 14, 19, 20)



**生息・生育状況**

湿度の高い石灰岩の岩壁、岩裂、岩上に生育する。

提供：南 敦(2016.6.17撮影)

**選定理由**

特定された岩石に生育し、その全体数は著しく少ない。また、衰退している。

**減少等の要因**

開発と周囲の樹木の繁茂で著しい日照不足を起こしている。

ウラボシ目 オシダ科 1101301409400 <b>アイアスカイノデ</b> <i>Polystichum longifrons</i> Sa.Kurata	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では朝鮮に分布する。県内では周南市、下松市、光市、岩国市などから記録されている。日本固有種。常緑多年生草本。根茎は直立し、葉を叢生する。葉は細長く直立する傾向がある。光沢はやや弱く、多少黒みを帯びる。胞子のう群は小羽片の縁寄りに着き、胞膜は全縁である。染色体数  $n=82$ 。4倍体有性生殖。  
(1, 2, 4, 6, 8, 10, 17, 20)



提供：眞崎 久(1999.6.30撮影)

#### 生息・生育状況

樹林下に生育する。県内では湿度の高い杉林が多い。同属のシダとの雑種も見つかっている。

#### 選定理由

県内の生育地は数箇所あるが、個体数は合計して数十株にすぎない。

#### 減少等の要因

杉の伐採、道路の建設等である。

- 866 -

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301700700 <b>クラガリシダ</b> <i>Lepisorus miyoshianus</i> (Makino) Fraser-Jenk.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 CR
	環境省	2019 EN

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

本州、四国、九州、国外では中国、台湾、インドに分布する。県内では萩市、山口市、岩国市に記録されている。常緑多年生草本。葉は幅2.5-4mm、長さ30-50cmにおよぶ線形で樹幹や岩場からぶら下がる。葉の中肋は表面で凹み裏面に突出する。胞子のう群は中肋と辺縁の間の溝に着く。4倍体（生殖様式未知）。外国産では異なった基本数の2倍体が知られている。  
(1, 2, 4, 6, 8, 16, 19, 20)



提供：南 敦(2003.10.3撮影)

#### 生息・生育状況

湿度の高い川岸などの樹幹や岩場につきぶら下がる。

#### 選定理由

調査によって確認された個体数は以前より増えたが、生育場所が限られており、全体個体数は少ない。

#### 減少等の要因

川岸の樹木の伐採、周辺樹木の成長による日照不足。

- 867 -

ウラボシ目 ウラボシ科 1101301702400 <b>イワオモダカ</b> <i>Pyrrosia hastata</i> (Houtt.) Ching	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：南 敦】

北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布する。県内では美祢市、周防大島町に記録されている。常緑多年生草本。根茎は短く這い、単葉を着ける。葉はほこ形で、葉身の基は心形である。胞子のう群は主脈の間に3-6列に並ぶ。近似のヒトツバの葉の基部が鋭～鈍形であるのに比し、切形～心形である。2倍体（生殖様式は不明）。<sup>(1, 2, 4, 6, 8, 16, 20)</sup>



#### 生息・生育状況

主に石灰岩（美祢市）や火山岩（安山岩系で周防大島町）の岩上や石垣の間に生育する。湿度の高い所で稀に樹幹にも生える。

提供：南 敦(2018.12.18撮影)

#### 選定理由

生育地が限定され、個体数も少ない。新しく生育地が見つかったが、まだ全体数は少ない。

#### 減少等の要因

開発や葉陰の増加、盗掘などで減少。特に盗掘が多い。

- 868 -

オモダカ目 ヒルムシロ科 1201200601100 <b>ササバモ</b> <i>Potamogeton wrightii</i> Morong	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。淡水の湖沼やため池、水田、水路、河川に生える。水中茎に沈水葉と浮葉をつける。中脈が顕著である。花期は7-9月穂状花序で、黄緑色の花を多数つける。果実は長さ3-3.5mm。卵球形で、くちばし状の突起がある。<sup>(30, 37)</sup>



#### 生息・生育状況

朝鮮半島・中国・東南アジアに広く分布する。日本では、関東以西の本州～琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市・防府市で記録がある。

提供：秋丸浩毅(2018.7.10撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

水質悪化、池沼の埋め立て、改修工事、オオフサモ等の繁茂など。

- 869 -

ヤマノイモ目 ヤマノイモ科 1201300300700 <b>ヒメドコロ</b> <i>Dioscorea tenuipes</i> Franch. et Sav.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

山野に生えるつる性の多年生草本。根茎は互生して横に這う。茎は無毛。葉は互生し、葉身は三角状披針形で、長さ5-12cm、幅3-6cm、薄くて無毛。花は7-8月、花被片は、淡緑色で平開する。雄花序も雌花序も下垂する。種子は楕円形で、長さ3mm、全周に翼がある。葉は互生。卵形～披針形で長鋭尖頭。葉縁は平滑。葉質はやや柔らかい。葉腋に珠芽はできない。雄花は有柄で黄緑色。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州(関東以西)～琉球に分布する。<sup>(30)</sup>県内では、下関市・萩市・山口市・岩国市・上関町・周防大島町で記録がある。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

森林の伐採。

- 870 -

ユリ目 ユリ科 1201500501400 <b>セトウチホトトギス</b> <i>Tricyrtis setouchiensis</i> Hir.Takah.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生草本。花は上向きに開く。花被片は白色で、内面に紫色の斑点があり、ヤマホトトギスのように反り返らない。また、花被片の下部に黄色の斑点があり、花糸や花柱に紫色の斑点がある。<sup>(30,39)</sup>



#### 生息・生育状況

本州(大阪府・和歌山県・兵庫県・岡山県・山口県)・四国(徳島県・愛媛県)に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、周防大島町で記録がある。

提供：南 敦(2002.8.20撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が非常に限られており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、植生遷移、イノシシによる掘り返し。

- 871 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600103200 <b>クロヤツシロラン</b> <i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。菌従属栄養生物。花茎は高さ約3cmで、花を1-8個つける。花は、9-10月に開花し、紫色を帯びた褐色。結実すると、花柄が伸び、高さが40cmになることもある。<sup>(30)</sup>



**生息・生育状況**

主に暖温帯の常緑広葉樹林、竹林、杉植林などに生える。国内では、本州(関東地方以西)・四国・九州に分布する。<sup>(30)</sup>

提供：眞崎 久(2018.9.22撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

イノシシによる掘り返し。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104300 <b>ウスギムヨウラン</b> <i>Lecanorchis kiusiana</i> Tuyama	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 NT

**形態・生態**

【執筆者：高田義弘】

常緑樹林の林床に生育する無葉菌根植物。地上茎は分枝して高さ15-30cm。花茎は分枝しない。花期は6-8月。花は長さ6-10mmで、唇弁の中裂片は、内面中央部に毛がある。花は黄褐色。<sup>(38)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

暖温帯～亜熱帯の常緑広葉樹林に生育する。国内では、本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球に分布する。<sup>(30)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

**減少等の要因**

イノシシによる掘り返し。

クサスギカズラ目 ラン科 1201600104800 <b>ジガバチソウ</b> <i>Liparis krameri</i> Franch. et Sav.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地中に球形の偽球があり、葉は2枚出て楕円形-長楕円形、長さ3-10cm、縁は短くちぢれ、葉脈が明瞭で網目模様となる。花茎は高さ10-20cm、5-7月に淡緑色-紫褐色の花を数個着ける。唇弁は基部から1/4くらいの部分で急に曲がって開出し、暗紫色の脈がある。近縁種のクモキリソウは葉がやや大きく、唇弁は中央上部で反曲し凹んでいる点で異なる。<sup>(6)</sup>



提供：山根文人(2016.6.5撮影)

#### 生息・生育状況

温帯-暖帯域の山地のやや乾いた明るい樹林下や崖に生育する。国内では北海道~九州に分布する。<sup>(30)</sup>。県内では、岩国市で記録がある。

#### 選定理由

温帯-暖帯域に分布は広いが、県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、植生の遷移による森林内の環境変化。

- 874 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600105300 <b>ニラバラン</b> <i>Microtis unifolia</i> (G.Forst.) Rchb.f.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。地中に球形の偽球があり、2枚の葉をつける。1枚は白色、鞘状で地下にあり、他の1枚は線形で長さ15-25cm、断面は円く前面に浅い溝があり、基部は長い鞘となり淡緑色で軟らかい。4-5月に葉の溝の1/3くらいのところから花茎を伸ばし、茎頂に密に淡緑色の花を20-30個穂状に着ける。<sup>(6)</sup>



提供：高田義弘(2017.5.16撮影)

#### 生息・生育状況

亜熱帯-暖帯南部域の海岸近くで、日当たりのよい砂質土壌の平地、土手の草地に生育する。国内では本州(千葉県以西)~琉球に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市で記録がある。

#### 選定理由

特異な生態をもち、生態学的にも貴重である。県内では生育地がきわめて限定されている。

#### 減少等の要因

土地造成、湿地埋め立て、遷移による日照の変化など。

- 875 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600105900 <b>ジンバイソウ</b> <i>Platanthera florentii</i> Franch. et Sav.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

多年生地生ラン。茎は高さ20-40cm。葉は2枚、茎の根元に接して着き、長楕円形-楕円形、縁は波状にちぢれ、光沢があり、長さ5-12cmである。8-9月に淡緑色の花を花茎の上部に下向きに着ける。茎の下半には下向きに曲がった数個の鱗片葉がある。唇弁は広線形で長さ7-10mm、距は前方に曲がり長さ15-20mmである。<sup>(6)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

温帯域のやや乾いた樹林下に見られる。国内では北海道～九州に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、岩国市で記録がある。

#### 選定理由

温帯域に生育する種で、県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数で貴重である。

#### 減少等の要因

園芸目的の採集、森林伐採。

- 876 -

クサスギカズラ目 ラン科 1201600106000 <b>ミズチドリ</b> <i>Platanthera hologlottis</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：高田義弘】

山間の湿地に生える多年生草本。葉は5-12枚互生し、線状披針形。長さは10-20cm。6-7月、茎頂に多数の白色の花を穂状につける。花には芳香がある。唇弁は舌状、倒卵形。距は細く下垂する。<sup>(30,38)</sup>



#### 生息・生育状況

亜寒帯～暖温帯の湿地に生える。国内では、北海道～九州に分布する<sup>(30)</sup>。県内では、山口市・周南市・岩国市・阿武町で記録がある。

提供：秋丸浩毅(2016.7.18撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少数である。

#### 減少等の要因

湿地の水環境の変化。園芸目的の採集。遷移の進行に伴う日照の変化、湿地の陸化など。

- 877 -

クサスギカズラ目 キンバイザサ科 1201600200200 <b>コキンバイザサ</b> <i>Hypoxis aurea</i> Lour.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。塊茎は径6-10mm、短い茎に数個の葉が束生する。葉は線形で長さ5-10cm、幅は広いところで2-6mm、全体に長い毛がある。葉腋に長さ5-10cmの細い花茎が出て、その先に1-2個の花がつく。苞は膜質線形で長さ5-8mm、花被片は6個、披針状長楕円形で長さ4-6mm、黄色で平開する。花全体に長い毛があるが外花被片の先端背面に著しい。雄蕊は6個、葯は花糸より短い。果実は蒴果、長楕円形で長さ8-10mm、胞背裂開する。種子は球形で黒褐色、径1.2-1.5mm、表面に小粒状突起が密生し、付属体はごく小さい。<sup>(12)</sup>



提供：眞崎 久(2008.6.1撮影)

**生息・生育状況**

本州（宮城県以南）～琉球に分布。県内では下関市、美祢市、萩市、周南市から記録される。山地の林縁や草地に生える。

**選定理由**

生育地が限られ、個体数も少ないため。

**減少等の要因**

草地開発や草地の管理放棄により減少する。

クサスギカズラ目 アヤメ科 1201600300400 <b>ヒオウギ</b> <i>Iris domestica</i> (L.) Goldblatt et Mabb.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。葉は広い剣状で、その並び方が檜扇に似ているのでこの名がある。葉は長さ30-50cm、幅2-4cm、先が長くとがり、緑色で多少粉白をおびる。花茎は高さ60-100cm、上部が2-3分枝し、枝端に数個の膜質の苞がつき、その中から2-3花が出る。花は8-9月、径3-4cm、花被片は狭長楕円形、橙色で内側に暗赤色の斑点があり、内片はやや幅が広い。蒴果は倒卵状楕円形で長さ約3cm、種子は球形で径5mmほどあり、黒色で光沢が強く（うば玉）または（ぬば玉）と呼ばれる。<sup>(12)</sup>



提供：眞崎 久(1994.7.23撮影)

**生息・生育状況**

本州～琉球に分布。県内では阿東町、萩市、山口市、柳井市、上関町、周防大島町の記録がある。山地の裸地、疎生地に生えるが、観賞用にも栽培される。

**選定理由**

生育地は多いが生育数は少ないため。

**減少等の要因**

遷移の進行により低草地が減り衰退している。園芸用に盗掘されることも多い。

クサスギカズラ目 クサスギカズラ科 1201600600200 <b>ハマタマボウキ</b> <i>Asparagus kiusianus</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。風当たりの強い砂浜の安定地に生育する。茎ははい、高さ30-80cm。多く枝分かれする。細い枝は稜と小突起がある。葉のように見える葉状枝は、3-6個束生し、長さ1-15cm、湾曲しない。花は5-6月、花被片は長さ3-4mm、花柄のほぼ中間に関節がある。液果は球形で、直径約7mm、赤く熟する。<sup>(32)</sup>



提供：眞崎 久(2015.9.12撮影)

**生息・生育状況**

本州（山口県）、九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県）に分布<sup>(32)</sup>。県内では下関市に生育する。砂質海岸に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。北限産地として分布上貴重である。

**減少等の要因**

海岸の開発によって減少していく。

クサスギカズラ目 クサスギカズラ科 1201600602300 <b>オオバジャノヒゲ</b> <i>Ophiopogon planiscapus</i> Nakai	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。葉は常緑、下部で直立、中部～上部で曲がり、長さ15-50cm、幅4-7mm、鈍頭、葉縁下部に膜質の狭い翼が出て、葉縁上部には細鋸歯ある。花茎は直立、長さ10-30cm、角がある。花序は長さ4-8cm、やや曲がり、1つの節に1-3花をつける。苞は披針形、もっとも下のもので長さ8-18mm、幅2-4mm、鋭頭、花は下向きで7-8月に開く。花柄は長さ4-10mm、中部～上部に関節がある。花被は淡紫色～白色、裂片は長さ4.5-5.5mm、まっすぐ。葯は披針形、長さ2.5-3mm。<sup>(12)</sup>



提供：南 敦(2002.9.28撮影)

**生息・生育状況**

本州～九州に分布<sup>(12)</sup>。県内では山口市に知られる。林下に生える。

**選定理由**

生育地は少なく個体数も少ない。

**減少等の要因**

森林伐採など他の高草に覆われ減少する。

イネ目 ガマ科 1202000100300 <b>ヤマトミクリ</b> <i>Sparganium fallax</i> Graebn.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 NT

### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。全高50-120cm、葉は幅(3-)10-20mm、背面に稜があり断面は三角状、花期は5-9月。花序は分枝しない。下側には3-6個の雌性頭花がお互いにやや離れてつき、柄の全部または一部が主軸と合着する(腋上性)。合着する柄が長いと上の節に達し苞の反対側に頭花がついているように見える。雌性頭花のつく部分は主軸がジグザグ状に屈曲していることが多い。果期の雌性頭花は径15-20mm(柱頭部を除く)になる。上側には雄性頭花がつく。雄性頭花と雌性頭花は1cm以上離れる。果実は紡錘形で長さ5-6mm、中央部がくびれる。<sup>(31)</sup>



提供：南 敦(2014. 6. 15撮影)

### 生息・生育状況

本州(関東以西)、九州に分布。県内は山口市、宇部市、下関市に記録がある。湖沼や溜池、水路などに生育する<sup>(31)</sup>。

### 選定理由

生育地が少なく、個体数も少ない。

### 減少等の要因

河川改修や溜池の埋立、開発など。

- 882 -

イネ目 ガマ科 1202000100500 <b>ヒメミクリ</b> <i>Sparganium subglobosum</i> Morong	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 VU

### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生の抽水-湿性植物。全高40-90cm。葉の幅2-6(-10)mm。花期は6-9月。花序は分枝せず2-4個の雌性頭花がすべて着生する場合と、下部の苞の腋から1-2本の短い枝が出る場合がある。分枝した枝には0-2個の雌性頭花と数個の雄性頭花がつく。主軸につく雄性頭花は5-11個。果実は長さ4-5mm、幅2-3mm、倒卵形、先端は長さ1-2mmの嘴を除けばドーム状に低く盛り上がった形である。ミクリ属の果実には紡錘形が多く、果実で種を識別することは容易ではないが、本種は花序の分枝パターンとともに果実の形が有力な同定の決め手になる。<sup>(31)</sup>



提供：眞崎 久(2017. 8. 20撮影)

### 生息・生育状況

北海道～琉球に分布<sup>(12)</sup>。県内は山口市、萩市に記録がある。湖沼やため池、湿原などの生育する。水域より湿地環境に生育する場合が多い。<sup>(31)</sup>

### 選定理由

生育地が少なく生育個体数も少ない。

### 減少等の要因

溜池や河川の改修や湿地開発など。

- 883 -

イネ目 ホシクサ科 1202000200600 <b>クロホシクサ</b> <i>Eriocaulon parvum</i> Koern.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。根茎はごく短いがときに1-3cmになる。葉はロゼット状または茎にらせん状につき、線形で長さ2-10cm、3-5脈が格子状、花茎は高さ5-20cm、5-6肋で少しねじれる。頭花は球形、黒色、径4-5mm、白色の短毛がある。総苞片は倒卵形で鈍頭、頭花より短い。雄花は長さ約1.5mm、萼は合着して先は浅く3裂し、上縁に白色の短毛があり、花弁3個は上部を残して筒状に合着し、裂片の上縁に白色の短毛がある。雄蕊は6本、葯は黒色、円形。雌花は長さ約1.8mm、萼片は3個で離生し長楕円状倒卵形で黒色、上方の外面に白色の短毛がある。<sup>(12)</sup>



提供：眞崎 久(2016.11.6撮影)

#### 生息・生育状況

本州～九州・沖縄に分布<sup>(12)</sup>。山口市、周南市、下関市に記録がある。湿地に生える。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。

#### 減少等の要因

河川開発、湿地開発、土地造成など生育環境の変化、水質汚染、除草剤散布などが減少の原因と思われる。

- 884 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000400500 <b>イトテンツキ</b> <i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz. var. <i>capitata</i> (Miq.) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 VU
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

一年生草本。植物体は叢生し、根はひげ状。有花茎は糸状、高さ10-20cm。葉は根生状で線形。基部の鞘は淡褐色。花序は散房状、小穂は頭状に集まる。小穂は狭卵形、長さ4mm、5-10個の花がつく。鱗片は卵形、長さ約1.5mm、濃褐色、短い芒をもち、先は尖る。イトテンツキはイトハナビテンツキに似ているが、小穂は頭状に集まること、ハタガヤとは小穂が濃褐色であること、鱗片の先が芒とならず反曲しないことで区別できる。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

本州（福島県以西）、四国、九州に分布<sup>(33)</sup>。山口市に記録される。日当たりの良い草地に生える。

#### 選定理由

生育地が少なく、生育地も少ない。

#### 減少等の要因

草地開発による。

- 885 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000401600 <b>チャシバスゲ</b> <i>Carex caryophyllea</i> Latour. subsp. <i>microtricha</i> (Franch.) T.Koyama	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。まばらに生え、長い根茎があり、匍枝の鱗片はのちに細裂。有花茎は高さ15-40cm。葉は幅2-4mm。基部の鞘は褐色、わずかに繊維状に細裂。頂小穂は雄性、棍棒状、長さ1-2cm、淡褐色、無柄。側小穂は雌性で短柱形、長さ1-2cm、集まってつきやすく、無柄。果胞は雌鱗片より長く、卵形、長さ3mm、短毛を疎布、有柄、短嘴、口部は凹形。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2017.5.27撮影)

**生息・生育状況**

北海道、本州（福井県・静岡県以北）に分布<sup>(34)</sup>。県内は周南市の山地に見られる。山地や海岸の芝生に生える。

**選定理由**

限られた場所にわずかに見られるため。

**減少等の要因**

草地の開発や植生遷移の進行による。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000403300 <b>ヒナスゲ</b> <i>Carex grallatoria</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

雌雄異株、多年生草本。マット状に生え、短い根茎をもつ。有花茎は雌雄ともに高さ4-10cm、上部はざらつき下部は平滑。葉は花期後、有花茎より長く、幅1-1.5cm、縁に鋸歯がある。基部の鞘は赤褐色。花期は4-6月。小穂は単性。雄小穂は線形、長さ1-1.5cm。雌小穂は線柱形、長さ1-1.5cm、まばらに果胞をつける。雌花は3-6個。果胞は雌鱗片と同じかやや長く、長楕円形、長さ2-2.5cm、まばらに短毛が生え、嘴は外曲し、口部は平切形である。<sup>(33)</sup>



提供：秋丸浩毅(2005.4.17撮影)

**生息・生育状況**

本州、四国、九州に分布<sup>(34)</sup>。県内は周南市、岩国市に記録される。山地の林床や斜面および岩上に生える。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

森林の伐採などで減少する。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000405400 <b>ミセンアオスゲ</b> <i>Carex leucochlora</i> Bunge var. <i>horikawae</i> (K.Okamoto) Katsuyama	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。まばらに叢生する。有花茎は高さ15-40cm、頂小穂の直下はざらつき下部は平滑。葉は有花茎より短く、幅1-2mm。基部の鞘は淡褐色。花期は4-5月。頂小穂は雄性、線柱形、長さ0.5-1cm、離れてつく。長さ1cmに満たない柄をもつことがある。果胞は雌鱗片より長く、長卵形、長さ2.7-3mm、幅1-1.2mm、稜間に5-7脈があり、密に短毛があり、上部はしだいに狭まり短嘴となり、口部は平切形である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2018.4.8撮影)

**生息・生育状況**

本州（長野県、山梨県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、中国地方）、四国（香川県、愛媛県、高知県）、九州（宮崎県）に分布<sup>(34)</sup>。県内では周防大島町に記録されている。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

開発による環境の変化。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000406500 <b>ヌカスゲ</b> <i>Carex mitrata</i> Franch.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。叢生する。有花茎は高さ10-30cm。葉は幅1-2mm、ややざらつく。基部の鞘は褐色、光沢があり長く立ち上がる。花期は4-5月。小穂の頂小穂は雄性、糸状、長さ1-1.5cm、短柄。側小穂は雌性で柱状、長さ1-1.5cm、短柄、最下小穂は根生する。果胞は雌鱗片より長く、楕円形、長さ2.5-2.8mm、幅0.6-0.8mm、稜間に8-11脈があり、無毛またはわずかに短毛がある。上部は次第に狭まり短嘴となり、わずかに湾曲する。口部は切形である。<sup>(33)</sup>

NO IMAGE

**生息・生育状況**

本州（新潟県、茨城県以南）、四国、九州に分布<sup>(34)</sup>。県内は下関市、周南市に記録される。林床や路傍に生える。

**選定理由**

生育地が少なく、個体数も少ないため。

**減少等の要因**

道路改修などの開発によって生育地が奪われる。

イネ目 カヤツリグサ科 1202000416600 <b>ビロードテンツキ</b> <i>Fimbristylis sericea</i> (Poir.) R.Br.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 NT
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。外洋に面した風の強い海浜に群生するが、密に海浜を被うことはなく、まばらな群落を形成する。果胞は海水に浮く能力がほとんどなく、風に飛ばされ、砂丘の凹地に貯まっているのが観察される。株ごと海流で運ばれ散布されるのかもしれない。根茎は短く、枯れた葉鞘に覆われ、少し分枝する。葉は束生し、やや硬い。高さ5-20cm、葉は多数つき、幅1.5-2mm、細かい毛が密生する。花序は7-9月に少数の枝が出て、3-10個の小穂をつける。小穂は狭卵形、長さ6-10mm、幅約4mm、鋭頭、灰褐色である。<sup>(32)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：眞崎 久(2001.9.9撮影)

#### 生息・生育状況

本州（日本海側では新潟県以南、太平洋では茨城県以南）、四国、九州、南西諸島に分布<sup>(32)</sup>。萩市や下関市、山陽小野田市、光市に記録があるが<sup>(12)</sup>、萩市以外では現状不明。安定した海岸の砂地に生える<sup>(32)</sup>。

#### 選定理由

生育地が限定され、生育数も少ないため。

#### 減少等の要因

海岸の開発による。

- 890 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000417700 <b>オオイヌノハナヒゲ</b> <i>Rhynchospora fauriei</i> Franch.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

多年生草本。やや叢生する。有花茎は硬く、高さ50-90cm。葉は有花茎の基部に叢生し、幅1.5-2.5mm。花序は複散房状で分花序は2-3個あり、密に多数の小穂をつける。小穂は披針形、長さ7-9mm、少数の鱗片をつけ、2-3個の花がある。刺針状花被片は6本、長さは瘦果の3倍以上、細く平滑または、まばらに下向きにざらつく。<sup>(33)</sup>

【執筆者：眞崎 久】



提供：眞崎 久(1992.7.26撮影)

#### 生息・生育状況

北海道、本州、九州に分布<sup>(33)</sup>。阿武町からの報告<sup>(59)</sup>があるが現状不明である。山地の湿地に生える。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少数である。

#### 減少等の要因

湿地開発によって減少する。

- 891 -

イネ目 カヤツリグサ科 1202000418600 <b>ヒメカンガレイ</b> <i>Schoenoplectus mucronatus</i> (L.) Palla var. <i>mucronatus</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。有花茎は高さ40-80cm、横断面は3稜形。花序は仮側生し、無柄の小穂が3-10個集まって頭状となる。小穂は卵形、長さ6-10mm、鋭頭。カンガレイに比べて全体が小型であり、刺針状花被片は瘦果とほぼ同長である。<sup>(33)</sup>



提供：眞崎 久(2017.9.3撮影)

**生息・生育状況**

本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布<sup>(33)</sup>。県内は萩市、美祢市、岩国市、防府市に記録される。湿地に生える。

**選定理由**

生育地が少なく個体数も少ない。

**減少等の要因**

湿地の開発により減少する。

イネ目 イネ科 1202000508800 <b>ミズタカモジグサ</b> <i>Elymus humidus</i> (Ohwi et Sakam.) A.Löve	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。稈は束生し、高さ40-60cm、葉は長さ7-15cm、幅3-7mm、葉鞘は無毛。穂状花序は直立、長さ10-20cm、小穂は花時にも花軸に圧着する。小穂は長さ17-22mm、無毛、淡緑色で成熟すると紫褐色に染まり、5-7小花からなる。カモジグサに似るが、カモジグサの花穂が點頭し、花軸が細く、内穎に竜骨の上半部に沿って多数の細かい歯が並んだ細い翼（ひれ）があるのに対し、ミズタカモジグサは花穂が直立し、花軸は太く、内穎に翼がない。<sup>(36)</sup>



提供：秋丸浩毅(2018.5.22撮影)

**生息・生育状況**

日本では本州、九州に分布<sup>(36)</sup>。県内では美祢市から記録がある。水田の周りに生育する。

**選定理由**

県内では生育地が1箇所限定されており、個体数も少数である。

**減少等の要因**

水田を放棄し、乾地化したり、植生遷移が進行すると消滅する。

イネ目 イネ科 1202000510200 <b>ウンヌケモドキ</b> <i>Eulalia quadrinervis</i> (Hack.) Kuntze	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：眞崎 久】

多年生草本。稈は束生して直立、高さ60-100cm。葉身は長さ10-30cm、幅3-7mm、両面にまばらな短毛がある。葉鞘はやや密に白毛に被われる。花期は9-11月で、花序は3-7個の総からなり、総は斜めに立って、長さ6-12cm、小穂は長さ5-6mm、有柄のものと無柄のものが対になって中軸に着く。<sup>(36)</sup>



提供：眞崎 久(2010.10.20撮影)

#### 生息・生育状況

本州（東海道以西）、四国、九州、琉球に分布<sup>(36)</sup>。県内では下松市、光市、岩国市に記録がある。低山の登山道の日当たりの良い路傍に生育する

#### 選定理由

生育地が少なく、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

道の管理放棄や遷移の進行により衰退すると思われる。

- 894 -

キンボウゲ目 ケシ科 1202200100500 <b>キケマン</b> <i>Corydalis heterocarpa</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

基本種であるツクシキケマンに似ているが、さく果は狭披針形でほとんど数珠状にならず、種子は2列またはほぼ2列に並ぶ。ミヤマキケマンより大型で花の距が短く、葉の形に違いがある。<sup>(41)</sup>

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

沿海地や河岸の林縁などに生育する。日本の本州(関東以西)~琉球に分布する。県内では山陽小野田市、萩市、阿武町、山口市、上関町、岩国市での採集記録がある。<sup>(12,41)</sup>

#### 選定理由

生育地が沿海地や河岸の林縁など不安定な土地である。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 895 -

キンポウゲ目 ケシ科 1202200101100 <b>ミヤマキケマン</b> <i>Corydalis pallida</i> (Thunb.) Pers. var. <i>tenuis</i> Yatabe	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

越年生草本。無毛で軟らかい。葉は1-2回羽状複葉。総状花序は長さ3-10cm、8-15個の黄色花を着ける。花の長さは20-23mm。さく果は2-3cmで深くじゅず状にくびれる。母種のフウロケマンはやや小形で、総状花序は2-5cm、2-6個の淡黄色花を着け、花の長さは18-20mm、さく果は浅くじゅず状にくびれる。<sup>(6)</sup>



提供：秋丸浩毅(1998. 5. 23撮影)

#### 生息・生育状況

温帯、暖帯域の樹林下、林縁などに生育する。日本の本州(主として近畿地方以東、広島県、山口県)の山地に分布する。県内では岩国市と萩市での採集記録がある。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定され、近畿以東の主産地から隔離分布している。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 896 -

キンポウゲ目 ケシ科 1202200101200 <b>ナガミノツルキケマン</b> <i>Corydalis raddeana</i> Regel	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

越年生草本。軟弱で葉は羽状複葉。茎に翼状の稜があり、つる状に長く伸びる。7-10月ごろ濃い黄色花を開く。さく果は線状倒披針形で、幅2-2.5mm、種子はほぼ1列に並ぶ。母種のツルキケマンは、さく果は長倒卵形、幅3.5-4.5mm、種子は2列に並ぶ。花は淡黄色-淡緑黄色である。<sup>(6)</sup>



提供：秋丸浩毅(2014. 10. 9撮影)

#### 生息・生育状況

温帯下部域の冷涼な(溪側など)樹林下、林縁などに生育する。日本では、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では岩国市と山口市での採集記録がある。国外では朝鮮半島、中国、ロシア(アムール)に分布する。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行。

- 897 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200502600 <b>トウゴクサバノオ</b> <i>Dichocarpum trachyspermum</i> (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。高さ10-20cm。茎と葉の下面は無毛。花期は4-5月、淡黄緑色の小花を開く。茎の基部に閉鎖花を着ける。種子に小さい突起がある。<sup>(6)</sup>



提供：山根文人(2017.5.5撮影)

#### 生息・生育状況

暖帯上部域の樹林下に生育する。日本の本州(宮城県以南)四国、九州に分布する。県内では美祢市、周南市から知られる。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 898 -

キンポウゲ目 キンポウゲ科 1202200504100 <b>シギンカラマツ</b> <i>Thalictrum actaeifolium</i> Siebold et Zucc.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。茎葉は3回3出複葉。花序は複散房状で、花は径1cm、雪白色。がく片は4個、広楕円形で長さ約4mm、花期に脱落する。花糸は先が棍棒状に肥厚し、葯より太い。花柱は細長く、長さ1.5-2mm、先は曲がる。果実の先もかぎ形に強く曲がる。<sup>(6)</sup>



提供：南 敦(2018.10.1撮影)

#### 生息・生育状況

産地はきわめて限られ、岩上や樹林下に生育する。近くに移植しても育たない。日本の本州(関東地方南部以西)、四国、九州に分布する。県内では岩国市、周防大島町から記録される。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化、園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 899 -

ユキノシタ目 ユズリハ科 1202600400200 <b>エゾユズリハ</b> <i>Daphniphyllum macropodum</i> Miq. subsp. <i>humile</i> (Maxim. ex Franch. et Sav.) Hurus.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

幹の高さは普通1mほどで、枝に粘性があり、しなる。葉身は9-15cmで薄い。雌雄異株であり、花期は4-6月、果実は黒紫色に熟する。<sup>(42)</sup>



**生息・生育状況**

多雪地の林下に生育する。日本では北海道、本州中北部の主に日本海側に分布する。県内では岩国市に記録されている。<sup>(42)</sup>

提供：南 敦(2011.9.10撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されている。

**減少等の要因**

生育地の開発などによる生育環境の悪化。

- 900 -

ユキノシタ目 ユキノシタ科 1202600600300 <b>シロバナネコノメソウ</b> <i>Chrysosplenium album</i> Maxim. var. <i>album</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。葉は扇状円形-円じん臓形。花茎は高さ5-10cm。がく裂片は長卵形で長さ3-5mm、花時に白色、裂開直前の葯は暗紅色。花柱は長さ1.5-2mm。<sup>(6)</sup>



**生息・生育状況**

暖帯上部～温帯下部域の冷涼な樹林下沢沿いに生育する。日本の本州(近畿地方、中国地方)、四国、九州に分布する。県内では周南市、岩国市から知られる。<sup>(6,12)</sup>

提供：眞崎 久(2013.3.20撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されている。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 901 -

ユキノシタ目 ユキノシタ科 1202600600800 <b>チシマネコノメソウ</b> <i>Chrysosplenium kamtschaticum</i> Fisch. ex Ser.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。小形の軟弱な植物体で、葉腋にわずかな毛があるほかは無毛。花時に根出葉があり、がく裂片は花時に平開し、黄緑色。種子の稜はほとんど平滑である。<sup>(6)</sup>



提供：山根文人(2012.4.14撮影)

### 生息・生育状況

寒帯～温帯域の冷涼な樹林下沢沿いに生育する。日本では北海道、本州(近畿地方以北の日本海側、広島県、山口県)に分布する。県内では岩国市から知られる。国外ではロシア(サハリン、千島、カムチャツカ)に分布する。<sup>(6)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 902 -

ユキノシタ目 ユキノシタ科 1202600601100 <b>ヒダボタン</b> <i>Chrysosplenium nagasei</i> Wakab. et H.Ohba var. <i>nagasei</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

ネコノメソウの仲間では比較的大型の種である。早春の花期には苞が鮮黄色となって目立つ。近縁種のボタンネコノメソウとは、がく裂片や葯の色などによって区別される。<sup>(60)</sup>



提供：山根文人(2012.4.29撮影)

### 生息・生育状況

沢沿いの陰湿地に生育する。本州に分布し、県内では山口市や周南市で記録されている。<sup>(60)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 903 -

ユキノシタ目 ベンケイソウ科 1202600700200 <b>ベンケイソウ</b> <i>Hylotelephium erythrostictum</i> (Miq.) H.Ohba	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	-
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。根茎は肥厚する。花茎は高さ30-100cm、直立し、葉とともに帯白淡黄緑色。葉は対生-互生。花期は9-10月。花序は散房状、花弁は紅色である。<sup>(41)</sup>



#### 生息・生育状況

草原や明るい林床に生育する。日本の本州中北部、九州、国外では中国に分布する。県内では山口市から記録される。<sup>(41)</sup>

提供：南 敦(2013.10.4撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。園芸採取が原因と考えられる。

- 904 -

ユキノシタ目 ベンケイソウ科 1202600700500 <b>アオベンケイ</b> <i>Hylotelephium viride</i> (Makino) H.Ohba	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。花茎は高さ20-50cmで斜上する。葉は対生、上面・下面ともに緑色-褐緑色。花期は9-10月。花序は散房状で、花弁は淡黄緑色である。<sup>(6,41)</sup>



#### 生息・生育状況

温帯域のブナなどのコケ類の着生した樹幹上、岩上、腐植の堆積した枝上、岩上に生育する。日本の本州(中部地方以西)、四国、九州に分布する。県内では岩国市から記録される。<sup>(6,12)</sup>

提供：秋丸浩毅(2015.10.31撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発による大木の減少などによる生育環境の悪化、園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 905 -

ユキノシタ目 ベンケイソウ科 1202600700700 <b>イワレンゲ</b> <i>Orostachys malacophylla</i> (Pall.) Fisch. var. <i>iwarenge</i> (Makino) H. Ohba	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。ロゼット葉は倒卵形、長さ2-6cm、鈍頭-円頭、帯白緑色。9-11月ごろ高さ10-25cmの花茎を出し、下部に葉を、上部に花を穂状に密生する。花弁は白色、裂開直前の葯は黄色-汚淡紅色である。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

海岸の岩上、断崖、石垣、人家の屋根などに生育する。周辺の植物が繁茂すると衰退する。日本の本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では下関市、周南市、上関町から記録される。場所によっては自生か栽培品から逸出したものか不明の場合がある。<sup>(6,12)</sup>

提供：秋丸浩毅(2014. 11. 22撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化、園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 906 -

ブドウ目 ブドウ科 1202700100100 <b>ウドカズラ</b> <i>Ampelopsis cantoniensis</i> (Hook. et Arn.) Planch. var. <i>leeoides</i> (Maxim.) F.Y.Lu	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

つる性落葉木本。葉は大型で全長12-30cm、2-4対羽状複生し、最下の羽片はさらに3出する。暖帯域で滝や川の近くに生育し、1つの株が数平方m以上に広がっている。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

日本固有種で、本州(紀伊半島及び山口県)、四国、九州に分布し、県内では宇部市、萩市、山口市に記録されている。<sup>(6,12)</sup>

提供：秋丸浩毅(2016. 6. 11撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 907 -

ブドウ目 ブドウ科 1202700101300 <b>アマヅル</b> <i>Vitis saccharifera</i> Makino	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性つる植物。葉はやや厚く、光沢がある。葉は心形-三角状卵形で長さ4-8cm、幅3-7cm、基部は心形、切形。低い波状の鋸歯がある。葉の下面ははじめ葉脈上に赤褐色のクモ毛があるが後無毛となり、脈腋にのみ残る。5-6月ごろ円錐状花序を出し淡黄緑色の小花を着ける。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

暖帯山地の林縁で他の木にからんで生育する。蛇紋岩地にも生育する。日本の本州(東海道以西)四国、九州の山地に分布する。県内では山口市、柳井市、周防大島町、岩国市に記録されている。<sup>(6,12)</sup>

提供：南 敦(2000.10.11撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 908 -

マメ目 マメ科 1202900102500 <b>ミヤマトベラ</b> <i>Euchresta japonica</i> Hook.f. ex Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

常緑小低木。葉は濃緑色で3小葉からなる。小葉は広楕円形-倒卵形で円頭、稀に鈍頭。茎は高さ10-20cm、地下茎を伸ばし、そこから新芽を立てる。6-7月ごろ白色花を開き、晩秋に黒い果実を数個着ける。<sup>(6)</sup>



提供：山根文人(2010.7.19撮影)

#### 生息・生育状況

県内では暖帯域の冷涼地の樹林下に生育する。日本では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では長門市、萩市、山口市、周南市から記録される。国外では朝鮮半島(南部)、中国(南部)に分布する。<sup>(6,12)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化、園芸採取が原因と考えられる。<sup>(6)</sup>

- 909 -

マメ目 ヒメハギ科 1202900200200 <b>ヒナノキンチャク</b> <i>Polygala tatarinowii</i> Regel	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 EN

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

一年生草本。高さ7-12cm、まばらに分枝する。葉は卵円形-楕円形で先端はとがり、質は薄く軟弱で、長さ1-3cm、基部は流れて翼のある葉柄となる。花は7-8月ごろ開き淡紅色で、長さ約2mm。がく片は5個、側片は花弁状で楕円形、雄しべは8本。さく果は円く平たい。<sup>6</sup>



提供：高田義弘(不明撮影)

**生息・生育状況**

日当たりのよい草地に生育する。日本では本州、四国、九州に広く分布する。県内では美祢市、下松市の記録しかない。国外では朝鮮半島、中国(東北部)、ロシア(東シベリア)、インドに分布する。<sup>6,12</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されている。

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる草地の減少で生育環境が悪化したため。<sup>6</sup>

バラ目 バラ科 1203000101100 <b>オオヤマザクラ</b> <i>Cerasus sargentii</i> (Rehder) H.Ohba var. <i>sargentii</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性高木。高さ10-15mから25mに達する。葉は楕円形、長さ8-15cm、先端は尾状、基部は通常円-浅心形。小枝は暗紫褐色で光沢がある。花は淡紫紅色で大きい。<sup>6</sup>



提供：眞崎 久(1992.4.29撮影)

**生息・生育状況**

温帯域の自然林内に点在、生育する。日本では北海道(西南部)、本州、四国(愛媛県-石鎚山)に分布する。県内では岩国市から記録される。国外では朝鮮半島、ロシア(サハリン、南千島)に分布する。<sup>6,12</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されているため。また、本県は本種の分布の西南限域である。<sup>6</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。近隣への園芸種の植栽による遺伝子汚染。<sup>6</sup>

バラ目 バラ科 1203000104000 <b>テリハキンバイ</b> <i>Potentilla riparia</i> Murata	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
環境省	2019	-	

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

多年生草本。毛がまばらにあり、根茎はあまり太くならず、匍枝は細くて、著しく長くなる。葉は3個の小葉からなり、やや硬く表面に光沢がある。花期は4-5月。花は小さく径12-13mm。<sup>(4)</sup>



#### 生息・生育状況

川岸の岩石地や山頂部に生育する。日本では本州(近畿・中国地方)、四国に分布する。県内では周防大島町から知られる。<sup>(6,12,41)</sup>

提供：眞崎 久(1992.4.5撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されている。

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 912 -

バラ目 バラ科 1203000107100 <b>ゴシヨイチゴ</b> <i>Rubus chingii</i> Hu	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
環境省	2019	EN	

#### 形態・生態

【執筆者：鶴谷 保】

落葉低木。茎にかぎ形のとげをもつ。葉は円形で通常5深裂、基部は心形。花期は4-5月。花は白色、径約3cm、下向きに咲く。果実は球形で紅熟し美味である。長い根茎を地中に伸ばし繁殖する。種子で繁殖するが、稚苗は少ない。栄養繁殖により増殖するが、遠くには広がらない。<sup>(6)</sup>



#### 生息・生育状況

暖帯下部域の冷涼で日当たりのよい伐採跡地、疏林下によく生育する。日本では本州(山口県)、四国(高知県、愛媛県)、九州(福岡県、大分県)に分布する。県内では山口市から記録される。国外では中国(中部)に分布する。<sup>(6,12)</sup>

提供：眞崎 久(2018.6.2撮影)

#### 選定理由

県内では生育地が限定されているため。また、中国にも分布し、隔離分布する種である。<sup>(6)</sup>

#### 減少等の要因

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 913 -

バラ目 バラ科 1203000111300 <b>ツシマナナカマド</b> <i>Sorbus commixta</i> Hedl. var. <i>wilfordii</i> (Koehne) Sugim.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

落葉性小高木。高さ約10m。葉は奇数羽状複葉で小葉は長楕円形、通常7-11枚、葉の下面は粉白色-白緑色。花期は5-7月、白色で、果実は赤熟する。<sup>(6, 42)</sup>



提供：秋丸浩毅(1999. 5. 30撮影)

**生息・生育状況**

温帯域のブナ・ミズナラ樹林や林縁部に生育する。日当たりのよい場所ではよく生育するが、森林中では光を奪われて衰退する。日本の北海道(南部)、本州(北陸地方、中国地方)、九州(長崎県対馬)に分布する。県内では岩国市に記録される。<sup>(6, 12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されているため。また、本県は本種の分布の西南限域である。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

バラ目 クワ科 1203000601000 <b>アコウ</b> <i>Ficus superba</i> (Miq.) Miq. var. <i>japonica</i> Miq.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：鶴谷 保】

常緑亜高木-高木。幹から気根を出す。葉は革質、長楕円形、長さ7-12cm、幅3.5-5cm、側脈は6-8対。花のうは球形で径6-8mm。花のう基部の総苞葉は3個で早く落ちる。枝により不定期的に一斉に落葉したり、花のうも不定期的に一斉に多数生じる。<sup>(6)</sup>



提供：江上嘉昭(2018. 10. 7撮影)

**生息・生育状況**

主に亜熱帯域の海岸の岩上や断崖に生育する。日本では本州(紀伊半島、山口県)、四国、九州、琉球に分布する。県内では周南市、柳井市、上関町、周防大島町から記録される。国外では中国、インドネシア、タイ、マレーシアなどに分布する。<sup>(6, 12)</sup>

**選定理由**

県内では生育地が限定されているため。また、本県は本種の分布の北限線上にある。<sup>(6)</sup>

**減少等の要因**

生育地の開発などによる生育環境の悪化。

ニシキギ目 ニシキギ科

1203300101100

## ヒゼンマユミ

*Euonymus chibae* Makino

### カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	EN
環境省	2019	EN

### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

常緑性小高木。高さ5-8mになる。葉は対生し、長楕円形、長さ5-10cm、幅2-5cmで急尖し先端は鈍頭。4-5月ごろ葉腋に集散花序を出し、淡緑色の小花を着ける。さく果は垂れ下がり倒卵球形で長さ1-2cm、通常4室で4鈍稜があり、晩秋黄色く熟する。種子はオレンジ色の仮種皮に包まれる<sup>(12, 24, 26, 37, 43, 44, 47)</sup>。



### 生息・生育状況

島嶼の常緑広葉樹林内に生育する。

提供：南 敦(2006.6.1撮影)

### 選定理由

暖地性の種で山口県が北限の産地である。県内でも生育地が1箇所と限定されており、県指定天然記念物になっている。

### 減少等の要因

生育地にモウソウチクが繁茂し、林内が暗くなりヒゼンマユミの伐木や幼苗の生育が著しく難しくなっている。

- 916 -

キントラノオ目 コミカンソウ科

1203500200100

## ヒトツバハギ

*Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill.

### カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	EN
環境省	2019	-

### 形態・生態

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性低木で高さ2mくらいになり、枝は繁生する。雌雄異株。葉は互生、長楕円形で長さ3-5cm、幅1.5-2.5cm、先端は短く尖るか鈍形、全縁で少し波打つ。花は6月ごろ開き淡黄色、雄花は葉腋に多数束生、雌花は葉腋に少数着ける。さく果は長い柄をもち扁球形、径6mm、3本のくびれがあって3裂、内部に6個の種子がある。母種のメヒトツバハギは朝鮮半島、中国、ヒマラヤ、ロシア(アムール、ウスリー、東シベリア)に、アマミヒトツバハギは葉が厚く円頭で琉球列島から台湾に分布する<sup>(12, 23, 24, 26, 37, 43, 44)</sup>。



### 生息・生育状況

日当たりのよい島嶼岩上、河川堤防上に生育し、県内では光市のみに自生する。

提供：南 敦(2009.6.28撮影)

### 選定理由

県内では生育地が1つの離島のみに限定されており、植物分布上非常に貴重である。現在、光市の天然記念物と名木に指定されている。

### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 917 -

キントラノオ目 ヤナギ科  
1203500502600

## オノエヤナギ

*Salix udensis* Trautv. et C.A.Mey.

### カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	-
環境省	2019	-

### 形態・生態

高木。小枝は褐色、ふつう無毛だが、若枝はふつうわずか、まれには密に細軟毛をしく、若葉の縁は先端部を除き、裏面に巻く。成葉は披針形ないし狭披針形、長さ10-16cm、幅1-2cm、先端は長くとがり、基部は鋭形ないし鈍系、全縁あるいは不明の低い波状鋸歯あり、表面は暗緑色・無毛で光沢があり、裏面は帯白淡緑色、やや無毛か短圧毛を散生する<sup>(23, 25, 26, 43)</sup>。

【執筆者：吉岡龍太郎】



提供：秋丸浩毅(2014. 5. 22撮影)

### 生息・生育状況

山地の湿地や川岸に生育する。

### 選定理由

県内の限られた地域に生育している。山地性で、四国では希、九州では報告されておらず、植物地理学上重要である。

### 減少等の要因

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 918 -

キントラノオ目 スミレ科  
1203500600500

## ナガバノスミレサイシン

*Viola bissetii* Maxim.

### カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	-
環境省	2019	-

### 形態・生態

山地の樹林下に生える多年生草本。関東地方以西の太平洋側山地に分布する。地下茎はやや太く横臥し、葉は花に遅れて伸び、葉身は長三角状卵形で先がとがり、基部は深く心形入り込み、縁は鈍鋸歯があり、全体にほとんど毛が無く表面はやや光沢がある。花はやや大型で淡紫色、唇弁には紫のすじがはっきりしている<sup>(22, 26, 43, 45)</sup>。

【執筆者：吉岡龍太郎】



### 生息・生育状況

山地の樹林下に生育する。

提供：吉岡龍太郎(2016. 4. 16撮影)

### 選定理由

西南日本の太平洋側に主に生育し、植物地理学上重要である。県内の限られた地域に生育している。

### 減少等の要因

森林伐採や道路工事などの人為的な影響を受けやすい。

- 919 -

キントラノオ目 スミレ科 1203500604300 <b>ヒナスミレ</b> <i>Viola tokubuchiana</i> Makino var. <i>takedana</i> (Makino) F.Maek.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。無茎性のスミレで、高さ3-8cm。葉は束生、葉身は三角状狭長卵形で上半部はやや尖り、基部は心臟形となり、縁はやや目立つ波状の鈍鋸歯がある。4-5月ごろ花柄を伸ばし淡紅色の花を着け、径1.5cmくらい。花柄の途中に細い2枚の苞葉がある。近縁種のシハイスミレは葉は長卵形、鋸歯はヒナスミレに較べ鈍く、先端も鈍頭である。  
(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)



提供：眞崎 久(2006.4.22撮影)

**生息・生育状況**

落葉樹林内谷沿い斜面に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

キントラノオ目 スミレ科 1203500605300 <b>ヒカゲスミレ</b> <i>Viola yezoensis</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。全体軟らかく、しばしば横に這う根から不定芽を出すことがある。葉身は卵状だ円形で先端は鈍く、縁に鈍鋸歯があり、緑色でしばしば暗緑色または鉄さび色となる。全体にややあらい毛が生えている。かなり大きな白色花をつけ、唇弁に紫条がある。  
(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)

NO IMAGE

**生息・生育状況**

やや湿り気のある木陰に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

フウロソウ目 フウロソウ科 1203600100900 <b>コフウロ</b> <i>Geranium tripartitum</i> R.Knuth var. <i>tripartitum</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。茎は高さ30cm、下部で分枝し、逆向する伏毛がある。葉は対生して3全裂。花は8-9月ごろ枝先に花柄を伸ばし淡紅色-白色の径1.2cmの小花1-2個を開く。花弁はがく片と同長でへら形、先端は凹む。近縁種のゲンノショウコは葉は5深裂、植物体に腺毛が密生する<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。



**生息・生育状況**

山地樹林下に僅かに生育する。

提供：吉岡龍太郎(2018. 8. 7撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少数で貴重である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 922 -

フトモモ目 アカバナ科 1203700200200 <b>ウシタキソウ</b> <i>Circaea cordata</i> Royle	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。地下茎を伸ばし、高さ40-50cmになる。茎は直立し淡緑色、基部は多少ふくらむ。茎と葉には細毛がある。葉は対生し、卵状心臓形、縁には低い波状の鋸歯がある。葉柄は長い。8-9月ごろ茎の先端部に総状花序を出し、柄のある白色の小花を着ける。花弁は2個、広卵形で深く2つに裂ける。果実は倒卵状球形でかぎ毛が密生する。近縁種のみズタマソウは山地樹林下に生え、葉は長卵形-卵状長楕円形、茎に下向きの細毛がある<sup>(12, 22, 24, 26, 37, 43, 45)</sup>。



**生息・生育状況**

常緑広葉樹林下の道端などに生育する。

提供：秋丸浩毅(2014. 6. 21撮影)

**選定理由**

日本の北海道から四国に記録されるが、県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 923 -

ムクロジ目 ムクロジ科 1203900200700 <b>ミツデカエデ</b> <i>Acer cissifolium</i> (Siebold et Zucc.) K.Koch	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

落葉性小高木で高さ5-8mくらいになる。日本固有種。葉は対生し、暗赤色の長い柄があり、3出複葉。小葉は卵状楕円形、長さ5-8cm、幅2-3.5cm、縁にはまばらな鋸歯がある。主脈と側脈の脈腋には毛がある。花は4-5月ごろ10-15cmの穂状花序を出して開き、黄色。花弁、かく片とも4個、雄ずいは4-5本ある。果実の翼は3cmくらいで短毛がある<sup>(12, 24, 26, 37, 43, 44)</sup>。



**生息・生育状況**

山口市では石灰岩地に、岩国市ではブナ林域の樹林下に生育する。地質と関係がある植物である。

提供：眞崎 久(2005.10.30撮影)

**選定理由**

日本の温帯域の石灰岩や火山岩などに主として分布しており、県内では生育地が限定されて、個体数も少ない。

**減少等の要因**

伐採等人為的影響を受けやすい。

ビャクダン目 ビャクダン科 1204200100100 <b>ツクバネ</b> <i>Buckleya lanceolata</i> (Siebold et Zucc.) Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

やせた山地に生える半寄生の落葉性低木で根は他の樹の根に寄生する。幹は直立し、高さ1-2.5mくらい。雌雄異株、初夏の頃、雄花が枝端に散房状につき、雌花は中央の花枝の先に1個つく。果実は卵円形あるいは楕円状円形で長さ7-10mmくらい。果実の先端には大きく成長して葉状となった線状披針形の4個の包がある。和名は果実の様子が羽子板で衝く羽根に似ているからである<sup>(23-25, 37, 43, 48)</sup>。



**生息・生育状況**

本州・四国の暖帯～温帯下部の樹林に生育する。

提供：吉岡龍太郎(2018.8.7撮影)

**選定理由**

分布が、県内の冷涼な数箇所に限られ、個体数も少なく、植物地理学上重要である。

**減少等の要因**

道路沿いの丈の低い雑木林に生育し、道路拡張工事や伐採により、生育環境が変化し個体数が急激に減少する可能性がある。

ナデシコ目 タデ科 1204300204700 <b>シマヒメタデ</b> <i>Persicaria tenella</i> (Blume) H.Hara	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

別名：フトボノヌカボタデ。一年生草本または多年生草本。茎は基部には這って節から根を出して広がり、上部は斜上して、高さ20cmに達する。葉形はヌカボタデに似るが、裏面に不明瞭な小さい腺点と大きな盤状腺点が混在する<sup>(48)</sup>。



提供：眞崎 久(2018.10.7撮影)

**生息・生育状況**

川沿いや休耕田などに生育する。

**選定理由**

県内では生育地が1箇所と限定され、個体数も少なく貴重である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

- 926 -

ナデシコ目 ナデシコ科 1204300400400 <b>アキヨシミミナグサ</b> <i>Cerastium akiyoshiense</i> Kadota	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

高さ10-20cmの多年生草本。茎は上部で分岐し、多細胞の長毛があり、上部に腺毛を混じえ、しばしば黒紫色を帯びる。花弁は狭倒卵形、長さ4.5-5.5mm、全長の1/5-1/4ほど2裂し、裂片は鋭頭。過剰な銅に対する耐性を持ち、ときに純群落となる<sup>(48)</sup>。



提供：松井茂生(2004.4.6撮影)

**生息・生育状況**

山口県秋吉台周辺の限られた場所に生育する。

**選定理由**

特殊な土壌に生育し、植物生態学上貴重である。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。生育環境の保全が必要である。

- 927 -

ツツジ目 ツツジ科 1204501100300 <b>サラサドウダン</b> <i>Enkianthus campanulatus</i> (Miq.) G.Nicholson var. <i>campanulatus</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

山地に生える落葉性小高木で、高さ4-5mになる。幹は滑らかで灰色、質は堅く、枝は輪生して斜上または横に広がる。葉は枝の先に輪状に集まって付き、だ円形または倒卵形で先は鋭形基部はくさび形、縁に細かい鋸歯がある。裏面に中央脈に沿って赤褐色の毛が生える。花冠は鍾形で下向きに開き、長さ6-8mm、先は5裂し紅色で濃紅色の縦の条がある<sup>(12, 22-25, 37, 43-45, 49, 50)</sup>。



提供：眞崎 久(1993.6.9撮影)

**生息・生育状況**

ブナ林域の樹林下に生育する。

**選定理由**

県内の生育場所は1箇所と限定されている。中国地方の脊梁山地に残存的に分布している。

**減少等の要因**

園芸的価値があるため盗掘の対象となる場合がある。

ツツジ目 ツツジ科 1204501100700 <b>シャクジョウソウ</b> <i>Hypopitys monotropa</i> Crantz	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：吉岡龍太郎】

多年生草本。淡黄褐色の腐生植物。茎は肉質で高さ10-25cm、花部と共に通常軟毛がある。葉は鱗片状で多数互生し、卵状長楕円形-広披針形で通常鋭頭。花は7月ごろ茎の頂に総状花序に数個着き、淡黄白色で、花柄はときに2-3cmに達する。花冠は筒状鐘形で長さ1-1.5cmである<sup>(12, 22-25, 37, 43-45, 49, 50)</sup>。



提供：山根文人(2016.6.12撮影)

**生息・生育状況**

山地の湿度の高いやや暗い樹林下に生育する。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少ない。

**減少等の要因**

生育環境の変化の影響を受けやすい。

リンドウ目 アカネ科 1204800101200 <b>エゾノヨツバムグラ</b> <i>Galium kamschaticum</i> Steller ex Roem. et Schult. var. <i>kamschaticum</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し高さ10-20cm、葉は4枚輪生し広楕円形、広倒卵形または倒卵形、長さ8-20mm、幅5-13mmで質薄く全体に小形、先端は円頭凸端。花は7-8月ごろまばらに着き、花冠は淡黄緑色で4裂する。変種のオオバノヨツバムグラは全体が大きく高さ20-40cmになり、葉は長楕円形である<sup>(37,51)</sup>。



提供：眞崎 久(1992.7.31撮影)

#### 生息・生育状況

県内では岩国市のブナ帯域の樹林下に見られる<sup>(12)</sup>。本州中部地方以北、北海道に分布し、国外では朝鮮、ロシア(ウスリー、サハリン、カムチャツカ)、北アメリカに分布する<sup>(51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

温暖化と植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 930 -

リンドウ目 アカネ科 1204800101800 <b>ビンゴムグラ</b> <i>Galium pseudoasprellum</i> Makino var. <i>bingoense</i> Murata et Ezuka	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 -
	環境省	2019 -

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。葉は倒卵状楕円形ないし長楕円形、長さ7-25mm、幅3-12mm、茎の基部から4枚輪生し、まれに茎の中部で5ないし6輪生することがある。近似種のオオバノヤエムグラは、葉の多くが5枚輪生し、まれに6枚輪生することがあるが、4枚輪生となることは上部の枝を除けばほとんどない。



提供：秋丸浩毅(2005.6.12撮影)

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、山口市、萩市、美祢市に見られる。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 931 -

リンドウ目 アカネ科 1204800103800 <b>イナモリソウ</b> <i>Pseudopyxis depressa</i> Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。地下茎は細く地中を這い、茎は高さ3-10cm、多細胞の軟毛を生ずる。葉は2-3対、卵形または三角状卵形で長さ3-6cm、幅2-4cm。花は5-6月、葉腋ごとに1個または枝先に1-2個、紅紫色の長筒合弁花をつける。花冠は5裂し、長さ2.5cmで内面に短毛が散生する<sup>(37, 51, 52)</sup>。



### 生息・生育状況

県内では周南市、山口市、美祢市、長門市、下関市の記録があり<sup>(52)</sup>、岩国市、萩市の山地の樹林下に見られる。本州関東南部以西～九州に分布し、山地の木陰に生育する<sup>(37, 51, 52)</sup>。

提供：山根文人(2010.6.13撮影)

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

### 減少等の要因

園芸用の採取。土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 932 -

リンドウ目 キョウチクトウ科 1204800402000 <b>タチカモメヅル</b> <i>Vincetoxicum glabrum</i> (Nakai) Kitag.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 -
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は下部が直立し、先がややつる状となり、長さ40-100cm、わずかに曲がった毛がある。葉は対生し、葉柄は2-5mm、葉身は長楕円状披針形で先が尖り、長さ3-11cm、幅1-4cm、やや厚く、裏面には短毛があり、基部は円形または多少針形となる。花は7-9月に上部の葉腋に群がってつき、暗紫色で径9mm内外、花冠は無毛。別名クロバナカモメヅル<sup>(37, 51)</sup>。



### 生息・生育状況

県内では岩国市、柳井市、周南市、山口市、下関市に見られる<sup>(12)</sup>。本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布し、日当たりの良いやや湿った草地や林縁に生育する<sup>(37, 51, 52)</sup>。国外では朝鮮に分布する<sup>(37, 52)</sup>。

提供：眞崎 久(2001.7.22撮影)

### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 933 -

ナス目 ナス科 1205000202000 <b>ハシリドコロ</b> <i>Scopolia japonica</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。結節のある太い湾曲した地下茎をもつ。茎は高さ30-60cm、無毛でまばらに枝分かれし、基部に鱗片葉がある。葉は互生し、楕円状卵形で先はとがり毛がなく、長さ6-18cm、幅2.5-6cmで全縁、下部の葉にはときどき粗い鋸歯がある。花は4-5月ごろ葉腋に1個ずつ下垂する。花冠は外面が暗紅紫色、内面は黄緑色、鐘形で長さ約2cm、浅く5裂する。全体にアルカロイドのスコポリンを含み猛毒である<sup>(37,51)</sup>。



提供：眞崎 久(2017.4.23撮影)

**生息・生育状況**

県内では山口市で見られる。本州、四国、九州、朝鮮に分布し、山地の著しく冷涼な谷沿いで湿り気のある木陰に生育する<sup>(37,51)</sup>。石灰岩地や火山岩地を好む傾向がある。国外では朝鮮に分布する<sup>(51)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数もごく少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 モクセイ科 1205100101900 <b>シマモクセイ</b> <i>Osmanthus insularis</i> Koidz. var. <i>insularis</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

常緑性高木。高さ15mに達する。全体無毛。葉は狭長楕円形～卵状楕円形でやや薄い革質、長さ7-13cm、幅2-5cm。花は10月、葉腋に束生して白色、花冠は4深裂し径5-6mm。果実は核果で長さ1.6-2cmの長楕円形で、翌年の5-6月に黒碧色に熟する。ナタオレノキ、ハチジョウモクセイともいう<sup>(37,47,53)</sup>。



提供：南 敦(2005.4.8撮影)

**生息・生育状況**

県内では萩市、長門市、下関市から記録され<sup>(12)</sup>、島しょ部や山地の照葉樹林中に点在する。本州（福井県以西）、伊豆八丈島、小笠原諸島、四国、九州、琉球に分布する<sup>(37,47,53)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 イワタバコ科 1205100200200 <b>イワギリソウ</b> <i>Opithandra primuloides</i> (Miq.) B.L.Burtt	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
	環境省	2019	VU

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。全体に軟毛が多く、葉は根生し、葉柄の長さ3-10cm、葉身は長さ3-15cm、幅2-10cm。花は5-6月、長さ12-15cmの花茎の先に紫紅色の唇形花を10個程度つける。花冠は長さ約2cm、外面に軟毛があり、裂片は長楕円形で長さ6-7mm<sup>(37,51,52)</sup>。



**生息・生育状況**

県内では柳井市、周防大島町で見られる。本州近畿以西、四国、九州に分布し、陰地の岩壁に着生する<sup>(37,51,52)</sup>。

提供：南 敦(2010.6.3撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数が少なく繁殖力もほとんどない。また、園芸採取などにより減少している。

**減少等の要因**

園芸用の採取。土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 936 -

シソ目 オオバコ科 1205100301000 <b>シソクサ</b> <i>Limnophila chinensis</i> (Osbeck) Merr. subsp. <i>aromatica</i> (Lam.) T.Yamaz.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。ほとんど枝分かれせず直立し、高さ10-30cm。葉は対生または3輪生し、無柄、長楕円形で先はやや鋭形または鈍形で鈍鋸歯があり、長さ10-25mm、幅3-10mm、裏面に腺点がある。秋に葉の脇から細長い花柄を出し、白色の小さな花を開く。花冠は長さ8-11mmの筒状で、先は唇形。2本ずつ長さの異なる4本の雄しべがある。果実は卵円形でがくに包まれ長さ4-5mm。全体にシソの香りがある<sup>(37,51)</sup>。



**生息・生育状況**

県内では岩国市、田布施町、山口市、宇部市、山陽小野田市の記録がある。本州の関東以西、四国、九州、琉球に分布し、池や水田の湿地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、東南アジア、インド、オーストラリアの熱帯から暖帯に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

提供：眞崎 久(2018.9.19撮影)

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

土地開発や植休耕田の増加などによる生育環境の悪化。

- 937 -

シソ目 オオバコ科 1205100301600 <b>スズメハコベ</b> <i>Microcarpaea minima</i> (J.König ex Retz.) Merr.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎の下部は泥上をはい、多数分枝し、長さ5-20cmとなり、全体無毛で、節から根を出す。葉は対生して小さく、広線形で先は鈍形、全縁で、長さ2-5mm、幅1-2mm。7-10月に葉脇に小さな淡紅色の花を1個ずつ着ける。花はほとんど柄はなく、花冠はがくとほぼ同じ長さで約2mm、下部は筒になり、上部は2裂して唇形。下唇は長く3裂し、へりにまばらに毛がはえる。雄しべは2本。果実は楕円形のさく果で、がくに包まれる<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

#### 生息・生育状況

県内では周南市、防府市、下関市の記録がある。本州関東以西、四国、九州、琉球に分布し、湿地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、東南アジア、インド、オーストラリアに分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発や休耕田の増加、除草剤の散布、植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 938 -

シソ目 ゴマノハグサ科 1205100400200 <b>ゴマノハグサ</b> <i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。根は太く肥厚し紡錘形。茎は直立して分枝せず、高さ90-150cm、無毛、四角に角ばる。葉は洋紙質で卵形～長卵形、鋭い鋸歯があり、長さ6-8cm、幅3-4cm。花は7-8月ごろ茎頂にごく細い総状花序を開く。花冠はつぼ状で4裂し、長さ6-7mm、黄緑色<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1996.7.21撮影)

#### 生息・生育状況

県内では周防大島町、下松市、山口市、宇部市、美祢市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（関東地方南部、中部地方、中国地方）、九州に分布し、湿り気のある草原に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 939 -

シソ目 ゴマノハグサ科 1205100400400 <b>オオヒナノウスツボ</b> <i>Scrophularia kakudensis</i> Franch. var. <i>kakudensis</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。紡錘形に肥大した根を持つ。茎は四角で直立し、高さ約1m、上部には少し軟毛がはえる。葉は対生し柄があり、長卵形で先が尖り鋸歯があり、長さ6-10cm、幅3-5cm。8-9月に、円錐形の集散花序をつけ、多数の暗赤紫色の小さな花を開く。花冠はつぼ形で先は浅く5裂し、長さ8-9mm、下唇は反り返る。雄しべは4本あり、そのうちの2本は長い。果実は卵形のさく果で長さ6~9mm<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2018.7.30撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、山口市、阿武町、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、日当たりの良い草地や林縁に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 シソ科 1205100600400 <b>ジュウニヒトエ</b> <i>Ajuga nipponensis</i> Makino	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	NT
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。高さ10-25cmで茎の下部より数本に分枝する。全体に白毛が多く、白緑色をしている。葉は2-4対あり、倒卵状さじ形~長楕円形で鈍頭~円頭、長さ3-5cm、幅1.5-3cm。花は4-5月に淡紫白色花を総状につける。花筒は背面で長さ約9mm<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2006.5.14撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、周防大島町、柳井市、上関町、下松市、周南市、防府市、下関市の記録がある。本州、四国に分布し、やや乾いた丘陵地の野原に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、園芸採取などにより減少している。

**減少等の要因**

園芸用の採取。土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 シソ科 1205100601700 <b>トサムラサキ</b> <i>Callicarpa shikokiana</i> Makino	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

落葉低木。若い枝には細かい毛が多い。葉は対生し、葉柄は長さ5-7mm、長楕円形で両端ともに細まり、先は長く尾状に尖り、鈍形の粗い鋸歯があり、長さ3-12cm、幅1-3cm、両面に淡黄色の腺点があり、表面と裏面の脈上に細かい毛がある。6-9月に葉の付け根から径1-2cmの集散花序を出し、花軸には細かい毛があり、淡紫色の小さな花をつける。花冠は径約3mm、4裂し、雄しべ4本、雌しべ1本は花冠より長い。果実は球形で径約2mm、紫色に熟す<sup>(37,47,53)</sup>。



提供：眞崎 久(2012.11.25撮影)

**生息・生育状況**

県内では下関市、周防大島町の記録がある。四国、九州に分布する<sup>(37,43,53)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 シソ科 1205100601900 <b>ジャコウソウ</b> <i>Chelonopsis moschata</i> Miq.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は方形で高さ60-100cm、通常分枝しない。葉は狭倒卵形～広倒披針形で長さ10-20cm、幅3-10cm、膜質、上面に斜上毛、下面脈上に開出毛がまばらにある。花は8-9月、葉腋より出て、短柄の先に2-3個着ける。花冠は長さ4-4.5cm、淡紅色。がくは鐘形で果時には長さ15-18mmとなる<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：南 敦(2002.9.7撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、周南市、山口市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道（渡島）、本州、四国、九州に分布し、山地の谷間の湿った木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 シソ科 1205100604800 <b>キセワタ</b> <i>Leonurus macranthus</i> Maxim.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 VU

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し、4角で高さ60-100cm。葉は卵形または狭卵形、あらい毛があり、長さ5-9cm、幅3-7cm、欠刻様の粗い鋸歯があり、鋭頭または鋭尖頭。1-5cmの葉柄がある。花は8-9月、数個ずつ上部の葉腋につき、紅紫色で長さ25-30mm。花冠は唇形で、外面は密に白毛がある<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：南 敦(2015.10.4撮影)

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、周防大島町、周南市、山口市、美祢市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、石灰岩や火山岩の草原に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、東アジアに分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数が少なく繁殖力もほとんどない。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。園芸用の採取。

- 944 -

シソ目 シソ科 1205100604900 <b>マネキグサ</b> <i>Loxocalyx ambiguus</i> (Makino) Makino var. <i>ambiguus</i>	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 NT

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は四角で分枝し高さ40-70cm、稜には下向きの白毛がある。葉は卵円形でやや薄く長さ3-7cm、幅2-6.5cmでまばらに毛がある。花は8-9月、葉腋に1-3個ずつつき、暗紅紫色。花冠の長さ18-20mm、下唇は3裂して開出し長さ7-8mm<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：南 敦(2010.8.3撮影)

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、山口市、美祢市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（神奈川県以西）、四国、九州に分布し、山地の寒冷地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 945 -

シソ目 シソ科 1205100607000 <b>ヤマジソ</b> <i>Mosla japonica</i> (Benth. ex Oliv.) Maxim. var. <i>japonica</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
	環境省	2019	NT

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。茎は四角形で直立分枝し、高さ約10-40cm、紫色を帯び、毛がある。葉は対生し、長さ3-10mmの葉柄があり、長卵円形で長さ1-3cm、幅7-17mm、先は尖り鋸歯がある。9-10月にかけて、枝先に花穂を出し、短い柄のある淡紅紫色の唇形の花をつける。花冠は長さ約3mm、雄しべ4本の内2本は長く、前部の2本はとても小さい<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1994.10.16撮影)

#### 生息・生育状況

県内では岩国市、周防大島町、周南市、防府市、山口市、萩市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、日当たりの良い山麓の丘陵などに生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮南部に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 946 -

シソ目 シソ科 1205100607800 <b>スズコウジュ</b> <i>Perillula reptans</i> Maxim.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。地下茎は長く伸びて所々塊状にふくらむ。茎は細くまばらに分枝し、高さ20-30cmで長軟毛がある。葉は長さ2-4cm、幅1-2.2cmでまばらに毛が着く。花は8-10月、枝に数個を頂生、花冠は白色鐘形でやや2唇形、長さ5-6mmで平滑である<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：秋丸浩毅(2018.10.16撮影)

#### 生息・生育状況

県内では山口市、萩市、美祢市、長門市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球に分布し、山地の木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 947 -

シソ目 シソ科 1205100609300 <b>ハナタツナミソウ</b> <i>Scutellaria iyoensis</i> Nakai	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し、ふつう枝分かれせず、高さ10-40cmで、上向きの微細毛がある。葉は広披針形～狭卵形、長さ3-6cm、幅1-2.5cm、通常両面に腺点があり上面中肋に毛がある。花は5-6月に開き青紫色、花冠は長さ27-32mmある<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(1999.5.19撮影)

#### 生息・生育状況

県内では周南市、山口市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。本州（中国地方）、四国に分布し、山地の木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 948 -

シソ目 シソ科 1205100610600 <b>イヌゴマ</b> <i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>hispidula</i> (Regel) Vorosch.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。地中に白色の長い地下茎を伸ばして繁殖する。茎は四角形で直立し、高さ40-70cm、普通分枝しない。茎の稜に下向きの刺がある。葉は対生し、三角状披針形で長さ4-8cm、幅1-2.5cm、鋸歯があり、葉面にシワがあり、下面の中肋にも刺があり、長さ2-10mmの葉柄がある。7-8月に茎の先に花穂をだし、淡紅色唇形花を密に輪生し層をつくる。花冠は長さ12-15mm、下唇は3裂し、内側に赤い点がある。雄しべ4本のうち2本は長い<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：眞崎 久(2017.8.2撮影)

#### 生息・生育状況

県内では萩市の記録がある<sup>(松本1)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、湿地に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。

#### 選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

#### 減少等の要因

土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 949 -

シソ目 ハエドクソウ科 1205100800200 <b>ハエドクソウ</b> <i>Phryma leptostachya</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (H.Hara) Kitam.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	-
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

多年生草本。茎は直立し高さ50-70cm、ひげ状の根をもつ。葉は対生し、細い葉柄をもち、葉身は卵形または長楕円形で長さ7-10cmで幅4-7cm、粗い鋸歯があり、両面の葉脈上を中心に細かい毛がはえる。7-8月、枝先に細長い穂状花序を出し、白色でしばしば淡桃色を帯びる小さな花を多数つけ、下から順に咲く。花は対生し、柄が無く花序の軸に密着し、初め下を向いているが、花が開くにしたがって横向きになり、果実はイノコズチに似てカギ状になり、他の物に付着して種子を散らすのに役立つ。全体に有毒成分がある<sup>(37,51,52)</sup>。

NO IMAGE

**生息・生育状況**

県内では岩国市、上関町、光市、山口市、山陽小野田市、宇部市、阿武町、萩市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道～九州に分布し、丘陵や山野の林や藪の陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、ヒマラヤ、シベリア東部に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

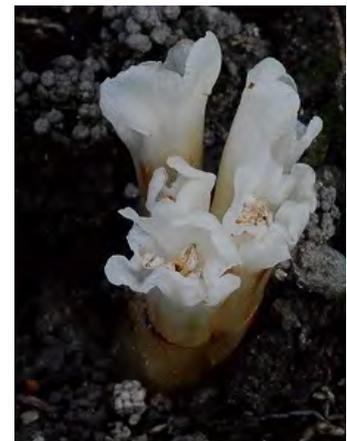
土地開発や植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 ハマウツボ科 1205101001800 <b>キヨスミウツボ</b> <i>Phacellanthus tubiflorus</i> Siebold et Zucc.	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
	環境省	2019	-

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

寄生植物。カシ類、アジサイ類などの根に寄生する。茎は白色～淡黄色で高さ5-10cm、密に鱗片葉に覆われる。花は5-7月ごろ頭状に集まって開き、花冠は白色、長さ2.5-3cm、筒状で斜上し、2唇形となり下唇は3裂する<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：真崎 久(2003.6.7撮影)

**生息・生育状況**

県内では岩国市、萩市、長門市、下関市の記録がある<sup>(12)</sup>。北海道、本州、四国、九州に分布し、山地の湿った木陰に生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、ウスリー、樺太に分布する<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない<sup>(6)</sup>。

**減少等の要因**

森林伐採や植林、植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

シソ目 タヌキモ科 1205101100100 <b>ノタヌキモ</b> <i>Utricularia aurea</i> Lour.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 VU

**形態・生態**

【執筆者：松本秀樹】

一年生草本。池に浮いて生育する食虫植物。葉は互生し、糸状に分枝し立体的に広がる。裂片の先には1本の小さい刺があり、基部近くに少数の捕虫袋をもつ。8-10月に、葉の脇から高さ8-20cm花茎を水上に直立する。花茎には葉が無く、上部に総状花序をつけ、4-10個の黄色の花を開く。花柄は6-10mm、花の咲いた後下を向く。花冠は径6-7mm、外面に毛がはえ、距は下唇とほぼ同じ長さで鈍頭<sup>(37,51,52)</sup>。



提供：江上嘉昭(2002.8.13撮影)

**生息・生育状況**

県内では山陽小野田市、宇部市の記録がある。本州中部以南、四国に分布し、池沼に浮遊して生育する<sup>(37,51,52)</sup>。国外では朝鮮、中国、マレーシア、インドに分布<sup>(37,51,52)</sup>。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体数も少ない。

**減少等の要因**

水質汚濁や浮草類による水面被覆。土地開発、植生の遷移進行などによる生育環境の悪化。

- 952 -

キク目 キキョウ科 1205300100400 <b>シデシャジン</b> <i>Asyneuma japonicum</i> (Miq.) Briq.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

**形態・生態**

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は直立し、高さ30-100cm。下部の茎葉は明らかな柄をもつが、上部のものは無柄。葉身は卵形～長楕円形で、先はとがり基部はくさび形、長さ4-10cm、縁に不規則な鋸歯がある。花期は7-8月、茎頂と上部の葉腋に総状につく。花柄は1-15mm。萼筒は短く、腕形、萼裂片は糸状、全縁で長さ4-10mm。花冠は青紫色、基部まで5裂し、裂片は線形で長さ10-15mm、幅1-2mm、平開し、先は反り返る。花柱は花裂片とほぼ同長であるが、花冠裂片が反り返るので長く突き出ている感じになる。柱頭は3裂する。蒴果は扁球形で径5-6mm。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(2018.10.5撮影)

**生息・生育状況**

山地に生える。本州・九州、朝鮮半島、中国、アムール・ウスリーに分布する。県内では山口市のみから記録される。

**選定理由**

県内では生育地が限られ、個体数も少ない。

**減少等の要因**

園芸採取による減少が顕著である。また、生育地の遷移進行も減少に拍車をかけている。

- 953 -

キク目 キク科 1205300300900 <b>モミジハグマ</b> <i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip. var. <i>acerifolia</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	CR
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。茎は高さ40-80cm、葉は茎の中部に4-7枚がやや輪状につき、長い柄があり、葉身は腎心形または円心形、長さ6-12cm、幅6-18cm。母種のオクモミジハグマより葉がより深く掌状に深く裂ける。花期は8-10月、頭花は多数が穂状につき、開花時は横向き、花柄は2mm、小さい苞が多数つく。1つの頭花あたりの小花数は3個、花冠は白色で4-5裂し、左右相称。瘦果は長さ9.5mm、幅2mm、無毛。冠毛は羽毛状で長さ約11mm。<sup>(54)</sup>



提供：南 敦

**生息・生育状況**

山地の日陰の林床に生える。関東以西の本州・四国・九州に分布し、おもに温帯林の林下に生える。県内では、周南市、岩国市から記録される。

**選定理由**

県内では生育地が限定されており、個体群、個体数も少ない。温帯性の種で、植物地理学上重要である。

**減少等の要因**

もともと個体数が少なく、遷移進行や温暖化等で、危険な状況にある。

キク目 キク科 1205300310100 <b>タイシャクアザミ</b> <i>Cirsium taishakuense</i>	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	VU
環境省	2019	-	

**形態・生態**

【執筆者：秋丸浩毅】

多年生草本。かつて中国地方でテリハアザミと呼ばれていたものだが、分布域や根生葉などから別種として記載された。花期にも大型の根生葉が残るのが大きな特徴で、大きな頭花を下向きに咲かせる。草丈は1-1.5mになり、全体に豪壮で、根生葉は長さ5-70cm、幅20-30cm。羽状に中裂し、裂片は4-7対、縁の刺は5-6mm。表面は黄緑色で光沢がある。頭花は枝先に點頭し、紅紫色で径4-4.5cm。総苞は扁球形で、幅約3.5cm、外片は線状披針形、内片は卵状披針形で、上部は開出する。<sup>(54, 61)</sup>



提供：秋丸浩毅(2014.10.10撮影)

**生息・生育状況**

広島県と岡山県の石灰岩地に分布する。県内のものも特徴からタイシャクアザミとした。周南市、岩国市の山地溪谷に記録される。カルシウムを多く含む石灰岩や火山岩の岩脈に生育する。さらに冷涼地を好む。

**選定理由**

本来の広島県あたりの石灰岩地から離れ、非石灰岩地に分布する。植物地理学上重要である。

**減少等の要因**

中国山地の溪谷に少数分布する。もともとの個体数が多くない。

キク目 キク科 1205300321500 <b>ミヤコアザミ</b> <i>Saussurea maximowiczii</i> Herder	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は直立し、高さ50-150cm。翼はなく、腺点があり上部で分枝する。根出葉は花時にも残り、長楕円形、長さ11-30cm。羽状に深裂するか波状縁、あるいは鋸歯縁で、下面に腺点がある。葉柄は長さ5-22cm。花期は9-10月、紅紫色の頭花が多数散房状につき、径は10mm、花柄は長さ5-20mm。総苞は筒形で長さ10-14mm、径6mm。総苞片は7-8列、総苞片の縁が紫褐色で、くも毛があるかまたは無い。外片は卵形、円頭で内片の1/5より短い。瘦果は長さ5mm。冠毛は2列。染色体数 $2n=26$ 。<sup>(54)</sup>



提供：秋丸浩毅(1999.10.10撮影)

### 生息・生育状況

本州（岩手県以南）・四国・九州に分布し、山地の草原や夏緑林の林縁に生える。県内ではやや湿性の草地に生育し、山口市、岩国市に記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も少なく貴重である。

### 減少等の要因

開発や管理放置、遷移などによる生育環境（湿地など）の悪化、減少による。

- 956 -

キク目 キク科 1205300322000 <b>タムラソウ</b> <i>Serratula coronata</i> L. subsp. <i>insularis</i> (Ijima) Kitam.	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 -

### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は直立し、高さ30-140cm、上部でよく分枝する。根出葉は花時にも残り。根出葉と下部の茎葉は質がやや薄く、卵状楕円形。羽状に全裂～深裂し、棘がなく両面に細毛がある。葉柄は長さ11-30cm。花期は8-10月、頭花は茎頂や枝先に単生し、長い柄があり、径3-4cm。花冠は紅紫色、葯は濃青紫色。総苞は鐘形～筒形で、長さ20-27mm、黄緑色でしばしば紫色をおび、多少くも毛がある。総苞片は7-8列、外片と中片は淡黄褐色で短いとげに終わる。瘦果は長さ6mm、無毛。冠毛は長さ11-14mm、汚白色で不等長。<sup>(54)</sup>



提供：真崎 久(1998.9.27撮影)

### 生息・生育状況

本州～九州に分布し、冷涼な山地の草原や林間の草地に生える。県内では下関市、防府市、山口市、周南市に記録される。<sup>(54)</sup>

### 選定理由

現在では県内の生育地、個体数ともに減少しており、貴重である。

### 減少等の要因

草原の開発、管理放置、遷移などによる生育環境の悪化、減少による。

- 957 -

キク目 キク科 1205300322800 <b>アオヤギバナ</b> <i>Solidago yokusaiana</i> Makino	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	EN
	環境省	2019	-

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

多年生草本。茎は叢生し、直立または斜上する、高さ16-30cm。葉は互生して線状披針形、長さ4-7cm、幅2-5mm、ほとんど全縁。花期は8-10月、頭花は黄色で直径1.3-1.5cm、枝の先に密集してつく。花柄は5-16mmで、密に短毛がある。総苞は筒鐘形で長さ5-6mm。総苞片は3列、外片は長楕円状披針形で長さ1.5mm、鈍頭。瘦果は円柱形で長さ3.5mm、密に毛がある。冠毛は長さ4-5mm。<sup>(54)</sup>



提供：山根文人(2018.10.16撮影)

#### 生息・生育状況

本州～九州・琉球（沖縄島）に分布し、川中や川岸などの岩上に生える。県内では萩市、山口市、岩国市に記録される。<sup>(54)</sup>

#### 選定理由

県内では生育地、個体数とも減少し貴重である。

#### 減少等の要因

河川改修などによる生育環境の悪化、減少が考えられる。

- 958 -

キク目 キク科 1205300326200 <b>オナモミ</b> <i>Xanthium strumarium</i> L. subsp. <i>sibiricum</i> (Patrin ex Widder) Greuter	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	-
	環境省	2019	VU

#### 形態・生態

【執筆者：山根文人】

一年生草本。茎に短毛があり、高さ20-100cm。葉は互生し、3.5-10cmの長柄がある。葉身は卵状三角形で、長さ6-16cm、3または5裂し、不揃いな鋸歯がある。質はやや厚く、基部は心形、両面に剛毛があつてざらつく。筒状花は白色。偽果は卵型～楕円形で、とげも含めて長さ9-14mm、幅6-8mm、黄緑色～灰褐色。偽果表面のとげは長さ1-2mmで、イガオナモミやオオオナモミよりも短く、とげに毛はないが、偽果の表面には毛を密生して光沢がない。在来とされるが、古い時代に帰化したものと考えられる。<sup>(54)</sup>



提供：眞崎 久(1998.11.1撮影)

#### 生息・生育状況

北海道～沖縄まで記録されるが、現在はほとんど見られない。県内では萩市、阿武町、山口市、平生町に記録がある。<sup>(12,54)</sup>

#### 選定理由

広い範囲に分布しているが、個体数は少ない。

#### 減少等の要因

外来種のオオオナモミやイガオナモミの侵入による競合で、生育地、個体数が減少したものと思える。

- 959 -

## 維管束植物 参考・引用文献一覧

- 1 田川基二 (1959). 原色日本羊歯植物図鑑. 保育社.
- 2 中池敏之 (1992). 新日本植物誌 シダ篇 (改訂増補版). 至文堂.
- 3 倉田悟・中池敏之 (1990). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 6, 東京大学出版会.
- 4 岩槻邦男 (1992). 日本の野生植物 シダ. 平凡社.
- 5 海老原淳 (2016). 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス.
- 6 山口県 (2002). レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. 山口県環境生活部自然保護課.
- 7 嶋村拓実 (2003). 山口県におけるシダ植物の分布(1). 山口県立山口博物館研究報告. 29, 山口県立山口博物館, pp. 1-62.
- 8 倉田悟・中池敏之 (1997). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 8, 東京大学出版会.
- 9 光田重幸 (1986). しだの図鑑. 保育社.
- 10 加藤雅啓・海老原淳 (2011). 日本の固有植物. 東京大学出版会.
- 11 倉田悟・中池敏之 (1994). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 7, 東京大学出版会.
- 12 岡国夫・眞崎博・勝本謙・見明長門・三宅貞敏 (1972). 山口県植物誌. 山口県植物誌刊行会.
- 13 倉田悟・中池敏之 (1987). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 5, 東京大学出版会.
- 14 倉田悟・中池敏之 (1979). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 1, 東京大学出版会.
- 15 嶋村拓実 (2004). 山口県におけるシダ植物の分布(2). 山口県立山口博物館研究報告. 30, 山口県立山口博物館, pp. 1-52.
- 16 倉田悟・中池敏之 (1981). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 2, 東京大学出版会.
- 17 倉田悟・中池敏之 (1983). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 3, 東京大学出版会.
- 18 倉田悟・中池敏之 (1985). 日本のシダ植物図鑑: 分布・生態・分類. 4, 東京大学出版会.
- 19 杉本順一 (1966). 日本草本植物総検索誌 シダ篇. 六月社.
- 20 海老原淳 (2017). 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス.
- 21 嶋村拓実 (2006). 山口県におけるシダ植物の分布(3). 山口県立山口博物館研究報告. 32, 山口県立山口博物館, pp. 1-34.
- 22 佐竹義輔・北村四郎・富成忠夫・大井次三郎・亘理俊次(編) (1990). 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 平凡社.
- 23 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) (1991). 日本の野生植物 木本 I. 平凡社.
- 24 大井次三郎・北川政夫 (1992). 新日本植物誌 顕花篇 (改訂版). 至文堂.
- 25 北村四郎・村田源 (2002). 原色日本植物図鑑 木本編 II. 保育社.
- 26 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩・他 (2016). 改訂新版 日本の野生植物 3. 平凡社.
- 27 北村四郎・村田源・小山鐵夫 (1964). 原色日本植物図鑑 草本編 III 単子葉類. 保育社.
- 28 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) (1984). 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 平凡社.
- 29 米倉浩司 (2012). 日本維管束植物目録 邑田仁監修. 北隆館.
- 30 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩・他 (2015). 改訂新版 日本の野生植物 1. 平凡社.
- 31 角野康郎 (2014). ネイチャーガイド 日本の水草. 文一総合出版.
- 32 中西弘樹 (2017). 日本の海岸植物図鑑. トンボ出版.
- 33 星野卓二・正木智美・西本眞理子 (2011). 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社.
- 34 すげの会 (2018). 日本産スゲ属植物分布図集. すげの会.
- 35 眞崎博 (1992). 山口県産の高等植物の新知見(65)山口県のカンガレイ. 山口県植物研究会会報. 1(4), 山口県植物研究会. pp. 15-20.
- 36 長田武正 (1993). 増補 日本イネ科植物図譜. 平凡社.
- 37 牧野富太郎 (1989). 改訂増補 牧野新日本植物圖鑑. 北隆館.
- 38 北村四郎・村田源・小山鐵夫 (2004). 原色日本植物図鑑 草本編 III 単子葉類. 保育社.
- 39 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) (1990). 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 平凡社.
- 40 大井次三郎 (1992). 新日本植物誌 顕花篇 改訂版. 至文堂.
- 41 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) (1982). 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 平凡社.
- 42 佐竹義輔・亘理俊次・原 寛・富成忠夫(編) (1989). 日本の野生植物 木本 I. 平凡社.
- 43 牧野富太郎 (2017). 新分類 牧野日本植物図鑑. 邑田仁・米倉浩司(編). 北隆館.

- 44 北村四郎・村田源 (2002). 原色日本植物図鑑 木本編 I. 保育社.
- 45 北村四郎・村田源 (2002). 原色日本植物図鑑 草本編 II 離弁花類. 保育社.
- 46 角野康郎 (1994). 日本水草図鑑. 文一総合出版.
- 47 佐竹義輔・亘理俊次・原 寛・富成忠夫(編) (1989). 日本の野生植物 木本 II. 平凡社.
- 48 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩・他 (2016). 改訂新版 日本の野生植物 4. 平凡社.
- 49 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) (1990). 日本の野生植物 草本 III 合弁花類. 平凡社.
- 50 北村四郎・村田源・堀 勝 (2002). 原色日本植物図鑑 草本編 I 合弁花類. 保育社.
- 51 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) (1981). 日本の野生植物 草本 III 合弁花類. 平凡社.
- 52 北村四郎・村田源・堀 勝 (1982). 原色日本植物図鑑 草本 I 合弁花類. 保育社.
- 53 北村四郎・村田源 (1971). 原色日本植物図鑑 木本編 I. 保育社.
- 54 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩・他 (2017). 改訂新版 日本の野生植物 5. 平凡社.
- 55 茂木透・勝山輝男・太田和夫・崎尾均・高橋秀男・石井英美・城川四郎・中川重年 (2001). 樹に咲く花—合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社.
- 56 北村四郎・村田源・堀 勝 (1957). 原色日本植物図鑑 木本編 I. 保育社.
- 57 北村四郎・村田源・堀 勝 (1957). 原色日本植物図鑑 草本編 I 合弁花類. 保育社.
- 58 北村四郎・村田源・堀 勝 (1957). 原色日本植物図鑑 草本編 II 離弁花類. 保育社.
- 59 眞崎博 (1994). 1994 年夏季現地研究会報告. 山口県植物研究会会報. 1(9), 山口県植物研究会. p. 11.
- 60 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩・他 (2016). 改訂新版 日本の野生植物 2. 平凡社.
- 61 門田裕一 (不明). 国立科学博物館植物研究部 日本のアザミ.  
(<https://www.kahaku.go.jp/research/db/botany/azami/index.html>), 2019.1.30.
- 62 大滝末男・石戸忠 (1980). 日本水生植物図鑑. 北隆館.
- 63 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会植物種分科会(編) (1989). 我が国における保護上重要な植物種の現状. 日本自然保護協会.
- 64 岡国夫・他 (2001). 山口県産高等植物目録. 山口県植物研究会.
- 65 大分県 (2002). レッドデータブックおおいだ 大分県の絶滅のおそれのある野生生物 普及版. 大分県自然環境学術調査会野生生物専門部会.
- 66 島根県 (2013). 改訂 しまねレッドデータブック 2013 植物編 島根県の絶滅のおそれのある野生生物. 島根県環境生活部自然環境課.